

石川原遺跡(2)

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第72集  
第1分冊  
本文編  
二〇二〇

国土交通省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



石川原遺跡(2)

第1分冊 本文編

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第72集

2020

国土交通省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 石川原遺跡(2)

第1分冊 本文編

ハ ッ 場 ダ ム 建 設 工 事 に 伴 う  
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書 第 7 2 集

2020

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 序

ハッ場ダムは、首都圏の利水、治水を主な目的として吾妻川の中流に建設された多目的ダムです。ダム建設に伴う発掘調査は平成6年度から始まり、昨年度末に終了いたしました。本年4月にはダム本体も完成いたしました。

発掘の進展に伴って、この地域に暮らし、山野を拓いて地域を発展させてきた先人の営みが、次々に明らかになってまいりました。本書はハッ場ダム地域の遺跡のうち、平成20年から令和2年まで発掘いたしました石川原遺跡に関する発掘調査報告書の第2冊であり、主に中近世及び古代の遺構、遺物を報告いたします。

発掘された遺跡の姿からは、度重なる自然災害に立ち向かって郷土を発展させ続けた、先人たちの力強さを目の当たりにする思いがいたします。郷土の歴史研究に、また、これからの地域発展のために、本書をご活用いただければ幸いです。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大なるご理解とご協力をいただきました、国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所、同利根川ダム統合管理事務所、群馬県、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめとする関係機関、また、地元の皆様に、心から感謝を申し上げ、序といたします。

令和2年12月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 向田忠正



# 例 言

- 1 本書は、ハツ場ダム建設工事に伴う石川原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書の第2冊である。
- 2 遺跡の名称および所在地  
石川原遺跡(いしがわらいせき)  
群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯乙37番地ほか
- 3 事業主体 国土交通省
- 4 発掘主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘の期間・組織  
平成20年度 期間 平成20年8月1日～10月30日  
担当 麻生敏隆(主任専門員・統括)・田村公夫(主任調査研究員)・綿貫 昭(同)  
平成26年度 期間 平成26年4月1日～12月31日  
担当 齋藤利昭(上席専門員・調査統括)・麻生敏隆(上席専門員)  
平成27年度 期間 平成27年4月1日～7月31日・平成28年2月15日～3月16日  
担当 大西雅広(上席専門員・調査統括)・麻生敏隆(上席専門員)・齋藤利昭(上席専門員・調査課長)  
平成28年度 期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日  
担当 麻生敏隆(上席専門員・調査統括)・黒田 晃(主任調査研究員)・山本光明(同)・石川真理子(専門員)・  
藤巻幸男(専門調査役)・間庭 稔(同)  
平成29年度 期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日  
担当 須田正久(主任調査研究員)・黒崎博樹(同)・小原俊行(専門員)・石川真理子(同)・小野和之(専門調査役)・  
間庭 稔(同)・桜岡正信(同)・椋澤健二(同)  
平成30年度 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日  
担当 須田正久(主任調査研究員・調査統括)・関 俊明(同)・黒崎博樹(主任調査研究員)・石田 真(同)・  
梅村唯人(調査研究員)・鈴木祐太郎(専門員)・間庭 稔(専門調査役)・齋藤利昭(同)  
平成31年/令和元年度 期間 平成31年4月1日～令和元年6月30日  
担当 石田 真(主任調査研究員・調査統括) 山本直哉(調査研究員)
- 6 整理等作業の期間・担当者  
期間 平成20年1月1日～平成20年3月31日 担当 田村公夫(主任調査研究員)  
平成29年1月1日～平成29年3月31日 担当 麻生敏隆(上席専門員・調査統括)・洞口正史(専門調査役)  
平成29年4月1日～平成30年3月31日 担当 洞口正史(専門調査役) (石川原遺跡(1)刊行)  
平成30年4月1日～平成31年3月31日 担当 石川真理子(専門員)・中沢 悟(専門調査役)・  
洞口正史(同)・佐藤元彦(同)・大西雅広(同)  
平成31年4月1日～令和2年3月31日 担当 石川真理子(専門員)・中沢 悟(専門調査役)・  
洞口正史(同)
- 7 令和元年度整理等作業の組織  
整理担当 石川真理子(専門員(主任))・中沢 悟(専門調査役)・洞口正史(同)  
金属製品保存処理 板垣泰之(専門員)・関 邦一(専門調査役)

## 8 本報告書作成関係者

報告書執筆・編集 洞口正史(専門調査役)

遺物観察 石器・石製品 津島秀章(調査課長)・松村和男(上席専門員・資料統括)

土師器・須恵器 神谷佳明(専門調査役)

中・近世陶磁器 矢口裕之(資料1課長)・大西雅弘(専門調査役・普及課長)

金属器・金属製品 板垣泰之(専門員)・関 邦一(専門調査役)

出土骨類 奈良貴史(新潟医療福祉大学教授)

金属製品・有機質遺物保存処理 板垣泰之(専門員)・関 邦一(専門調査役)

遺構写真撮影 各発掘担当者

遺物写真撮影 石器・石製品 津島秀章・松村和男

土師器・須恵器 洞口正史

中・近世陶磁器 矢口裕之・大西雅弘

金属器・金属製品 板垣泰之

## 9 本報告書執筆分担

第1章・第2章・第3章第1節・第4章第1節 洞口正史

第3章第2節 鈴木 茂(株式会社パレオ・ラボ)

同 第3節 奈良貴史・佐伯史子(新潟医療福祉大学)

同 第4節 小林克也(株式会社パレオ・ラボ)

第4章第2節 高島英之(専門員(総括))

遺物観察表 石器・石製品 津島秀章・松村和男

土師器・須恵器 神谷佳明

中・近世陶磁器 矢口裕之・大西雅弘

## 10 調査・分析委託等

埋蔵文化財遺跡掘削工事

平成20年度 株式会社測研

平成26年度 株式会社歴史の杜

平成27年度 株式会社測研・技研コンサル株式会社・瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

平成28年度 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

平成29年度 株式会社測研・技研コンサル株式会社・瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

平成30年度 株式会社測研・技研コンサル株式会社・瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

平成31年/令和元年度 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

遺構測量 株式会社測研 空中写真撮影 技研コンサル株式会社

大型石器実測・トレース 株式会社測研

大型建築材・木製品実測・写真撮影 株式会社測研

自然科学分析 植物珪酸体分析 株式会社パレオ・ラボ

出土人骨鑑定 新潟医療福祉大学

炭化材樹種同定・種実同定・植物珪酸体分析 株式会社パレオ・ラボ

## 11 資料保管等

本発掘調査の出土遺物のうち、本書に掲載したものおよび調査図面、写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

## 12 謝辞

本報告書作成にあたり、下記の諸機関、諸氏にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表す。

国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所 同利根川ダム統合管理事務所 群馬県 長野原町教育委員会  
川原湯区

# 凡 例

- 1 本書で使用する測量図の座標は、日本測地系による。図上の方位は座標北を示す。
- 2 遺構図および遺物図の縮尺は基本的に下記によるが、広域にわたる畑や長大な溝等を対象とする図が多いため、紙幅の範囲内で、遺構の形状を最も把握しやすいと思われる縮率を選択した。各図幅には縮尺を注記するとともに、縮尺を示すスケールを付した。また、遺物図と遺物写真は基本的に同縮尺としたが、対象の形状により異なる場合がある。また、遺構写真および遺物細部の拡大写真等は任意縮尺である。

遺構図 対象調査区全体図 1 : 2000 調査区内部分図 1 : 200 / 1 : 250 同詳細図 1 : 80 / 1 : 100

個別遺構図 1 : 60 同詳細図 1 : 20

遺物図 石畿・銭貨等 1 : 1 石匙・石核・砥石・刀子・釘等 1 : 2

中型石器・土器片等 1 : 3 土器・大型石等 1 : 4 大型土器等 1 : 6 / 1 : 8

- 3 遺物写真の番号は、遺物実測図および遺構図中の遺物番号と一致するが、写真のみを掲載し、出土位置の記載や実測図掲載を行っていない遺物もある。
- 4 一覧表中の計測値は、それが推定値あるいは残存部の実測値である場合にはその旨を記し、あるいは( )を付した。
- 5 土層、土器の色調はともに「新版標準土色帳」を基準色として慣用名を使用することとしているが、必ずしも統一されていない。基準色、慣用名が使用されていない場合には、発掘担当者の記載に従った。
- 6 遺構図に使用したスクリーントーンは以下を示す。



- 7 遺物図に使用したスクリーントーンは以下を示す。



- 8 本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院20万分の1地勢図「長野」、5万分の1地形図「草津」(平成11年発行)

# 目 次

序	3 柵	122
例言	4 掘立柱建物が想定される	
凡例	ビット群	123
目次	第5項 墓坑	124
挿図目次	第6項 焼土遺構	139
表目次	第7項 炭窯	143
本文写真目次	第8項 土坑・ビット	145
	1 近世相当面の土坑・ビット	145
	2 中世相当面の土坑・ビット	174
第1章 石川原遺跡の発掘調査	第9項 遺構外出土遺物	236
第1節 発掘調査に至る経過	第2節 古代相当面の発掘	239
第2節 発掘作業の経過	第1項 古代相当面の概要	239
第3節 整理等作業の経過	第2項 堅穴建物	239
第4節 地理的・歴史的環境	第3項 鍛冶関係遺構	415
第5節 対象範囲・基本土層・調査面	第4項 柵	418
第1項 本報告の対象	第5項 焼土遺構	420
第2項 遺跡略号と地区・区・グリッド及び	第6項 土坑・ビット	426
発掘区	第7項 遺構外出土遺物	490
第3項 発掘調査の方法	第3章 自然科学分析報告	493
第4項 土層と調査面	第1節 自然科学分析の概要	493
第2章 発掘された遺構と遺物	第2節 石川原遺跡の植物珪酸体	495
第1節 中・近世相当面の発掘	第3節 石川原遺跡出土人骨の人類学的研究	499
第1項 中・近世相当面の概要	第4節 石川原遺跡出土植物遺体の樹種同定	507
第2項 近世相当面の遺構	第4章 調査のまとめ	513
1 第1区画	第1節 中近世相当面・古代相当面調査の	
2 第2区画	まとめ	513
3 第3区画	第2節 石川原遺跡出土の墨書・刻書土器	
4 第4区画	について	519
5 第5区画	遺構一覧表・遺物観察表	532
6 洪水砂流入区画		
第3項 中世相当面の遺構	第2分冊 写真図版編	
1 第1区画	写真図版目次	
2 第2区画	報告書抄録	
3 第3区画		
第4項 掘立柱建物・柵		
1 概観		
2 掘立柱建物		

# 挿図目次

第1図	ハツ場ダムと石川原道路の位置	2	第64図	第2区画a面断面	74
第2図	石川原道路発掘区画配置図	3	第65図	第2区画b面	75
第3図	石川原道路と周辺の道路	6	第66図	第2区画b面断面1	76
第4図	発掘区の設定	10	第67図	第2区画b面断面2	77
第5図	土層観察トレンチ位置図	12	第68図	第2区画b面部分図1	78
第6図	発掘区内の上層1	13	第69図	第2区画b面部分図2	79
第7図	発掘区内の上層2	14	第70図	第2区画b面部分図2断面	80
第8図	発掘区内の上層3	15	第71図	第2区画b面部分図3	81
第9図	発掘区内の上層4	16	第72図	第2区画c面	82
第10図	発掘区内の上層5	17	第73図	第2区画c面断面1	83
第11図	基本土層・発掘面模式図	18	第74図	第2区画c面断面2	84
第12図	近世層当面の遺構	20	第75図	第2区画c面断面3	85
第13図	第1区画a面・b面	21	第76図	第2区画c面断面4	86
第14図	第1区画a面1号・2号畑	23	第77図	第2区画c面部分図1	87
第15図	第1区画a面3号～5号畑	24	第78図	第2区画c面部分図2	88
第16図	第1区画a面3号畑 部分図1・2	25	第79図	第2区画c面部分図3	89
第17図	第1区画a面4号・5号畑	26	第80図	第2区画c面部分図3詳細図	91
第18図	第1区画b面1号・2号畑	27	第81図	51号溝	91
第19図	第1区画b面3号畑	28	第82図	50号溝	93
第20図	第1区画 復旧坑の位置	29	第83図	52号溝	94
第21図	第1区画 復旧坑1	30	第84図	第2区画d面	96
第22図	第1区画 復旧坑2	31	第85図	第2区画d面部分図1	98
第23図	第1区画 復旧坑3	32	第86図	第2区画d面部分図2	99
第24図	第1区画 復旧坑4	33	第87図	第2区画d面部分図3	100
第25図	第1区画 復旧坑5	34	第88図	54号溝	102
第26図	第2区画	36	第89図	石積	103
第27図	第2区画部分図1	37	第90図	第3区画	104
第28図	第2区画部分図1 詳細図1・2	38	第91図	第3区画1号・2号畑a面	105
第29図	第2区画部分図2	39	第92図	第3区画1号・2号畑b面	105
第30図	第2区画部分図3	40	第93図	第3区画部分図2	106
第31図	第2区画部分図4	41	第94図	中・近世面掘立柱建物・櫓の位置	108
第32図	第2区画部分図5	42	第95図	中・近世面掘立柱建物・櫓の位置 部分	108
第33図	第3区画	43	第96図	23号掘立柱建物	109
第34図	第3区画部分図1・2	44	第97図	27号掘立柱建物	110
第35図	28号溝	45	第98図	28号掘立柱建物	111
第36図	29号溝	45	第99図	29号掘立柱建物	112
第37図	第4区画	45	第100図	掘立柱建物柱穴配置模式図1	113
第38図	第5区画	46	第101図	30号掘立柱建物	114
第39図	洪水砂流入区画	47	第102図	掘立柱建物柱穴配置模式図2 30号掘立柱建物	115
第40図	中世相当面の遺構	49	第103図	19号掘立柱建物	116
第41図	第1区画a～c面	50	第104図	櫓	117
第42図	第1区画a面・b面の畑	51	第105図	掘立柱建物A	118
第43図	第1区画a・b面部分図1	52	第106図	掘立柱建物A柱穴配置模式図	119
第44図	第1区画a・b面部分図2	53	第107図	掘立柱建物B	120
第45図	第1区画a・b面部分図3	54	第108図	掘立柱建物C	121
第46図	第1区画a・b面部分図4	55	第109図	掘立柱建物C柱穴配置模式図	122
第47図	第1区画a・b面部分図5	56	第110図	墓坑の位置	123
第48図	第1区画a・b面断面	57	第111図	墓坑東群	124
第49図	2号石列	59	第112図	墓坑西群	125
第50図	2号石列部分	60	第113図	墓坑1(938号・939号土坑)	126
第51図	2号石列配置模式図	60	第114図	墓坑2(939号土坑)	127
第52図	第1区画c面(47号・48号溝)	61	第115図	墓坑3(940～942号・956号土坑)	128
第53図	47号・48号溝部分	62	第116図	墓坑4(941号土坑)	129
第54図	29号建物	63	第117図	墓坑5(942号・956号土坑)	130
第55図	29号建物焼上掘り方	64	第118図	墓坑6(961号土坑)	131
第56図	29号建物焼上断面	65	第119図	墓坑7(1280号・1407号土坑)	132
第57図	29号建物掘り方	66	第120図	墓坑8(1420号・1305号土坑)	133
第58図	29号建物ピット断面	67	第121図	墓坑9(1320号・1566号土坑)	134
第59図	29号建物掘り方断面	68	第122図	墓坑10(1797号・1824号土坑)	135
第60図	29号建物柱穴配置模式図	69	第123図	中近世焼土遺構の位置	137
第61図	29号建物出土遺物	69	第124図	焼土遺構1	138
第62図	第2区画a～d面概要図	72	第125図	焼土遺構2	139
第63図	第2区画a面	73	第126図	焼土遺構3	140

第127図	坑上道橋 4	141	第192図	中・近世相当面道橋外出土遺物 3	238	
第128図	1号竪竈	144	第193図	竪穴建物の位置	240	
第129図	近世相当面土坑・ピット位置図	146	第194図	19号竪穴建物	242	
第130図	近世相当面土坑・ピット位置図	部分図1・2	147	第195図	19号竪穴建物出土遺物	243
第131図	近世相当面土坑・ピット位置図	部分図3	148	第196図	20号竪穴建物	245
第132図	近世相当面土坑・ピット位置図	部分図4・5	149	第197図	20号竪穴建物出土遺物	246
第133図	近世相当面土坑・ピット位置図	参考図A・B	150	第198図	21号竪穴建物 1	247
第134図	近世相当面土坑・ピット位置図	参考図C	151	第199図	21号竪穴建物 2・出土遺物	248
第135図	近世相当面の土坑 1	参考図C	153	第200図	22号竪穴建物 1	250
第136図	近世相当面の土坑 2		155	第201図	22号竪穴建物 2・出土遺物	251
第137図	近世相当面の土坑 3		156	第202図	23号竪穴建物・出土遺物	252
第138図	近世相当面の土坑 4		157	第203図	24号竪穴建物 1	253
第139図	近世相当面の土坑 5		159	第204図	24号竪穴建物 2・出土遺物	254
第140図	近世相当面の土坑 6		161	第205図	25号竪穴建物	255
第141図	土坑出土遺物 1 (971号土坑)		162	第206図	26号・29号竪穴建物 1	257
第142図	近世相当面の土坑 7		163	第207図	26号・29号竪穴建物 2	258
第143図	近世相当面の土坑 8		165	第208図	26号・29号竪穴建物 3	259
第144図	土坑出土遺物 2 (1102号土坑)		166	第209図	26号竪穴建物出土遺物 1	260
第145図	近世相当面の土坑 9		167	第210図	26号竪穴建物出土遺物 2	261
第146図	近世相当面の土坑10・土坑出土遺物 3 (1600号土坑)		168	第211図	27号竪穴建物 1	262
第147図	近世相当面の土坑11		169	第212図	27号竪穴建物 2	263
第148図	近世相当面のピット		170	第213図	27号竪穴建物出土遺物 1	264
第149図	中世相当面土坑・ピット位置図		173	第214図	27号竪穴建物出土遺物 2	265
第150図	中世相当面土坑・ピット位置図	部分図1	174	第215図	30号竪穴建物 1	267
第151図	中世相当面土坑・ピット位置図	部分図2	175	第216図	30号竪穴建物出土遺物 1	268
第152図	中世相当面土坑・ピット位置図	部分図3	176	第217図	30号竪穴建物出土遺物 1	269
第153図	中世相当面土坑・ピット位置図	部分図3詳細図	177	第218図	30号竪穴建物出土遺物 2	270
第154図	中世相当面土坑・ピット位置図	部分図4	178	第219図	30号竪穴建物出土遺物 3	271
第155図	中世相当面土坑・ピット位置図	参考図A	179	第220図	31号竪穴建物 1	272
第156図	中世相当面土坑・ピット位置図	参考図B・C	180	第221図	31号竪穴建物 2・出土遺物 1	273
第157図	中世相当面土坑・ピット位置図	参考図D	181	第222図	31号竪穴建物出土遺物 2	274
第158図	中世相当面の土坑 1		183	第223図	32号竪穴建物 1	276
第159図	中世相当面の土坑 2		184	第224図	32号竪穴建物 2	277
第160図	中世相当面の土坑 3		185	第225図	32号竪穴建物 3・出土遺物 1	278
第161図	中世相当面の土坑 4		187	第226図	32号竪穴建物出土遺物 2	279
第162図	中世相当面の土坑 5		189	第227図	33号竪穴建物	280
第163図	中世相当面の土坑 6		191	第228図	33号竪穴建物出土遺物	281
第164図	中世相当面の土坑 7		193	第229図	35号竪穴建物 1	282
第165図	中世相当面の土坑 8・土坑出土遺物 1 (1217号・1301号土坑)		195	第230図	35号竪穴建物 2・出土遺物	283
第166図	中世相当面の土坑 9・土坑出土遺物 2 (1308号土坑)		197	第231図	36号竪穴建物 1	285
第167図	中世相当面の土坑10		199	第232図	36号竪穴建物 2・出土遺物	286
第168図	土坑出土遺物 3 (1384号・1521号土坑)		200	第233図	37号竪穴建物 1	287
第169図	中世相当面の土坑11		201	第234図	37号竪穴建物 2・出土遺物	288
第170図	中世相当面の土坑12		203	第235図	38号竪穴建物 1	290
第171図	中世相当面の土坑13		205	第236図	38号竪穴建物 2・出土遺物 1	291
第172図	中世相当面の土坑14		207	第237図	38号竪穴建物出土遺物 2	292
第173図	中世相当面の土坑15		209	第238図	39号竪穴建物 1	293
第174図	中世相当面の土坑16		211	第239図	39号竪穴建物 2	294
第175図	中世相当面の土坑17		213	第240図	39号竪穴建物 3・出土遺物 1	295
第176図	中世相当面の土坑18		215	第241図	39号竪穴建物出土遺物 2	296
第177図	中世相当面の土坑19		217	第242図	40号竪穴建物 1	298
第178図	中世相当面の土坑20		219	第243図	40号竪穴建物 2	299
第179図	中世相当面の土坑21		221	第244図	40号竪穴建物 3・出土遺物 1	300
第180図	中世相当面の土坑22		222	第245図	40号竪穴建物出土遺物 2	301
第181図	中世相当面の土坑23		223	第246図	42号竪穴建物 1	303
第182図	中世相当面のピット 1		228	第247図	42号竪穴建物 2	304
第183図	中世相当面のピット 2		229	第248図	42号竪穴建物出土遺物	305
第184図	中世相当面のピット 3		230	第249図	43号竪穴建物 1	306
第185図	中世相当面のピット 4		231	第250図	43号竪穴建物 2	307
第186図	中世相当面のピット 5		232	第251図	43号竪穴建物 3	308
第187図	中世相当面のピット 6		233	第252図	43号竪穴建物出土遺物 1	309
第188図	中世相当面のピット 7		234	第253図	43号竪穴建物出土遺物 2	310
第189図	中世相当面のピット 8		236	第254図	43号竪穴建物出土遺物 3	311
第190図	中・近世相当面道橋外出土遺物 1		236	第255図	44号竪穴建物 1	313
第191図	中・近世相当面道橋外出土遺物 2		237	第256図	44号竪穴建物 2	314
				第257図	44号竪穴建物 3	315

第258回	44号整穴建物出土遺物 1	316	第324回	87号整穴建物出土遺物 3	391
第259回	44号整穴建物出土遺物 2	317	第325回	87号整穴建物出土遺物 4	392
第260回	45号整穴建物	319	第326回	87号整穴建物出土遺物 5	393
第261回	45号整穴建物出土遺物	320	第327回	91号整穴建物・出土遺物	394
第262回	46号整穴建物 1	321	第328回	92号整穴建物・出土遺物	394
第263回	46号整穴建物 2・出土遺物	322	第329回	99号整穴建物 1	395
第264回	47号整穴建物 1	323	第330回	99号整穴建物 2・出土遺物 1	396
第265回	47号整穴建物 2・出土遺物	324	第331回	99号整穴建物出土遺物 2	397
第266回	48号整穴建物 1	326	第332回	103号整穴建物 1	399
第267回	48号整穴建物 2	327	第333回	103号整穴建物 2	400
第268回	48号整穴建物出土遺物 1	328	第334回	103号整穴建物出土遺物	401
第269回	48号整穴建物出土遺物 2	329	第335回	104号整穴建物 1	402
第270回	50号整穴建物 1	330	第336回	104号整穴建物 2	403
第271回	50号整穴建物 2	331	第337回	104号整穴建物出土遺物	404
第272回	50号整穴建物出土遺物	332	第338回	105号整穴建物 1	405
第273回	51号整穴建物	333	第339回	105号整穴建物 2・出土遺物	406
第274回	52号整穴建物・出土遺物	334	第340回	110号整穴建物 1	407
第275回	53号整穴建物	335	第341回	110号整穴建物 2	408
第276回	53号整穴建物出土遺物	336	第342回	112号整穴建物・出土遺物	409
第277回	54号整穴建物	337	第343回	114号整穴建物	410
第278回	54号整穴建物出土遺物	338	第344回	114号整穴建物出土遺物	411
第279回	55号整穴建物	339	第345回	115号整穴建物・出土遺物	412
第280回	55号整穴建物出土遺物	340	第346回	116号整穴建物	413
第281回	56号整穴建物・出土遺物	341	第347回	118号整穴建物	414
第282回	57号整穴建物	342	第348回	古代相当面鏡台遺構・櫓・焼土の位置	415
第283回	59号整穴建物 1	344	第349回	2号・3号鍛冶台の位置	416
第284回	59号整穴建物 2	345	第350回	2号鍛冶	417
第285回	59号整穴建物 3	346	第351回	2号鍛冶出土遺物	419
第286回	59号整穴建物出土遺物	347	第352回	3号鍛冶	419
第287回	60号整穴建物 1	348	第353回	櫓の位置	420
第288回	60号整穴建物 2・出土遺物 1	349	第354回	櫓	421
第289回	60号整穴建物出土遺物 2	350	第355回	焼土遺構の位置	423
第290回	61号・63号・65号整穴建物	352	第356回	焼土遺構 1	424
第291回	61号整穴建物・出土遺物	353	第357回	焼土遺構 2	425
第292回	63号整穴建物・出土遺物	354	第358回	古代相当面土坑・ビットの位置	427
第293回	65号整穴建物・出土遺物	356	第359回	古代相当面土坑・ビット部分図 1～3	429
第294回	62号整穴建物 1	357	第360回	古代相当面土坑・ビット部分図 4	430
第295回	62号整穴建物 2・出土遺物 1	358	第361回	古代相当面土坑・ビット部分図 5	431
第296回	62号整穴建物出土遺物 2	359	第362回	古代相当面土坑・ビット部分図 6	432
第297回	64号整穴建物 1	360	第363回	古代相当面土坑 1	435
第298回	64号整穴建物 2・出土遺物	361	第364回	古代相当面土坑 2	437
第299回	66号整穴建物 1	363	第365回	古代相当面土坑 3	439
第300回	66号整穴建物 2・出土遺物	364	第366回	古代相当面土坑出土遺物 1 (483号土坑)	440
第301回	69号整穴建物 1・出土遺物	365	第367回	古代相当面土坑 4	441
第302回	69号整穴建物 2	366	第368回	古代相当面土坑 5	443
第303回	70号整穴建物 1	367	第369回	古代相当面土坑出土遺物 2 (722号土坑)	444
第304回	70号整穴建物 2	368	第370回	古代相当面土坑 6	445
第305回	70号整穴建物 3	369	第371回	古代相当面土坑 7	447
第306回	70号整穴建物出土遺物 1	370	第372回	古代相当面土坑 8・土坑出土遺物 3 (864号土坑)	451
第307回	70号整穴建物出土遺物 2	371	第373回	古代相当面土坑 9	453
第308回	71号整穴建物 1	372	第374回	古代相当面土坑 10	455
第309回	71号整穴建物 2	373	第375回	古代相当面土坑 11	457
第310回	71号整穴建物 3	374	第376回	古代相当面土坑出土遺物 4 (1251号・1258号土坑)	458
第311回	71号整穴建物 4・出土遺物 1	376	第377回	古代相当面土坑 12	459
第312回	71号整穴建物出土遺物 2	377	第378回	古代相当面土坑 13	461
第313回	73号整穴建物 1	379	第379回	古代相当面土坑 14	463
第314回	73号整穴建物 2	380	第380回	古代相当面土坑 15	465
第315回	73号整穴建物出土遺物	381	第381回	古代相当面土坑 16	467
第316回	76号整穴建物・出土遺物	382	第382回	古代相当面土坑 17	469
第317回	81号整穴建物 1	384	第383回	古代相当面土坑 18・土坑出土遺物 5 (1462号土坑)	471
第318回	81号整穴建物 2・出土遺物 1	385	第384回	古代相当面土坑出土遺物 6 (1492号・1567号・1569号土坑)	472
第319回	81号整穴建物出土遺物 2	386	第385回	古代相当面土坑 19	473
第320回	87号整穴建物 1	387	第386回	古代相当面土坑 20・土坑出土遺物 7 (1580号土坑)	474
第321回	87号整穴建物 2	388	第387回	古代相当面土坑 21・土坑出土遺物 8 (2115号土坑)	475
第322回	87号整穴建物 3・出土遺物 1	389	第388回	古代相当面ビット 1	477
第323回	87号整穴建物出土遺物 2	390	第389回	古代相当面ビット 2	478

第390図	古代相当面ビット 3	480
第391図	古代相当面ビット 4	481
第392図	古代相当面ビット 5	482
第393図	古代相当面ビット 6	483
第394図	古代相当面ビット 7	484
第395図	古代相当面ビット 8	485
第396図	古代相当面ビット 9	486
第397図	古代相当面ビット 10	487
第398図	古代相当面ビット 11	488
第399図	古代相当面ビット 12	489
第400図	古代相当面道構外出土遺物 1	490
第401図	古代相当面道構外出土遺物 2	491
第402図	古代相当面道構外出土遺物 3	492
第403図	植物珪酸体試料採取位置	493
第404図	植物珪酸体試料採取位置断面	494
第405図	機動細胞珪酸体分布図	469

第406図	938号人骨	503
第407図	939号人骨	504
第408図	940号人骨	504
第409図	941号人骨	505
第410図	942号人骨	505
第411図	956号人骨	505
第412図	961号人骨	506
第413図	1407号人骨	506
第414図	1320号人骨	506
第415図	近世相当面の遺構	513
第416図	中世相当面の遺構	514
第417図	平安時代の主要遺構	515
第418図	石川原道跡周辺の平安時代道跡と 9世紀代の竪穴建物敷	516
第419図	石川原道跡周辺の平安時代道跡と 10世紀代の竪穴建物敷	517
第420図	石川原道跡の平安時代竪穴建物と墨書・剣書土器	520

## 表 目 次

第1表	石川原道跡周辺道跡一覧	7
第2表	ハツ場ダム建設に伴う発掘調査道跡の略号	9
第3表	2号列計測表	60
第4表	29号建物柱穴計測表	69
第5表	掘立柱建物柱穴計測表 1	113
第6表	掘立柱建物柱穴計測表 2	115
第7表	掘立柱建物柱穴計測表 3	116
第8表	欄柱穴計測表	117
第9表	掘立柱建物A柱穴計測表	119
第10表	掘立柱建物B柱穴計測表	120
第11表	掘立柱建物C柱穴計測表	122

第12表	欄柱穴計測表	421
第13表	植物珪酸体分析試料一覧表	495
第14表	試料 1 g あたりの機動細胞珪酸体個数	496
第15表	成人頭骨の計測値	502
第16表	成人四肢骨の計測値	503
第17表	出土植物遺体の樹種同定結果	507
第18表	出土植物遺体の樹種同定結果一覧	510
第19表	石川原道跡周辺の平安時代道跡と出土遺物	517
第20表	石川原道跡出土墨書・剣書土器一覧	530
第21表	遺構一覧表	532
第22表	遺物観察表	552

## 本文写真目次

写真 1	石川原道跡の機動細胞珪酸体	498
写真 2	938号人骨	503
写真 3	939号人骨	504
写真 4	940号人骨	504

写真 5	941号人骨	505
写真 6	石川原道跡出土植物遺体の走査電子顕微鏡写真	511
写真 7	石川原道跡出土植物遺体の走査電子顕微鏡写真・ 試料採取位置	512

## 第1章 石川原遺跡の発掘調査

### 第1節 発掘調査に至る経過

ハッ場ダムは、洪水調節、流水機能維持、用水源の新たな確保並びに発電を目的とする多目的ダムとして、吾妻川中流の群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字ハッ場及び大字川原湯字金花山に建設された。昭和24年に利根川改修改定計画の一環として立案され、昭和27年には建設準備のための調査が着手されたが、紆余曲折を経て平成4年に至って本格的な工事が着手され、令和2年4月に完成した。

ダム建設地域内のうち、長野原町内の文化財に関しては、町教育委員会が昭和61年から文化財総合調査計画を策定し、自然環境や民俗、石造文化財、古文書、昔話等の調査を行うとともに、埋蔵文化財の詳細分布調査も行った。

ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局(現国土交通省関東地方整備局)と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会(現東吾妻町教育委員会)が協議し、平成6年3月18日「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会の両者で締結し、発掘調査事業の実施計画が決定された。調査組織等の役割は、調査実施機関は群馬県教育委員会、調査機関は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団とした。

同年4月1日、関東地方建設局長と群馬県教育委員会との間で発掘調査委託契約を締結し、同日同教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の両者で発掘調査委託契約が締結され、発掘調査が開始された。

さらに、平成11年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」を締結し、平成11年4月1日以降は調査実施機関を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更している。以後、平成17年、平成20年、平成28年、平成29年、平成30年、令

和元年と7回にわたる協定変更を重ね、現在に至っている。

石川原遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑乙37番地ほかに所在する。平成20年度及び平成26年度から令和元年度にかけて、財団法人(平成24年から公益財団法人)群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った。総対象面積は97,789㎡に及ぶ。

### 第2節 発掘作業の経過

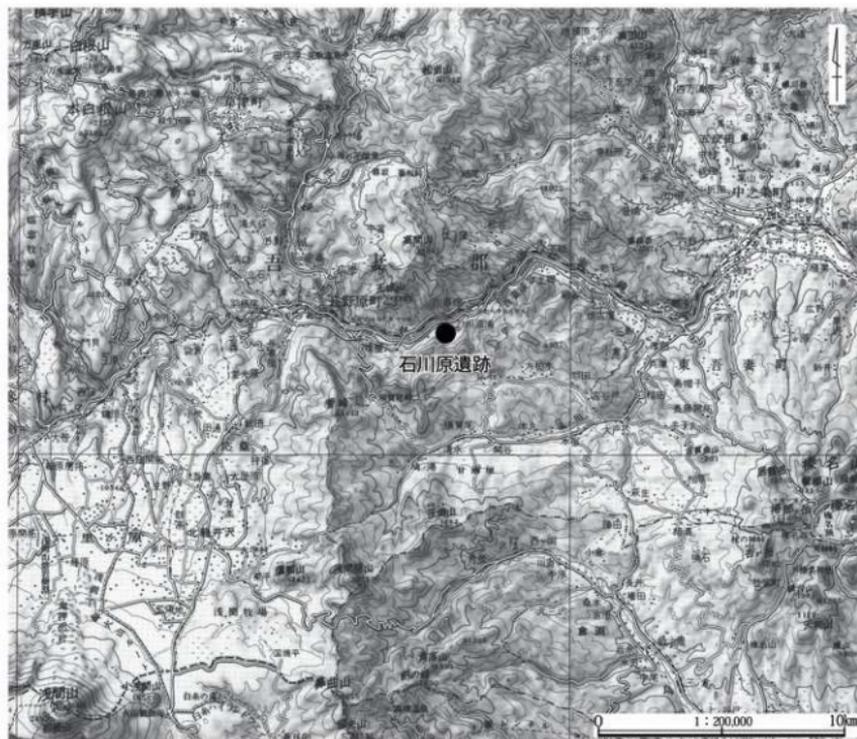
本遺跡の発掘作業は平成20年度に着手され、その後平成26年度から令和元年度にかけて実施された。地形及び現道による区画により、1区から10区の発掘区を設定しているが、工事工程に合わせてその都度発掘地点を設定しているため、年度毎の発掘区域はより細分され、複雑な形状を呈する。

平成20年度には、8月から10月にかけて、担当者2名により、後に6区とされる調査区の一部を発掘し、天明泥流下の屋敷、畑、縄文時代の集落を確認した。この調査により、当遺跡には、天明泥流下の屋敷群を含む埋没村落があり、縄文時代には列石・配石を伴う大規模集落があることが予測された。

その後中断を経て、平成26年度に発掘を再開した。4月から12月にかけて、担当者2名により、遺跡北東部の1区及び2区の大部分の発掘を行った。天明泥流下の建物、畑、中近世の掘立柱建物群、畑、墓、平安時代竪穴建物などを発掘した。また、遺跡東端部では、後に「不動院」と想定された寺院遺構が確認され、翌年度の発掘にこれを引き継ぐことになる。

平成27年度は4月から7月にかけて、担当者2名により、昨年度確認された寺院遺構及び関連建物の発掘を継続した。本堂や庫裏と想定される建物、池や築山のある苑地を確認した。また、銅製の密教法具一括など良好な資料が出土した。この年から、翌年度調査の効率化をはかるため、3月の厳寒期に表土掘削を行った。

平成28年度は4月から12月にかけて、担当者6名により、1区から8区のそれぞれ一部が発掘され、天明泥流



■ 貯水予定地

第1図 ハツ場ダムと石川原遺跡の位置(国土地理院20万分の1地勢図「長野」、5万分の1地形図「葦津」使用)

下の屋敷や畑、昨年度調査を行った寺院遺構の一部をなす階段、中近世の畑、平安時代集落の他、墓坑や掘立柱建物、縄文時代の配石遺構や集落の一部が確認された。天明泥流下の遺構は建築材や生活用品などが良好に残っており、また縄文時代の遺構範囲は予想を上回るものであった。当年度も、効率的な発掘を行うために、冬季に次年度発掘予定地の表土掘削を先行して実施した。

平成29年度は4月から12月にかけて、担当者8名により、1区・2区・4区～10区それぞれの一部を発掘した。天明泥流下の屋敷や畑、中近世の田畑、鍛冶遺構、平安時代集落の他、縄文時代の配石遺構や集落が確認された。山間の寒冷地である当地域において、中世相当面での水田確認は極めて希な例である。5区と6区の境にあたる町道下については、冬期も継続して調査を行った。

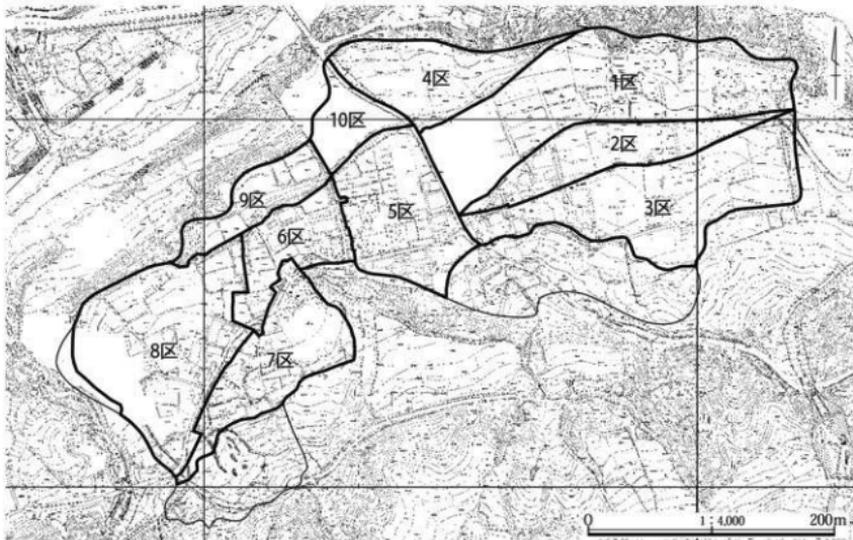
平成30年度は4月から平成31年3月にかけて、担当者8名により、5区～7区のそれぞれ一部について発掘を行った。天明泥流下で、2階建ての建物を含む、建築部材や道具類を多く出土する屋敷が確認され、さらには4体の人骨も出土した。縄文時代面でも、竪穴建物や列石・配石遺構、掘立柱建物、水場などの多様な遺構が発掘され、膨大な量の遺物が出土した。当年度で縄文時代の一

部遺構を除いて、発掘を終了し、引き渡しを行った。

平成31年・令和元年度は、4月から6月まで、担当者2名により、7区の縄文時代の竪穴建物、配石遺構、配石墓等の発掘を行った。これにより、本遺跡の発掘作業を終了した。

### 第3節 整理等作業の経過

平成20年度の発掘作業終了後、冬期の屋外作業困難期にあたる平成21年1月から3月まで、担当者1名で基礎的な整理等作業を行った。平成29年1月から3月には担当者2名で、また同4月から平成30年3月には、担当者1名が、遺跡東部にあたる1区から3区の中世以後にかかる遺構、遺物について整理等作業を行い、平成29年度には、このうちの寺院遺構を除く部分について、「石川原遺跡(1)」として発掘報告書を刊行した。平成30年度は縄文時代の遺構・遺物については当事業団八ッ場ダム調査事務所、それ以外の時代の遺構遺物については当事業団本部で整理等作業を行うこととし、5名の担当者が配置された。平成31・令和元年度は、縄文時代担当2名、天明泥流下建物担当1名と、これに該当しない遺構



第2図 石川原遺跡発掘区配置図 1/4000

# 第1章 石川原遺跡の発掘調査

## 発掘日誌抄

### 平成20 (2008) 年度

- 8月 天明記流下の下堀、層数を確認、発掘。
- 9月 天明記流下遺構発掘。縄文時代集落、河石発掘。
- 10月 縄文時代遺構発掘。埋め戻し。
- 平成26 (2014) 年度
  - 4月 1区表土層削・天明記流下遺構確認。
  - 5月 1区表土層削・天明記流下遺構確認。中・近世面発掘。
  - 6月 1区天明記流下・復旧坑発掘。中世・縄文包含層発掘。
  - 2区区画削削。
  - 7月 1区天明記流下・復旧坑。近世～縄文時代面発掘。
  - 2区区画下建物・堀発掘。
  - 8月 1区近世～縄文時代面発掘。2区天明記流下建物・堀発掘。
  - 9月 2区中・近世面削・復旧坑発掘。
  - 10月 1区・2区天明記流下建物・水路発掘。中世堀・縄文時代竈穴等発掘。
  - 11月 1区中・近世墓・土坑。1区D天明記流下建物・水路発掘。
  - 12月 1区・2区天明記流下水路・建物発掘。

### 平成27 (2015) 年度

- 4～6月 1区D天明記流下寺院部分発掘。
- 7月 1区平安時代土坑・ビット等発掘。

### 平成28 (2016) 年度

- 4月 3区天明記流下遺構確認。堀・道等発掘。
- 5月 1区D北東部面削・天明記流下除去。
- 6月 1区D北東部面削・天明記流下・道・石堀・水路等発掘。
- 3区中・近世堀・石堀・水路発掘。
- 7月 1区D北東部面削・天明記流下除去。石堀発掘。
- 3区天明記流下寺院南石堀・水路・建物発掘。中世堀・道・溝等発掘。
- 9月 3区中・近世遺構確認。
- 10月 3区中世～縄文時代土坑等発掘。
- 11月 3区中・縄文時代ビット・掘立柱建物等発掘。北側天明記流下堀発掘。
- 12月 3区中・近世相当面。平安時代遺構確認。積倉。
- 1月 3区平安時代・縄文時代レンダ発掘。
- 2～3月 土壌洗浄・遺物選別等。

### 平成29 (2017) 年度

- 4月 1区・5区天明記流下堀発掘。
- 4区天明記流下堀。中世・平安時代土坑発掘。
- 7区中世堀・建物。縄文時代配石・土坑発掘。
- 8区天明記流下堀。平安時代土坑発掘。
- 5月 4区中世土坑。平安時代竈穴建物・土坑発掘。
- 5区天明記流下堀。中世遺構確認。縄文時代土坑発掘。
- 7区縄文時代配石発掘。
- 8区復旧坑。天明記流下建物・堀発掘。
- 9区天明記流下堀・溝発掘。
- 大型石製品等洗浄。
- 6月 1区中・近世堀。中世土坑。平安時代竈穴建物・土坑等発掘。
- 4区平安時代竈穴建物。中世～縄文時代遺構確認。
- 5区天明記流下。中・近世土坑。平安時代竈穴建物・土坑発掘。縄文時代遺構確認。
- 6区・8区・9区天明記流下建物等発掘。
- 7区縄文時代配石等発掘。
- 7月 1区平安時代土坑・ビット等発掘。
- 5区平安時代竈穴建物。縄文時代土坑等発掘。
- 6区・8区・9区天明記流下堀・建物等発掘。
- 7区中・近世堀。縄文時代配石等発掘。
- 8月 5区縄文時代土坑等発掘。
- 6区天明記流下堀・建物。中世水山等発掘。
- 7区天明記流下堀。中世建物。平安時代溝。縄文時代配石等発掘。
- 8区平安時代土坑・竈穴建物。縄文時代土坑等発掘。
- 9区天明記流下堀・道・石堀等発掘。
- 9月 2区天明記流下堀等発掘。
- 6区中世堀。水山等発掘。
- 7区天明記流下堀・溝・建物。中・近世土坑。中世建物。平安時代溝。縄文時代配石等発掘。
- 8区天明記流下堀・道・溝・建物。中・近世墓。平安時代・縄文時代竈穴建物・土坑等発掘。

- 9区平安時代竈穴建物。縄文時代土坑等発掘。
- 10月 1区・3区・10区天明記流下堀等発掘。
- 2区中・近世・平安時代・縄文時代土坑・ビット等発掘。
- 5区天明記流下堀・道・溝。中・近世堀。平安時代竈穴建物。縄文時代土坑等発掘。
- 7区天明記流下堀・建物・道・溝。平安時代竈穴建物。縄文時代配石等発掘。
- 8区天明記流下道・溝。平安時代・縄文時代竈穴建物・土坑等発掘。
- 9区平安時代竈穴建物等発掘。
- 11月 2区縄文時代土坑等発掘。
- 5区平安時代竈穴建物。縄文時代土坑等発掘。
- 6区天明記流下堀・道・溝等発掘。
- 7区～9区天明記流下道・溝・層数。平安時代竈穴建物。縄文時代配石・土坑・埋土・積土等発掘。
- 2区・5区埋め戻し。大型石製品表面磨光。
- 12月 4区天明記流下堀・建物等発掘。
- 5区天明記流下堀。縄文時代竈穴建物等発掘。
- 7区天明記流下堀。中・近世道路。平安時代竈穴建物。縄文時代竈穴建物・土坑・配石等発掘。
- 8区区画。平安時代。縄文時代竈穴建物・土坑等発掘。
- 9区平安時代。縄文時代竈穴建物等発掘。
- 10区平安時代竈穴建物。縄文時代包含層等発掘。
- 4～8区埋め戻し。

- 1月 5区・6区天明記流下建物・溝等発掘。
- 2月 5区天明記流下建物。縄文時代竈穴建物等発掘。
- 6区天明記流下堀。平安時代竈穴建物等発掘。
- 3月 5区天明記流下建物。縄文時代竈穴建物等発掘。
- 6区天明記流下建物・溝・道。中・近世土坑。平安時代竈穴建物等発掘。
- 平成30 (2018) 年度
  - 4月 5区天明記流下堀・道・溝・水路・建物・欄干。中・近世堀等発掘。
  - 6区中世水山。平安時代。縄文時代竈穴建物・土坑。縄文時代配石・埋土等発掘。
  - 7区天明記流下溝。縄文時代配石等発掘。
  - 5月 5区天明記流下建物・堀。近世堀。中世土坑。平安時代竈穴建物等発掘。
  - 6区中世水山。縄文時代竈穴建物・河石・配石・土坑・欄干等発掘。
  - 7区中世水山。平安時代竈穴建物。縄文時代配石等発掘。
  - 6月 5区天明記流下建物・堀。中・近世堀。平安時代竈穴建物・土坑等発掘。
  - 6区中世水山。縄文時代竈穴建物・河石・配石・土坑・欄干等発掘。
  - 7区縄文時代竈穴建物。配石・欄干等発掘。
  - 7月 5区天明記流下建物。平安時代竈穴建物発掘。51号建物から人骨出土。
  - 6区中世水山。縄文時代竈穴建物等発掘。
  - 7区縄文時代竈穴建物・土坑・配石等発掘。
  - 8月 5区中・近世世土・土坑等発掘。
  - 7区平安時代。縄文時代竈穴建物。縄文時代配石・河石・埋土等発掘。
  - 9～12月 7区縄文時代竈穴建物・配石・河石・埋土・水堀・土子堀・土坑等発掘。
  - 3月 7区縄文時代竈穴建物・配石・河石・埋土・土坑等発掘。

### 平成31年 / 令和元年度

- 4～6月 7区縄文時代竈穴建物・配石・河石・埋土・土坑等発掘。
- 6月28日 すべての発掘等作業を終了。

遺物の担当1名の計3名が配置された。縄文時代及び天明泥流下の建物にかかる遺構遺物以外についての発掘報告が本書に当たる。縄文時代及び天明泥流下の建物にかかる遺構遺物の整理等作業は令和2年度も継続されており、報告書は続刊予定である。

## 第4節 地理的・歴史的環境

石川原遺跡は群馬県の北西部、吾妻川上流域右岸の吾妻郡長野原町大字川原湯字石川原にある。長野原町は草津町、嬭恋村、東吾妻町、中之条町、高崎市と境を接し、長野県境にもあたる。

吾妻川は全長76.2kmの一級河川で、長野県境の烏居峠付近に源を発し、東流して本県中部の渋川市で利根川と合流する。石川原遺跡は長野原町の北東に位置し、吾妻川右岸の中段段丘上、標高約530～545mに位置する。吾妻川とは比高27mほどの段丘崖により隔てられる。「関東の耶馬溪」とも呼ばれる名勝吾妻渓谷の西端近くに当たる場所である。

吾妻川は南西から北東に向けて流下するが、遺跡近くで湾曲し、右岸の尻龍岩、左岸の昇龍岩の間を南東に流れてのち、再び屈曲して北東に向きを変える。吾妻川右岸には山地が迫るが、遺跡のほぼ中央を北流する大沢からもたらされた堆積物や、土砂崩れなどによる崖堆積物が、吾妻側の湾曲部に向かって広がっており、この部分だけが緩傾斜地をなしている。発掘調査では、この地域の地形環境を特徴づける天明三年浅間山噴火に伴う堆積物が遺跡の全面を覆っているほか、洪水起源の砂層が複数層にわたって認められ、この地点の地形的な特徴が示される。

周辺の遺跡及び本遺跡にかかわる歴史的環境の詳細については、既刊のハットダム関連遺跡各調査報告に詳しい。また、天明泥流下及び縄文時代の遺跡分布等については、続刊される本遺跡の第3冊目、4冊目の報告書で詳述される予定である。

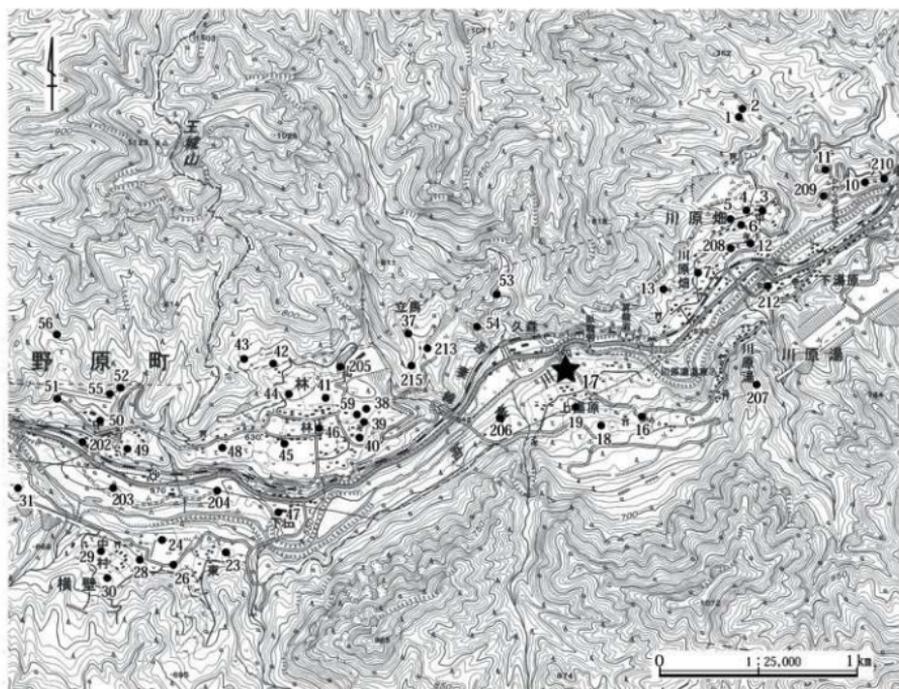
旧石器時代の遺跡は未確認であるが、縄文時代の遺跡は濃密な分布を示し、草創期から晩期に至る各時期の遺跡が比較的多く認められている。縄文時代草創期、早期の遺跡は吾妻川左岸で認められている。石畑岩陰、榎木Ⅱ遺跡では表裏縄文など草創期の土器片が出土してお

り、石畑岩陰は大規模な岩陰遺跡として、今後の本調査の成果が期待される。榎木Ⅱ遺跡、立馬Ⅱ遺跡などで燃糸文、押型文、多縄文系土器がみられる。また、近年調査された居家以岩陰遺跡では埋葬人骨も発見されている。前期では立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡、三平Ⅰ遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡などで前半期の遺構、遺物がみられるが、後半期の調査例は林中原Ⅰ遺跡で竪穴建物が、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡や川原湯勝沼遺跡などで土坑が見つまっているものの、前期に比して少なくなる。中期に至ると、吾妻川を挟んで対峙するように立地する長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡など、多数の竪穴建物や列石などで構成される大集落が営まれる。林中原Ⅱ遺跡も中期後半から後期にかけての大集落である。後期後半以後になると遺跡数は激減する。横壁中村遺跡では集落が継続するものの、他では晩期に至るまで、遺構・遺物ともに少数例にとどまるが、本遺跡は列石、配石墓を有する後晩期の大集落であった。

弥生時代の遺跡は乏しく、遺構としては川原湯勝沼遺跡、尾坂遺跡の再葬墓、立馬Ⅰ遺跡の土器棺墓、向原遺跡の土坑など、弥生時代前期から中期前葉の墓がみられるのみである。横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡では弥生土器の出土がみられ、本遺跡も含めて弥生時代前期、中期前半の土器破片が散在的に認められるものの、居住にかかわる遺構は見つかっていない。

弥生時代中期後半から古墳時代、奈良時代も遺跡は希薄で、古墳は認められず、上原Ⅰ遺跡で古墳時代前期のS字状口縁土付甕を伴う竪穴建物、上原Ⅳ遺跡、下原遺跡、林宮原遺跡で後期の竪穴建物がわずかに見つかっている程度である。本遺跡でも古墳時代前期の小型器台の小片が出土しているにとどまるが、北陸系のものであり、地域間の交流が盛んな時代相を良く示す資料である。

集落が再びそれとして認められるようになるのは、平安時代になってからのことである。本遺跡ははじめ、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、二社平遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁勝沼遺跡、横壁中村遺跡、西久保Ⅰ遺跡、山根Ⅲ遺跡等々がある。榎木Ⅱ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡でそれぞれ30棟以上の竪穴建物が調査されていて、一定規模の集落が営まれたことが知られている。時期的にはどの遺跡においても9世紀後半から10世紀を中心としており、湧水をよりどころに営まれるのが一般的傾向のようである。上原Ⅲ遺跡や三平Ⅰ遺跡では鍛冶遺構も見つかっており、集落内に鍛



第3図 石川原遺跡と周辺の遺跡(国土地理院2万5千分の1地形図「長野原」使用)

治工房があったことがわかる。上ノ平Ⅰ遺跡では住居内から炭化したオオムギ・コムギやアワが多出し、イネはわずかしかが見られないことから、イネ以外に主食穀物を求めた集落であったものと考えられる。また、陥穴の多くもこの時期に比定されていて、居住域と一体となって機能していたものとされる。中央小学校敷地内からは良い造りの瓦塔が出土しており、集落内寺院の存在も示唆される。本遺跡では60棟を越える竪穴建物や鍛冶遺構が確認されていて、かつ継続期間も長く、墨書土器が多く見られることも併せて、この地域の中核的な集落であったものと考えられる。

中世の遺跡としては城館跡がよく知られている。金花山砦跡、柳沢城跡、長野原城跡、丸岩城跡、羽根尾城跡や林城跡が交通の要衝に設けられた。川原湯温泉の起源が建久4年(1193)の源頼朝による三原巻狩りに際しての発見であったとの伝承も忘れてはならない。横壁中村遺

跡でも石垣を伴う館跡が調査されていて、柳沢城との関連が考えられている。三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、東原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡、林中原Ⅰ遺跡、林宮原遺跡、下原遺跡、二反沢遺跡、榎木Ⅱ遺跡、尾坂遺跡などでは掘立柱建物や土坑が調査されている。また、本遺跡でも29号建物が鍛冶工房であるが、二反沢遺跡などでも羽口や鉄滓など製鉄関連の遺構が検出されている。墓坑が複数群認められているが、中でも宋銭のみを出土し、人骨の残りが非常に悪いものがある、これらは中世にさかのぼる可能性が高い。また、畑が洪水層や斜面崩壊土に被覆されて残ることは他遺跡でも報告されているが、本遺跡では谷部に、狭いながらも水田が作られていたことが確認された。現代でも水田耕地の乏しい地域であり、近傍での水田発掘例は下原遺跡、西宮遺跡、前原遺跡がある程度である。下原遺跡、西宮遺跡では天明泥流下まで水田耕作が継続しているが、本遺跡では中世相当面を確認されていて、以後

第1表 石川原遺跡周辺遺跡一覧

町道跡番号	大字	遺跡名	時代	報告書等
1	川原畑	温井I遺跡	縄文・平安	
2	川原畑	温井II遺跡	縄文	
3	川原畑	三平I遺跡	縄文・弥生・平安	群理文303集2003/401集2007/664集2020/長野初町教委「町内遺跡Ⅰ」2010
4	川原畑	三平II遺跡	縄文・平安	群理文401集2007
5	川原畑	上ノ平I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世・現代	群理文440集2008/623集2017/637集2018
6	川原畑	上ノ平II遺跡	縄文・平安	
7	川原畑	西宮遺跡	縄文・近世	群理文634集2018
10	川原畑	石畑遺跡、石畑石階	縄文・弥生・平安・中世・近世	
11	川原畑	二社平石階	縄文・弥生	群理文303集2003
12	川原畑	三ツ堂石階	近世	
13	川原畑	西宮石階	近世	群理文634集2018
16	川原畑	川原畑中原I遺跡	縄文	
17	川原畑	石川原遺跡	縄文・平安・近世	本書・群理文640集2018
18	川原畑	川原畑中原II遺跡	平安	
19	川原畑	川原畑中原III遺跡	縄文・平安	群理文639集2018
23	横壁	横壁勝沼遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003
24	横壁	横壁中村遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群理文319集2003/355集2005/368集2006/381集2006/406集2007/436集2008/438集2008/488集2010/492集2010/526集2012/559集2013/587集2014
26	横壁	山根I遺跡	縄文・平安	長野初町「長野町誌」1976
28	横壁	山根II遺跡	平安・近世	
29	横壁	山根III遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群理文303集2003/429集2008
30	横壁	山根IV遺跡	縄文・平安	
31	横壁	西久保I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003/655集2019
37	林	上原I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文388集2006
38	林	東原I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野初町教委「町内遺跡Ⅴ」2006/「同Ⅴ」2007/群理文502集2010
39	林	東原II遺跡	縄文・平安・中世・近世	群理文502集2010
40	林	東原III遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野初町教委「町内遺跡Ⅵ」2004/「同Ⅵ」2007/群理文502集2010
41	林	上原I遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	群理文303集2003/604集2015/長野初町教委「町内遺跡Ⅶ」2007/「同Ⅶ」2013
42	林	上原II遺跡	縄文	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2007/「同Ⅷ」2013/「林地区遺跡群」2015/群理文429集2008
43	林	上原III遺跡	縄文	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2007/「同Ⅷ」2013/「林地区遺跡群」2015/群理文429集2008/549集2012
44	林	上原IV遺跡	縄文・近世	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2003/「同Ⅷ」2007/「同Ⅷ」2010/「同Ⅷ」2013/群理文429集2008/549集2012
45	林	林中原I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2003/「同Ⅷ」2004/「同Ⅷ」2005/「同Ⅷ」2006/「同Ⅷ」2007/「同Ⅷ」2009/「同Ⅷ-XI」2011/「林中原I遺跡Ⅷ」2010/「林地区遺跡群」2015/群理文586集2014/667集2020
46	林	林中原II遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2004/「同Ⅷ」2005/「同Ⅷ」2006/「同Ⅷ」2007/「同Ⅷ」2009/「同Ⅷ」2010/「林地区遺跡群」2015/群理文617集2016/643集2018/650集2019
47	林	下田遺跡	平安・近世	群理文303集2003/629集2017/665集2020
48	林	林宮原遺跡	縄文・古墳・平安	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2003/「同Ⅷ」2004/「同Ⅷ」2005/「同Ⅷ」2007/「同Ⅷ」2009/「同Ⅷ」2010/「林宮原遺跡Ⅷ」2004/「同Ⅷ」2011/群理文604集2015/667集2020
49	林	中権I遺跡	縄文・平安	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2007/「同Ⅷ」2013/「林地区遺跡群」2015/群理文648集2019
50	林	榎木I遺跡	縄文・平安	群理文549集2012
51	林	榎木II遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2002/群理文432集2008/458集2009
52	林	二反沢遺跡	縄文・古墳・中世・近世	群理文379集2006
53	林	久森沢I岩陰跡	不明	
54	林	久森沢II岩陰跡	不明	
55	林	滝内観音岩陰跡	不明	
56	林	勝々沢岩陰跡	縄文	
59	林	林の御塚	近世	社会教育会事務所「古妻郡誌」1906/群理文303集2003
202	林	榎木III遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群理文303集2003
203	林	中権II遺跡	縄文・弥生・近世	群理文319集2003/349集2004/667集2020
204	林	下原遺跡	縄文・弥生・古墳・中世・近世	群理文319集2003/389集2007
205	林	花畑遺跡	縄文・平安	群理文303集2003
206	川原畑	川原畑勝沼遺跡	縄文・平安・近世	群理文303集2003/356集2005/658集2019
207	川原畑	金花山岩跡	中世	
208	川原畑	東宮遺跡	縄文・近世	長野初町教委「町内遺跡Ⅷ」2002/群理文303集2003/514集2011/536集2012/628集2017/630集2018
209	川原畑	二社平遺跡	縄文・平安・近世	群理文303集2003
210	川原畑	石畑遺跡	縄文・弥生・近世	群理文303集2003
212	川原畑	西ノ上遺跡	近世	群理文349集2004/651集2019
213	林	立馬I遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群理文375集2006
215	林	立馬II遺跡	縄文・弥生・平安	群理文457集2009

には継続していない。土地毎の開発状況の差違が示されたものであろう。

近世を代表するのは天明三年浅間山噴火に伴う火山堆積物に埋もれた遺跡である。吾妻川の段丘面中位、下位は広くこれに覆われていて、被災遺跡は枚挙にいとまない。広大な畑遺構が多くの遺跡で認められ、麻栽培の可能性も指摘される。これ以前の洪水災害で埋没した畑遺構の調査例も増えているが、本遺跡でも複数面の畑遺構が痕跡的に残されている。また、当時の姿をほうふつとさせる屋敷跡が東宮遺跡、西宮遺跡、下田遺跡、楡木1遺跡、尾坂遺跡、町遺跡、小林家屋敷跡などでも調査されているが、本遺跡では主屋の他に蔵などの付属建物を持つ屋敷や築山を伴う苑地のある寺院関連の建物がある一方で、土間と土座のみで床を持たない簡素な建物があるなど、当時の社会構造を反映した建物群や豊富な出土遺物が発掘されている。また、噴火災害からの復旧・復興の営みを示す復旧坑群も認められた。これら天明泥流上下の遺構・遺物については、続報される予定である。

## 第5節 対象範囲・基本土層・調査面

### 第1項 本報告の対象

石川原遺跡については、平成26年度から27年度にかけて調査された調査区1区・2区、28年度に調査された3区のうち、調査区北東部の1区D部分で調査された天明泥流に覆われた寺院跡とこれに関連する遺構群及び、古代以前の遺構確認面で調査された遺構を除く部分についての発掘記録を「石川原遺跡(1)」として、平成29年度に刊行した。本書では4区から10区、近世相当面(発掘時には第2面、前報告においては第3面として扱った発掘面)、中世相当面(発掘時第3面、前報告第4面)及び1区から10区の平安時代相当面(発掘時に第4面とされた発掘面)で発掘された遺構、遺物を扱う。

発掘調査の対象とする埋蔵文化財の種類、年代は、「群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準」に従うが、浅間山天明泥流が堆積する地域であるため、同基準4—(1)—1—②—ウ)により、近世に属する遺跡、特に浅間山天明泥流災害被災遺構、及びこの災害に対する復興の様相を示す「復旧坑」と呼ばれる土坑群等についても、発掘調

査対象としている。

本書で報告する遺構は、中近世相当面では、水田16区画、畑53区画、復旧坑13基、溝14条、配石1か所、掘立柱建物9棟、小鍛冶1棟、柵4条、墓坑15基、焼土21か所、炭窯1基、土坑389基、ビット205基、古代相当面では堅穴建物61棟、柵2条、鍛冶遺構2か所、焼土遺構28か所、土坑244基、ビット278基である。

## 第2項 遺跡略号と地区・区・グリッド及び発掘区

### 1 遺跡略号

ハツ場ダム建設関連発掘調査に於ける遺跡名称、略号、グリッド設定等は、平成6年度開始以来、「ハツ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」により設定されている。

遺跡名はハツ場ダム建設に係る長野原町の5地区大字(川原畑、川原湯、横壁、林、長野原)に小字名を加えて命名されている。本遺跡は「石川原」を遺跡名称としているが、当初は「川原湯石川原遺跡」という遺跡名称で調査が行われていた。

遺跡略号は頭書にハツ場ダムの略号「YD」が付され、これに続いて上記5地区に充てられた番号(川原畑:1、川原湯:2、横壁:3、林:4、長野原:5)が付され、「一」を記した後、地区毎の調査順の通し番号が付される。本遺跡の遺跡略号は「YD2—03」となる。

### 2 地区・区・グリッド、発掘区

(1) 地区・区の設定 本遺跡の地区・区は、「ハツ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」による統一の仕様により設定した。

東西南北の1km四方を「地区」とし、同じく100m四方を区として設定している。起点は、世界測地系第9系のX=58100m、Y=107400(北緯36°31'03"、東経138°38'03"付近)であり、これを南東隅とする地区を01地区として、その西側及び北側に向かい10地区づつ設定されている。地区名称は西側に01~10地区、01区の北側に11地区、この区の更に北側に21地区と順に加算し、下1桁は西側に向かって1づつ加算して地区番号を付している。これにより、本遺跡は25・26・35地区に属することになる。

また、地区の中は東西方向10区画×南北方向10区画の100区画の「区」が入る。区の呼称は南東隅のものを01区

として、西側に下一桁を加算して01～10区、北側に上一桁を加算して11区から91区と加算して区の名称を付けている。これにより、本遺跡は25地区79・80・86～90・96～100区、26地区71・72・81・82・91区、35地区6～10区に属することになる。

(2)グリッドの設定 グリッドの設定も、ハツ場ダム地域埋蔵文化財発掘調査統一の仕様により行なった。東西南北方向4m四方の規格を1グリッドとして設定している。1地区内に設定されるグリッドは、東西方向25グリッド×南北方向25グリッドから成る合わせて625グリッドである。なお、グリッドの呼称は各区の南東隅をA1とし、西に向かってA～Y、北に向かって1～25の記号と番号が付し、アルファベット・数字の順に標記することとしている。

(3)発掘区の設定 本遺跡は総面積10万平米に達しようかという広域を占めているため、発掘の便宜上、地形や道路を境界として、当初は8区画、最終的には10区画の発掘区を設定して作業に当たった。しかし、工事工程により、各発掘区がさらに細分されたこと、また、遺構のまともや分布状況が発掘区とは一致しないことなどから、本書では、発掘区を単位とした記載は行わないこととした。

### 第3項 発掘調査の方法

1 掘削 本遺跡では、表土及び硬質の天明泥流を爪隠しを装着した掘削重機で除去した後、天明泥流及びAs-A下の遺構面をスコップ、鋤、移植機等の道具を用いて人力で検出した。

また、以下の発掘面では、事前に遺構確認用のトレンチを掘削し、遺構の有無を確認した。遺構が確認された場合には、想定範囲を掘削重機あるいは人力で除去した後、遺構確認面を精査し、確認された遺構を掘削し、あるいは遺物包含層を掘削して遺物の記録、採取を行った。この他、必要に応じて適宜土層観察用のベルトを設け、あるいは対象を半載することにより土層の観察を行った。更に、標準土層を観察するグリッドを設定して、土層確認を行った。出土した遺物等は記録後、原位置より取り上げ、出土位置の記録等を付けて収納した。なお、遺跡掘削業務、遺物の洗浄注記、一部の自然科学分析は専門業者の請負・委託により実施した。

第2表 ハツ場ダム建設に伴う発掘調査遺跡の略号

所在大字	YD番号	遺跡名	調査年度
川原畑	YD1 01	—	
	YD1 02	東宮	9・19～21・26～29
	YD1 03	石畑	10・29
	YD1 04	三平Ⅰ	16・17・24・25
	YD1 05	二社平	10・29
	YD1 06	三平Ⅱ	16
	YD1 07	上ノ平Ⅰ	18・19・28
	YD1 08	西宮	20・26～29
	YD1 09	西宮宮殿	26
	YD1	三ツ堂岩殿	28
	YD1	川原畑の宝篋印塔	29
YD1	石畑Ⅰ岩殿	29	
川原湯	YD2 01	川原湯勝沼	9・15・16・28
	YD2 02	西ノ上	14・27～29
	YD2 03	石川原	20・26～R1
	YD2 04	下湯原	27～29
	YD2	川原湯中原Ⅱ	28
	YD2	前原	29
横壁	YD3 01	横壁勝沼	6
	YD3 02	西久保Ⅰ	6・10・12・29
	YD3 03	横壁中村	8～18
	YD3 04	山根Ⅱ	10・13・18
	YD3 05	西久保Ⅳ	21・23
	YD3	西久保Ⅴ	28・29
林	YD4 01	下田	7・25・26・28・29
	YD4 02	—	
	YD4 03	上原Ⅰ	24
	YD4 04	—	
	YD4 05	花畑	10～12
	YD4 06	榎木Ⅱ	10
	YD4 07	中継Ⅱ	11～13・28～30
	YD4 08	下原	12・13・15・16・29
	YD4 09	榎木Ⅱ	11～13・16・17
	YD4 10	二反沢	12
	YD4 11	立馬Ⅰ	13・14・17
	YD4 12	立馬Ⅱ	14
	YD4 13	上原Ⅳ	15・21
	YD4 14	林中原Ⅰ	16・19～21
	YD4 15	林中原Ⅱ	16・20・21
	YD4 16	上原Ⅱ	16
	YD4 17	林の御塚	
	YD4 18	立馬Ⅲ	19
	YD4 19	東原Ⅰ	20
	YD4 20	東原Ⅱ	20
	YD4 21	東原Ⅲ	20・21
	YD4 22	榎木Ⅰ	21
	YD4 23	林宮原	24・27
	YD4 24	上原Ⅲ	25・27
長野原	YD5 01	長野原一本松	6～10・12～17・19・20
	YD5 02	尾袋	11・18～22・25・26
	YD5 03	久々戸	7・9・10・15・27・28
	YD5 04	幸神	8・9・14・17
	YD5 05	長野原城跡	23
	YD5 06	町	23～25
三島	YD6 01	上郷Ⅲ	13・14
	YD6 02	上郷開原	13～15・17・18
	YD6 03	上郷Ⅰ	15・19・20
	YD6 04	上郷Ⅱ	19
大柏木	YD7 01	礫石A	13
	YD7	大柏木上ノ沢	
松谷	YD8	松田前田	
岩下	YD9	—	



2 記録 遺構の記録は測量と写真撮影による。遺構図はデジタル測量による地上測量、あるいは航空写真測量を基本として専門業者に委託した。

遺構平面図は1/40縮尺図での割図の作成を原則とし、全体図は1/100縮尺図で作図した。遺構断面図は割図に合わせ、原則として1/40縮尺図として作図し、個別遺構については1/20縮尺図を基本として作図した。写真はデジタル写真撮影とプロードによる銀塩写真により、発掘担当者が撮影した。また、空中写真は当事業団職員により、ドローンを使用して撮影したが、一部専門業者に委託した撮影も行った。

#### 第4項 土層と調査面

遺跡の北を東へ流下する吾妻川に向かって、南から北へ、また西から東へと傾斜する地形であり、この傾斜に沿った斜面崩落が生じている。また、本遺跡を特徴付ける浅間山天明3年噴火に伴う泥流堆積物(以下天明泥流)をはじめ、吾妻川の氾濫に伴う洪水堆積物が複数認められる。遺跡地内には南から、北から、あるいは西からも、不断に土砂供給があったことが示される。

遺跡内の土壌堆積状況については、合計40本以上のトレンチが入れられて、多くの断面図が採取されているが、土層観察所見を欠くものや断面図との間に齟齬があるものが多かった。このため、双方が整った9地点と、参考として前報告に掲載した9地点について、土層断面図、高低図を示した。

表土直下には砂礫層が堆積する。場所によっては厚さ2m以上にも及ぶ。この下位には天明泥流があって、旧地表を分厚く覆う。遺跡北辺の吾妻川沿いでは、泥流の堆積が比較的薄いことも多い一方、川から離れた南部の山よりの部分では、泥流が乗り上げて、特に厚く堆積することもある。泥流下には礫混じりの暗褐色土から灰褐色土があり、これを耕土とする広い畑地がある。窪地や畑の畝間溝中には、白色で発泡のよい径2~4mm大の浅間A降下軽石(以下As-A)の堆積も見られる。

調査の実施に当たっては、現表土から上記天明泥流までを掘削重機により一括除去し、泥流下面を露出させることを第1段階とし、第1面としてカウントしている。この面は、厳密にはAs-Aに覆われた遺構とAs-A降下後、泥流到達前に形成された遺構の両者が確認されることに

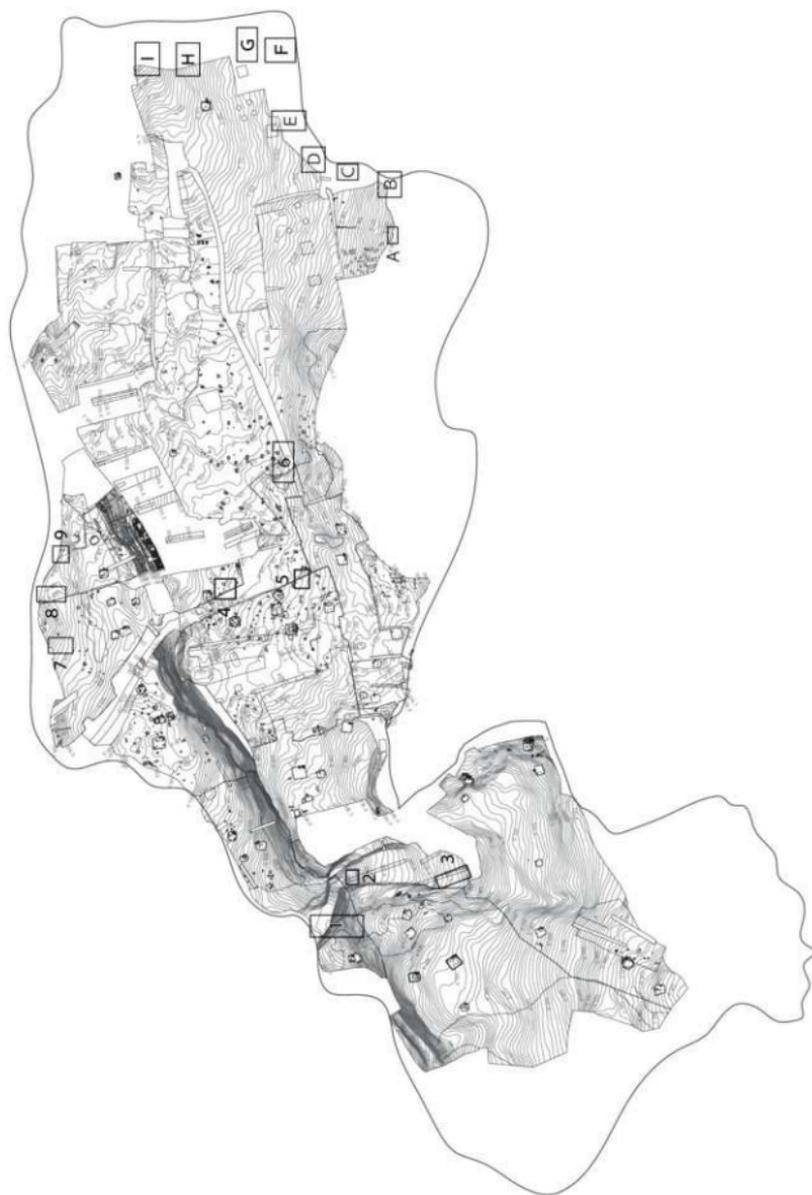
なる。また、泥流は遺跡全体を覆っているが、先述の通り北部の川沿いには堆積の比較的薄い部分があり、この泥流を掘り込んだ、明らかに後出の遺構である復旧坑群も同じく泥流下面で確認される。

調査区南部の山寄りの部分では谷に沿って流下した土砂が扇状地形を形成しており、また傾斜面からの崩落土も厚く堆積して、暗褐色ないし黒褐色土と黄褐色砂層が交互に堆積する複雑な堆積状況を示す。複数層の崩落土、洪水堆積物を介して、複数の遺構面が確認されている。

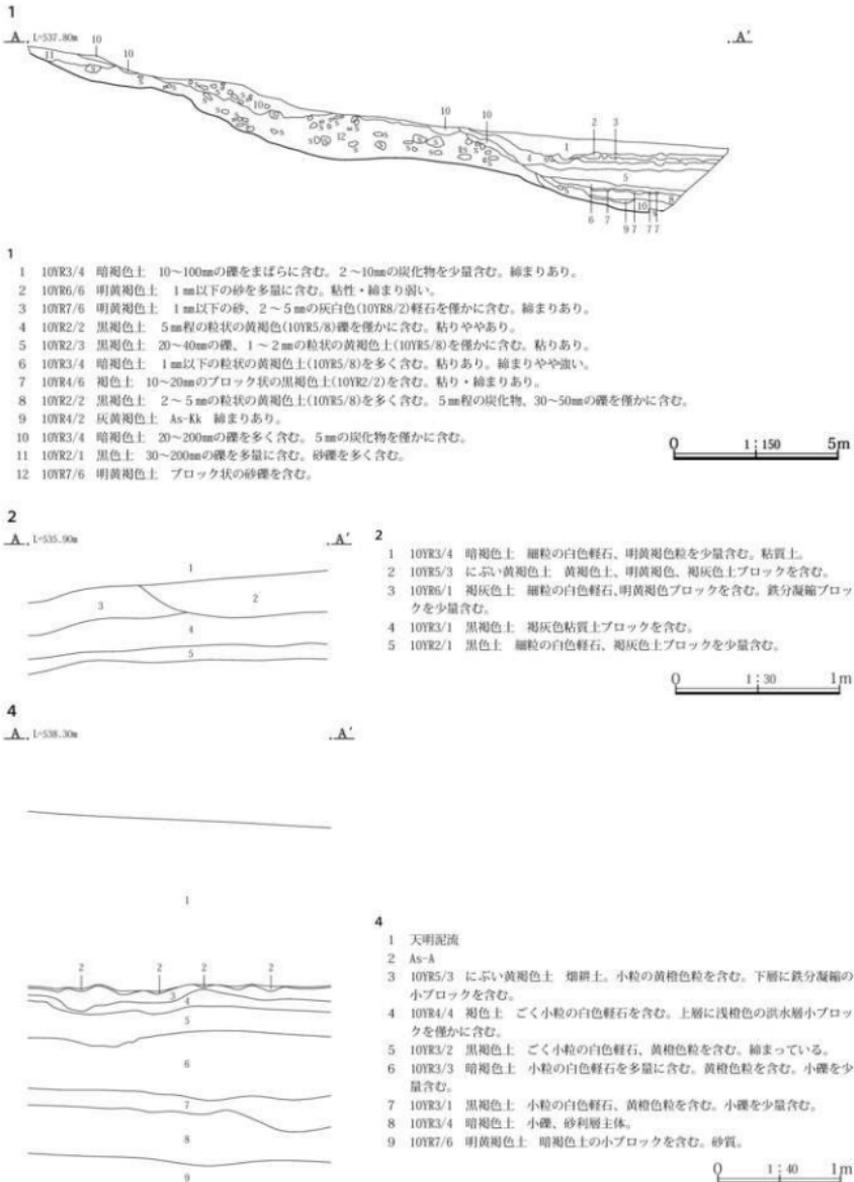
近世相当面は、天明泥流下畑の耕土である灰褐色~暗灰褐色土の下位で認められる、黄白色のやや粗い砂の層で被覆された面で、天明泥流下面との間は20~110cmある。さらにシルトや砂と暗褐色土、黒褐色土の混土などを挟んで、黄白色、灰白色のシルト質砂があり、これ以下を中世相当面とした。近世相当面との間は5~15cmある。上位の黄灰色粗砂、下位の黄白色・灰白色シルトともに面的に大きく広がるのではなく、畑の畝間溝を埋めるなどの状態で認められる。洪水層の堆積が良い場所では、この下位にやはり黄白色のシルト・砂で埋められた畝間溝が確認されており、また畝/畝間溝の方向を違えた畑の切り合いも見られて、さらに発掘面が細分される。一方、天明泥流とは異なり、洪水堆積物の分布は不規則な斑状を呈し、また堆積物の層相も地点により大きく異なる。このため、「2面」「3面」という発掘面の呼称が必ずしも同一面を示さない場合が間々見られる。

平成27年度発掘終了時点ですでに、土坑やピットなどがどの面に帰属すべきか、発掘区間で不統一が生じており、発掘担当者がそれまでの発掘遺構を精査し、協議のうえ、それぞれの遺構の帰属面を決定した。前報告ではこれに従って編集を行ったが、以後の発掘ではこれが必ずしも踏襲されなかった。このため、個別の遺構については、図面記録による確認面に依って記載しつつ、前報告の帰属面と対比し、加えて、遺構の形状や伴出遺物、覆土等の様相等を勘案して、近世相当面(発掘時の第2面、前報告第3面)、中世相当面(発掘時の第3面、前報告第4面)、それぞれに帰属するものとして記載を行った。

これらの層の下位には、太治(1128)3年降下とされる浅間一粕川テフラ(以後As-Kk)を挟んで黒褐色土があり、

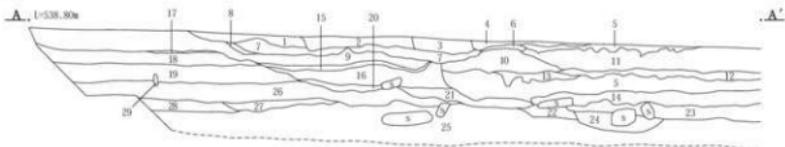


第5図 土層観察トレンチ位置図



第6図 発掘区内の土層 1

3



- 3
- 1 10YR6/1 褐灰色土 細粒の白色軽石を含む。締まりあり。
  - 2 10YR3/4 暗褐色土 細粒の白色軽石、明黄褐色粒を少量含む。粘質上。
  - 3 10YR6/1 褐灰色土 細粒の白色軽石を多量に含む。鉄分凝縮ブロックを含む。
  - 4 10YR3/3 暗褐色土 細粒の白色軽石、明黄褐色ブロックを含む。粘質上。
  - 5 10YR6/4 にぶい黄褐色土 浅黄褐色砂質土ブロックを含む。
  - 6 10YR3/3 暗褐色土 細粒の白色軽石、明黄褐色粒を含む。
  - 7 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色土、明黄褐色、褐灰色土ブロックを含む。
  - 8 10YR6/1 褐灰色土 褐灰色ブロック主体。細粒の白色軽石を少量含む。
  - 9 10YR6/1 褐灰色土 明黄褐色、褐灰色土ブロックを多量に含む。粘質上。
  - 10 10YR6/1 褐灰色土 細粒の白色軽石、明黄褐色ブロックを含む。鉄分凝縮ブロックを少量含む。
  - 11 10YR5/2 灰黄褐色土 褐色土ブロック、細粒の白色軽石、明黄褐色粒を含む。締まりあり。
  - 12 10YR5/1 褐灰色土 細粒の白色軽石を多量に含む。黄褐色土ブロックを含む。締まりあり。
  - 13 10YR6/1 褐灰色土 褐灰色粘質土主体。
  - 14 10YR3/1 黒褐色土 褐灰色粘質土ブロックを含む。
  - 15 10YR8/3 浅黄褐色土 浅黄褐色砂質土主体。
  - 16 10YR3/1 黒褐色土 細粒の白色軽石、褐灰色土ブロックを含む。粘質上。
  - 17 10YK7/1 灰白色土 灰白色土粘質土主体。
  - 18 10YR2/1 黒色土 混入物は見られない。粘質上。
  - 19 10YR3/1 黒褐色土 細粒の白色軽石、小礫を含む。粘質上。
  - 20 10YR7/3 にぶい黄褐色土 明黄褐色、褐灰色土ブロックが相互に堆積。
  - 21 10YR2/1 黒色土 細粒の白色軽石、褐灰色土ブロックを少量含む。
  - 22 10YR6/1 褐灰色土 褐灰色粘質土ブロックを上層に含む。
  - 23 10YR3/1 黒褐色土 明黄褐色粒・ブロックを少量含む。粘質上。
  - 24 10YR3/1 暗褐色土 小礫を多量に含む。
  - 25 10YR5/3 にぶい黄褐色土 僅かに明黄褐色粒を含む。
  - 26 10YR5/1 褐灰色土 細粒の白色軽石、明黄褐色粒を少量含む。粘質上。
  - 27 10YR2/1 黒色土 細粒の白色軽石を少量含む。粘質性強い。
  - 28 10YR1.7/1 黒色土 小礫を含む。細粒の白色軽石を少量含む。粘質性強い。
  - 29 10YR6/1 褐灰色土 灰白色土粘質土ブロック。

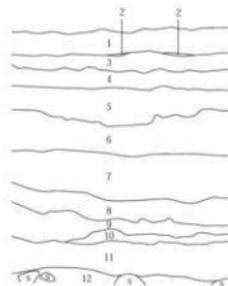


5

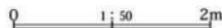
A, L=50.00m A'



表土



- 5
- 1 天明泥流堆積物。表土を含む。
  - 2 As-A
  - 3 暗灰色シルト質土 いたって硬質。下端に斑鉄あり。泥流下畑の耕作土。
  - 4 浅黄灰褐色シルト質土 均質で締まる。斑鉄で褐色を帯びる。
  - 5 黄色シルト砂 粗砂が主体。
  - 6 4層と7層の混土
  - 7 黒褐色シルト質土 均質で炭化物を含む。上層に黒灰色部分があり、それ以下は褐色を帯びる。
  - 8 5層と7層の混土
  - 9 黒褐色土 硬質。淡褐色土ブロックを含み、全体に黄色軽石粒を多く含む。
  - 10 黒褐色土 硬質。9層より黒味が強く、均質で淡褐色土を含まない。
  - 11 黄色ローム質土
  - 12 暗褐色粗砂層



第7図 発掘区内の土層2

6

A, L=536.50m .A'

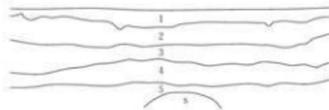


6

- 1 7.5YR5/4 に近い褐色土 褐色粒子、橙色土粒を僅かに含む。As-Kkが上位に確認できる。
- 2 7.5YR4/4 褐色土 橙色土を少量含む。ローム漸化層。
- 3 2.5YR/7 黄色土 南斜面方向からの土砂崩落に伴うロームの二次堆積層。As-YPk主体で小粒の軽石を少量含む。
- 4 2.5YR/8 黄色土 ローム上主体。
- 5 2.5YR/6 黄色土 ローム上。大粒のAs-YPkを多く含む。
- 6 7.5YR2/2 黒褐色土 黒褐色土を少量含む。褐色粒子、橙色土粒を僅かに含む。
- 7 7.5YR7/4 に近い橙色土 褐色粒、黒褐色土を少量含む。
- 8 7.5YR2/1 黒色土 白色粒子、橙色土粒を僅かに含む。褐色粒を少量含む。
- 9 7.5YR2/2 黒褐色土 白色粒子を少量含む。褐色粒、橙色土粒を僅かに含む。
- 10 7.5YR2/2 黒褐色土 白色粒子を僅かに含む。褐色粒、橙色土粒を少量含む。
- 11 7.5YR 8/8 黄褐色土 砂質ローム上。橙色粒を少量含む。

7

A, L=529.00m .A'

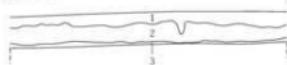


7・8

- 1 10YR7/6 明黄褐色土 黄橙色粒、黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 2 10YR7/8 黄褐色土 黄橙色粒を多量に含む。黒褐色土ブロックを少量含む。
- 3 10YR8/6 黄褐色土 黄橙色粒を多量に含む。明褐色土粒を少量含む。
- 4 10YR8/4 浅黄褐色土 黄橙色粒、明褐色土を少量含む。
- 5 10YR8/3 浅黄褐色土 砂質土。混入物ない。

8

A, L=529.20m .A'



9

A, L=528.90m .A'



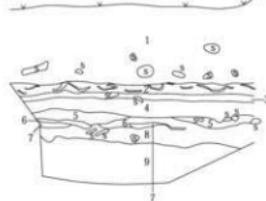
9

- 1 褐灰色土 灰色が強く、硬質で締まりあり、天明泥流下層の耕作上にあたる。
- 2 黒褐色土 平安時代～縄文時代の遺物を含む。
- 3 黄褐色土 4層と6層の漸移層。
- 4 明るい黄色ローム質土 水性堆積のローム質土を含む。
- 5 暗褐色ローム質土 6層と同質だが、色調が暗い。
- 6 5層と同質で、発色のよい黄色軽石を多く含む。

0 1:50 2m

参考図A

A, L=540.00m .A'



参考図A

- 1 天明泥流層
- 2 淡灰褐色土 上面にAs-A軽石降下後の耕作痕を伴う。砂礫を多く含む。
- 3 灰褐色土 礫を少量含む。4層との間に粗砂礫ブロックを伴う。
- 4 暗灰褐色土 砂礫を少量含む。近世相当面の耕上。
- 5 黄白色ラミナ堆積シルト砂 中世相当面堆を埋める。山崩れ堆積物。
- 6 灰褐色シルト質土 砂礫を多量に含む。中世相当面耕上。
- 7 ラミナ堆積砂礫層
- 8 暗灰褐色土シルト質土 均質で締まりあり。
- 9 黄褐色粘質土 砂礫を多量に含む。

0 1:60 2m

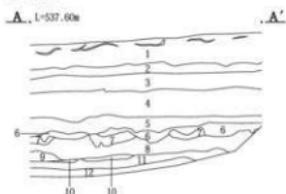
第8図 発掘区内の土層3

第1章 石川原遺跡の発掘調査

参考図B



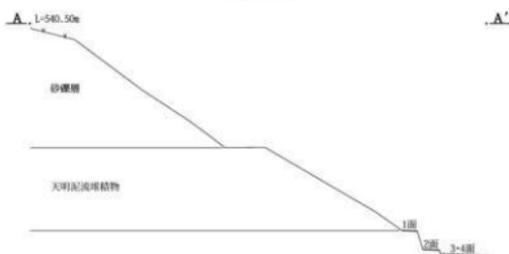
参考図C



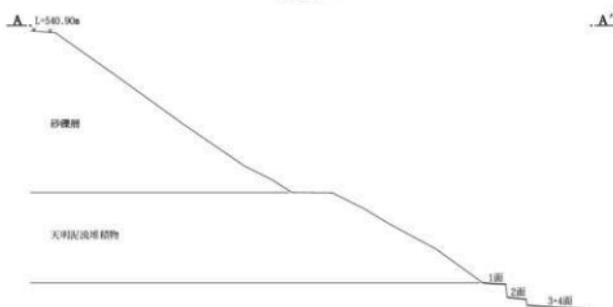
参考図C

- 1 淡灰褐色土 上面にAs-A軽石降下後の耕作痕を伴う。砂礫を多く含む。
- 2 灰褐色土 砂礫を少量含む。3層との間に細砂層ブロックを伴う。
- 3 暗灰褐色土 砂礫を少量含む。近世相当面層の耕土。
- 4 黒灰褐色土 砂礫・炭化物を少量含む。中世相当面畑耕土か。

参考図D



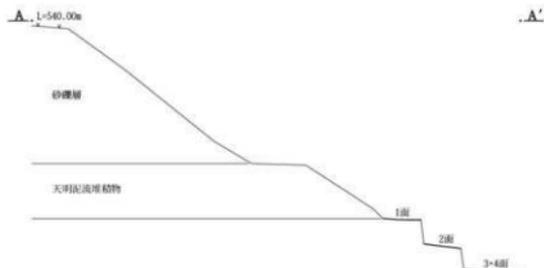
参考図E



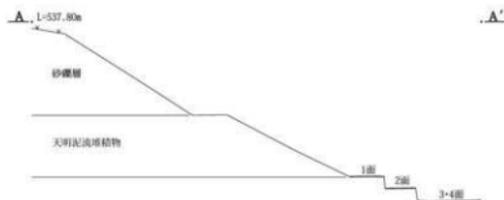
0 1:60 2m

第9図 発掘区内の土層4

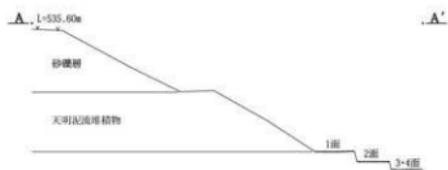
参考図 F



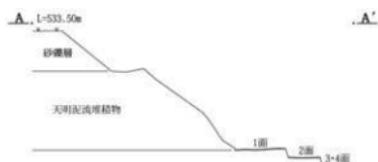
参考図 G



参考図 H



参考図 I



第10図 発掘区内の土層 5

1	表土
2	砂礫層
	←天明泥流上面(復旧坑群 発掘時1面 640集1面)
3	天明泥流
	As-A
4	←天明泥流下面(屋敷・畑・道・水路等 発掘時1面 640集2面)
5	灰褐色～暗褐色土 黄白色砂層(洪水堆積物)
6	←近世相当面(畑・溝・墓等 発掘時2面 640集3面)
7	暗灰褐色土
	灰褐色～黄白色砂/シルト(洪水堆積物)
8	←中世相当面(畑・鍛冶・墓等 発掘時3面・3-1面 640集4面)
9	黒褐色～黒灰褐色土
	灰褐色・黄白色・灰白色シルト・砂(洪水堆積物)
10	←中世相当面(水田・畑等 発掘時3・2・3面 640集4-2面)
11	灰褐色土 As-Kk
12	←古代相当面(竪穴建物・鍛冶・陥穴等 発掘時4面)
13	灰黒色・暗褐色～黒褐色土
	←縄文時代面(竪穴建物・列石・配石・墓等 発掘時5面)
14	黄褐色土

第11図 基本土層・発掘面模式図

これが平安時代遺構の確認面(古代相当面)となる。以下、ローム漸移層、浅間一草津黄色軽石(As-K)を含むロームの二次堆積物、黒褐色土層、砂質のローム層が堆積する。

総合すると、天明泥流上面、天明泥流(As-A含む)下面、黄白色粗砂下の近世相当面、黄白色・灰白色シルト質砂下の中世相当面、As-Kk下の黒褐色土内の古代相当面及びこれ以下の層における遺構確認を行った縄文時代面という6つの調査面を設定している。付図として添付した集約図は上記の経緯を経て、各遺構の帰属面を判断して作成したものであり、本書ではこの集約図に従って各遺構の記載を進めている。ただし、集約された図面は面ごとの遺構配置図であるので、各遺構の断面図や断面記録採取ポイント、写真撮影データ等々は集約前の、調査面

ごとの原因や撮影データに含まれている。このため、これらとの対照が必要となる場合を想定して、遺構番号は調査時点の番号を踏襲している。

## 第2章 発掘された遺構と遺物

### 第1節 中・近世相当面の発掘

#### 第1項 中・近世相当面の概要

本遺跡に限らず、ハツ場ダム周辺地域は吾妻川の谷に向かう急傾斜地であって、洪水等による堆積物や斜面崩落土が断続的に堆積するという地形的な特性がある。このため、埋没した谷沿いを中心に、堆積物下の旧地表面が部分的に保存され、畑や水田を遺構として確認することができる。また、堆積物を埋めて耕地の復旧を図った復旧坑も見られる。上位を覆う堆積物の分布域に限られることもあって、畑遺構は部分的に見いだされるにとどまり、耕作単位の全体を把握できるような広範囲を確認できることはない。また畑面の残存も良い状態ではないため、旧地表面が確認されず、畝間溝あるいは耕作痕跡内の堆積物により微弱な痕跡が確認されたのみである場合もある。

前報告では、近世相当面で1面(第3面)、中世相当面で2面(第4面・第4-1面)の遺構確認面が設定された。近世相当面では、およそ暗灰褐色土を地山として、黄白色粗砂を主体とする洪水堆積物に被覆された畑7区画が確認された。中世相当面はこの下位にあつて、黒褐色ないし黒灰褐色土を地山とする。黄白色、灰白色のシルト質土や砂などに被覆された面を第4面とし、9区画の畑を確認している。さらに南部の傾斜地ではこの面がさらに細分されて、黄白色のシルト質砂層を挟んで下層が第4-2面とされた。発掘はこの「面」を基本として行われたが、堆積物の広がりか限定的であり、また地点毎に堆積物の様相に差違がある。このため、個別遺構がどの面に相当するか、判断しがたい場合が少なからず生じたことになった。このため、平成27年度発掘終了後に、担当者間で協議が行われ、それぞれの遺構が第3面・第4面いずれに帰属すべきかが決定された。前報告ではこれの決定に従って、遺構の記載を行っている。

今回報告する遺跡西部についても、天明泥流下畑の耕土以下に複数面の遺構確認面が設定されていて、田畑や

復旧坑などの耕地遺構、建物、墓、多くの土坑、ピットなどが、これらの「面」ごとに確認、記録されている。しかし、記録された遺構の帰属面が前報告記載面と一致しない場合や、同一畑について、図面記録の記載面と写真記録との記載面が異なる場合があり、さらには畑面の覆土を含む土層堆積状況に関する記録や観察所見を欠くものも多く、各遺構の帰属面や重層関係等を総合的に把握することができなかった。

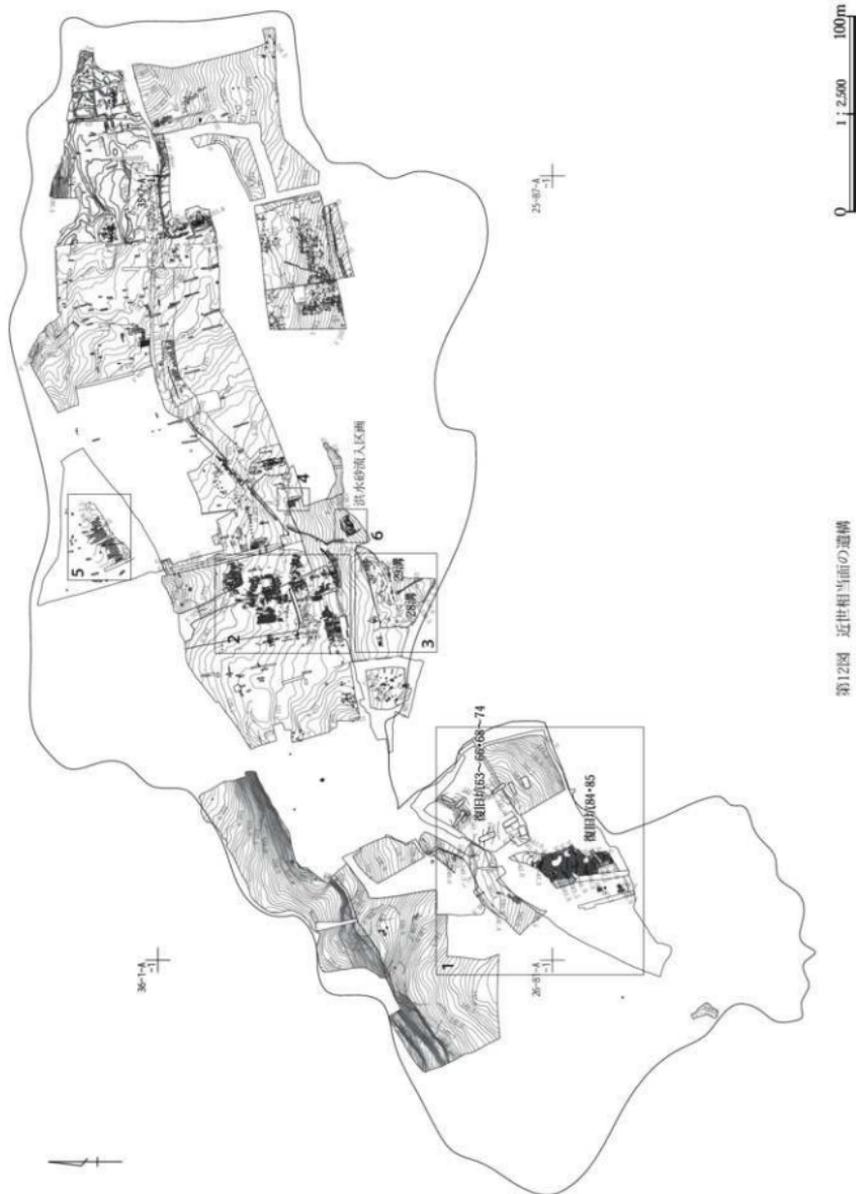
このため、本報告では、3面、4面の遺構を併せて中・近世相当面として本節で扱い、耕地遺構については確認された5つの区画について、区画ごとに、図面記録による確認面に依って記載しつつ、重層せずに単独で確認された畑は前報告の帰属面との対比に努め、重層する田畑の場合には各区画内での遺構相互の関係を可能な限り整理して記載することとした。発掘時には近世相当面を第2面としており、本書のa面が第2面、b面が2-3面に相当する。また、中世相当面は第3面とされ、本書のa面が第3面、b面が3-1面、c面が3-2面に相当する。また、耕地以外の遺構についても、図面記録による確認面に依って記載しつつ、遺構番号順に記載を行った。ただし、遺構の形状や出土物、覆土の状況等が記録された確認面と著しく乖離すると考えられた場合には、編集者の判断で帰属面を変更して記載し、判断の根拠を付記した。

今回の報告で特に注目されるのは、第2区画で確認された水田痕跡である。浅い谷内にあつて、微弱な畦と平坦面が捉えられたものであるが、水田としておかしくないイネ植物珪酸体が認められている。当地域では希少な水田調査例である。また、この水田の上下層が共に畑として耕作されていた事も把握されている。土地利用や耕作行動の多様性、変遷を時系列で追うことができる可能性がある遺構群である。

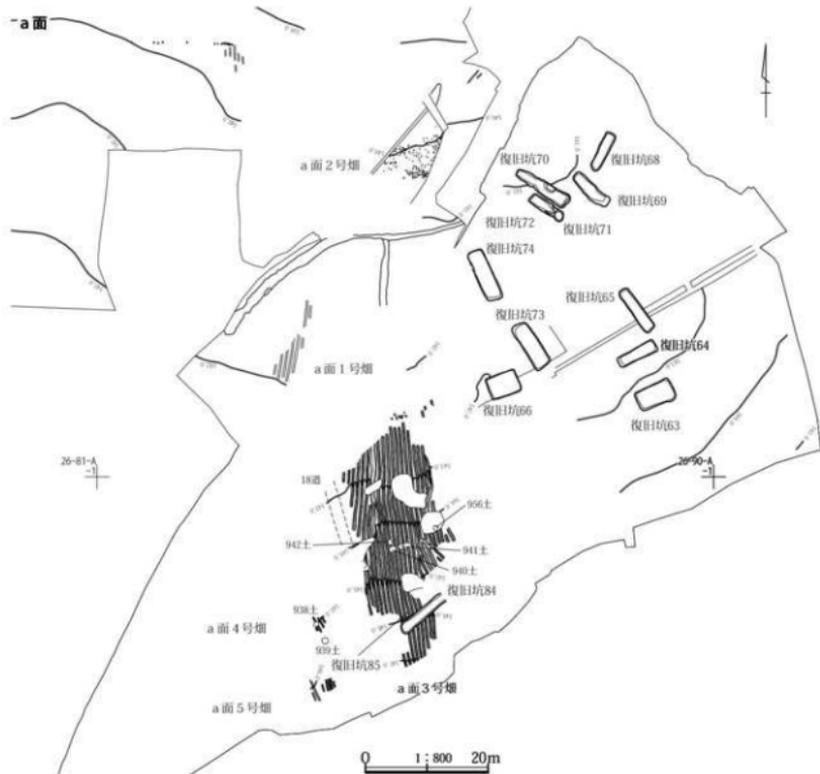
#### 第2項 近世相当面の遺構

##### 1 第1区画

発掘区南西部の上位段丘にあつて、南北方向に突出す



第12図 近世相当面の遺構



第13図 第1区画a面・b面

る尾根の西側にあたる。北向きに傾斜地である。畑と復旧坑が発掘されている。範囲は限られるが、近世相当面ではa面・b面の2面、中世相当面ではa面・b面・c面の3面、計5面の畑遺構が確認されている。さらに各面内でも複数の、畝間溝の方向を違った畑遺構の重複が見られる場合もある。北の第2区画に続く浅い谷が西に入り、南側斜面から度々ここに流入した崩落土に埋没して、何面もの畑面が保存されたものであろう。復旧坑は東部で10基、中部で2基が発掘された

### (1) 畑

第1区画西西部寄りにあり、下位の中世相当面畑より西に偏し、範囲も狭い。a面、b面の2面にわたる畑が調査されている。a面の畑は、写真資料から類推すると、黄灰色のシルト質土に覆われたものらしい。等高線とほぼ直交する南北方向に長い畝間溝が並列する。b面の畑は覆土・断面に関する記録及び写真記録を欠くが、長軸を等高線に並行する東西方向に置く、残りの悪い畝間溝の痕跡として図示されている。なお、畑番号を付した以外にも、畑を表すかと思われる平行線が図示される場合がある。ごく部分的かつ微弱な畑痕跡を捉えたものと思われるが、写真記録や断面に関する記載を欠くため採り上げていない。

**a面1号畑** 25-90-Q-R-5~8グリッド 最高位標高541.9m、最低位標高541.6m。北向きに緩傾斜面に、黄灰色シルト質土が充填された畝間溝の痕跡が7条並列する。南北13.3m、東西4.6mほどの範囲を占め、N-5~11°-E方向に延びる。平均的な条間距離は83cmほどである。

**a面2号畑** 25-90-L-O-13~15グリッド 最高位標高540.4m、最低位標高539.8m。北西向き傾斜面に、東西9.3m、南北7.1mほどの範囲で、南北黄灰色シルト質土が充填された、耕作具先端によると見られる切削痕跡が点在する。発掘時には鋤による耕作痕跡とみられている。東西は調査区界に画される。東南部にやや集中が見られるが、特定の配列は認められず、周辺で密度が低下し、南北は特定の境界なく途切れる。各痕跡の平面形状は円形から丸みを帯びた不定形で、大きさも不定。断面形状は皿状ないし椀状。刃部方向や動作方向は不明。

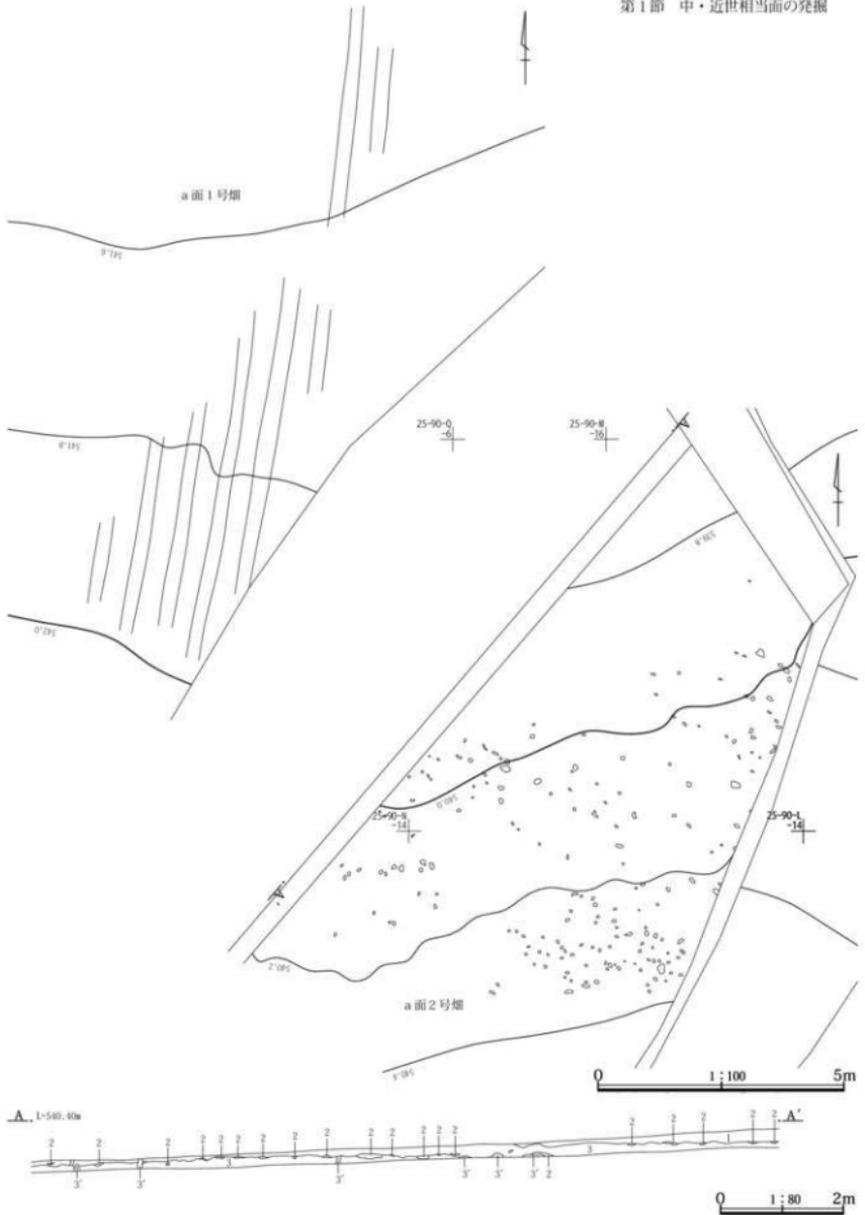
**a面3号畑** 25-80・90-L-O-18~4グリッド 確認面最高標高547.0m、最低標高542.1m。いずれも墓坑であ

る938号、940号~942号土坑、復旧坑84が畑面を切る。939号、956号土坑は直接畑面を切らないが、上位にある。天明泥流下面では第5区画と第6区画にまたがる位置にあって、両区画の境界をなす14号道はこの畑の時点では作られていない。南北方向に長い畝・畝間溝が並列する。東西及び南端は調査区界に切られる。北辺も西部は調査区外となるが、東部では畝間溝の終端が完結するように表現されていて、耕作単位の境界を示すかもしれない。東西確認幅24m、南北最大確認長40m。単一の畝間溝で最も長いものは38.5mあって、さらに南に延び、南北にかなり長い耕作単位があった事がわかる。畝間溝は途中で分岐あるいは蛇行するが、最大で28条が数えられる。N-7°-W前後を示すが、西部の数条は東に傾いて、N-4°-E前後である。比較列的の整った25-90-1ラインでは、14.3m間に20条の畝間溝があり、平均的な条間距離は70cmほど、25-80-21ラインでは8.5m間に13条があって、平均的な条間距離は65cmとなる。各畝間溝の断面形状は椀状を示す。土層断面図では、この畑の確認面から74~136cm下層で中世相当面の畑が捉えられている。また、2層下面のうねりは、東西方向に延びるb面畑の畝を示す可能性がある。

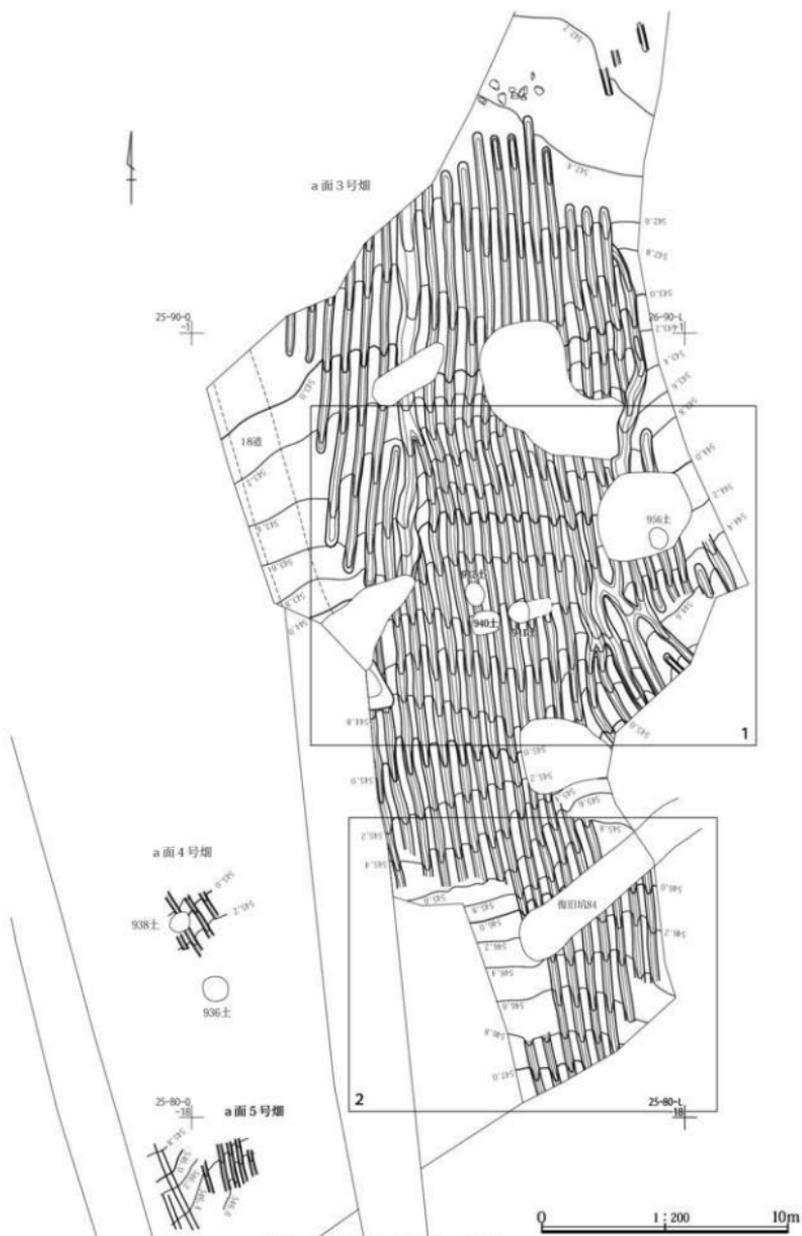
**a面4号畑** 25-80-P・Q-19・20グリッド 確認面最高標高545.24m、最低標高544.62m。938号土坑(墓坑)に切られる。東西・南北とも2.5mほどの範囲に4条の畝間溝痕跡が認められる。最も長いものでも2.8mほどで、N-30°-W前後を示す。確認面からの深さは2~4cmほど。平均的な条間距離は46cm。

**a面5号畑** 25-80-P・Q-16・17グリッド 確認面最高標高546.7m、最低標高545.8m。東側にやや明瞭な畝間溝痕跡が5条、西側に微弱な畝間溝痕跡2条がある。東群は幅2.1mあって、条間距離は42~46cm、最も長いものでも2m弱しか確認できない。確認面からの深さは2~3cm。方位はN-12°~15°-W。西群は2条のみが確認されていて、東側が長く、長3.8m、走行はN-24°-W。西側は長1.5m、N-21°-Wで、相互に並行せず、東群とも走行を違える。

**b面1号畑** 25-80-U・V-22・23グリッド 2.6m×3.5mほどの発掘区内で畝間溝痕跡が断片的に認められたもので、全体的な広がりはいわからない。8条分が確認でき、連続をたどれる最も長いもので8mあるが、端部が



第14図 第1区画a面1号・2号畑



第15図 第1区画a面3号～5号畑





第17図 第1区画 a 面 4号・5号畑

確認できるものはない。畝間溝の走行はN-86°-Eを示し、等高線とほぼ並行する。平均的な条間距離は27cmほどとごく狭い。

**b 面 2号畑** 25-80-S ~ X-12~21グリッド 最大幅5.5m、長47mほどの北東-南西方向に延びる狭長な発掘区内で、畝間溝痕跡がごく断続的に認められたもので、全体的な広がりにはわからない。51条ほどが数えられるが、最も長いものでも1m不足しかない。端部を確認できるものもない。畝間溝の走行はおよそN-84~86°-Wを示し、等高線とほぼ並行しないやや斜行する。平均的な条間距離は23~28cmとごく狭い。

**b 面 3号畑** 25-80-O ~ R-16~22グリッド 四囲は発掘区界に画され、全体的な広がりにはわからない。a 面 3号畑西部の下面に当たる。畝間溝内の痕跡が断続的に残されている。北部に比高70cmほどの小さな段差があって、この上下に二分され、さらに上段の畑も中間にやや急な傾斜部があってこの上下に二分される。

下段の畑は確認面最高標高544.8m、最低標高544.1m。東西・南北共に10mほどの範囲に最大25条の畝間溝が認められる。残りは悪く、最も長く確認された畝間溝でも3mほどしかなく、端部が完結するものもない。密度が高い部分での平均的な条間距離は25~30cmとごく狭い。畝間溝の走行はN-89~93°-Eを示し、等高線とほぼ並行する。

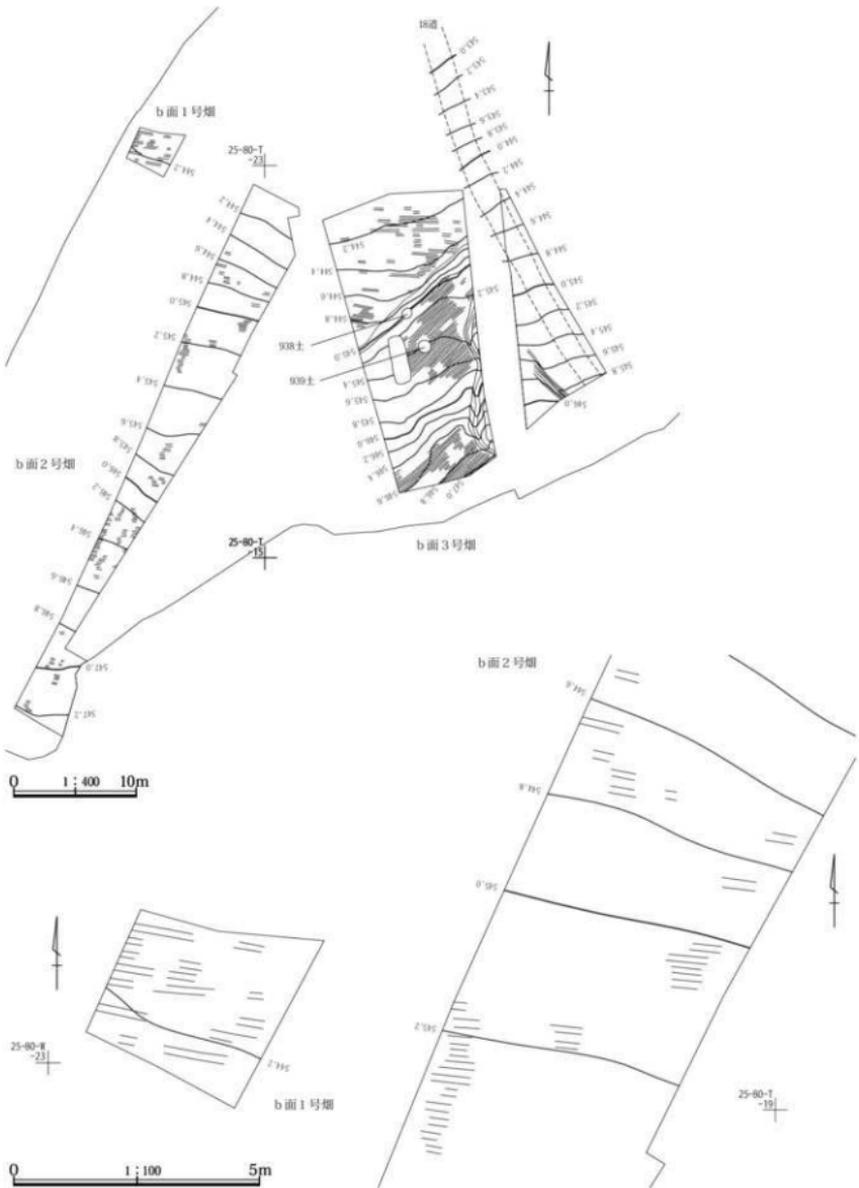
上段畑下部は、確認面最高標高545.7m、最低標高545.0m。東西・南北共に8.5mの範囲に22条の畝間溝痕跡が残されている。下段畑に比するとやや残りが良く、最も長く確認された畝間溝は5.8mあるが、端部が完結するものはない。密度が高い部分での平均的な条間距離は28~30cmと、上段同様に狭い。畝間溝の走行は

N-45°-Eを示し、下段畑とは異なるが、等高線とはほぼ並行している。

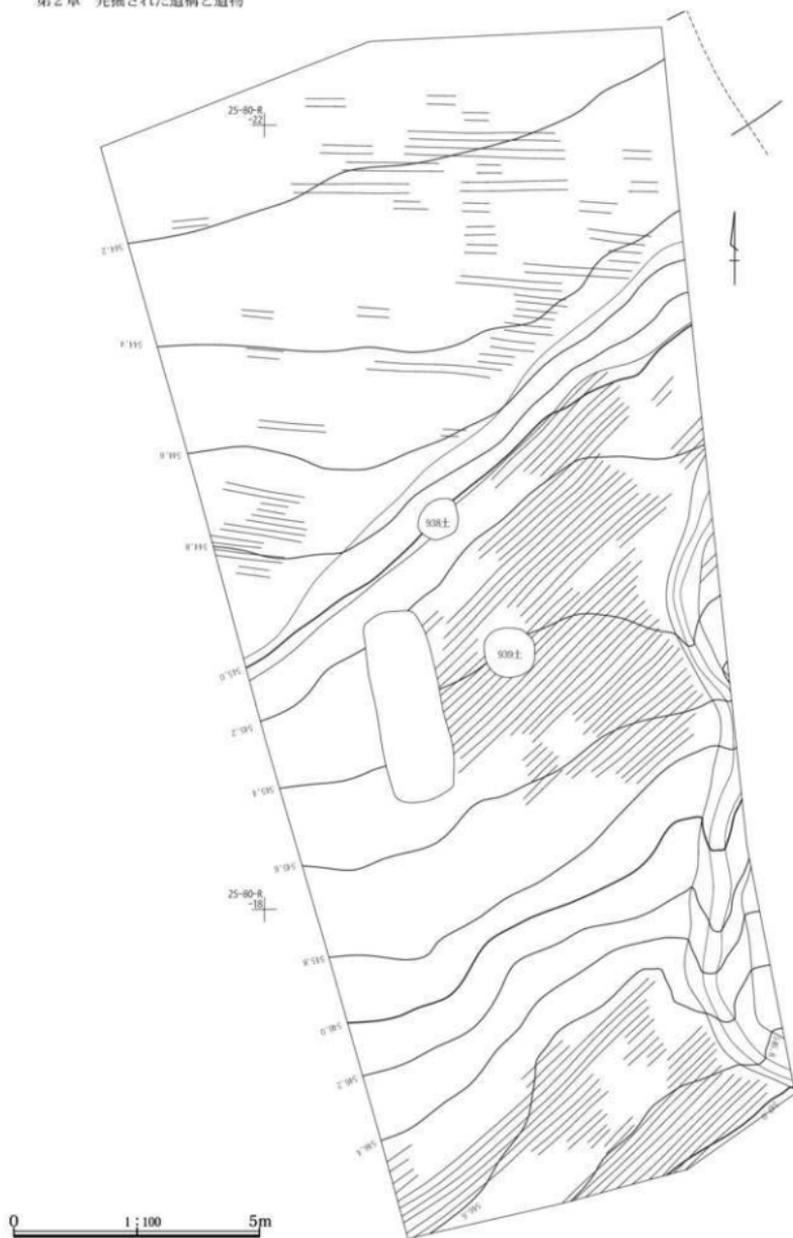
上段畑部上部は確認面最高標高547.0m、最低標高546.6m。東西8m、南北5.5mほどの範囲に、畝間溝痕跡13条が数えられる。最も長く確認された畝間溝は上段で7.1mあるが、やはり端部が完結するものはない。密度が高い部分での平均的な条間距離は28cmほどと狭い。畝間溝の走行はN-45°-Eを示し、等高線とほぼ並行している。下部畑とは4mほど離れ、80cmほどの比高があるが、方向や条間距離はほぼ等しく、連続する畑の可能性もある。

## (2) 復旧坑

第1区画東部に11基、a 面 3号畑を切って2基の復旧坑が認められている。いずれも土坑内には小礫が多く含まれており、天明泥流上面の復旧坑に倣って復旧坑との名称が付されている。東部の復旧坑群は畑との切り合いがないが、中部の2基はa 面 3号畑を切っている。隅丸長方形の平面形を持つものが多いが、長短広狭は様々で、復旧坑7は円形、84は端部の丸い溝状を呈する。近接する復旧坑間でも軸方位は揃っておらず、天明泥流下面のような統一性は見られない。掘削時期・契機も異なるものであろう。多くが覆土に関する記載や断面の写真記録を欠くため、詳細が把握できないが、写真記録のあるものでは、土壌による汚染が少ない小角礫を主体とするもの、土壌で汚れた礫を主体とするもの、細粒の淡色シルトに汚染されて固結したような状態の礫が見えるものなどがある。特定災害からの復旧行動によるものと、耕地拡張などに際して、掘削土を新たな耕作土とする共に耕作の障害となる礫を埋填した耕作行動によるものの両者があるのかもかもしれない。覆土記録のないもの、特に



第18図 第1区画b面1号・2号畑



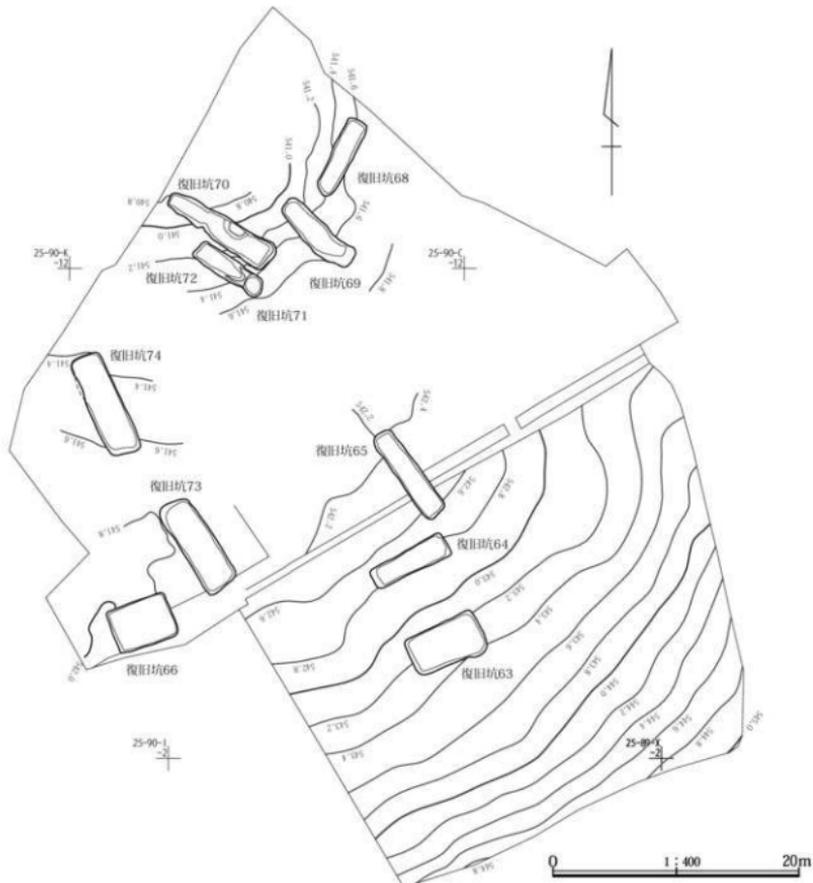
第19図 第1区画b面3号畑

他とは形状を異にする復旧坑71については、機能の特定は避けるべきであろう。

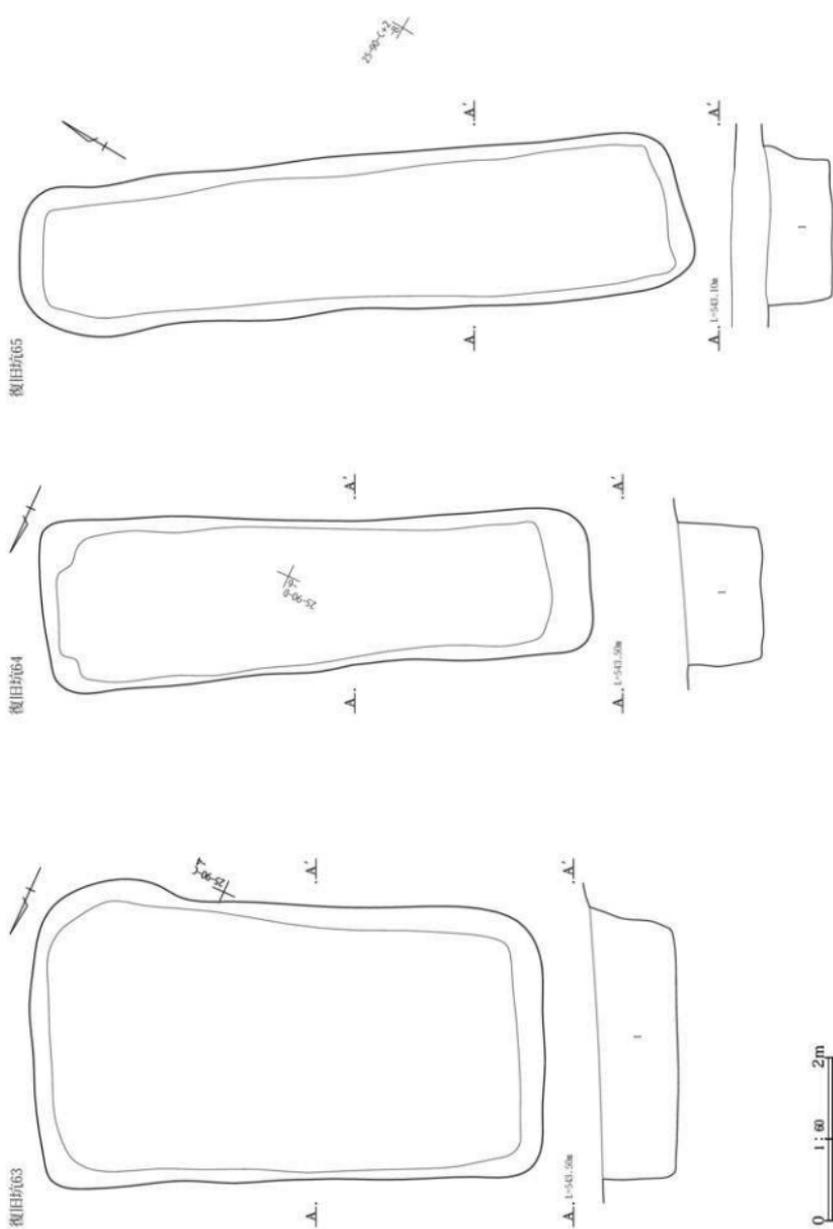
**復旧坑63** 25-90-B~D-3~5グリッド 長軸長6.25m、短軸長3.74m、深さ1.28m。確認面最高位標高543.43m。平面形は北東-南西に長い、やや幅広の長方形。断面形は幅の広い箱状で壁の広がり弱い。長軸方位N-66°-E。覆土について、山ズリとのメモ書きが付される。比較的汚れの少ない小角礫を中心とする。壁際は土壌が混じるが、中央部はほぼ礫のみの構成である。復旧坑64・65と近いが、土壌が最も少ない。

**復旧坑64** 25-90-C・D-5・6グリッド 長軸長6.68m、短軸長2.13m、深さ1.12m。確認面最高位標高542.92m。平面形は北東-南西に長い長方形。断面形は箱状で壁はまっすぐ立ち上がる。長軸方位N-63°-E。覆土について、山ズリとのメモ書きが付される。比較的汚れの少ない小角礫を中心とする。復旧坑63・65と同相だが、63より汚れが強く、特に下層には土壌が多く含まれる。

**復旧坑65** 25-90-C・D-6~8グリッド 長軸長8.09m、短軸長1.99m、深さ0.92m。確認面最高位標高

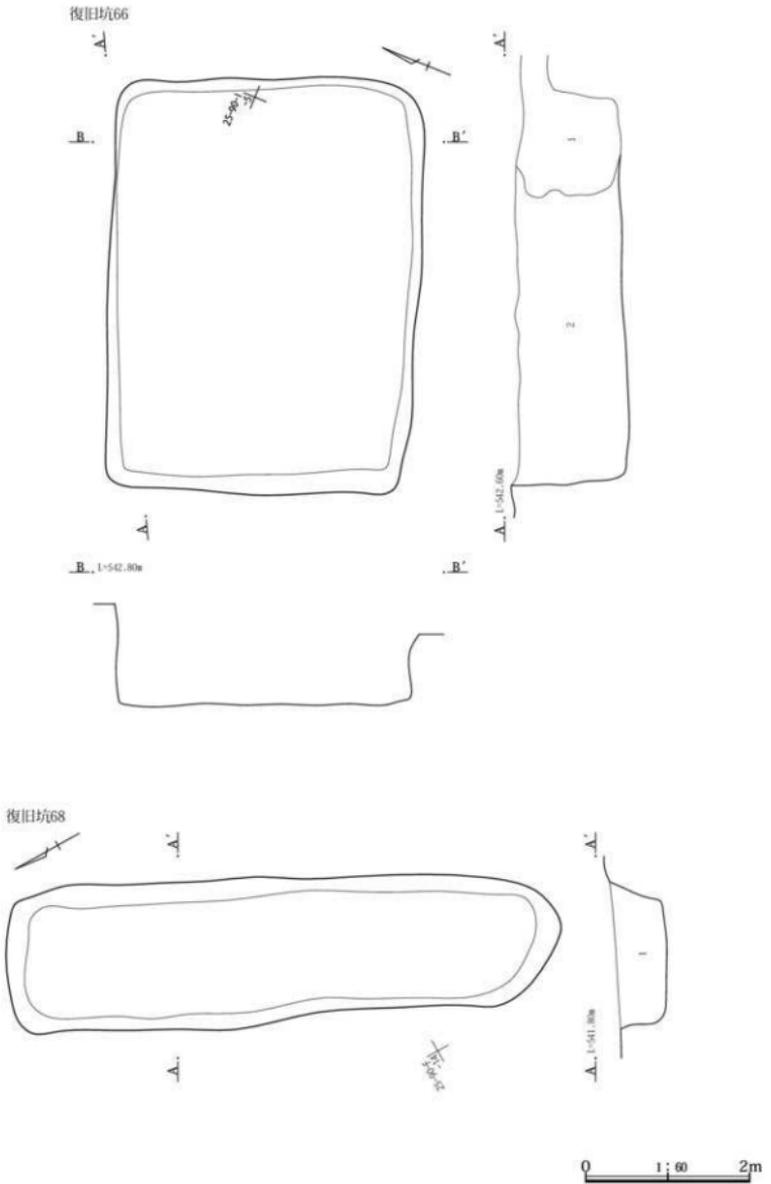


第20図 第1区画 復旧坑の位置



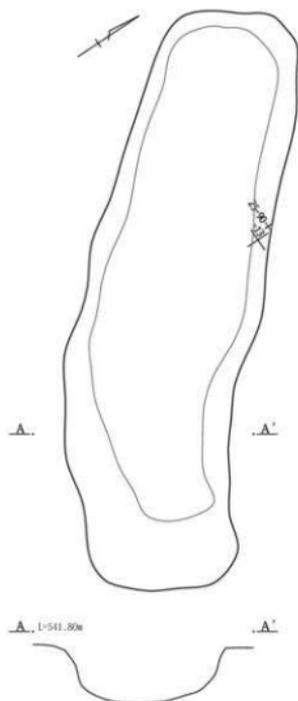
第21圖 第1区画 復旧坑1



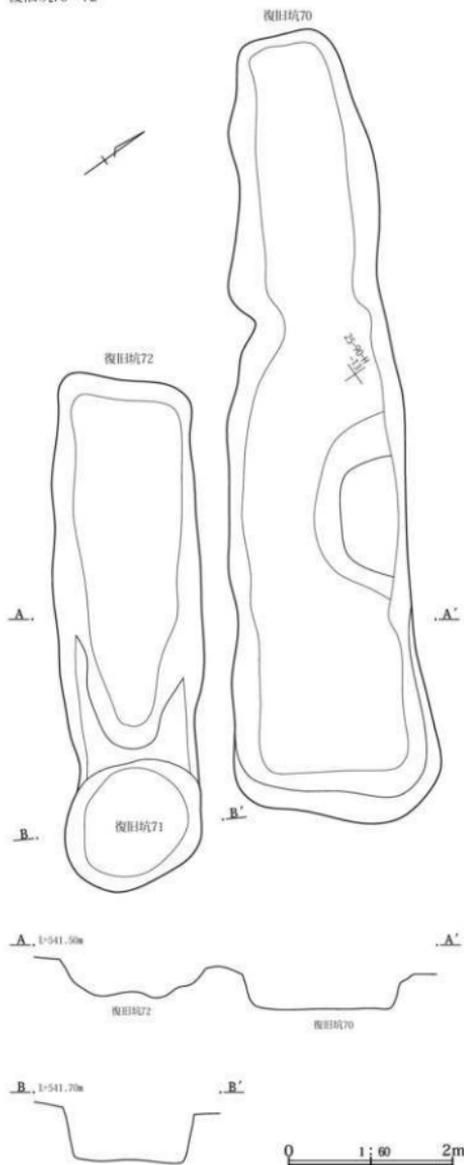


第22図 第1区画 復旧坑2

復旧坑69

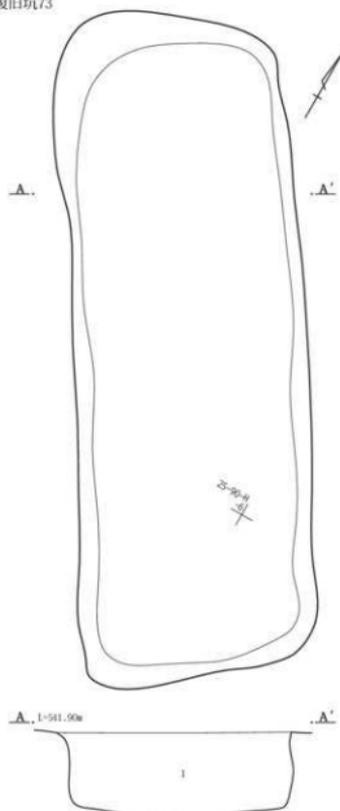


復旧坑70~72

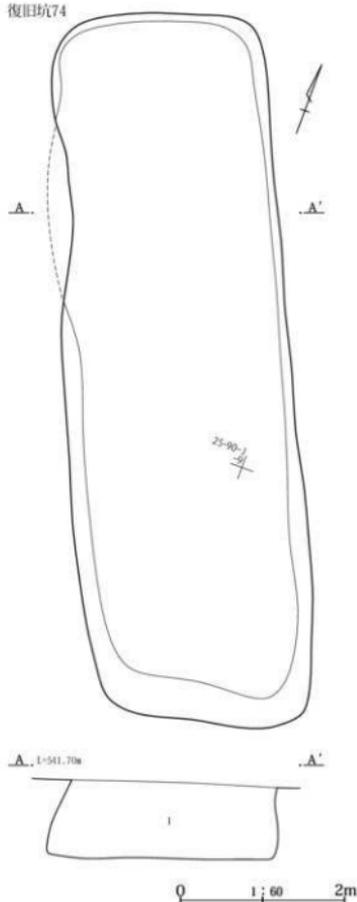


第23図 第1区画 復旧坑3

復旧坑73



復旧坑74



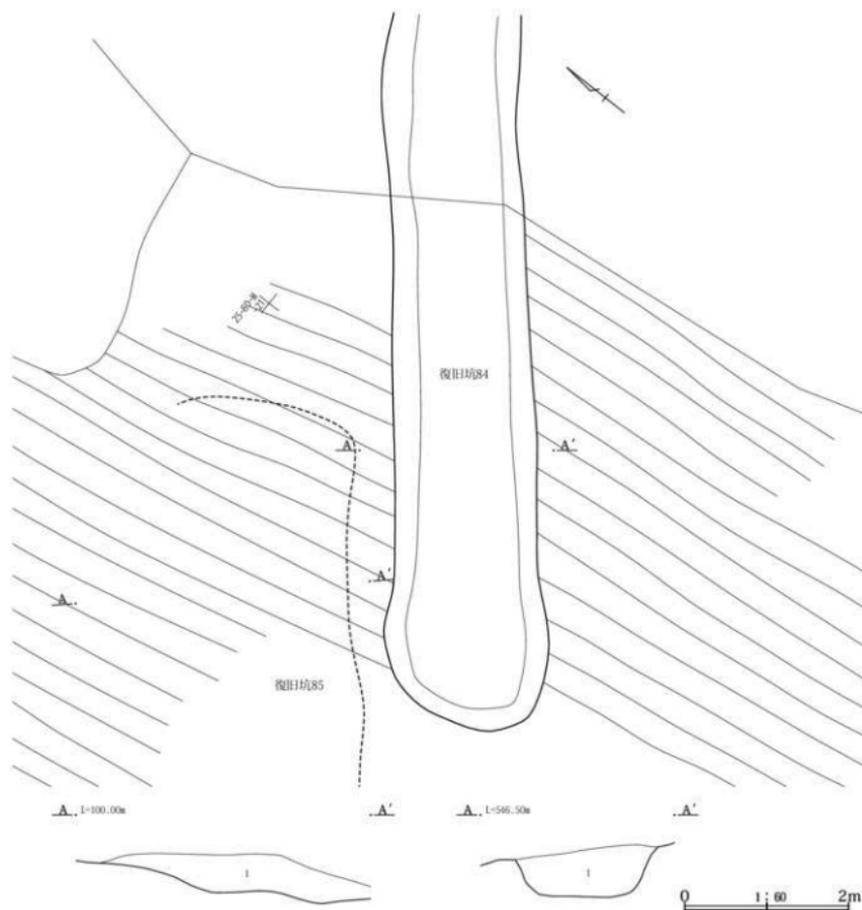
第24図 第1区画 復旧坑4

542.61m。平面形は北西-南東に長い長方形。断面形は箱状で北東壁がやや崩れるが、ほぼまっすぐ立ち上がる。長軸方位N-36°-W。覆土について、山ズリとのメモ書きが付される。復旧坑63・64と近い層相だが、下層は土壌を多く含む砂礫が主体で、上部に比較的汚れの少ない小角礫がある。

**復旧坑66** 25-90-H~J-4・5グリッド 長軸長5.09m、短軸長3.82m、深さ0.96m。確認面最高位標高

542.51m。平面形は北東-南西に長い、やや幅広の長方形。断面形は幅の広い箱状で、南側がやや崩れるが、壁の広がり弱い。長軸方位N-71°-E。覆土に関する観察所見を欠くが、写真記録で見ると、小さな角礫と細粒の黄褐色土の混土を主体とするようである。

**復旧坑68** 25-90-D・E-13~15グリッド 長軸長6.74m、短軸長1.84m、深さ0.76m。確認面最高位標高541.68m。平面形は北東-南西に長い、やや幅広の長方



第25図 第1区画 復旧坑5

形で、南西端が丸みを持つ。断面形は上部がやや開く鍋状。長軸方位N-26°-E。

**復旧坑69** 25-90-E・F-12・13グリッド 長軸長7.12m、短軸長2.13m、深さ0.75m。確認面最高位標高541.68m。平面形は北西-南東に長い長方形を基本とするが、南西部は崩れて乱れる。断面形は底面が丸みを持つ椀状。長軸方位N-49°-W。南西の底面にはやや大振りの円礫・亜角礫が並ぶ。北西部では底面中央に盛り上がりがあっ

て、端部は2条に分かれるかに見える。

**復旧坑70** 25-90-F~1-11~13グリッド 長軸長9.67m、短軸長2.50m、深さ0.75m。確認面最高位標高541.41m。平面形は北西-南東に長い長方形を基本とするが、北西部は上面が削剥されて乱れる。断面形は上部がやや開く鍋状。北西部は底面も乱れて凹凸が多い。中央北東壁側に半円形の掘り残し部がある。長軸方位N-57°-W。

**復旧坑71** 25-90-G-11グリッド 長軸長1.85m、短軸長1.52m、深さ0.72m。確認面最高位標高541.56m。平面形は南北にやや長い円形。他の復旧坑とは形状が異なる。断面形は上部がやや開く鍋状。長軸方位N-4°-W。復旧坑72を切るものと思われるが、復旧坑72の底面は切り合い部の手前で既に完結するような立ち上がりを見せている。

**復旧坑72** 25-90-G・H-11・12グリッド 長軸確認長5.03m、短軸長1.77m、深さ0.42m。確認面最高位標高541.34m。平面形は北西-南東に長い隅丸長方形かと思われる。南東端は復旧坑71に切られるが、底面は切り合い部の手前で完結するように立ち上がり、南東端では丸みを持った長円形を示すことになる。北東壁中央近くの底面に浅い変形の掘り込みが並ぶように見える。断面形は断面図は底面に掘り込みがある部分で採取されているため、底面が大きく乱れた輪状に描かれるが、北西部では上部がやや開いた鍋状を呈する。長軸方位N-56°-W。

**復旧坑73** 25-90-G~I-5~7グリッド 長軸長8.06m、短軸長2.91m、深さ1.02m。確認面最高位標高542.11m。平面形は北西-南東に長い隅丸長方形。断面形は箱状で壁の開きは弱い。長軸方位N-34°-W。

**復旧坑74** 25-90-I・J-8~10グリッド 長軸長8.72m、短軸長2.85m、深さ1.10m。確認面最高位標高541.65m。平面形は北西-南東に長い隅丸長方形。断面形は底面がやや広い、弱い台形状を示す。長軸方位N-24°-W。

**復旧坑84** 25-80-K~M-19~21グリッド 長軸確認長8.74m、短軸長2.00m、深さ0.84m。確認面最高位標高546.40m。平面形は北東-南西に長い、幅の狭い長円形を呈するものと思われる。断面形は上部がやや大きく開く鍋状。長軸方位N-50°-E。写真記録からは小角礫と土壌の混土に見える。

**復旧坑85** 25-80-M・N-19~21グリッド 長軸確認長4.86m、深さ0.46m。確認面最高位標高545.86m。平面形は北東-南西に長い隅丸長方形かと思われるが、痕跡的に残るもので、平断面ともに形状の把握ができない。長軸方位N-53°-E。写真記録からは角礫と土壌の混土に見える。

## 2 第2区画

発掘区中部の上位段丘にあって、南北方向に突出する尾根の東側にあたる。北向きに傾斜地である。1号から6号畑が発掘されているが、1号畑を除くと、想定される畝/畝間溝方向は近似しており、一連の畑が地点毎に残存形態を異にしたものであるかもしれない。1号畑は西に接する2号畑と方向を異にし、切られているため、他より古い段階の畑であろう。第2区画では7号・8号畑や多数の土坑が発掘されているが、これらについては項を改める。

### (1) 畑

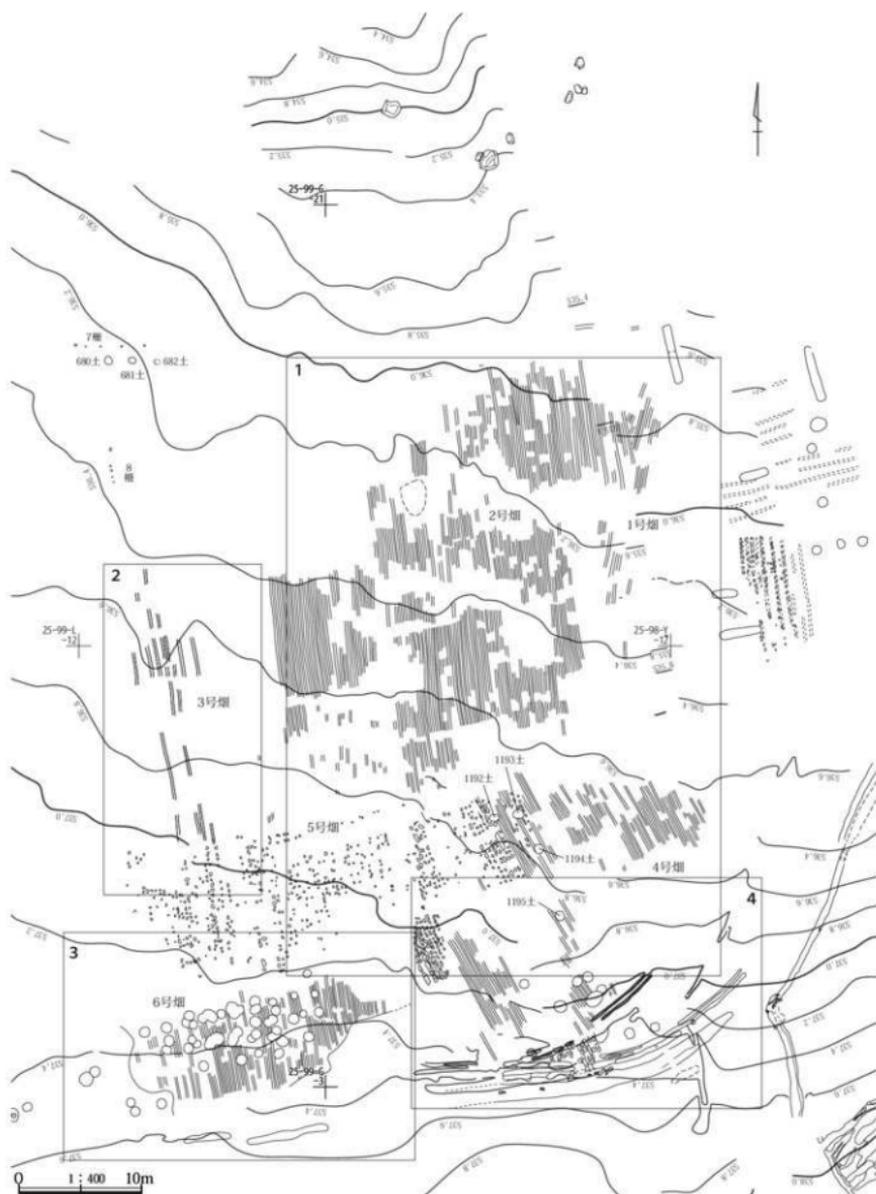
**1号畑** 25-98・99-Y・A-11~17グリッド 最高位標高536.5m、最低位標高535.9m。北向きに緩傾斜面に、畝間溝の痕跡が最大8条並列する。南北23m、東西5mほどの範囲で確認され、N-2~13°-E方向に延びる。微弱な痕跡で、条間距離を捉えがたいが、30cm前後かと思われる。2号畑が西に接し、これに切られる。

**2号畑** 25-99-A~I-9~18グリッド 最高位標高536.9m、最低位標高535.9m。南北35.7m、東西31.8mほどの範囲内に、畝間溝が痕跡的に残る。全体の広がりや条数は捉えがたいが、90条以上が数えられる。畝/畝間溝の方はおよそN-8°-W前後を示す。平均的な条間距離は31cmほどである。

**3号畑** 25-98-I・J-8~13グリッド 最高位標高537.1m、最低位標高536.6m。北東向きに緩傾斜面に、灰褐色・灰黄褐色砂のブロックを含む暗褐色土を覆土とする畝間溝の痕跡が、最大8条並列する。南北22.2m、東西5.2mほどの範囲を占め、N-10°-W前後の方向に延びる。痕跡的な残存であるため、条間距離を把握することはできない。

**4号畑** 25-98・99-X~K-1~9グリッド 最高位標高537.6m、最低位標高536.6m。北部は北東向きに緩傾斜面、南部は北向きにやや急な傾斜面にある。南北24.8m、東西21.1mほどの範囲で、畝間溝の痕跡が散在的に、また、発掘区をまたいだ南端部では耕作具痕跡の連続が確認されている。畝/畝間溝の方はN-25~30°-W。平均的な条間距離は33~34cmほどである。西側の5号畑とはあり方が異なるが、おおよその方向は一致している。

**5号畑** 25-99-B~K-4~8グリッド 最高位標高537.3m、最低位標高536.7m。北東向きに緩傾斜面に、

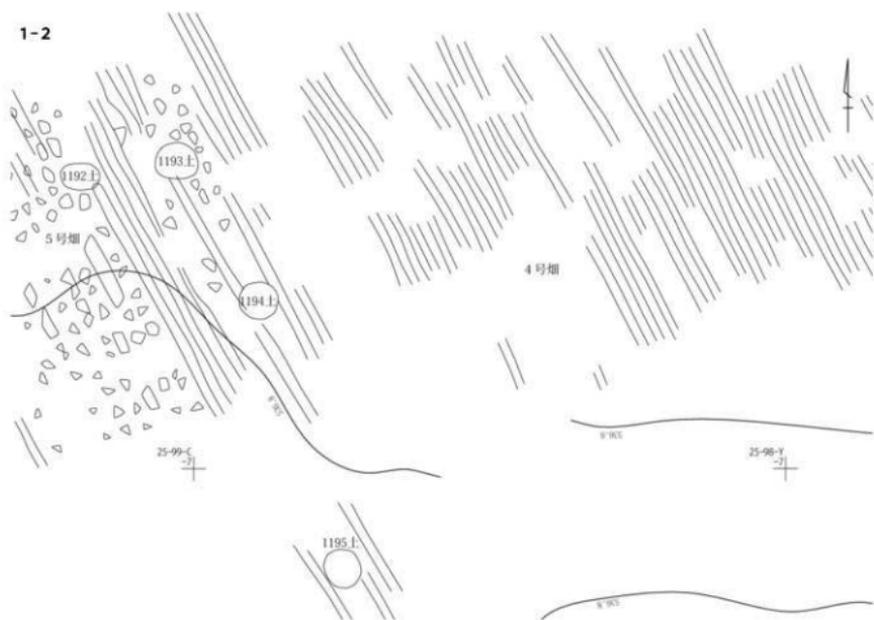
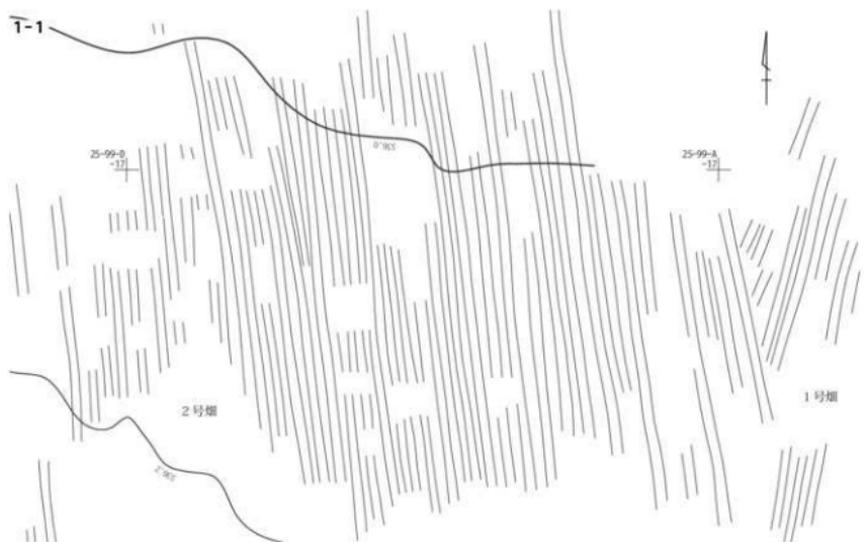


第26図 第2区画



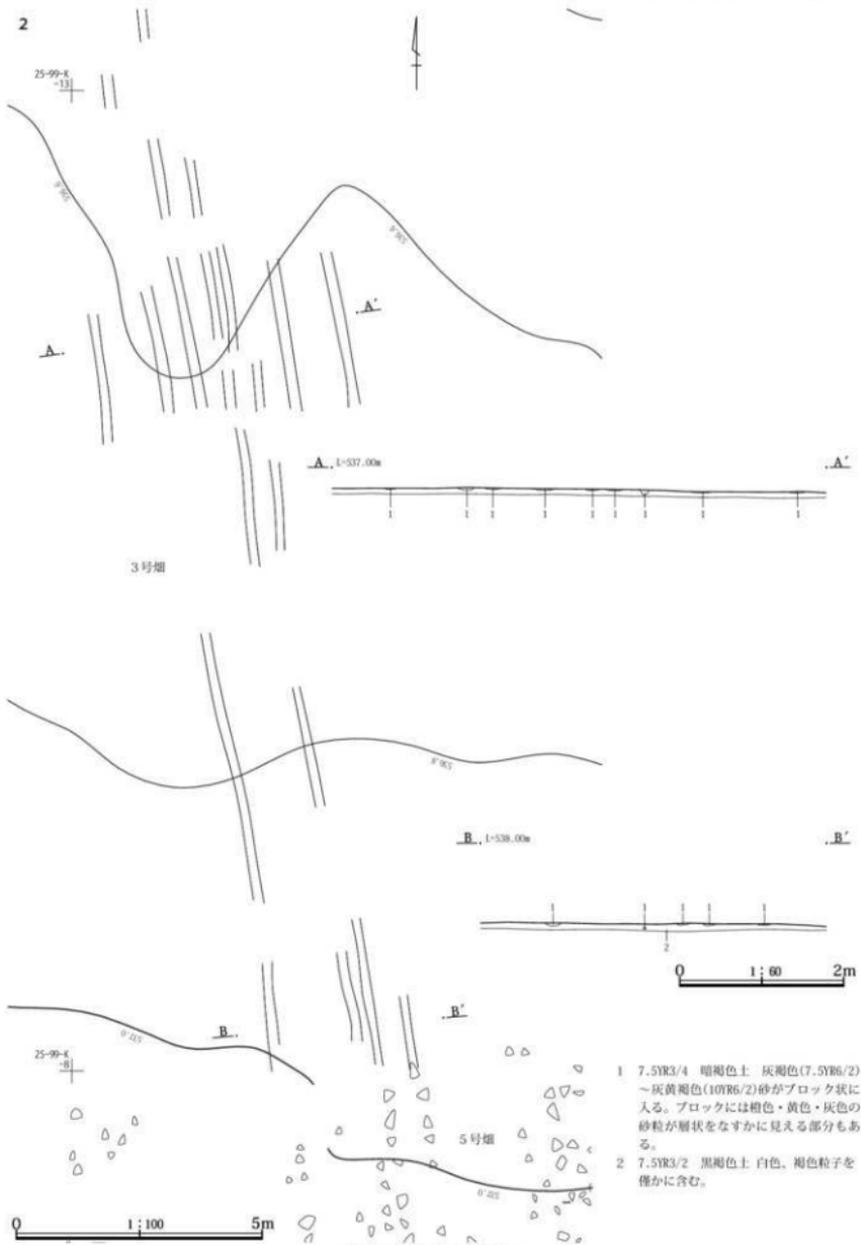
第27図 第2区画部分図1

第2章 発掘された遺構と遺物

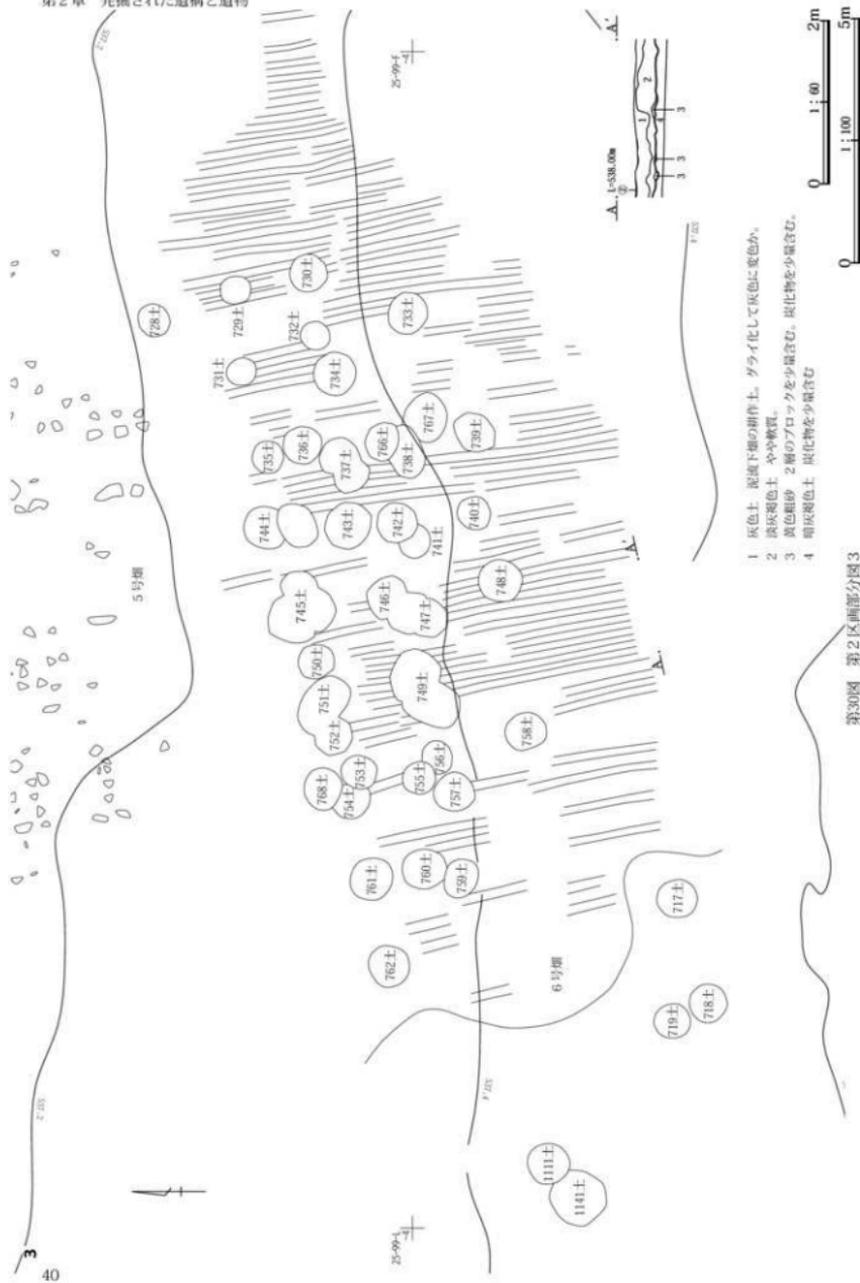


第28図 第2区画部分図1詳細図1・2

0 1:100 5m

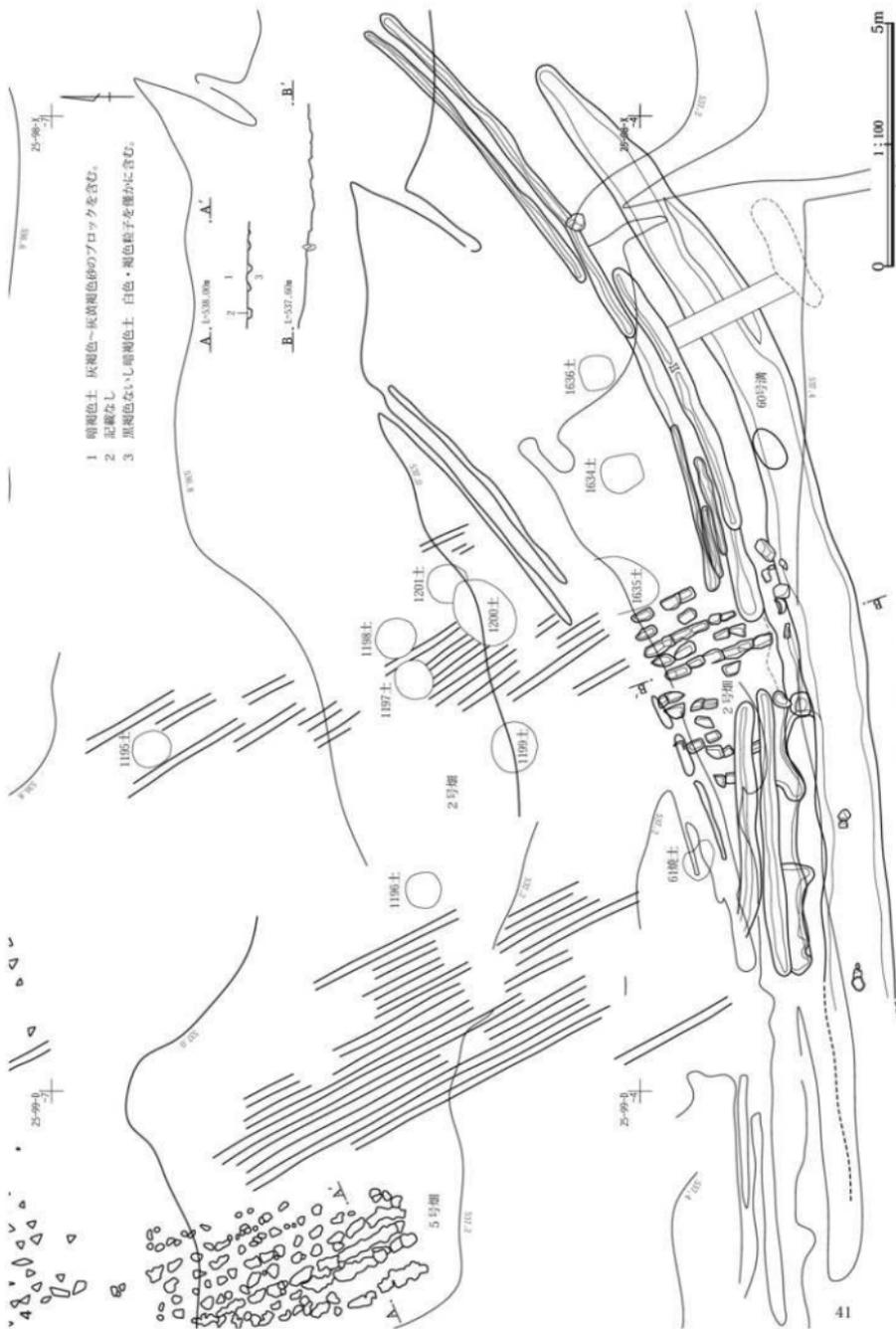


第29図 第2区画部分図2

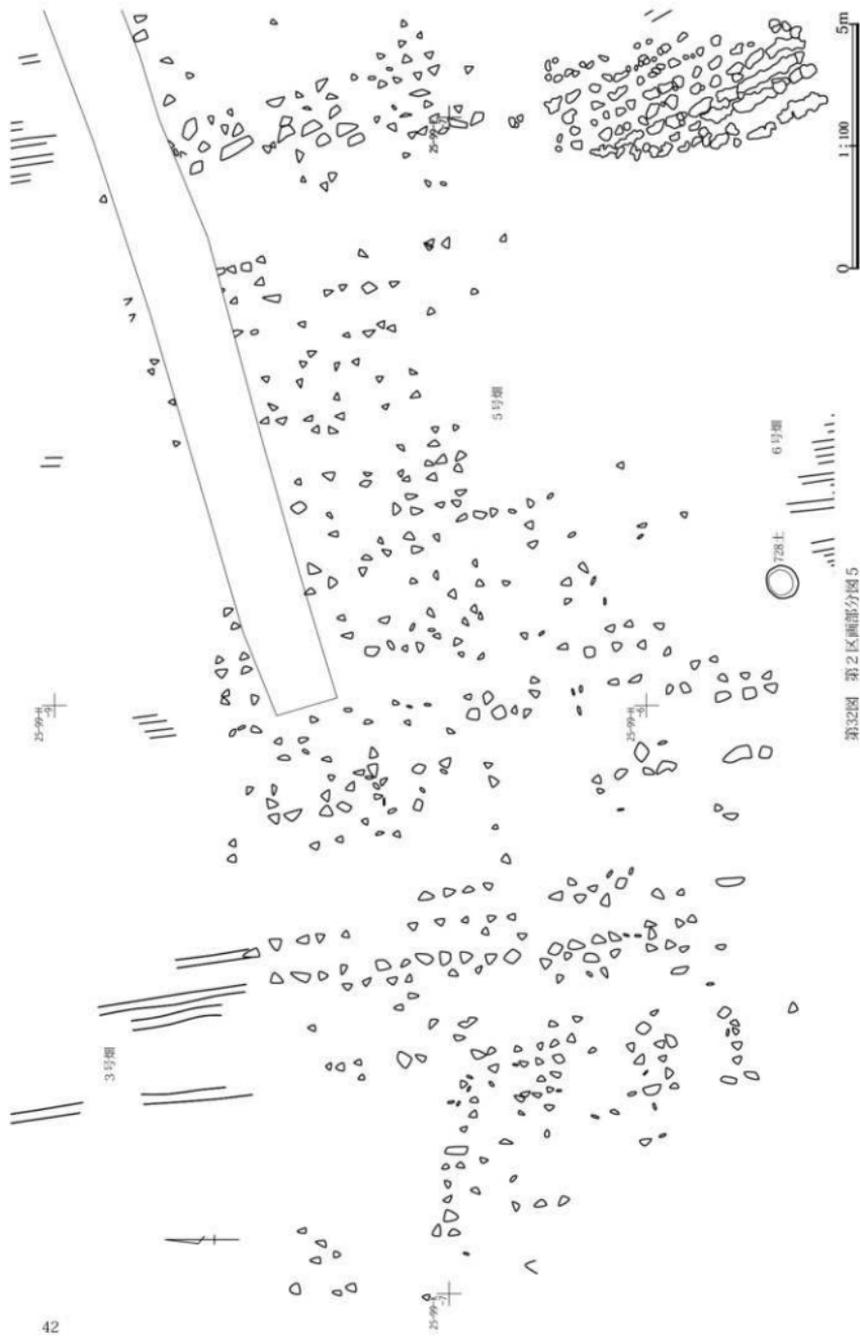


第308図 第2区画部分図3

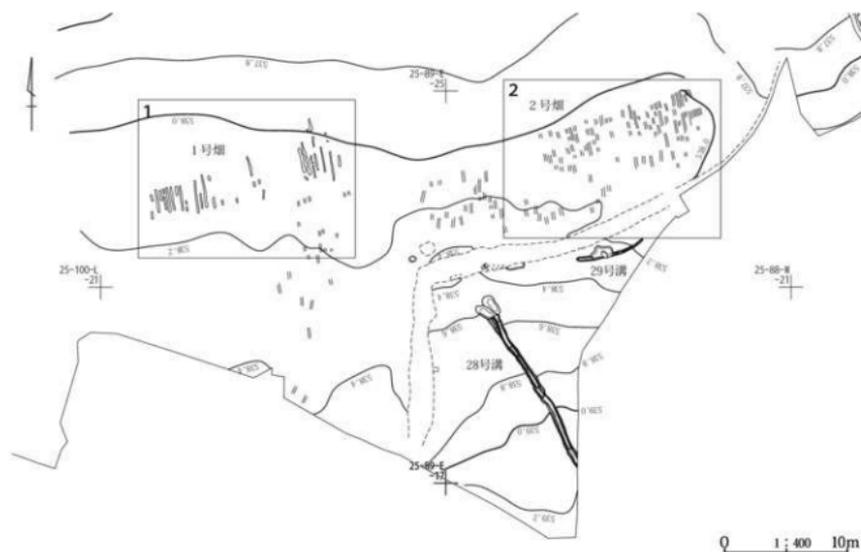
- 1 灰色土 肥田下層の耕作土。グライ化して灰色に変色か。
- 2 赤灰褐色土 やや軟弱。
- 3 黄褐色土 2層のブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
- 4 暗灰褐色土 炭化物を少量含む。



第31図 第2区画部分図4



第322图 第2区南部分图5



第33図 第3区画

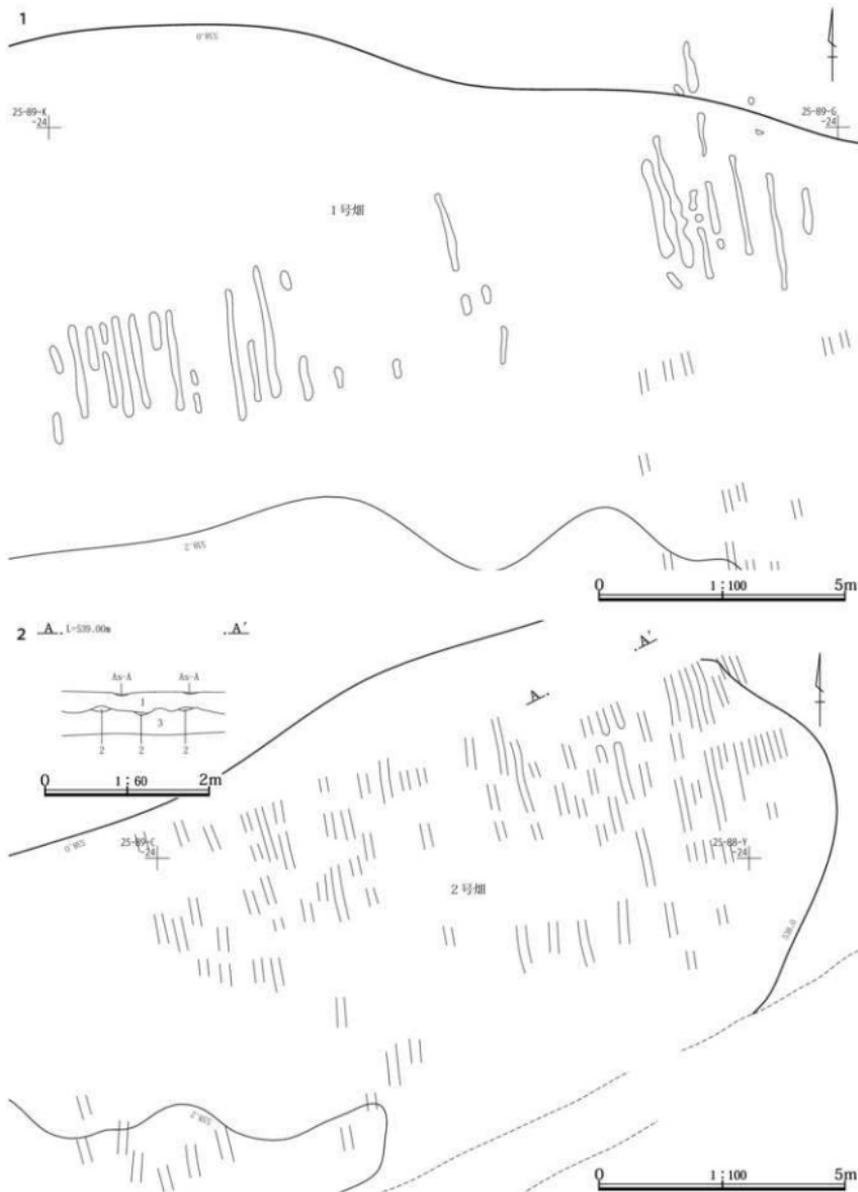
耕作具先端による切削痕跡と思われる窪みが群在する。南北16m、東西33mほどの範囲を占める。多くが単体の切削痕で、東南部では溝状に連続する部分もあるが、重複するような切り合いがほとんど見られないところから、一回の耕作行動によるものと思われる。個々の耕作具痕跡からは刃部の方向や連続性を観取することはできないが、東部では4号畑や6号畑に並行するかに見え、西部では3号畑に連続するかに見える。

**6号畑** 25-99-E～J-1～4グリッド 最高位標高537.5m、最低位標高537.2m。北東向きに緩傾斜面に、黄色の粗砂で埋没した畝間溝の痕跡が50条以上並列する。南北8.2m、東西20mほどの範囲を占める。浅い土坑が集中する場所に当たり、これに切られて全体が把握できないが、畝/畝間溝の方位はおおよそN-9°～12°-W方向、平均的な条間距離は30cmほどである。

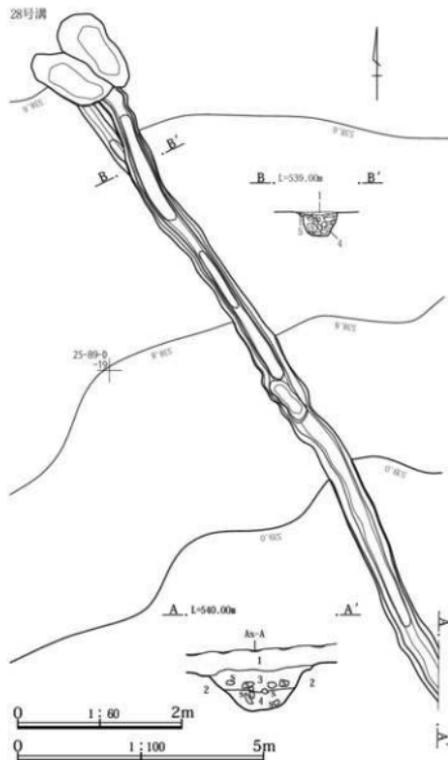
### 3 第3区画

発掘区中央南部にあって、南から西にかけては背後の急斜面で画される。おおよそ北向きの傾斜面であり、南東部では傾斜がやや急になる。部分図1・2に、畝間溝痕

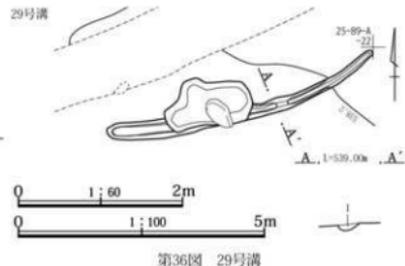
跡が比較的明瞭な部分を示した。部分図1とした西側部では、やや深めの畝間溝痕跡が認められた部分を1号畑とした。部分図2には2号畑として、微弱な畝間溝痕跡が纏まる部分を示した。1号畑のような残存状況は限定的で、多くは2号畑よりもさらに短く、微弱な痕跡でしかない。畑遺構の残存は悪く、畝間溝の断片が痕跡的に残されるに過ぎない。全体の様相も個別耕作の様態もものの畝/畝間溝の方位がともに、南北方向からやや西に傾いており、畝間溝の間隔も近い。南の急傾斜裾部から、第2区画との境界となる天明泥流下面での1号水路までの広がり有した、一連の畑かもしれない。一方、畑痕跡分布域の中央近くには南北からやや東に傾く方向を示すものがあり、南西端には北東-南西方向を示すものもある。これらは、耕作単位や埋没時期が異なる畑である可能性もある。傾斜がやや急になる南東部は、天明泥流下面での1号・3号水路に北と西を画された部分に当たるが、畑痕跡が認められず、南北走る28号溝、東西走る29号溝が認められているのみである。



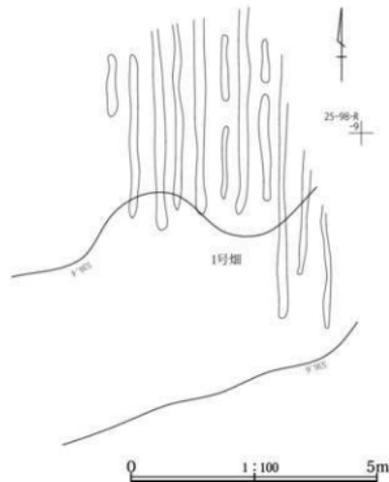
第34图 第3区画部分图1・2



第35図 28号溝



第36図 29号溝



第37図 第4区画

**(1) 畑**

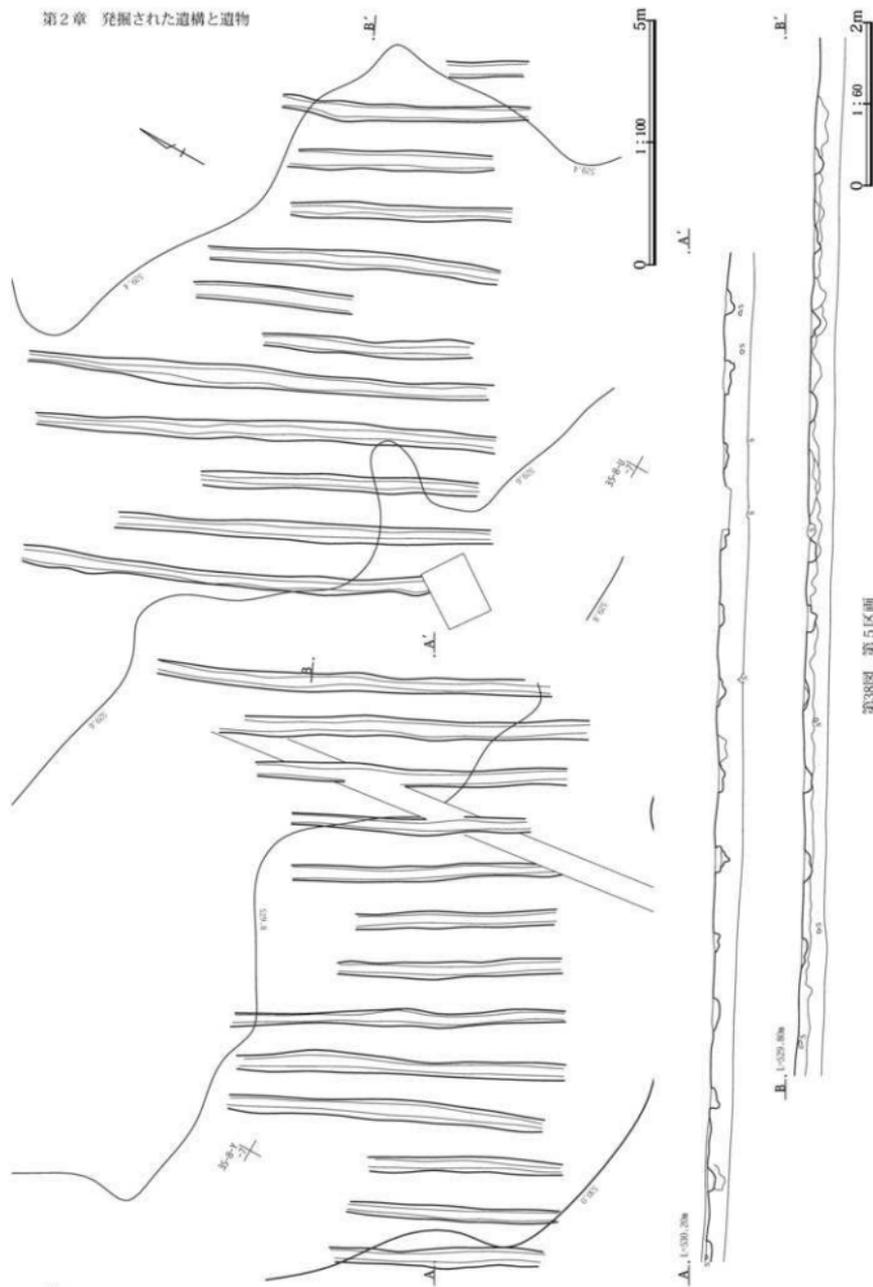
**1号畑** 第3区画西部で、比較的明瞭な畝間溝痕跡が認められた部分を1号畑とした。25-89-G~K-22~24グリッド 最高位標高538.2m、最低位標高537.9m。北向きの緩傾斜面に、断続的な畝間溝の痕跡が並列する。南北8.3m、東西16mほどの範囲に24条以上が数えられ、N-8~10°-W方向に延びる。西部の残りの良い部分での平均的な条間距離は30cmほどである。東部では発掘区界を挟んで南側にも畝間溝痕跡が認められているが、さらに残りが悪く、2号畑同様の残存を示す。畝間溝の方向は両者が近似する。

**2号畑** 第3区画東部で、微弱ながら畝間溝痕跡が窺まる部分を2号畑として示した。図示した範囲は25-88-

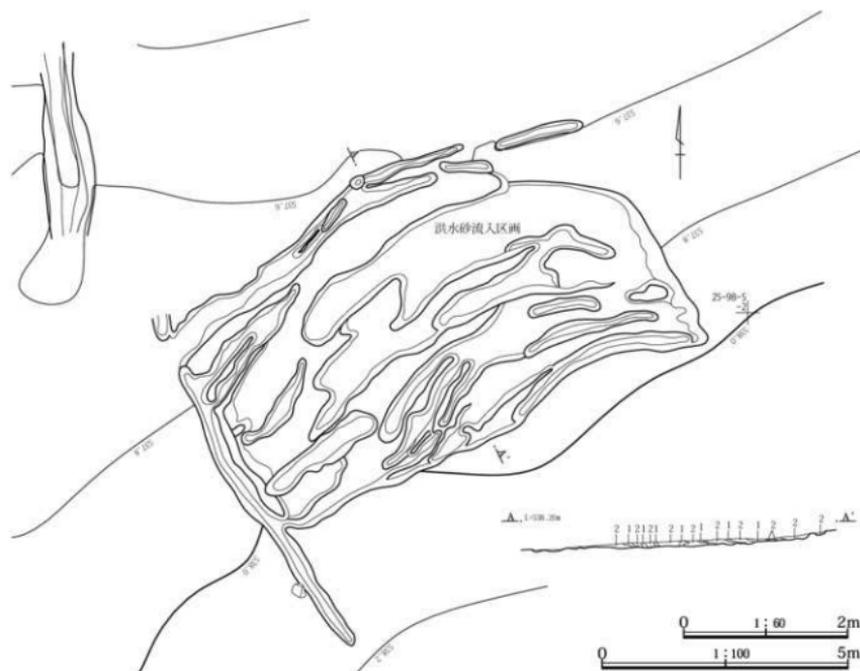
89-X~C-22~25グリッドに当たる。最高位標高538.2m、最低位標高537.9m。およそ北西向きに緩傾斜地にあたる。東側に弱い谷地形があり、南側の傾斜面との境界には29号溝がある。図示した範囲は南北11m、東西15mほどであるが、この間に40条ほどの、断続的な畝間溝痕跡が並列する。東端近くでは、N-17~19°-W方向に延びていて、平均的な条間距離は27~30cmほどであるが、N-9~11°-W前後を示すものもある。

**(2) 溝**

**28号溝** 25-89-B~D-17~20 発掘区南端近くから北西方向に14mほど延び、土坑状の落ち込みに切られて、以後は把握できない。確認面最高位標高539.16m、底面最高位標高538.79m、確認面最低位標高538.57m、底面



第38図 第5区画



第39図 洪水砂流入区画

最低位標高538.48m。長さ14.0m、幅46～69cm、深さ25～40cm。方位はおおよそN-30°-W。断面形は椀状ないし上部が開く鍋状を呈する。土層観察所見を欠くが、断面図や写真記録を参照すると、断面4層は、角礫・亜角礫と明黄褐色～赤褐色に近い色調の砂・シルトが混じたもので、Bラインではやや大振りの礫が主体で砂・シルトが少ない。Aラインの4層上部は暗褐色の砂/壤土に礫が含まれる。3層は地山起源の黄褐色ロームと暗褐色土の混土で、礫はごく少ない。2層は地山の黒褐色土、1層は天明泥流下畑の耕作土である暗褐色～黒褐色土である。4層の洪水堆積物で一気に埋まったものと思われる。中部に、長114cm、幅30.5cmほどの土坑状の落ち込みがある。以南の溝底面からの深さ22cm、以北の溝底面からの深さ1cmで、この落ち込みを境に底面レベルが変化する。25-88-D-20近くでは、この溝に切られたように、幅27～30cm、深さ2～5cmの窪みがN-35°-W方向に分

岐し、1.8mほど延びる。北端は土坑状の窪みに切られる。この窪みはゆがんだ長円形土坑が2基並列したような平面形を呈する。東部は長軸長186.7cm、短軸長64～95cmで、北部が幅広のゆがんだ涙滴形に近い平面形を呈する。深さ57cmほどある。西部は長軸長164cm、短軸長84cmで、不整な長円形の平面形を呈する。深さは47cmほど。両者の切り合い関係は捉えられていない。

**29号溝** 25-89-A・B-21グリッド 第3区画東部にある。東西方向に、南に僅かに張り出すような緩い弧状を描く。弦の方位はN-75°-E。天明泥流下面3号水路に近い走行を示す。長さ6.1m、幅16～44cm、深さ1～16cm。西部の残りが良く、幅広で深い。断面形は椀状。両端は完結するように表現され、東西への延長は捉えられていない。中央西寄り不定形の攪乱があって、これに切られる。

## 4 第4区画

25-98-R-9・10グリッド 最高位標高536.6m、最低位標高536.3m。発掘区中央の北向き緩傾斜部にある。東と北は発掘区界に切られる。西と南は特定の境界施設なく把握できなくなる。東西幅4.5mほどの間に、ほぼ南北方向に伸びる畝間溝の痕跡が11条並列する。等高線とは直交する方向である。最も長い畝間溝は5.3mほどある。畝間溝上端幅は10~20cm前後、断面記録を欠く。平均的な条間距離は40cmほどである。

## 5 第5区画

35-8-S~Y-5~9グリッド 発掘区中央北部の下位段丘上にある。最高位標高530.0m、最低位標高529.3m。北東向きの緩傾斜面に、畝間溝の痕跡が25条並列する。畝間溝の上下端が捉えられており、他の畑痕跡より残りが良い。南北11.5m、東西24.6mほどの範囲を占め、N-27~30°-W方向に伸びる。平均的な条間距離は98cmほどと広い。

## 6 洪水砂流入区画

25-88・98-S~V-25~2グリッド 発掘区中央南端の北向き傾斜部にある。南側は急傾斜が迫り、西には天明泥流下3号水路が走る浅い谷地形が入る。浅い溝に画された、10m×8.5mほどの方形の範囲に、黄褐色の洪水砂層が広がる。西辺の溝はN-33°-W方向に6.75m延びて北東方に折れる。幅30~55cmで深さ2~3cm。北西の境界も浅い溝に画され、北東方向に僅かに膨らんだ弧状をなしている。区画内には、乱れながらも区画の長軸方向に沿った攪乱痕跡が見られる。土層観察所見を欠くが、写真記録から推測すると、地山の暗褐色土に黄褐色の砂質土の斑が高密度で混入する状態であったらしい。次項で述べる水田遺構にも似た状態が想起される。

## 第3項 中世相当面の遺構

## 1 第1区画

近世相当面第1区画中部にある。a面3号畑の下部からさらに東及び北に広がりを持つように認められた。3号畑に比して残りが良く、耕作単位全体の把握はできないものの、下底面や終端部が確認できる畝間溝も多い。調査時の面認識に従うと、3面、3-1面、3-2面の各面にわたるが、本項では第42図に示した1号~10号畑およびb面の畑に分けて記載する。発掘時3-1面の畑は、3面の1号~5号畑を再掲しつつ、新たに発掘した2号~5号畑間や4号畑北部以北を追加記入したものであること、及び1・2号畑が29号建物の上位にあって、他の畑より新しいことによる判断である。

東部の畑は流下した土砂によるものであろうと削痕跡が顕著で、中・西部に比して残りが悪いが、畝間溝の方向や配列から、中部の畑と連続する畑と見られる。発掘区北部では、おそらく小祠の礎石であろう2号石列を囲む溝に、周囲の畑が規制される状況が見られるほか、さらに古い段階の耕作痕跡も認められる。

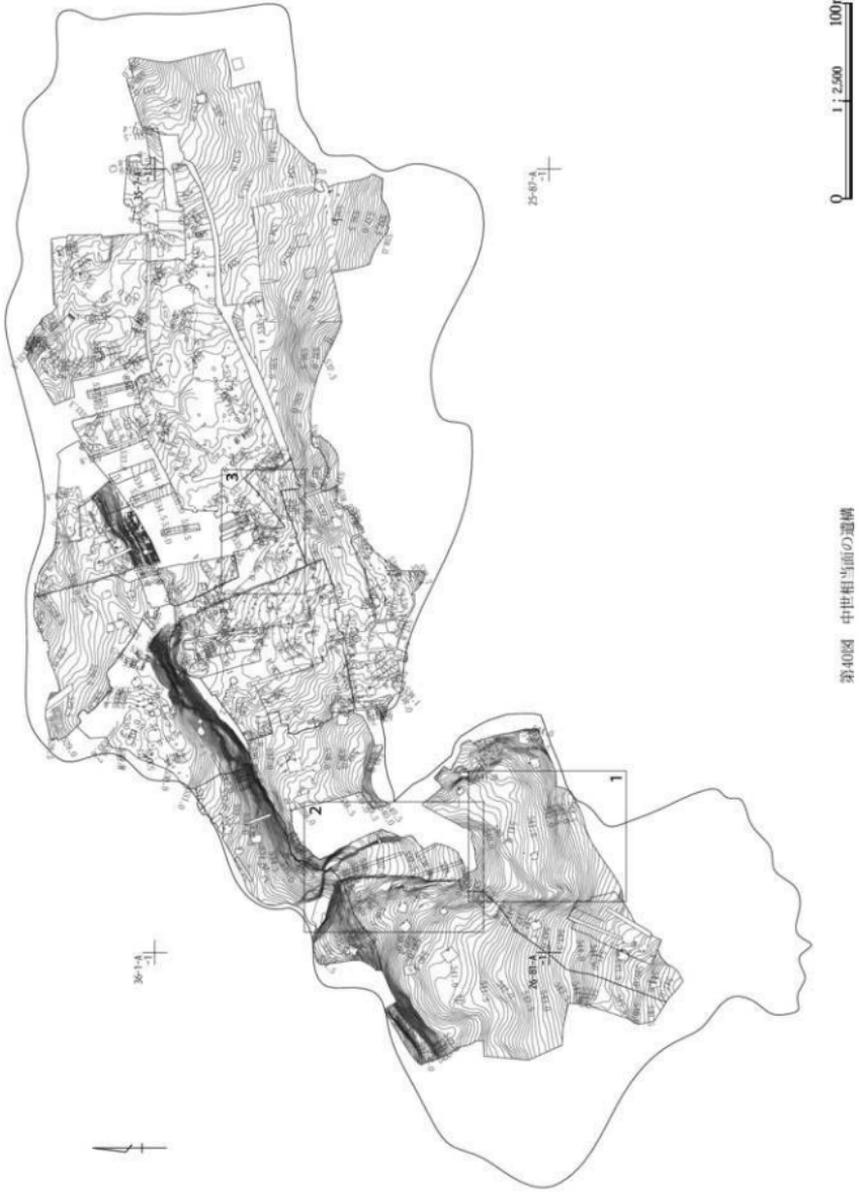
3-1面は3面西部畑、中部畑が再掲され、中部畑の北に接続する畝間溝が確認されたほか、以北に広がる畑の様子が捉えられた。北部の畑では畝間溝の方向を異にする畑の切り合いがあり、また畝間溝覆土がおおよそ様に分類される事なども捉えられている。さらに3面東西の畑間にあった空隙を埋めるかのように、29号建物とその南辺の畑が確認された。これに伴って、a面西部畑は29号建物に切られるように描き替えられている。

c面では、47号溝の南で、耕作痕跡と思われる線状の凹みが2条並行する事が確認されたのみであった。

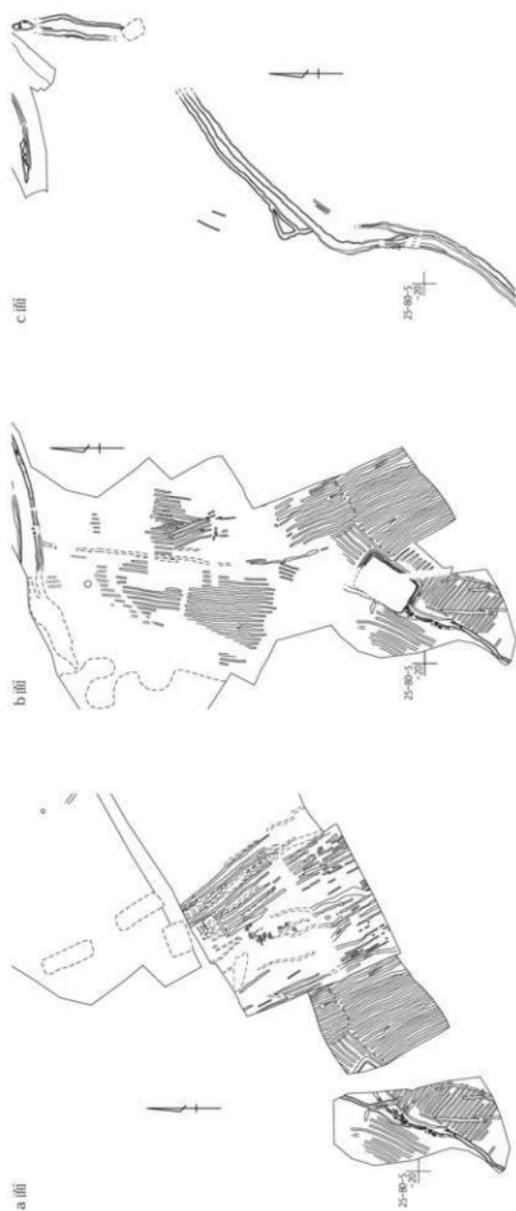
## (1) 畑

**1号畑** 25-80-P~R-19~22グリッド 近世相当面b面3号畑の下位にあたる。17号道で東西に2分される。この図中には29号建物が現れておらず、畑及び17号道は建物埋没後に営まれたものである。

東畑がより高い位置にあり、確認面最高位標高545.59m、最低標高544.06m。西辺は17号道で画され、南部では道の手前で完結する畝間溝が見られる。東辺、南辺は発掘区界に至って、耕作単位の全体を把握することはできない。北東-南西方向に並列する畝間溝が18.6m間に

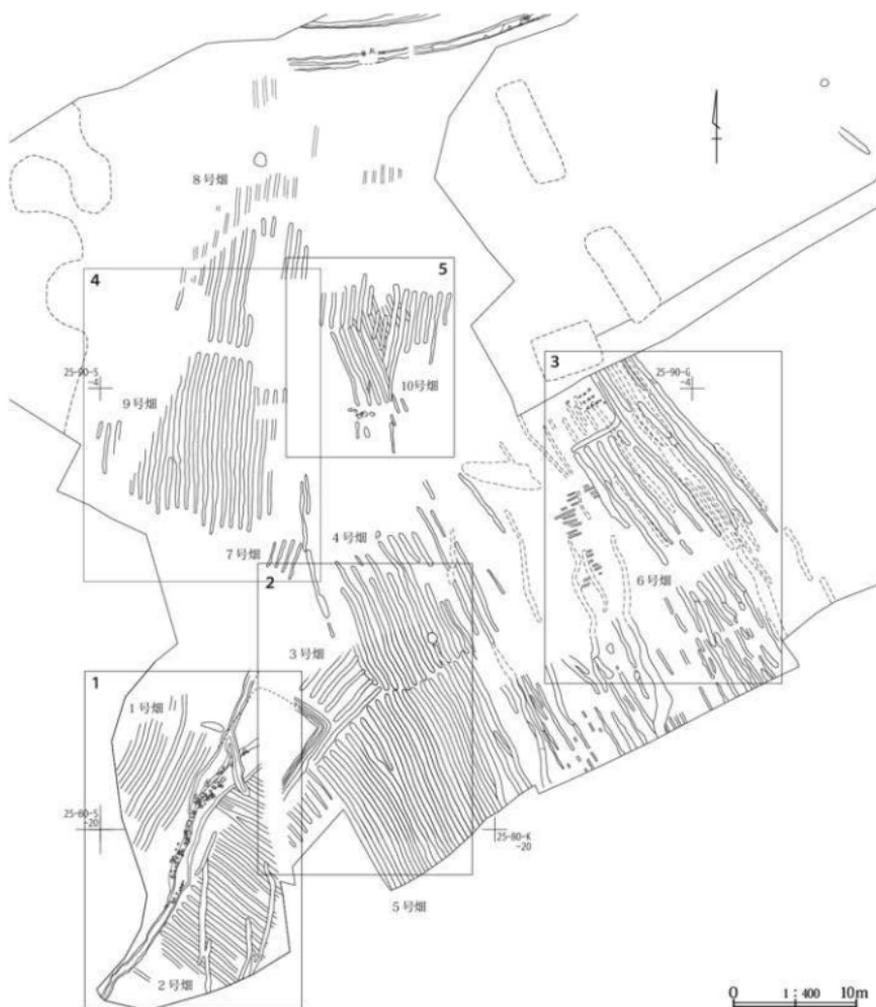


第40図 中世相当面の遺構



0 1: 800 20m

第41図 第1区画a~c面

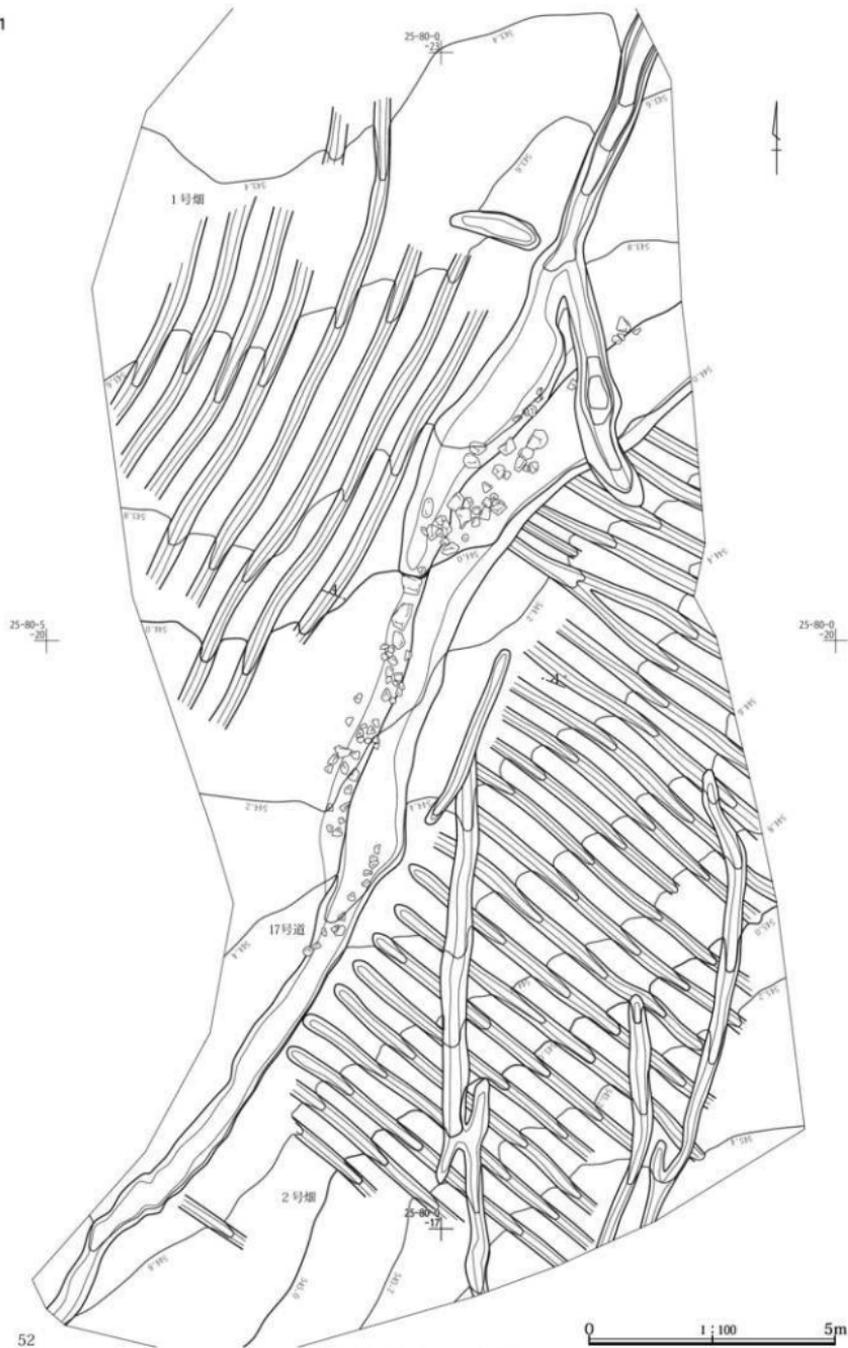


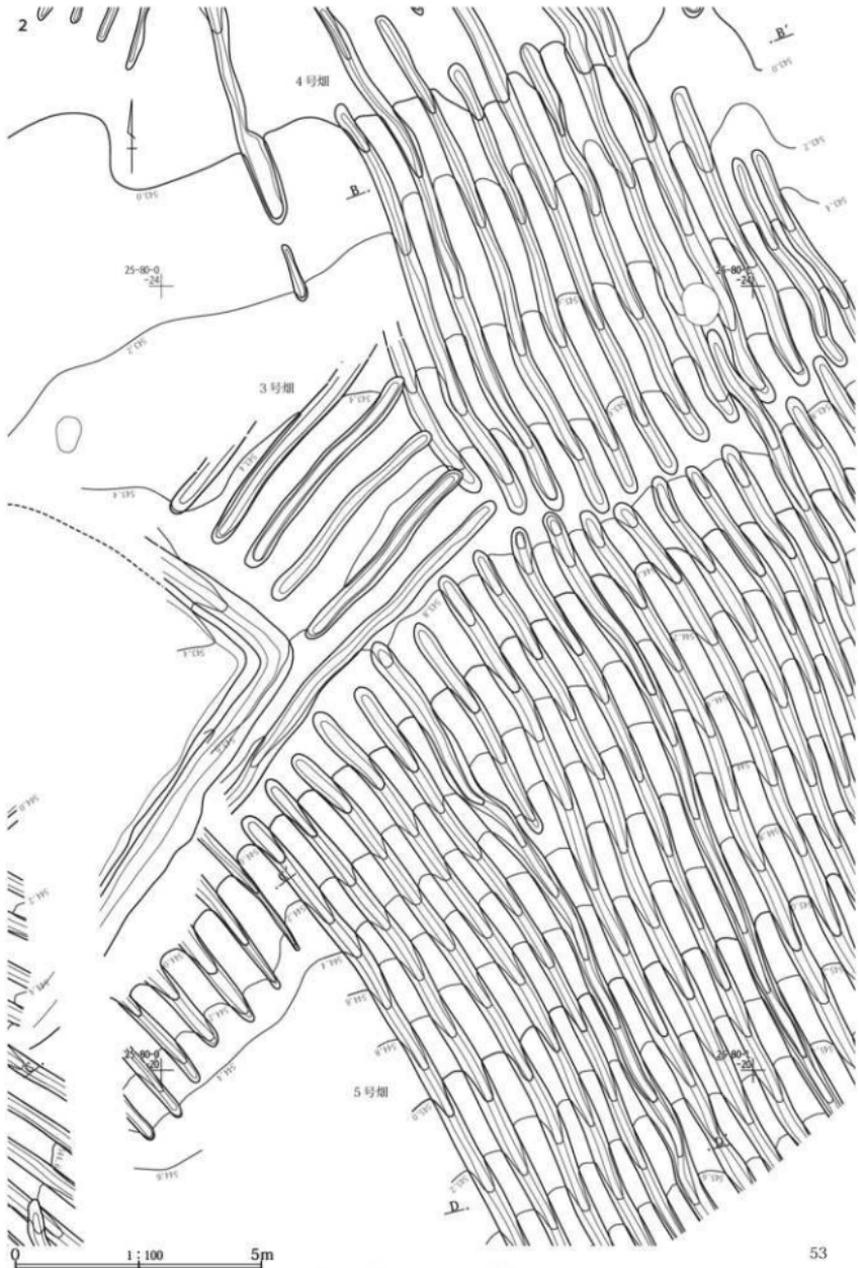
第42図 第1区画a面・b面の畑

25条確認されているが、南端の1条はやや離れた位置にある。畝間溝の両端部を把握できるものではなく、途切れ、あるいは分岐するかに見えるものもある。最も長く連続を迫る畝間溝は長8.2m、最も深い部分では確認面から12cmほど掘り込まれている。走行はN-50°-Wで、等高線とほぼ直行する方向に当たる。平均的な条間距離は

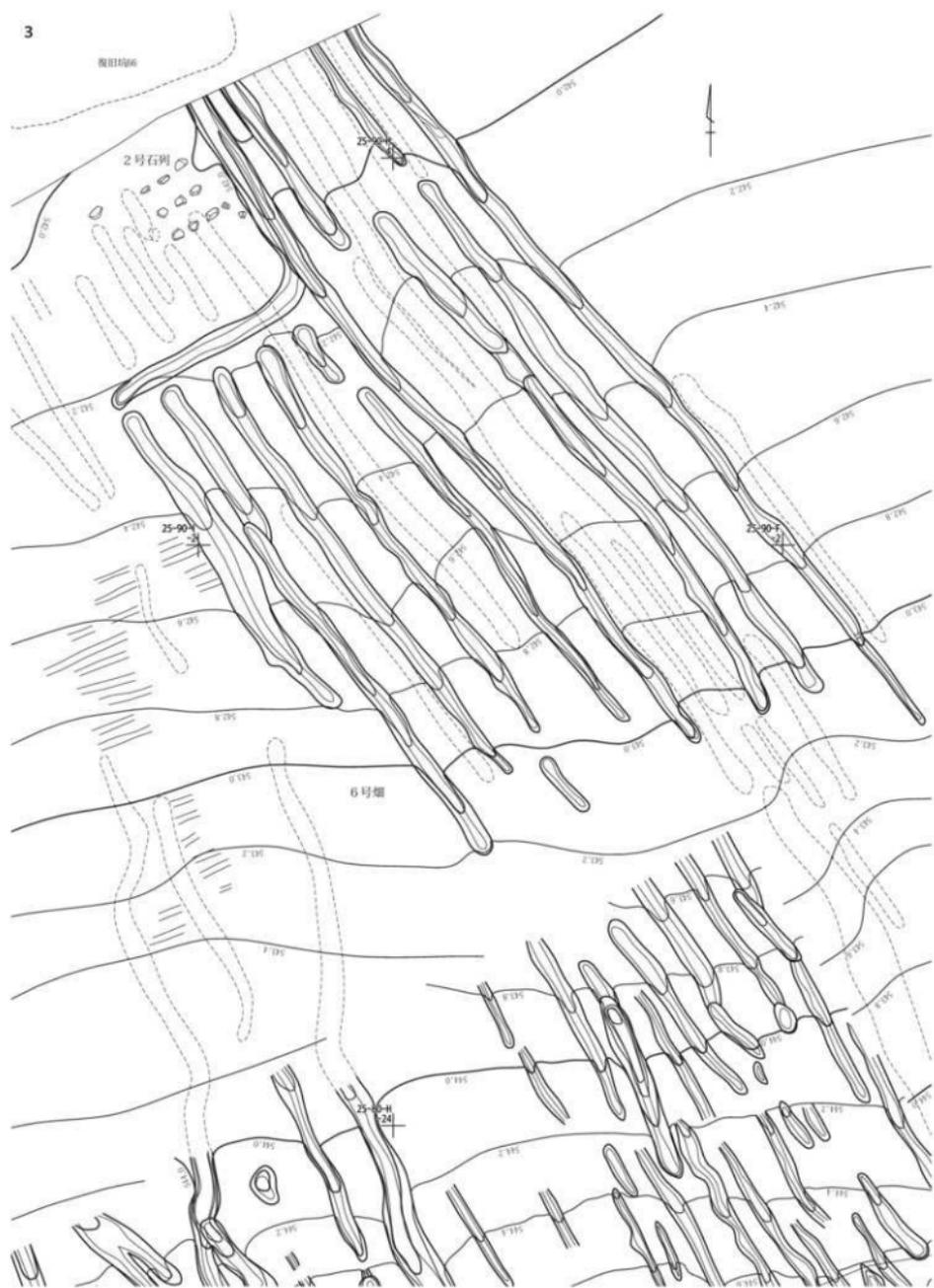
68cmほどである。

西畑は確認面最高位標高544.1m、最低標高543.36m。東辺を17号道に画され、西南辺は発掘区界に至る。西部、北部は顕著な境界なく畝間溝が捉えられなくなって、耕作単位の全体を把握することはできない。東西6mほどの間に8条の畝間溝が並列する。畝間溝の両端部を把握

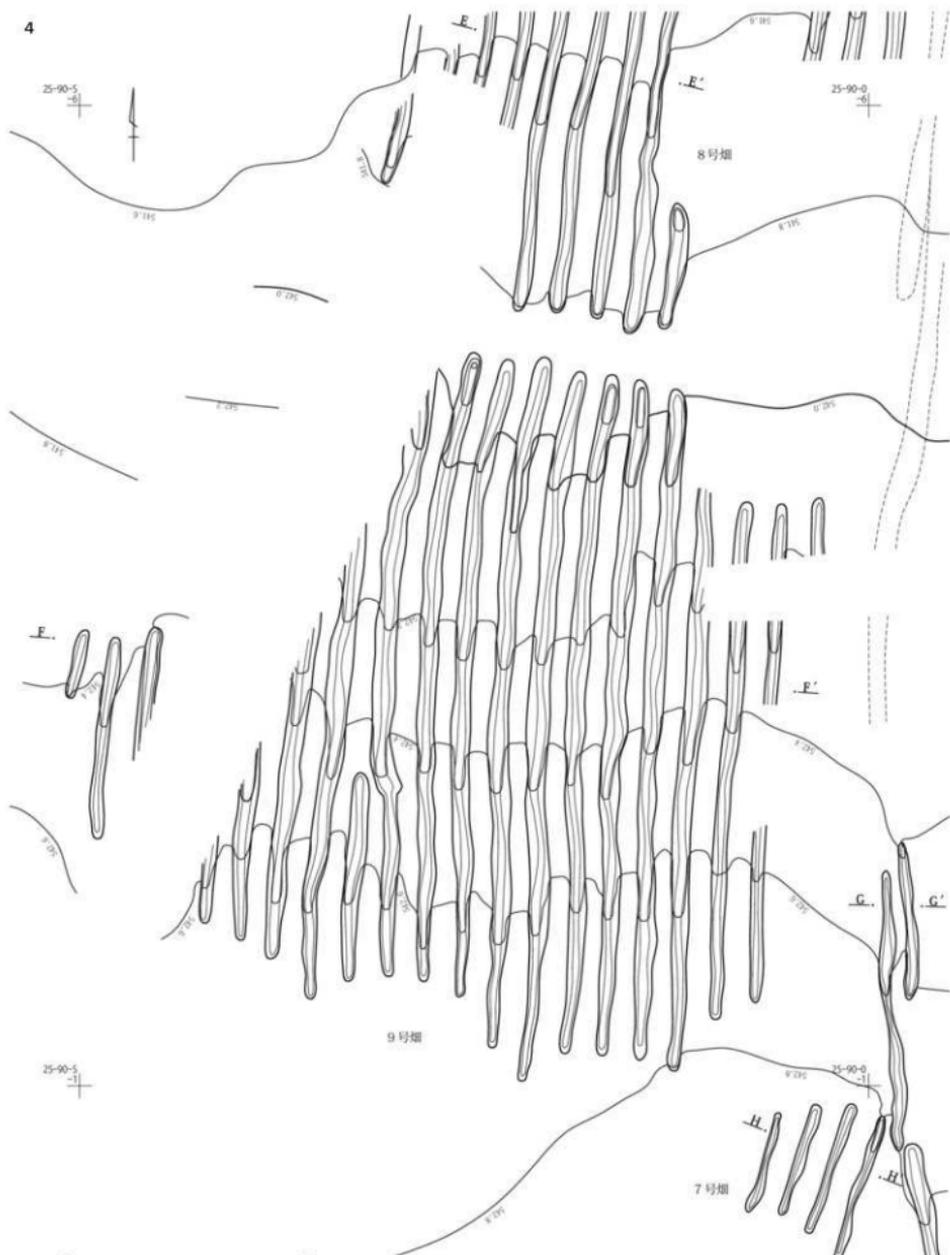




第44图 第1区画a・b面部分图2

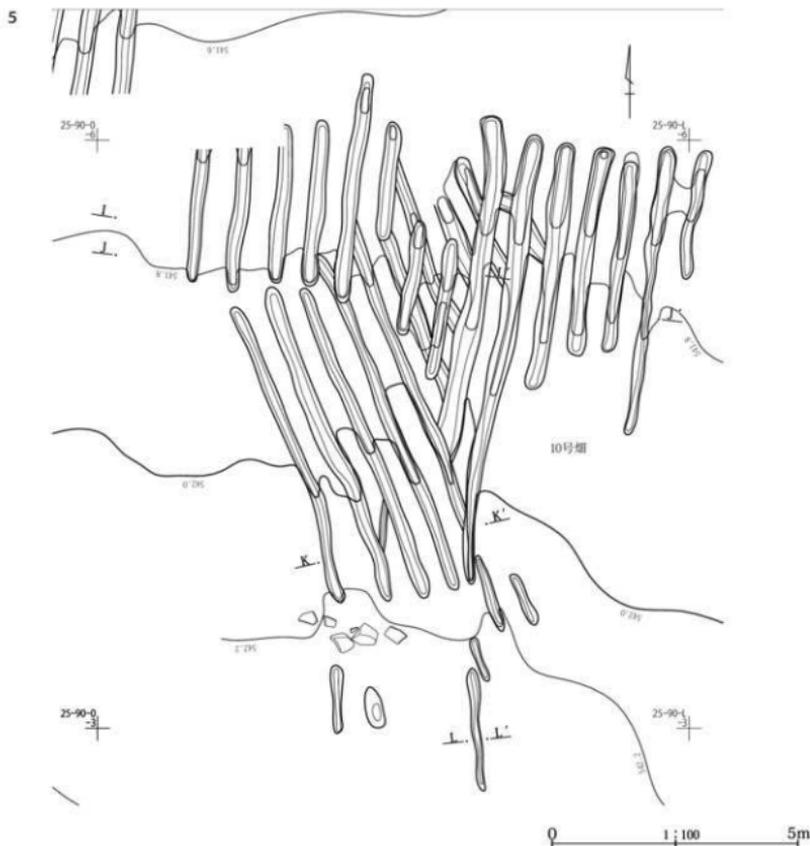


4



0 1:100 5m

第46图 第1区画a·b面部分图4



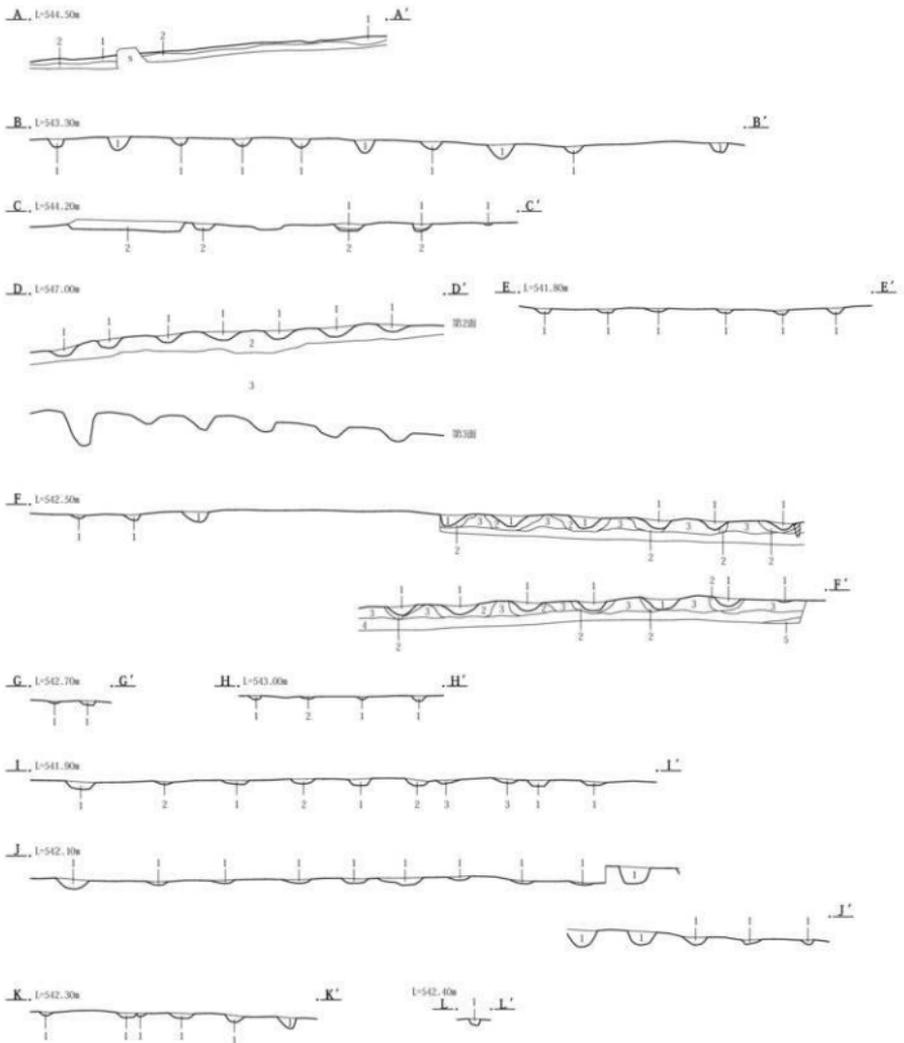
第47図 第1区画a・b面部分図5

できるものはない。最も長く連続を追える畝間溝は長13m、最も深い部分では確認面から9cmほど掘り込まれている。走行はN-27°-Eで、東畑とは大きく方向を違えるが、等高線とは強く斜行ないしほぼ直行する方向に当たる。また、17号道の走行方向とも近い。平均的な条間距離は71.5cmほどである。

**2号畑** 25-80-O~R-16~21グリッド 確認面最高位標高545.59m、最低位標高544.06m。北西向きに緩傾斜面に、N-50°~55°-W方向に延びる畝間溝の痕跡が、16mほどの間に24条並列する。南部、東部が調査区界に切られ、畝/畝間溝の全長が把握できないが、最長のもの

で8mほどある。北西辺は17号道に規制されて、その直前で完結する。確認面から畝間溝底部までの深さは2~8cmほどある。南西の1条がやや離れているが、他の畝間溝の平均的な条間距離は50.6cmほどである。

**3号畑** 25-80-M・N-22・23グリッド 確認面最高位標高543.94m、最低位標高543.36m。北西向きに緩傾斜面にある。東は4号畑最西端の畝を僅かに切って止まる。西は29号建物の北東辺に達さず止まるが、最南部の畝間溝は29号建物南東辺に沿って延び、これが南辺となって5号畑に隣接する。北辺は確認できない。幅4.8m間に畝間溝の痕跡が6条並列する。最長の畝間溝は南辺の



- |      |   |                                 |      |   |                           |
|------|---|---------------------------------|------|---|---------------------------|
| E-E' | 1 | 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土のブロックを含む。      | 1-1' | 1 | 10YR3/4 暗褐色土 砂層、角礫を多く含む。  |
| F-F' | 1 | 10YR3/4 暗褐色土 砂層、50~100mmの角礫を含む。 |      | 2 | 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色の砂、小礫を含む。 |
|      |   |                                 |      | 3 | 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色の砂、小礫を含む。 |

0 1:60 2m

第48図 第1区画 a・b 面断面

もので29号建物に沿って8.3mあるが、他は建物と4号畑の間にあって、4.5～5mの長さである。方位はN-37°～42°-E。平均的な条間距離は83cmほどで、やや広い。

**4号畑** 25-80・90-K-M-22→2グリッド 確認面最高位標高543.74m、最低位標高542.72m。北西向きの緩傾斜面にある。東は発掘区界に切れ、西端の畝間溝は3号畑に僅かに切られる。南は5号畑に接し、一部の畝間溝は入り組むような様子が見える。幅7.2mほどの間に畝間溝の痕跡が12条並列する。やや蛇行しつつ、N-25°-E方向に延びる。等高線とはほぼ直交する方向である。最も長い畝間溝は9.2mある。畝間溝上端幅は26～32cm前後、確認面から畝間溝底部までの深さは4～16cmほどで、礫を含む暗褐色土で埋まる。平均的な条間距離は60cmほどである。

**5号畑** 25-80-J-O-18→23グリッド 確認面最高位標高545.75m、最低位標高543.68m。北西から北向きの緩傾斜面にある。東は2号畑と土層確認用トレンチを介して連続するようにも見えるが、畝間溝の走行が異なる。西と南は発掘区界に切られる。北辺西部では3号畑南辺の畝間溝及び29号建物に達する。北辺東部は4号畑と接し、一部の畝間溝は入り組むような様子が見える。幅16mほどの間に畝間溝の痕跡が26条以上並列する。西半はN-40°-W方向に延びるが、東半ではN-25°-W前後に変化する。等高線と直行する方向を保とうとしたものか、東西の角度差を埋めるように、北部に短い畝間溝一条が設けられている。最も長い畝間溝は11.1mある。畝間溝上端幅は20～35cm前後、確認面から畝間溝底部までの深さは5～20cmほどとばらつくが、中央部には35cm、39cmと深いものがある。礫や黄褐色砂を含む暗褐色土で埋まる。平均的な条間距離は西部の29号建物沿いは58cmほど、東部では45cmほどである。

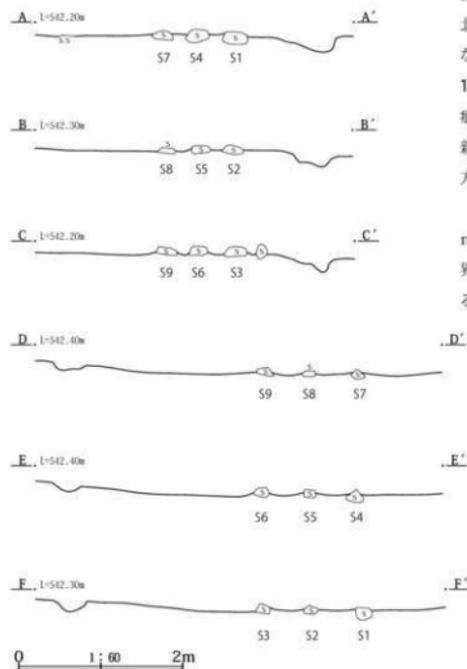
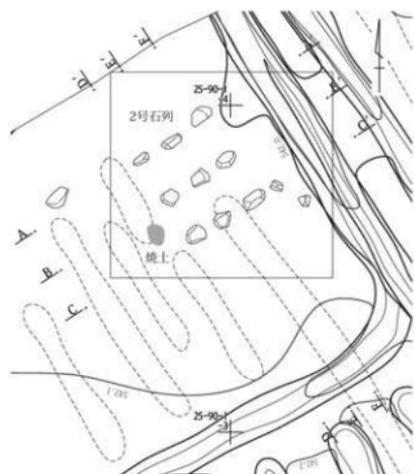
**6号畑** 25-80・90-E-L-21→4グリッド 確認面最高位標高545.28m、最低位標高541.83m。北向きの緩傾斜面にある。東辺は特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。西は北部が4号畑、南部が5号畑と接するが、6号畑の残存状況がかなり悪く、一連の畑としては捉えがたいため、別番号を付した。北部と南部は発掘区が異なり、両者間にも残存状態の差があるが、4号・5号畑と対応して、南北が別の耕作単位である可能性もある。また、北部中央には微弱な畝間溝痕跡を示すかと思われ

る遺構が記録されている。南北は発掘区界に切られる。北東部には溝で囲まれた小祠の痕跡と思われる2号列石がある。畝間溝痕跡は、東西26.5m、南北29mほどの間に断続的に広がる。洪水時に南側斜面から流下したのであろう水流の痕跡が幾条もあって、畑面を攪乱している。南部では32条、北部では中央が広く攪乱されていて、東部で10条、西部で5条ほどが数えられるに過ぎない。南部と北部西半の畝間溝はN-25°～27°-E方向、北部東半ではN-37°-E方向を示すが、ともに等高線とはほぼ直交する方向である。最も長い畝間溝は東端のもので、9m以上連続し、南北を貫くようにある。畝間溝上端幅は25～40cm前後、確認面から畝間溝底部までの深さは4～15cmほど。残りが悪く、条間距離を確定できないが、南東部では50cmほどと思われる。北東部では90cmほどとなるが、明確な畝間溝間にも痕跡的な溝表現があるので、これも近似した間隔になるのかもしれない。

中央北部、25-80・90-H・1-24→2グリッドに描かれた畝間溝痕跡は南北7.5m、東西4mほどの範囲で広がるごく微弱なもので、北側3.4m間に9条、若干の間隔を置いて南側2.7m間に7条が残されている。確認面最高位標高543.42m、最低位標高542.42m。方位はN-65°-Eを示して等高線とほぼ並行し、先述の畑とは直行するような方向に当たる。条間は38cmほどを測る。

**7号畑** 25-80-N・O-25グリッド 確認面最高位標高542.95m、最低位標高542.79m。北東向きの緩傾斜面にあり、幅2.2mほどの間に畝間溝の痕跡が4条並列する。N-20°-E方向に延び、最も長い畝間溝は3.12mある。上端幅は24cm前後、確認面から畝間溝底部までの深さは2～8cmほどで、礫混じりの暗褐色土で埋まる。平均的な条間距離は55cmほどである。

**8号畑** 25-90-N-Q-4→7グリッドには、断続的ながら明確な畝間溝痕跡が残され、N・O-10グリッドまで、弱い痕跡を追うことができる。確認面最高位標高541.87m、最低位標高540.7m。北向きの緩傾斜面にある。東西ともに特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。南は9号畑と若干の間隔を置いて接する。北は発掘区界まで、微弱ながら痕跡を追うことができる。東西12m、南北22mほどの間に畝間溝の痕跡が並列する。14条数えられ、N-8°～10°-E方向に延びる。等高線とはほぼ直交する方向である。両端部が確認できる最も長い畝間溝



第48図 2号石列

は9.8mある。畝間溝上端幅は25~35cm前後、確認面から畝間溝底部までの深さは10~18cmほどで、黒褐色土のブロックを含む暗褐色土で埋まる。平均的な条間距離は64~66cmほどである。

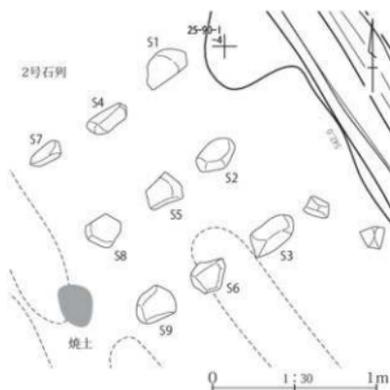
**9号畑** 25-90-O~S-1~4グリッド 確認面最高位標高542.82m、最低位標高541.92m。北向きに緩傾斜面にある。東は自然流路による攪乱を介して10号畑と接する位置に当たる。西は特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。南は畝間溝端が完結するように表現されるが不揃いで、こちらも、特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。北は若干の間隔を置いて8号畑と接する。幅15mほどの間に、畝間溝の痕跡が20条並列する。東部はN-2°Eでほぼ南北方向に伸び、西部はN-7°E前後を示し、この差を埋めるように、南部に短い畝間溝が設けられる。等高線とはほぼ直行する方向である。最も長い畝間溝は14.6mある。畝間溝上端幅は25~40cm前後、確認面から畝間溝底部までの深さは1~10cmほどで、北部が深く、砂や角礫を含む暗褐色土で埋まる。平均的な条間距離は71cmほどとやや広い。

**10号畑** 25-90-K~N-2~6グリッドに2種の畝間溝痕跡が重複して確認された。ほぼ南北方向に伸び、より新しいものと考えられる畝間溝痕跡をa畑、北西-南東方向に伸び、a畑に切られる畝間溝痕跡をb畑とする。

a畑は確認面最高位標高542.35m、最低位標高541.64m。ほぼ北に向いた緩傾斜面にある。東と北は特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。西は自然流路による攪乱を介して8号畑と接する。南は畝間溝痕跡がまばらになって、連続が捉えられなくなる。幅10mほどの間に、畝間溝の痕跡が15条並列する。N-10°-E方向に伸び、ほぼ等高線と直行する方向である。最も長い畝間溝は9.3mある。畝間溝上端幅は25~35cm前後、確認面から畝間溝底部までの深さは10~18cmほどで、平面図と土層断面図が整合しないが、暗褐色の砂、小礫を含む黒褐色土で埋まる。平均的な条間距離は68cmほどである。

b畑は25-90-L~N-3~5グリッドにあって、確認面最高位標高542.26m、最低位標高541.78m。a畑の範囲に重なり、a畑の畝間溝に切られる。幅6.5mほどの間に、畝間溝の痕跡が10条並列する。N-23°-W方向に伸びる。等高線とは斜交す

## 第2章 発掘された遺構と遺物

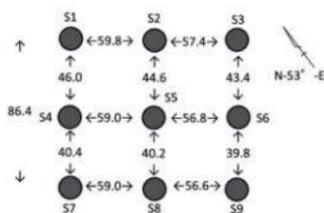


第50図 2号石列部分

る方向である。最も長い畝間溝は8.6mある。畝間溝上端幅は25～30cm前後、確認面から畝間溝底部までの深さは10～18cmほどで、黄褐色の砂や礫で埋まる。平均的な条間距離は65cmほどである。

### (2) 2号石列

25-90-H・I-3グリッド 確認面最高位標高542.03m。第4面第1区画6号畑の北部にある。北部は発掘区界にあたっているため、全体が捉えられないが、東西南三方は畑が認められており、建物等はない。3石3列の9石が升目に並ぶ。石列は、記録図から読み取った各石の芯々間距離で、北西-南東方向の長辺が115.2～117.6cm、北東-南西方向の短辺が83.2～86.4cm、長辺はおおよそN-53°-Eを示す。東辺と中辺の間が、中辺と西辺の間よりやや長く、S4とした北辺中央の一石は上面が稜を持ち、S2も割れて上面が乱れるが、他の石は上面が平坦で、上面標高も542.07～542.13mとさほど大きな差を持たずにまとまる。東辺に当たる3石がやや大振りで、中列、西列とやや大きさを減ずる。石列西辺南部のS8-S9間西部に焼土がある。南北28cm、東西20cmほどの長円形の平面形を呈するものだが、断面や写真記録を欠くため詳細は分からない。これらの南辺を画するように、浅い溝が掘られる。長5m、幅36～47cm、深さ6～8cm。東端は北へ屈曲するが、東辺に沿うように走る畑畝間溝に



第51図 2号石列配置模式図(単位:cm)

第3表 2号石列計測表

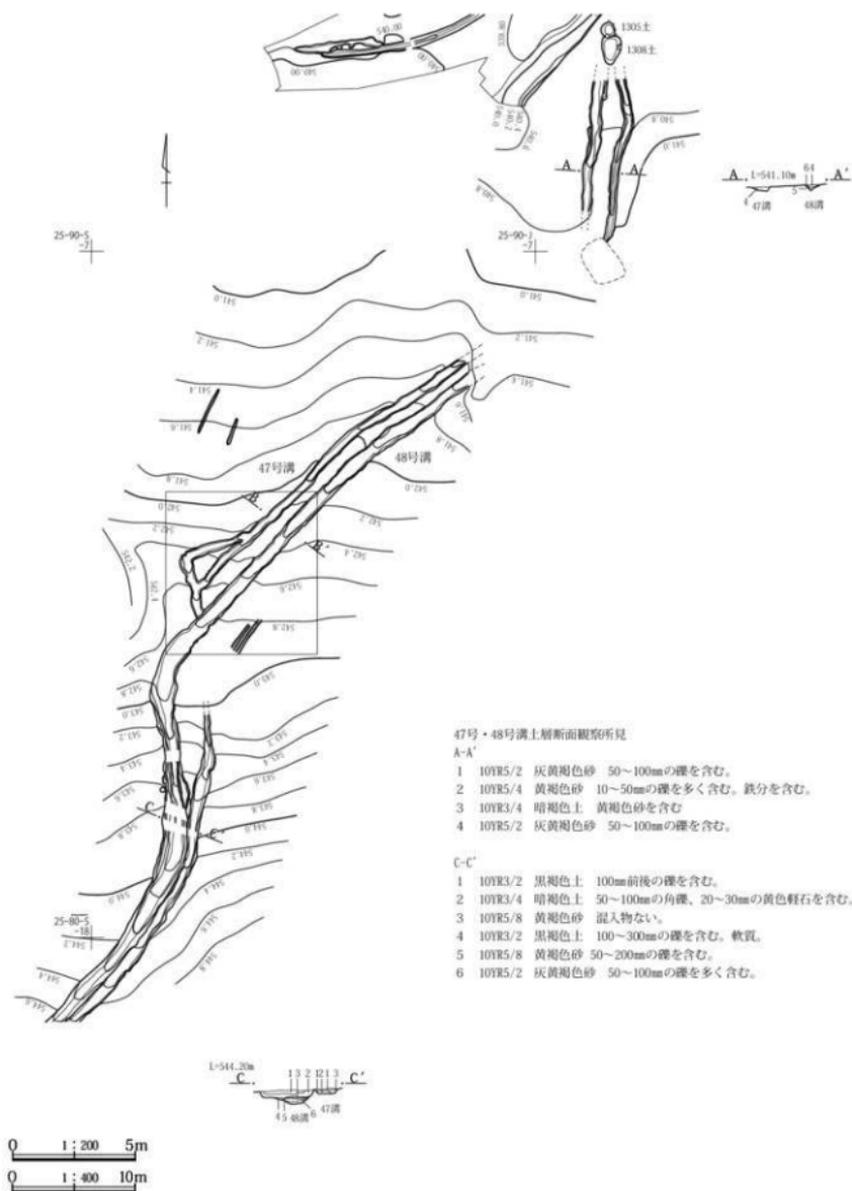
	長軸(cm)	短軸(cm)	厚(cm)
S1	29.2	16.2	15
S2	26.2	17.2	12
S3	30.2	17.4	13
S4	27.2	12.6	16
S5	23	19.2	9
S6	22.2	19.8	12
S7	22.2	10.8	12
S8	21.6	18.2	8
S9	25.4	20.2	10

切られて、以後が判断できない。南辺に連続するとすれば、やはり5m以上の長さがあったものと想定される。畑の畝間溝は東部では南辺溝を切るが、南部では南辺溝の手前で完結する。また、石列周辺には周辺と同方向の畝間溝痕跡があって、石列はこの痕跡の上に乗る。規模、形状から見て、小祠の礎石が残ったものかと思われる。

黒色土器椀、須恵器杯・椀、須恵器甕片などが出土しているが、これらについては、平安時代相当面の遺構外出土遺物として記載した。

### (3) 道

17号道 25-80-O～S-16～21グリッド 1号・2号畑間を、僅かに蛇行しながらN-32°-E方向に走る。路面最高位標高544.71m、最低位標高543.96m。南端は調査区界に達し、北部も調査区界に切れられ、長さ24m分が確認されている。西部が北向き傾斜面、東部は北西向きの傾斜面で、地形の変換部を覆うように作られている。南端では幅53cm、深さ11cmほどの溝状を呈するが、グリッド18ラインと19ラインの間から北側では、比較高位の東



47号・48号溝上層断面観察所見

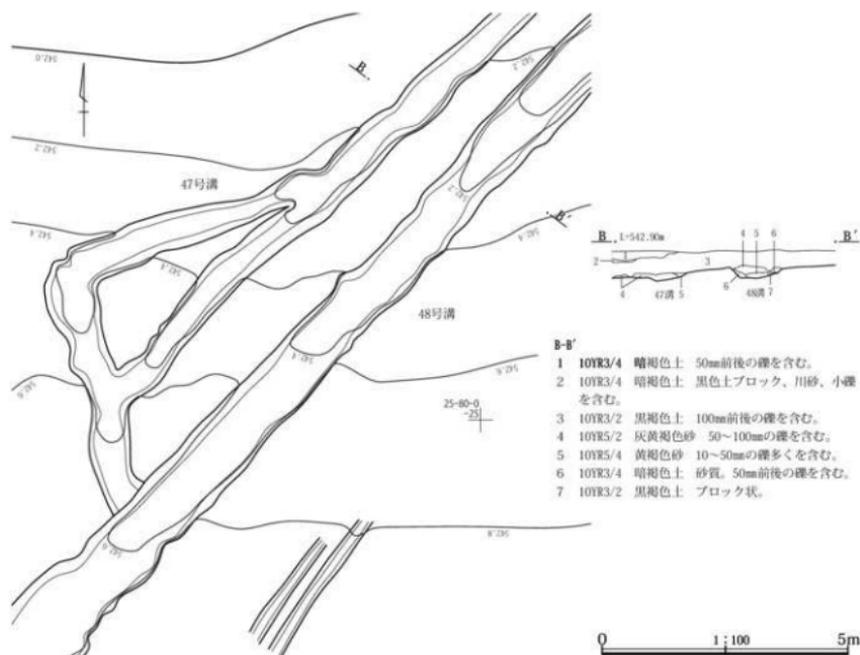
A-A'

- 1 10YR5/2 灰黄褐色砂 50～100mmの礫を含む。
- 2 10YR5/4 黄褐色砂 10～50mmの礫を多く含む。鉄分を含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色砂を含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色砂 50～100mmの礫を含む。

C-C'

- 1 10YR3/2 黒褐色土 100mm前後の礫を含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 50～100mmの角礫、20～30mmの黄色軽石を含む。
- 3 10YR5/8 黄褐色砂 混入物ない。
- 4 10YR3/2 黒褐色土 100～300mmの礫を含む。軟質。
- 5 10YR5/8 黄褐色砂 50～200mmの礫を含む。
- 6 10YR5/2 灰黄褐色砂 50～100mmの礫を多く含む。

第52図 第1区画c面(47号・48号溝)



第53図 47号・48号溝部分

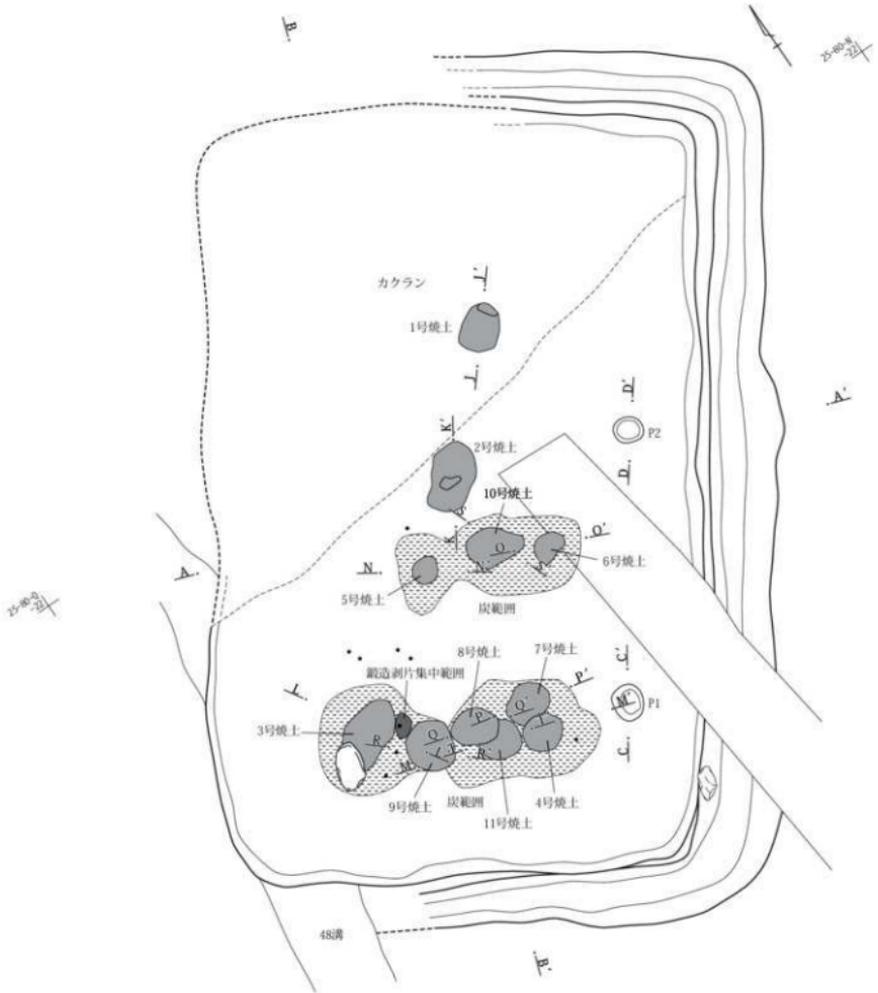
側を切り、西側より僅かに高い、幅50cm~1mほどの平坦面を作り出して路面としている。北半部には、西辺の斜面に沿うように中小の円礫、垂角礫が散在しており、法面を保護する施設があったものと想定される。29号建物はこの道の下位にあって建物廃絶後に道が作られ、1号・2号畑もこの道に規制されている。また、さらに47号・48号溝は建物のさらに下位にあたるが、両溝の南端部と17号道の南端部はほぼ重なる。

#### (4) 溝

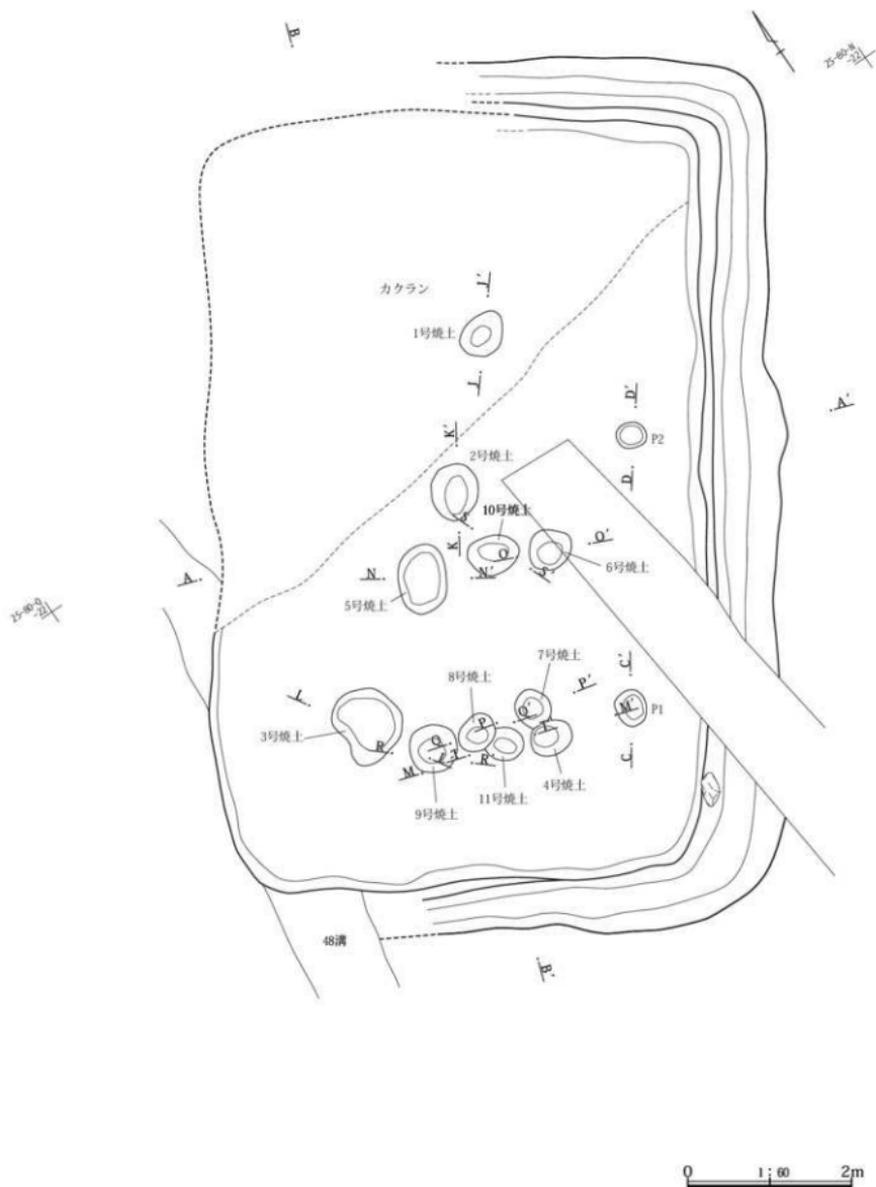
中世相当面畑遺構の耕土下を3-2面として発掘し、47号・48号、2条の溝を確認している。緩やかに蛇行して並行し、あるいは交差しながら、南西から北東方向に走る。上面の中世相当面畑では、2号畑の北西辺から1号畑東部や29号建物の北西隅を経て7号畑から4号畑北部、10号畑南部を北東に下ってから北に方向を変える。北端は明確に捉えられていないが、両溝共に1305号、1308号土坑の南で途切れている。1305号土坑は中世の墓

坑であり、これとの直接的な切り合いは捉えられていないものの、確認面の標高は土坑のほうが高く、溝埋没後に土坑、墓坑が掘削されたものと見られる。中近世相当面では最も古く位置づけられる遺構である。

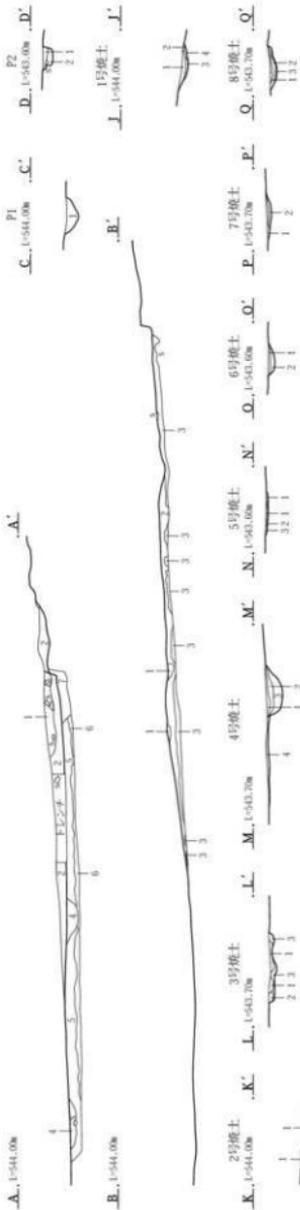
**47号溝** 25-80・90-S~H-16~10グリッド 確認面最高位標高544.67m、最低位標高540.67m。溝底面は南端で544.60m、北端で540.36m。延長73mほどある。南西の始点からグリッド21ライン付近までは48号溝に西辺を切られながら平行し、その後東に分岐して、グリッド25~1ラインまでは北に延びる。途中途切れるが、やや東に膨らんだ弧状を呈していて、弦の長さ39mほど、方位はN-13°-Eを示す。48号溝と交差してさらに北進し、25-80-Q-25グリッドで東に折れ、ここからはN-50°-E前後で28mほど、直線的に北東に延びる。この部分では、48号溝が南に並行して走ることになる。25-90-K-4グリッド以北で一端確認できなくなるが、25-90-H・I-7グリッドから、N-7°-E方向に12mほど南北走し、



第54図 29号建物



第55図 29号建物焼土掘り方



29号建物

- 1 10RE/4 暗褐色土 30~50mmの礫を混入する。  
 2 10RE/8 黄褐色土 砂層主体。  
 3 10RE/3/4 暗褐色土 黄褐色土ブロック、細粒明黄褐色粒を少量含む。  
 4 10RE/3/4 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。  
 5 10RE/3/4 暗褐色土 黄褐色土、黄褐色土、明黄褐色粒を含む。  
 6 10RE/3/1 黄褐色土 黄褐色土、明黄褐色粒を含む。  
 7 10RE/3/1 黄褐色土 黄褐色粒を少量含む。

3号建物

- 1 10RE/3/3 暗褐色土 焼土粒・ブロックを多量に含む。  
 2 10RE/3/4 暗褐色土 焼土粒、黄褐色ブロックを含む。  
 3 10RE/3/1 黄褐色土 焼土粒・ブロックを含む。

4号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 2 2.5RE/8 暗褐色土 焼土主体、炭化物を層状に含む、粘り強い。  
 3 10RE/3/4 暗褐色土 褐色土ブロックを少量含む、粘性強い。  
 4 10RE/3/1 黄褐色土 焼土粒を少量含む。

5号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、ブロックを含む。  
 2 10RE/3/4 暗褐色土 焼土粒を少量含む。  
 3 10RE/3/3 黄褐色土 黄褐色土ブロックを含む、粘性強い。

6号建物

- 1 5RE/8 褐色土 焼土粒・ブロックを多量に含む。  
 2 10RE/3/3 黄褐色土 焼土粒、黄褐色土ブロックを含む、粘性強い。

7号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 2 2.5RE/8 暗褐色土 焼土主体、炭化物を層状に含む、粘り強い。  
 3 5RE/3/3 暗褐色土 焼土粒、黄褐色土、明黄褐色粒を少量含む。

8号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 2 2.5RE/8 暗褐色土 焼土主体、炭化物を層状に含む、粘り強い。  
 3 5RE/3/6 暗褐色土 2層の焼土より色味暗い、細粒明黄褐色土粒を少量含む。

9号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、黒褐色土ブロックを含む。  
 2 2.5RE/8 暗褐色土 焼土主体。

10号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒を少量含む。  
 2 10RE/3/4 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 3 10RE/3/3 黄褐色土 粘性強い。

11号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 炭化物を多量に含む、焼土粒、黄褐色ブロックを少量含む。  
 2 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 3 2.5RE/8 暗褐色土 焼土主体、粘り強い。

12号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 2 2.5RE/8 暗褐色土 焼土主体、炭化物を層状に含む、粘り強い。  
 3 5RE/3/6 暗褐色土 2層の焼土より色味暗い、細粒明黄褐色土粒を少量含む。

13号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、黒褐色土ブロックを含む。  
 2 2.5RE/8 暗褐色土 焼土主体。

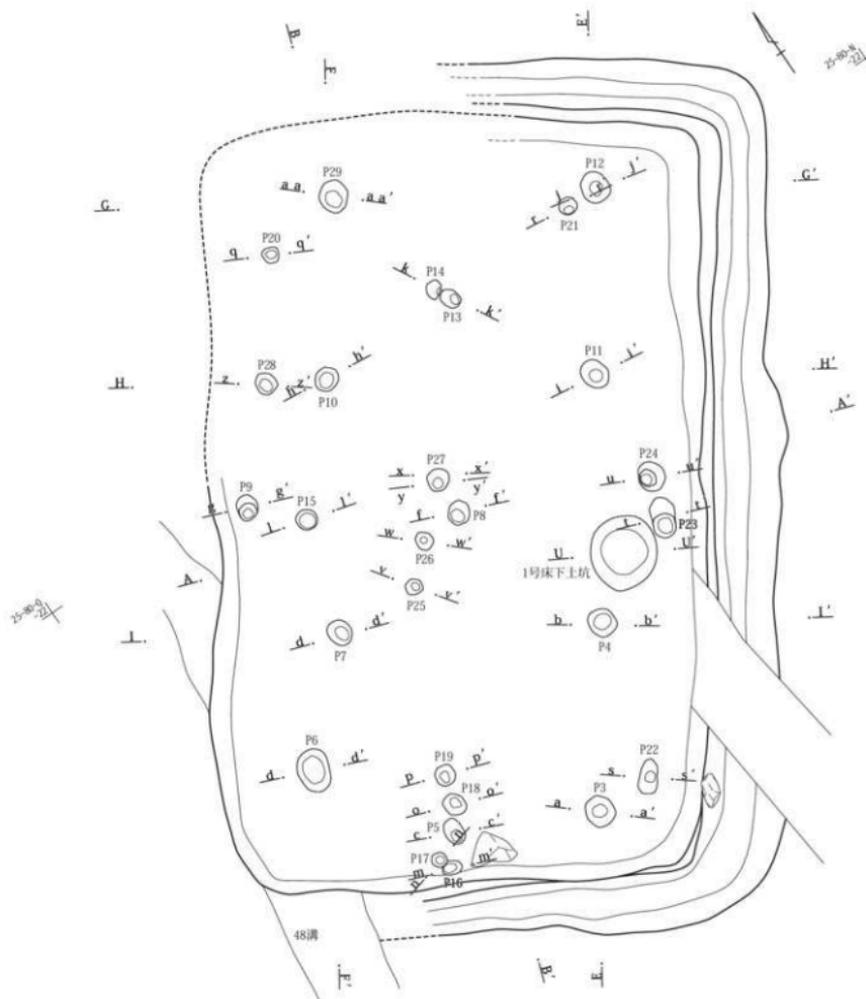
14号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒を少量含む。  
 2 10RE/3/4 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 3 10RE/3/3 黄褐色土 粘性強い。

15号建物

- 1 10RE/8 黄褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。  
 2 2.5RE/8 暗褐色土 焼土主体、炭化物を層状に含む、粘り強い。  
 3 5RE/3/6 暗褐色土 2層の焼土より色味暗い、細粒明黄褐色土粒を少量含む。

第56図 29号建物焼土断面



3号ピット

- 1 10Y07/1 灰白色土 砂粒ブロック。
- 2 10Y03/1 黒褐色土 下層に礫を含む。
- 3 10Y03/4 暗褐色土 黄褐色土ブロック、細粒明黄褐色粒を少量含む。

4号ピット

- 1 10Y03/4 暗褐色土 砂粒を含む。
- 2 10Y05/1 褐灰色土 黄褐色土ブロック、砂粒を含む。
- 3 10Y05/8 黄褐色土 黄褐色土ブロック、小礫を含む。
- 4 10Y05/2 灰黄褐色土 砂粒を少量含む、綿まりあり。
- 5 10Y07/1 灰白色土 砂粒ブロック主体。

5号ピット

- 1 10Y03/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。

6号ピット

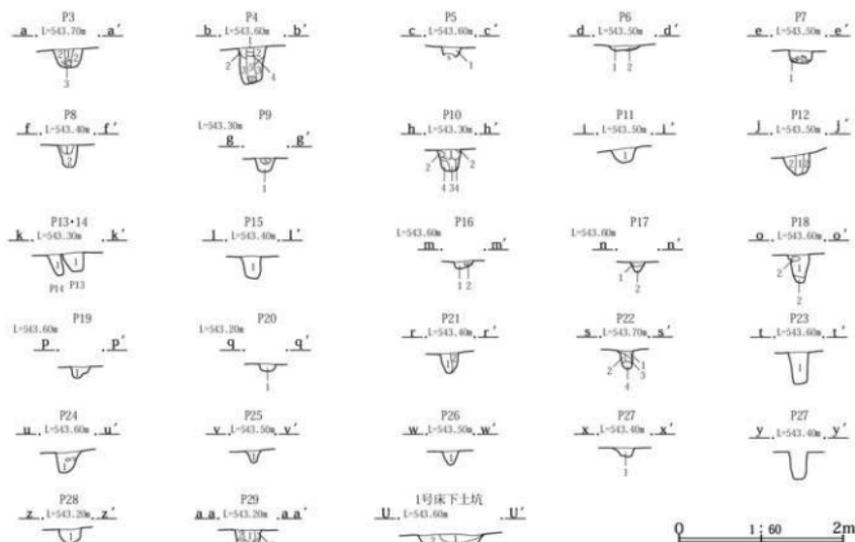
- 1 10Y03/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。
- 2 10Y05/8 黄褐色土 黄褐色土ブロックを含む。

7号ピット

- 1 10Y05/3 にぶい黄褐色土 黄褐色土粒、明黄褐色粒を多量に含む。礫、小礫を含む。

0 1:60 2m

第57図 29号建物掘り方



## 8号ピット

- 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。粘質。
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色粒、褐色土ブロックを含む。

## 9号ピット

- 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。

## 10号ピット

- 1 10YR7/1 灰白色土 砂粒ブロック主体。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒少量を含む。
- 3 10YR5/8 黄褐色土 黄褐色土ブロックを含む。
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色粒を少量含む。

## 11号ピット

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色土粒、明黄褐色粒を多量に含む。礫、小石を含む。

## 12号ピット

- 1 10YR7/1 灰白色土 砂粒ブロック主体。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒を含む。礫、小石を含む。

## 13号ピット

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 僅かに黄褐色粒を含む。

## 14号ピット

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色粒。礫を含む。

## 15号ピット

- 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒を少量含む。

## 16号ピット

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色粒を僅かに含む。
- 2 10YR5/8 黄褐色土 黄褐色土ブロック。

## 17号ピット

- 1 10YR5/8 黄褐色土 黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 僅かに黄褐色粒を含む。粘質。

## 18号ピット

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色粒を少量含む。
- 2 10YR5/8 黄褐色土 黄褐色土粒を多量に含む。

## 19号ピット

- 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。やや粘質。

## 20号ピット

- 1 10YR5/8 黄褐色土 黄褐色土粒を多量に含む。

## 21号ピット

- 1 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色粒を含む。礫を含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。やや粘質。

## 22号ピット

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。
- 2 10YR7/8 黄褐色土 黄褐色土粒を多量に含む。
- 3 10YR5/2 灰黄褐色土 黄褐色土・ブロックを含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒を含む。

## 23号ピット

- 1 10YR7/8 黄褐色土 黄褐色土粒、明黄褐色粒、礫を含む。

## 24号ピット

- 1 10YR7/8 黄褐色土 黄褐色土粒を少量含む。礫を含む。

## 25号ピット

- 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒を含む。

## 26号ピット

- 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。

## 27号ピット

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。

## 28号ピット

- 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。

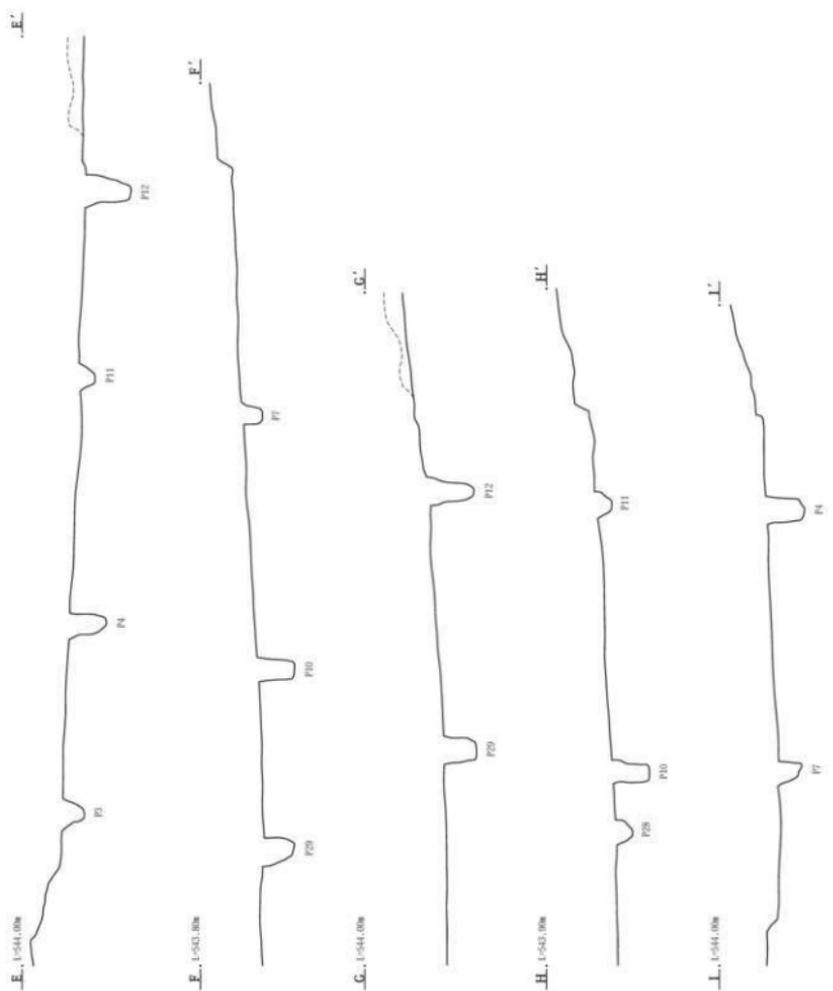
## 29号ピット

- 1 10YR8/2 浅黄褐色土 細粒黄褐色土を少量含む。
- 2 10YR5/2 灰黄褐色土 黄褐色土・ブロックを含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロックを含む。やや粘質。

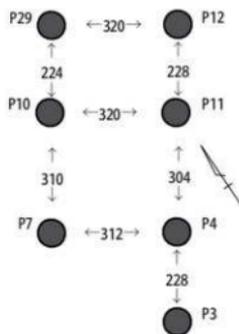
## 1号床下土坑

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 細粒白色粒、褐色土ブロックを含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 細粒白色粒、褐色土ブロックを少量含む。やや粘質。

第58図 29号建物ピット断面



第59図 29号建物掘り方断面



第60図 29号建物柱穴配置模式図

以北は確認できなくなる。幅60~100cm、確認面からの最大深39cm。覆土は礫混じりの灰黄褐色、黄褐色砂層を主体とする。龍泉窯系青磁の破片が出土している。

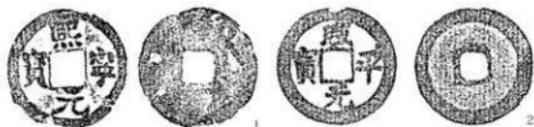
**48号溝** 25-80・90-S~H-16~10グリッド 確認面最高位標高544.67m、最低位標高540.67m。溝底面は南端で544.54m、北端で540.25m。延長73mほどある。南西の始点からグリッド21ライン付近までは47号溝の西辺を切りながら平行し、その後西に分岐して、グリッド23ラインまでは北に延びる。やや東に膨らんだごく緩い弧状を呈していて、弦の長さ28mほど、方位はN-13°-Eを示す。ここから北東にカーブし、N-50°-E前後で28mほど、直線的に北東に延びる。この部分では、47号溝が北に並行して走ることになる。25-90-K-4グリッド以北で一端確認できなくなるが、25-90-H-7グリッドから、N-7°-E方向に13.5mほど南北走し、以北は確認できなくなる。幅80~120cm、確認面からの最大深42cm。覆土は礫混じりの黄褐色砂層を主体とする。

#### (5) 29号建物

25-80-N~P-20~22グリッド 第1区画南部にある。3号畑、5号畑の畝間溝はこの建物に規制されて、直前で完結するため、同時にあったものと見られる。2号畑はこの建物の廃絶後に耕作されている。また、17号道も建物廃絶後のものである。竪穴状の掘り込みを伴う掘立柱建物で、西南部を中心に炉の痕跡とみられる焼土が認められる。鞆羽口や大型の鉄滓は出土していないようであるが、鍛造剥片、粒状滓が出土していて、鍛冶工房で

第4表 29号建物柱穴計測表

番号	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	底面レベル
3	38	34	23	543.31
4	34	32	45	543.02
7	33	28	14	543.18
10	30	28	28	542.83
11	38	30	18	543.15
12	38	33	59	542.68
29	39	36	30	542.76



第61図 29号建物出土遺物

0 1:1 2m

あったものと思われる。

**規模・形状** 北西部が攪乱されて、北西隅部が失われているが、北東-南西に長い竪穴状の掘り込みを伴う掘立柱建物と想定される。確認面での建物長軸長10.6m、短軸長6.85m、床面長軸長9.05m、短軸長5.95m。掘り込みの確認面最高位標高543.98m、最低位標高543.38m。掘り込みには中段があり、壁の断面は階段状を呈する。確認面から床面までの最大深は46cmある。床面最高位標高543.52m、最低位標高543.19m。長軸方位はN-30°-E。  
**柱穴・構造** 掘り方で確認されたP12・P11・P4・P7・P10・P29を柱穴とみて、1間×2間の建物、あるいはP4・P3に加えて、南西隅に確認できない柱があったものとして、1間×3間の建物が想定される。320~334cm×532cmあるいは760cmの規模である。各柱穴及び柱穴間距離の計測値を第4表及び第60図に示した。床面での確認径29~39cm、床面からの深さは変異が大きく14~59cmで、P4とP12が特に深い。P3・P4・P10・P12・P23に柱痕様の砂質土の落ち込みが認められている。また、柱穴としたもの以外にも、床面で確認された1号、2号ピットはじめ多くのピットが確認されているが、建物構造との対応は捉えられていない。これらについては計測値を遺構一覧表に示した。

**P3** 長軸長38cm、短軸長34cm、深さ23cm。底面標高543.31m。覆土は黒褐色土を主体とし、中央に灰白色砂のブロック、黄褐色土ブロックが柱状に入る。

**P4** 長軸長34cm、短軸長32cm、深さ45cm。底面標高

543.02m。覆土は黄橙色土ブロックを含む褐色土、黄褐色土を主体とし、中央に灰白色砂のブロックが柱痕状に入る。

**P7** 長軸長33cm、短軸長28cm、深さ14cm。底面標高543.18m。覆土は黄橙色土粒、明黄褐色粒を多量に含む、礫混じりのにぶい黄褐色土を主体とする。

**P10** 長軸長30cm、短軸長28cm、深さ28cm。底面標高542.83m。覆土はにぶい黄褐色土を主体とし、下部中央に黄褐色土が柱痕状に入る。

**P11** 長軸長38cm、短軸長30cm、深さ18cm。底面標高543.15m。覆土は礫混じりのにぶい黄褐色土を主体とする。

**P12** 長軸長38cm、短軸長33cm、深さ59cm。底面標高542.68m。覆土は礫混じりの暗褐色土を主体とし、中央に灰白色砂のブロックが柱痕状に入る。

**P29** 長軸長39cm、短軸長36cm、深さ30cm。底面標高542.76m。覆土は下部は暗褐色土を主体とし、上位は灰黄褐色土が主体となる。上位中央には浅黄橙色土が柱痕状に入る。

**焼土** 建物中央部から南西部にかけて、焼土が認められる。1号～11号までが捉えられており、1号、2号焼土は建物中央近くにある、それぞれ単独の焼土であるが、3号・4号・7号～9号・11号焼土(以下a群)は建物南西部に、5号・6号・10号焼土(以下b群)は中央南西部に、短軸に沿った方向に連続して並び、周囲に炭化物を伴う。

**1号焼土** 建物中央北東寄りにある。上部が攪乱を受けた部分に当たる。60cm×50cmほどの、北東-南西に長軸を持つ偏楕円形の範囲である。暗褐色土中に大振りのロームブロックと炭化物片を含むもので、焼土ブロックも含まれるが多くない。現地性の焼土ではない。南西の2号焼土まで1.1mほどある。

**2号焼土** 建物のほぼ中央にある。1号焼土と軸方向を描えるように、北東-南西に長軸を持つ、86cm×54cmほどの、中央が括れた長円形に近い範囲である。床面では暗褐色土中に濁ったローム斑と炭化物小片が含まれる程度であるが、下位に10cmほどの厚さで、橙色から暗褐色の焼土がある。地山の黒褐色土を掘り込んでロームを貼ったものであろう。

**焼土a群** 建物南西部に、建物掘り込みの南西壁と並行

して3号-9号-8号-11号-7号-4号焼土が並び、これらを取り巻くように炭化物が広がる。P4-P7の柱列より南西に当たる。P3を柱穴とみた場合は、これらの焼土の南東端に当たることになる。炭化物分布範囲は北西-南東方向の長軸長3.4m、幅は北西部の3号焼土近くで1.34m、9号焼土部分では炭化物の広がりが捉えられなくなるが、7号・11号焼土近くでは1.16mほどある。炭化物分布域の南西端から建物掘り込みの南西壁まで1m、南東端から南西壁まで1.4m、北西端から北西壁までは1.6mほどの間隔がある。

**3号焼土** a群北西端にあって、他の焼土とはやや離れる。100cm×60cmほどの、北東-南西に長軸を持つ、ゆがんだ楕円形の範囲を占める。分布域中央部には焼土のまとまりが見られるが、他は暗褐色土にロームブロック、焼土が混じった状態にある。炭化物もさほど顕著には見えない。写真記録には見えないが、南西端に56cm×32cm、厚さ13cmほどの礫が図示されており、金床石などに相当するものかもしれない。南東の9号焼土との間で、鍛造剥片が集中的に出土している。

**4号焼土** a群南東端にあって、北の7号焼土を切り、北西は11号焼土とほぼ接する。径46～48cmの円形の範囲で、上位には赤化していない黄褐色の粘質土が乗り、その下に6cmほどの厚さで橙色の焼土が認められる。下位の暗褐色土も赤化している。炭化物は混じらない。

**7号焼土** 4号焼土の北にあってこれに切られる。西には11号焼土がほぼ接する位置にある。56cm×48cmほどの、東西にやや長い偏円形の範囲で、被熱痕跡が見られない黄褐色粘質土が上面を被覆するように広がる。下位には厚さ3cmほどの焼土があり下位の暗褐色土も赤化している。炭化物は混じらない。

**8号焼土** 7号焼土から10cm離れて西にあり、11号焼土の北を切る。60cm×44cmほどの、東西に長い楕円形の範囲で、被熱痕跡が乏しい黄褐色粘質土が上面を被覆するように広がる。下位には厚さ5cmほどの橙色の焼土があり、下位の暗褐色土も赤化している。炭化物はごく少ない。

**9号焼土** 8号焼土の北西に接してあるが、切り合わない。径62cmほどの円形の範囲を占めるが、8号焼土側がややゆがむように見える。被熱痕跡が乏しい黄褐色粘質土が上面を被覆するように広がる。下位には橙色の焼土

がある。炭化物は混じらない。

**11号焼土** 8号焼土に北部を切られる。52cm×48cmほどの、東西に僅かに長い円形の範囲で、炭化物をを含む、黄橙色粘質土が上面中央にあって、被熱痕跡が乏しく、炭化物の少ない黄橙色土がその周囲を被覆するように広がる。下位には10cm近い厚さの橙色の焼土があるが、写真記録を見ると土層観察ベルトの南北で堆積状況が大きく異なるようである。

**焼土b群** a群の北東に並行するようにある。北西から南東に、5号-10号-6号焼土が並ぶ。柱穴P4とP7の内側にあたる。焼土の周囲には炭化物が広がっており、炭化物分布範囲は北西-南東方向の長軸長2.26m、幅は北西部の5号焼土近くで幅1.1m、10号焼土との間では狭まるが、10号焼土部分で1m、6号焼土部分では90cmほどある。a群の炭化物分布域との間は90cm~110cmほどである。

**5号焼土** b群の北西端にある。北58cmに2号焼土、東45cmに10号焼土がある。径30~34cmのゆがんだ円形の範囲に、暗褐色土と黄褐色土の混土がひろがり、中央部に橙色の焼土が見られる。地山の暗褐色土壌にふい黄褐色の粘質土を貼っていたものと思われる。炭化物は認められていない。

**6号焼土** b群の南東端にある。北西12cmに10号焼土がある。2cmほどの厚さで橙色の焼土があり、他の、下位は地山のふい黄褐色土に焼土が入る。焼土上層の被覆土はない。炭化物は認められていない。

**10号焼土** b群の中央にある。西の5号焼土まで45cm、東の6号焼土まで12cmほど。東西72cm、南北48cmほどのゆがんだ長円形の範囲にある。土層観察所見と写真記録が整合しない。写真記録からは、被熱痕跡の少ない黄橙色土が上面を被覆し、その下に5cmほどの厚さの汚れた焼土があるように見える。少量の炭化物が含まれる。

**遺物** 鍛造剥片、粒状滓が採取されている。

## 2 第2区画

遺跡西部の、北に突出する尾根の西側にある浅い谷状部を第2区画とした。谷を流下する堆積物によって埋没した田畠などが、4面にわたって認められており、これをa面からd面として記載する。a面では谷頭をめぐる溝と、微弱な畑痕跡が見いだされ、b面では微弱な畑痕

跡と水田痕跡、c面、d面では比較的良好な状態で水田が認められている。

### (1) a面

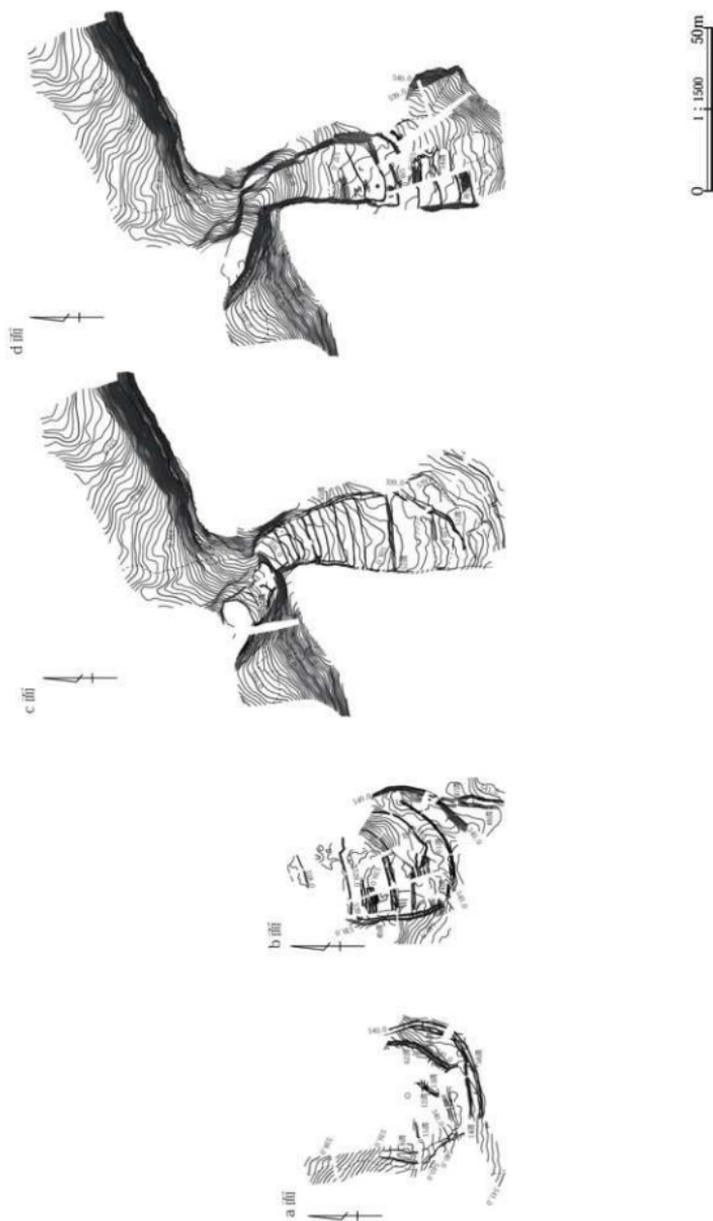
谷頭を取り巻くように8号・14号・58号・59号・62号溝があり、これに囲まれた内部を区切るように、12号・13号・15号溝がある。区画南西側の59号溝外縁近くに、3条ほどの畝間溝痕跡を表現したと思われる平行線が描かれ、北東部にも畝間溝表現に近い、微弱で短い溝様の表現がある。こうした耕地遺構を囲む溝であったものと思われる。褐灰色の粘質土ブロックを含む浅黄橙色土で被覆される。E区では、d面水田に次いで多くのイネの植物系酸体が検出されており、稲作が行われていたものと考えられる。

**8号溝** 25-90-O~R-11~18グリッド 確認面最高位標高540.44m、最低位標高539.18m、底面最高位標高540.16m、最低位標高539.13m。長さ27.6m。南部ではN-36°-W、北部ではN-3°-E方向に流下し、谷の西辺を南から北へ緩やかに走る。南端は発掘区界で途切れる。南の14号・59号溝部分では連続が捉えられていない。北部は徐々に浅くなって、特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。南部は確認面での幅1m前後と狭く、深さは28cmほどであるが、北部では最大幅3.5m、最深部では確認面から48cmほど下がる。覆土は洪水起源とみられる砂質の浅黄橙色土・黄褐色土である。

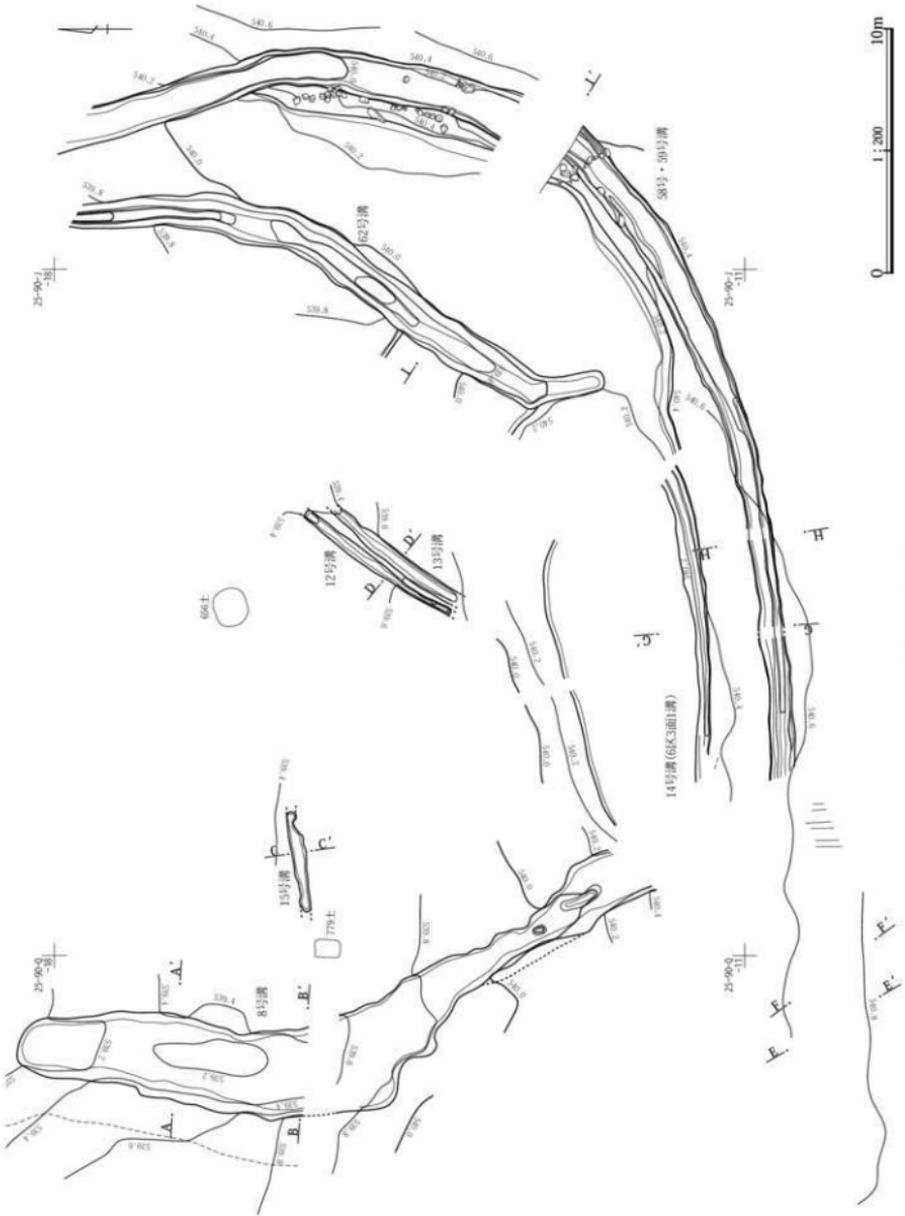
**12号溝** 25-90-L・M-13~15グリッド 確認面最高位標高539.63m、最低位標高539.39m、底面最高位標高539.56m、最低位標高539.38m。長さ7.2m。N-35°-E方向に流下し、谷頭内部にあって、南東の13号溝と平行する。南端、北端ともに特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。幅25~40cm、深さは確認面から8cmほど。覆土は洪水起源とみられる灰褐色シルト質土である。

**13号溝** 25-90-L・M-13~15グリッド 確認面最高位標高539.67m、最低位標高539.41m、底面最高位標高539.58m、最低位標高539.38m。長さ7.2m。N-35°-E方向に流下し、谷頭内部にあって、北西の12号溝と平行する。南端、北端ともに特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。幅30~70cm、深さは確認面から11cmほど。覆土は洪水起源とみられる暗灰褐色シルト質土である。

**14号溝** 25-90-K~O-11グリッド 確認面最高位は東端にあって標高540.48m、最低位標高は西端近くで540.38m、底面最高位標高は西部にあって540.16m、最低位標高も西



第62図 第2区画 a～d面概要図



第63図 第2区画a面

1:30 6m  
A C'

A. 1:50 70m  
B. 1:50 20m  
E. 1:41 60m

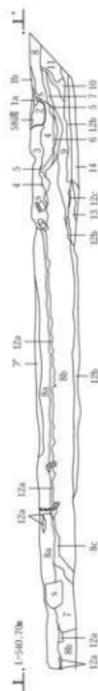
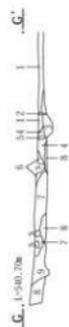


74

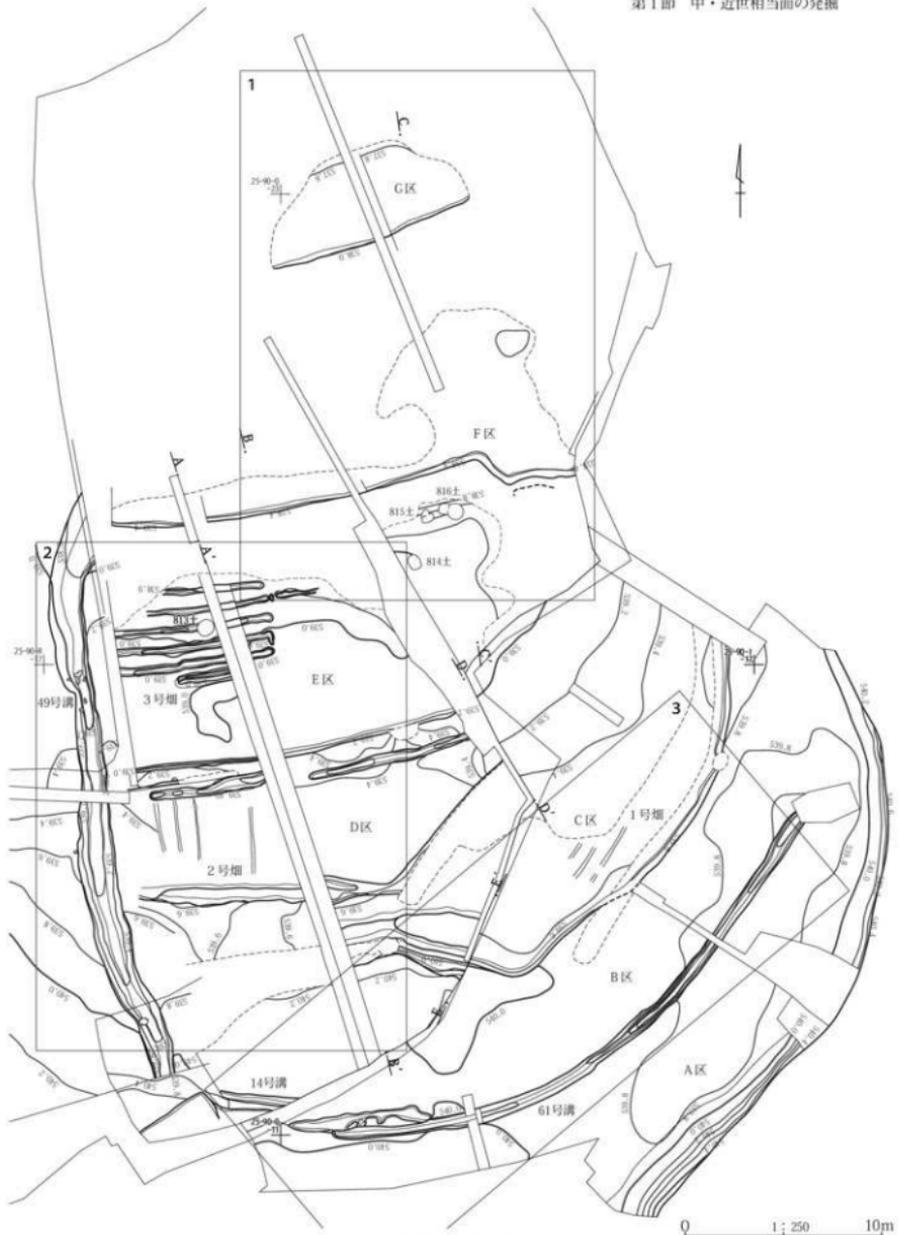
D. 1:50 80m  
E. 1:41 50m  
F. 1:41 60m



G. 1:50 70m  
H. 1:51 60m  
I. 1:50 70m



第64図 第2区画a断面面

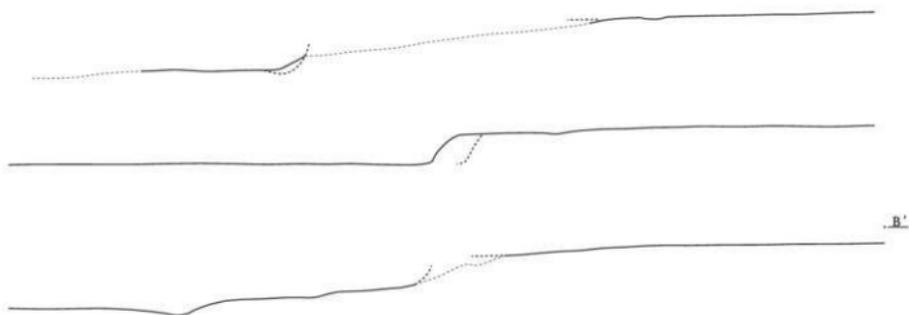


第65図 第2区画b面

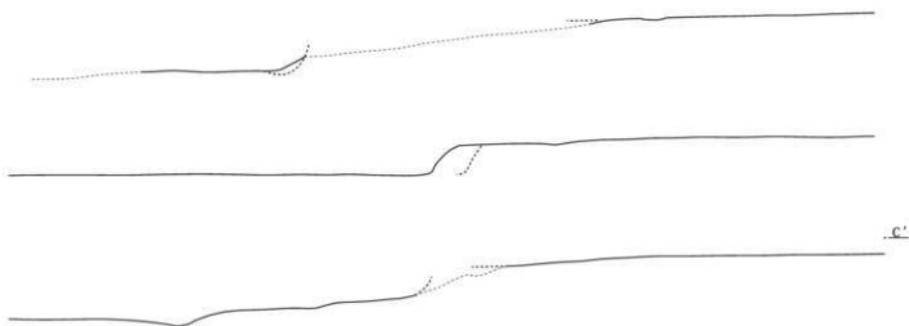
第2章 発掘された遺構と遺物



B. 1-540.50m

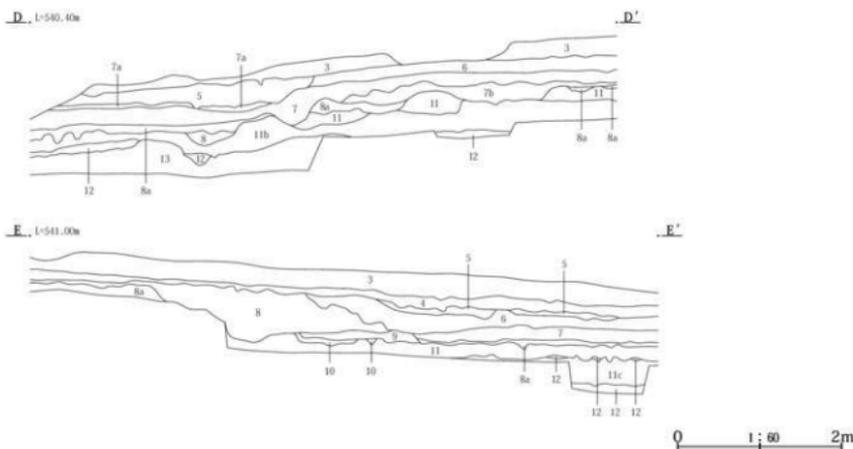


C. 1-540.50m



0 1:60 2m

第66図 第2区画b面断面1



第67図 第2区画b面断面2

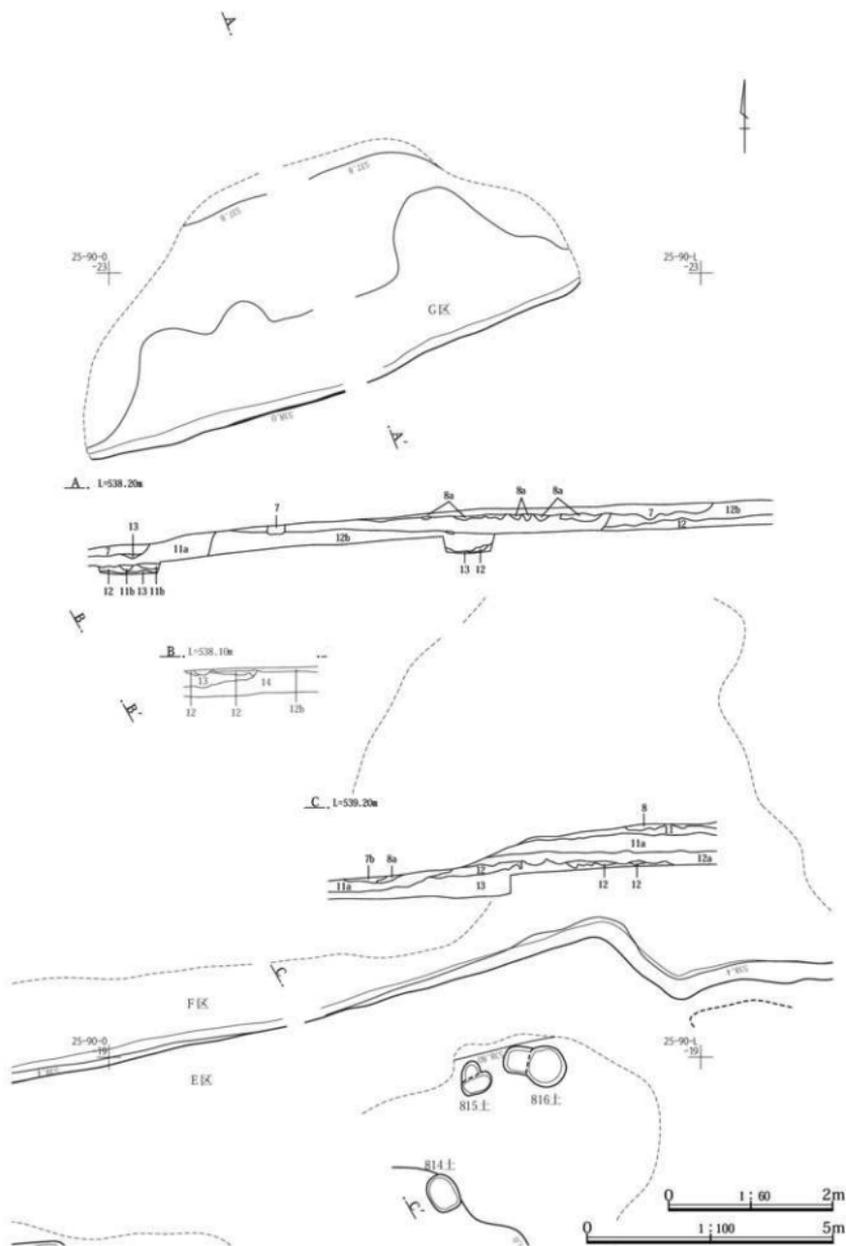
寄りで540.17m、東端では540.15mで、ほとんど高低差がない。長さ15.4m。南に僅かに膨らんだ緩い弧状を描いて東西走り、弦の角度は $N-81^{\circ}-E$ である。南の59号溝と、2~2.5mほどの間隔を置いてほぼ並行する。東端、西端ともに発掘区界で連続が捉えられなくなる。西の延長部は自然流路に切られ、東も礫が分布する範囲に当たるので、洪水により攪乱されているものと思われる。確認面での上端幅50~100cm前後、深さは23~32cmほどである。

**15号溝** 25-90-O・P-15グリッド 確認面最高位標高は中央部東寄りにあって539.53m、最低位標高は東端の539.44m、底面最高位標高は西端にあって539.47m、最低位標高は東端で539.40m。長さ4.1m。 $N-81^{\circ}-E$ 方向を示し、下位の水田の畦方向に近い。谷頭を南北に区切るかのように走る。東西端ともに、特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。確認面での幅60m前後、深さは5~7cmほどである。覆土は洪水起源とみられる黄白色砂混じりの粘質土である。

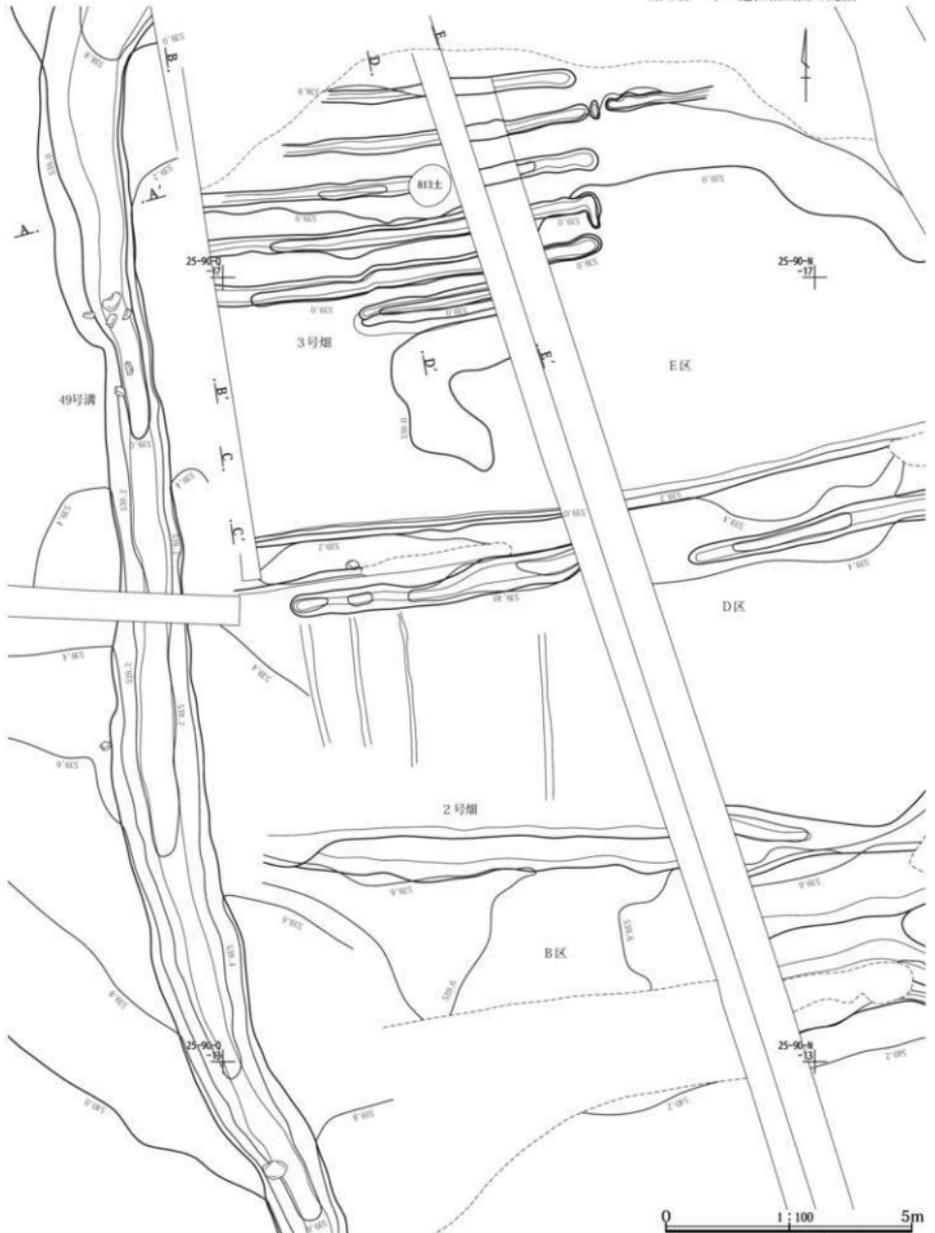
**58号溝・59号溝** 25-90-G~O-10~17グリッド 58号溝が59号溝の上位に重複する。確認面最高位標高は中央部にあって540.66m、最低位標高は北端の539.98m、底面最高位標高も中央部にあって540.30mだが、西端でも540.28mと差は僅かである。最低位標高は北端で539.86

m。14号溝と並行する西部では高低差が少なく、東部では北に下る。延長47.1m。西部では $N-73^{\circ}-E$ 、北部では $N-6^{\circ}-E$ 方向で大きく円弧を描き、弦の角度は $N-44^{\circ}-E$ を示す。谷頭の頂点から東辺を綴るように走る。西端は、自然流路に連続するように消える。北端は発掘区界に切られる。確認面での幅50~110cm、深さは22~38cmほどである。59号溝は58号溝の下位にあって、北部では59号溝が幅広く、深く、58号溝が59号溝の中央から東寄りの覆土上層を掘り込むような形で重複する。西部では両溝の形状や幅がほとんど一致していて、平面図上では両者の区分が難しいほどとなる。確認面最高位標高は中央部にあって540.56m、最低位標高は北端の540.05m、底面最高位標高は西端部にあって540.25m、最低位標高は北端で539.84m。延長47.1m、弦角度の $N-44^{\circ}-E$ は58号溝と等しい。西部では、北の14号溝と2~2.5mほどの間隔を置いてほぼ並行する。東部では62号溝と東西に平行気味に並ぶ。この間は西部で7~8m、東部で2.5mほどあるが、洪水起源と見られる礫が広がっている。共に覆土に関する記載を欠く。

**62号溝** 25-90-I~K-12~17グリッド 確認面最高位標高540.18m、最低位標高539.72m、底面最高位標高540.10m、最低位標高539.49m。長さ22.6m。南端近くは $N-15^{\circ}-W$ を示すが、3mほどで北東に折れ、緩いS

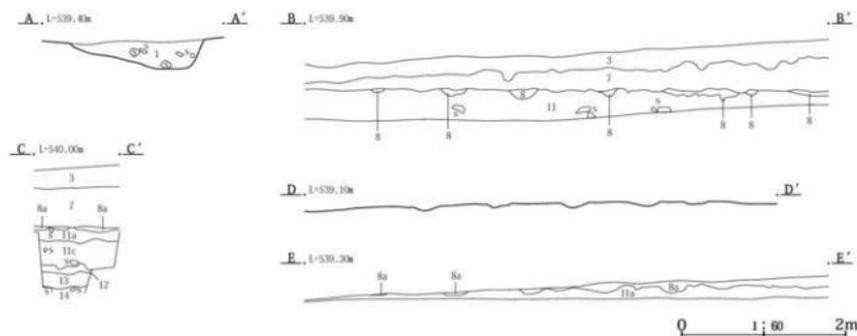


第68图 第2区画b面部分图1



第69図 第2区画b面部分図2

## 第2章 発掘された遺構と遺物



第70図 第2区画b面部分図2断面

字状のカーブを描いて北に延びる。弦の角度はN-20°-Wである。東の58号・59号溝と平行気味に並んで、谷頭の頂部から東辺を綴るように走る。東端は完結するように閉じる。北端は発掘区界に切られる。南部は確認面での幅1~1.6m、最深部では確認面から43cmほど下がる。覆土に関する記載を欠く。

### (2) b面

南の尾根から下る傾斜部裾から北へ、谷に沿って55mほどの範囲に、溝や段差で区画された耕地遺構が南北に並び、谷地形の西縁を綴るように49号溝が南北に走っている。明黄褐色粒を多量に含むにぶい黄褐色土で被覆される。耕地遺構については、南の傾斜裾部から61号溝までの間をA区とし、最北部のG区までを7区に区分して記載する。このうちC区には1号畑とした北東-南西方向の、D区には2号畑とした南北方向の、ともに微弱な畝間溝痕跡がある。また、E区には東西方向の畝間溝が比較的明瞭な3号畑がある。他の区画には耕作痕跡は認められないものの、特にD区以北は切り盛りによって作り出された段畑状の平坦面が顕著である。

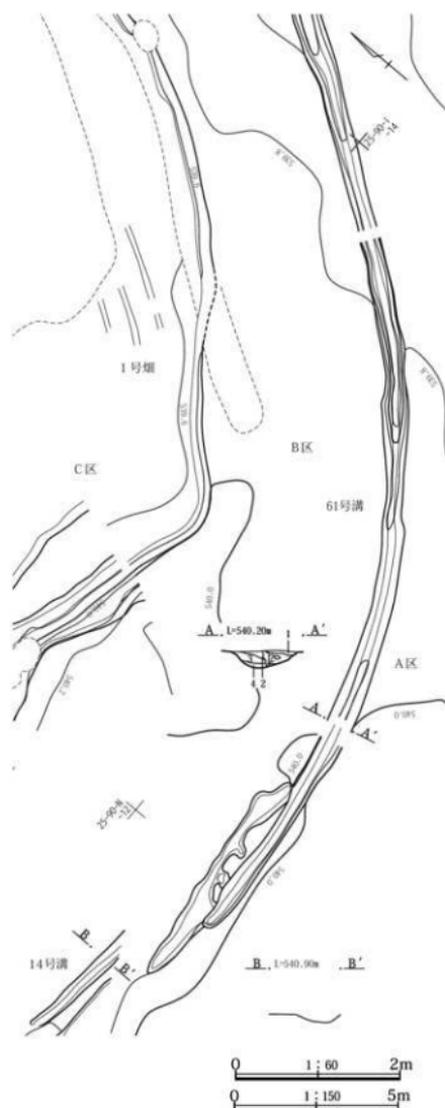
**1) A区** 南東に迫る尾根の傾斜裾部から61号溝までの間をA区とした。西部は発掘区界となり、北を画する61号溝も両端部が把握できない。61号溝と尾根裾部の囲む範囲を探ると、25-90-G-O-10~15グリッドに当たり、東西35m、中央部での幅5mほどとなる。東端部での標高539.8m、西端部での標高540.09mと、高低差の少ない面が作り出されている。

**61号溝** 25-90-H~N-10~15グリッド 確認面最高位標高539.98m、最低位標高539.67m、底面最高位標高

539.86m、最低位標高539.57m。長さ30.1m。南東にやや膨らんだ緩い弧状を描いていて、弦の方位はN-65°-Eを示す。谷頭を綴るように走る。東西ともに特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。確認面での幅50~70cm前後、深さは15~17cmほどである。

**2) B区** A区の北西に当たり、61号溝で画され、C区とは段差で区切られる。この段差は西部では覆土に切られるなどして捉えられなくなり、東部は発掘区界に至る。図示された範囲は、25-90-H-Q-10~17グリッドにあたる。C区との境界をなす段差は、最大比高39cmほどあり、東部は61号溝と平行するように、やや南東に膨らむ緩やかな弧を描いてN-35°-E方向に21mほど延びる。L-13グリッド近くで方向を変え、以西はN-75°-Wを示すが、6mほどで以西が覆土される。東端部では標高539.82m、段差の屈曲部では539.96~540.01mと比高は小さい。以西は等高線の乱れがあるが、540.43~540.0m前後である。61号溝と段差上端との間は最近接部で4.4mほどある。また、d区画南辺の溝と61号溝の間は11mほどあり、この間にさらに段差などの境界が設けられていた可能性もある。

**3) C区** B区の段差屈曲部以東をC区とした。ここでは、東西の発掘区の間で捉えられた地表面の様相にかなりの差がある。東部は北西向きに傾斜が顕著であるのに対し、西のD区は等高線間隔が粗で、ほぼ平坦面が形成されている。両者の間には明確な境界施設は見られないため、便宜的に発掘区界を境界としてB区、C区を区分した。また、北のE区との境界も同様に、発掘区界の南北で様相が大きく異なるため、発掘区界を境界とし



第71図 第2区画b面部分図3

た。25-90-1～L-13～18グリッドに相当する。最高位標高はB区との境界をなす段差の屈曲部にあり、539.62m、最低位標高は北西隅にあって538.95m。北西-南東の長12.8m、南東辺の長20.5m。南西部に3条のみであるが、畝間溝痕跡を示したと思われる表現があり、これを1号畑とした。

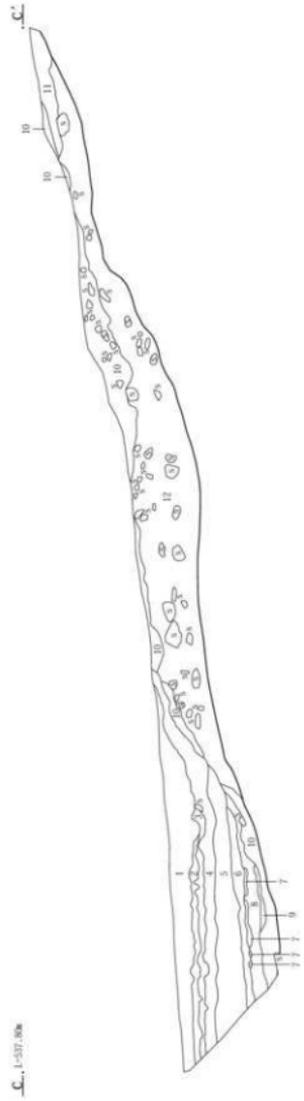
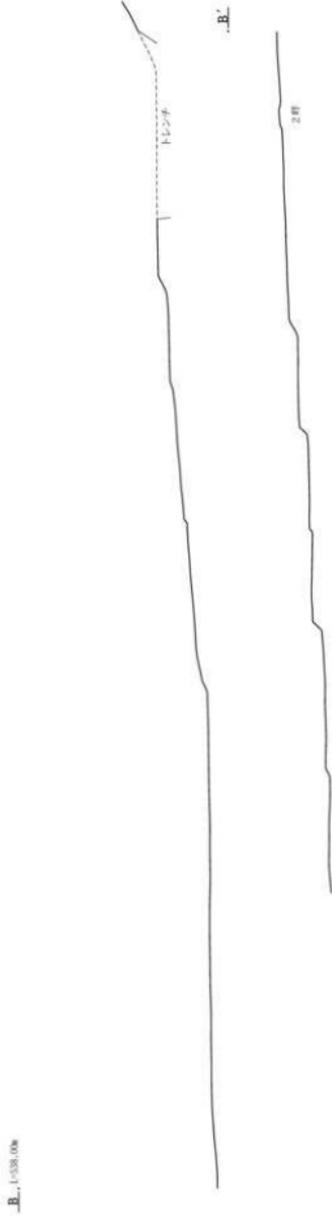
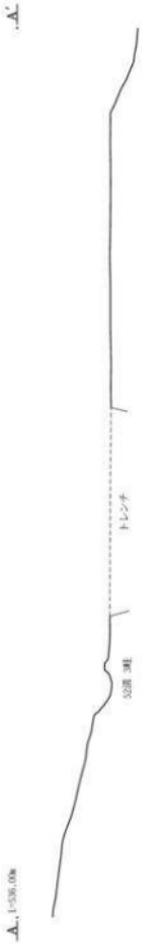
**1号畑** 25-90-J・K-14グリッド 標高539.55m付近に残された畝間溝痕跡である。1.6m間に3条が並列する。条間距離は53cmとなる。最も長く確認できるのも3.2mほど、深さは確認できない。畝間溝の方位はN-35°-Eで、B区・C区間の段差による弦の方向と等しく、等高線とは平行気味に斜交する。

**4) D区** C区の西、B区の北にあたる。南のB区との間は段差と、東西に走る犬走り状の平坦面とで区画されるものを見る。東のC区との間は発掘区界である。西も発掘区界に切られる。北は溝及び段差によってE区と区切られる。25-90-K～P-13～16グリッドに相当する。東西20m、西部南辺の平坦面内側から北部の段差上縁まで6m、東部南辺の段差下端から北部段差上縁まで12.5mある。西部の平坦面はN-15ライン以西にあって、N-85°-E方向に伸び、11mほどが確認されている。東端近くのトレンチ以東では溝状を呈しているが、以西では南側B区から5～11cm下がった位置に、幅40cmほどの平坦面を形成しており、北側畑面へはさらに8cmほど下がる。平坦面の標高は西部で539.53m、東部で539.56m。北側の溝は25-90-L～P-15～16グリッドにあって、中央近くでトレンチに切られていったん途切れるが、延長16.5m、幅40～70cm、深さ2～8cm、N-79°-E方向に伸びる。確認面での上面標高は東西端とも539.41m前後、底面標高は西端で539.41m、東端で539.39m。溝の南北でも標高差はほとんどない。この溝の北端から、E区画との境界をなす段差上縁までは1mほどの間隔がある。段差の比高は32～40cmある。南の平坦面と北の溝の間は、標高539.49m前後で揃った平坦面をなしている。西部には微弱な畝間溝痕跡があり、これを2号畑とした。

**2号畑** 25-90-O・P-14・15グリッド 確認面標高は539.49m。東西4.7m間に4条の畝間溝痕跡が認められている。西側は幅1.9m間に3条が並列しており、条間距離は63cmほどを測ることになる。方位はN-6°11°-Wを示す。東側1条はやや離れているが、3.5mほどあ



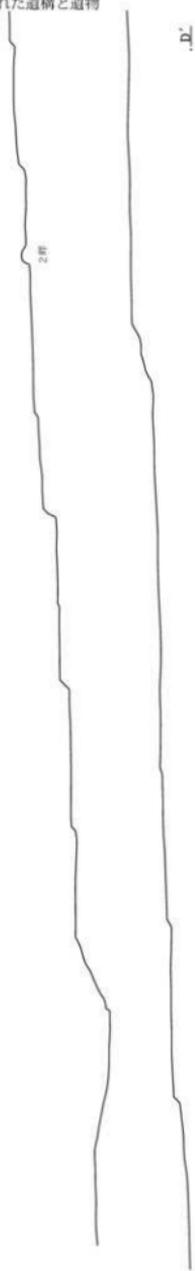
第72図 第2区画c面



第73図 第2区画c面断面1

.D., 1:500.0m

84

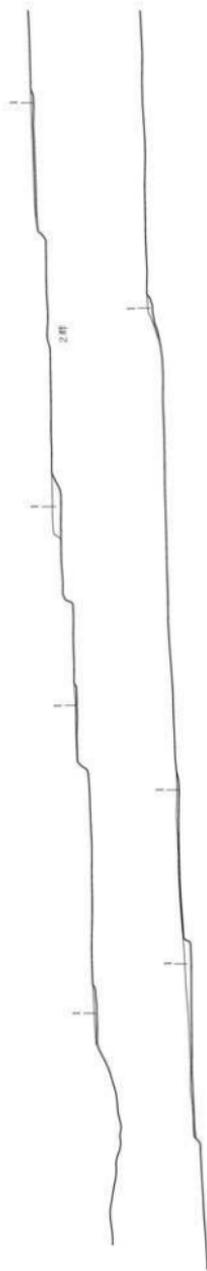


.D'



31cm

.E., 1:500.0m



2m

.E'



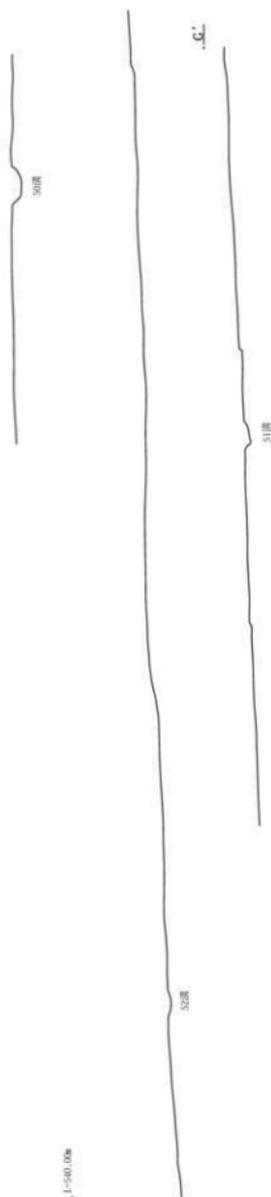
第74図 第2区画c 面断面2

E. 1/50.00



E.

G. 1/50.00



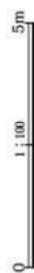
G.

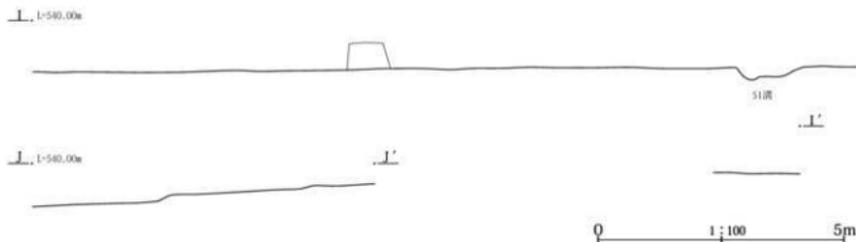
H. 1/50.00



H.

第75図 第2区横c面断面3





第76図 第2区画 c 面断面 4

て、最も長い。方位は $N-3^{\circ}-W$ を示す。1号畑とは異なり、傾斜に直交する方向に切られている。

**5) E区** 発掘区界で東西に2分される。西部はD区の北にあたり、段差でこれと画される。東部はC区の北に当たる。発掘区で区切られていて、西の段差からの連続は捉えられていない。北辺は東西に連続する段差でF区と画される。東西は発掘区界に達する。25-90-J~Q-15~19グリッドに当たり、東西24.5m、南北12.5mほどの範囲である。南部で標高538.99~540.02m、北部で538.92~538.94mと僅かに北に傾斜するが、整った平坦面が作られている。北辺は西端から19mほどまで $N-80^{\circ}-E$ 方向に延び、これから南に1.2mほど折れて再び東に延びる。北のF区との比高は17~27cmある。浅黄橙色の洪水層堆積層に被覆された耕土は褐色灰土で、比較的多くのイネの機動細胞珪酸体が検出されており、灰白色土を挟んださらに下層の黒褐色土からも、多くはないもののイネ機動細胞珪酸体が検出されていて、継続的な稲作があった可能性が示されている。一方、西部には3号畑があって、埋没時にはイネ以外の作物が作付けられていた可能性もある。

**3号畑** 25-90-N~Q-16~18グリッド 東西10.6m、南北11.5mの範囲に東西方向の畝間溝痕跡が残る。西部では6条が並列し、このうち北から2条目に直列するように、東側にも短い畝間溝痕跡が認められている。北から4条目では畝間溝東端が南に曲がるような形状で止まっており、ここで耕作単位の境界があったものと思われる。畝間溝は最も長いもので8.08mあり、幅は24~36cm、確認面からの深さは2~7cm、条間距離は75cmほどを測る。

**6) F区** 段差を介してE区の北に当たるが、攪乱が著しく、ごく一部しか把握できない。北のG区との間も大きく攪乱されているが、小さな段差によって画される。

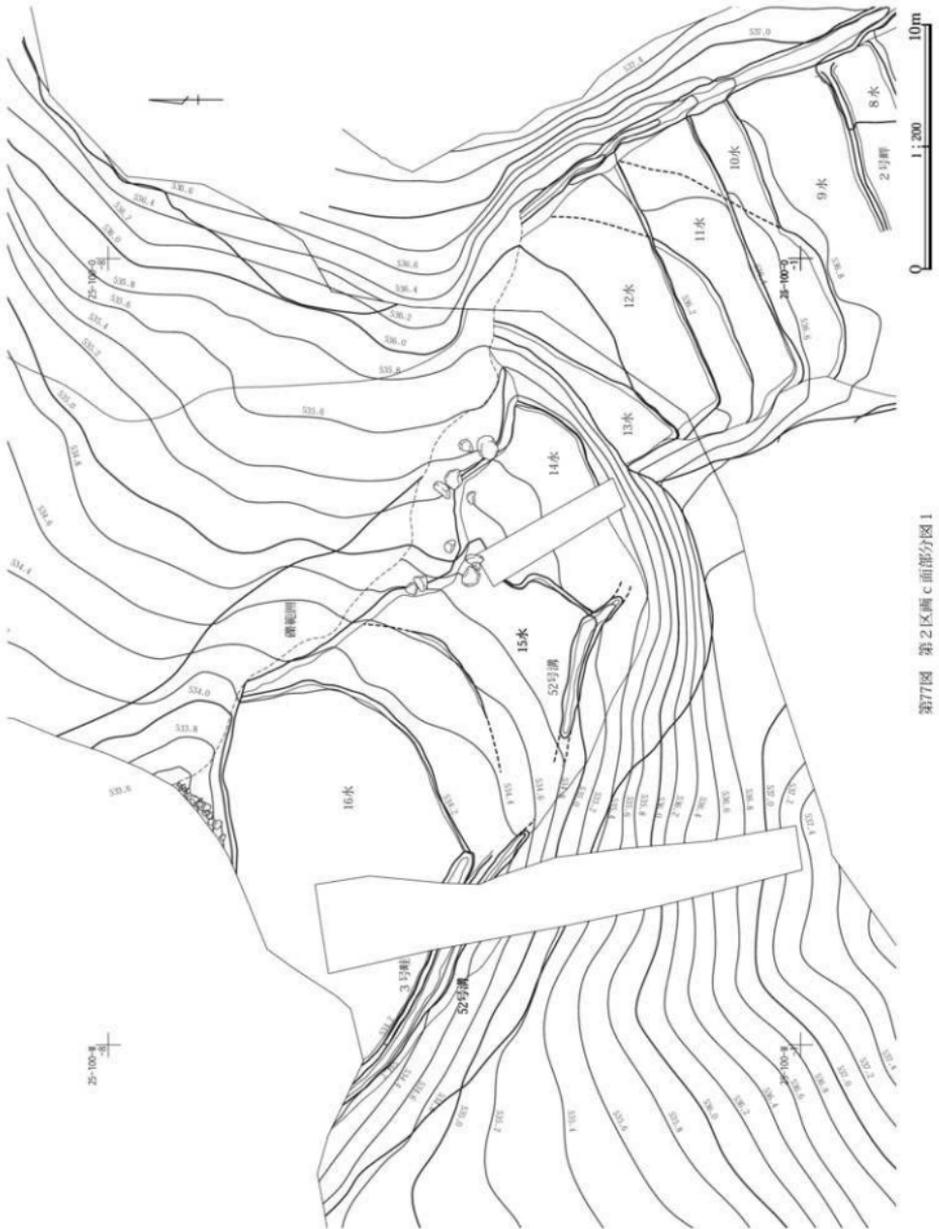
東西は発掘区界に達する。東西24.5m、南北11.7~14mほどの範囲を占める。25-90-K~Q-18~22グリッドに当たる。畝間溝などは確認されていないが、E区との境界となる南辺の段差下縁部は比較的良く残っていて、西端で標高538.38m、東端でも538.35mと整った平坦面が形成されている。確認された北端はG区との境界との中間近くで、標高538.25mで、北に緩やかに傾斜する。

**7) G区** F区の北にある。25-90-L~O-22・23グリッドにあり、周囲を大きく攪乱されて、東西10.6m、南北5mほどの範囲が、半円形の鳥状に残っている。西南端の標高357.85m、東北端の標高537.88m、北西端は標高357.76~357.78m。緩やかに北西に下る。畝間溝などは確認されていない。

**8) 49号溝** 25-90-P・Q-11~19グリッド 確認面最高位標高540.04m、最低位標高538.71m、底面最高位標高539.79m、最低位標高538.65m。北の調査区界から $N-12^{\circ}-W$ 方向へ25mほど流下し、確認された北端近くで、緩やかにカーブして東へ向きを変える。谷地形の西辺を縦るように走る。南北端ともに発掘区界に達する。確認面での上端幅1m~1.9mで北部で幅広になる。深さは25~31cmほどで、東側が深いゆがんだ三角形の断面形を呈する。

### (3) c面

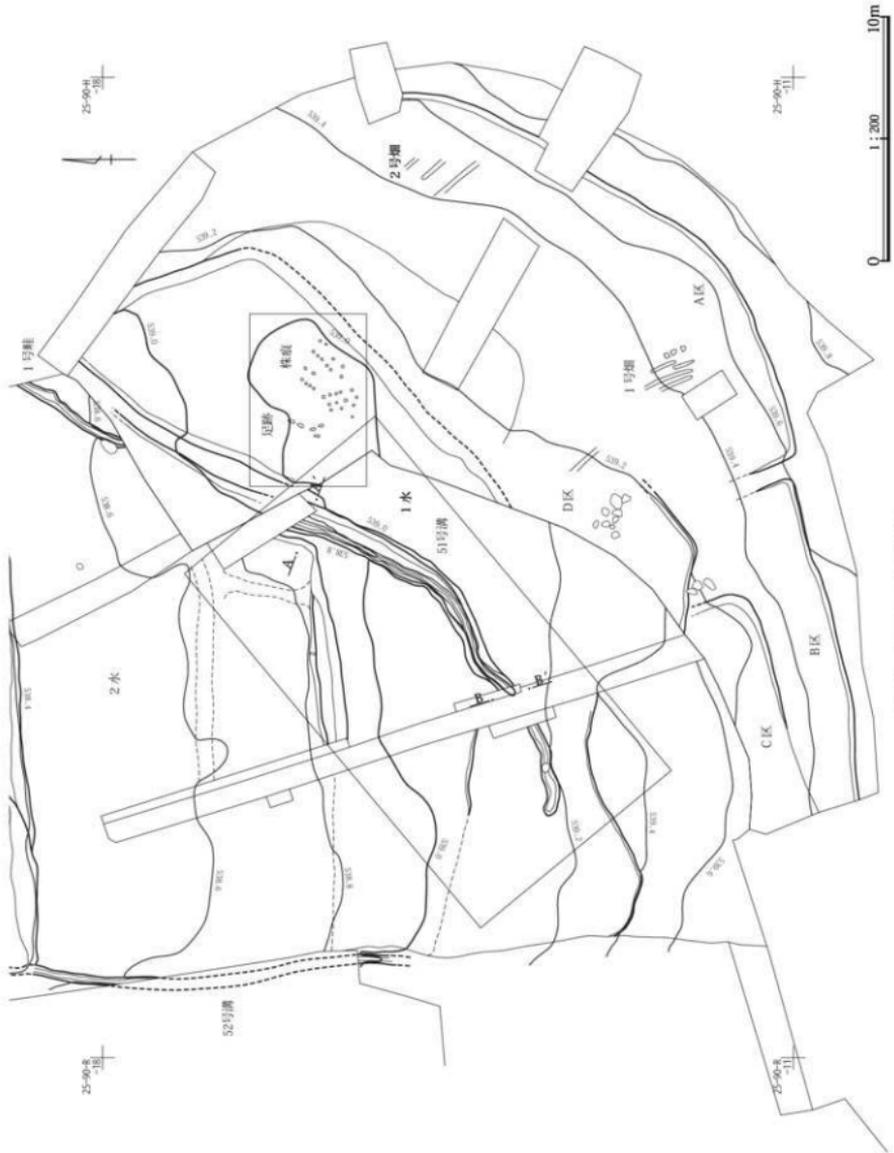
B面から、厚いところは50cmほどの間層を挟んで、谷部のほぼ全面に広がる耕地遺構が確認されたものである。洪水起源の砂質土を主体とした、にぶい黄褐色土で被覆されている。南部の高い部分では畑が作られているが、谷頭を取り巻く51号溝の南から、谷の西縁を縦る52号溝、東縁の50号溝とに囲まれた間に、狭い圃田が作られている。株跡や足跡が残された部分もある。これより南の、標高が高い部分では、斜面を削りこんだ段整地を



第77图 第2区画c面部分图1



第78图 第2区画c面部分图2



第79図 第2区画c面部分図3

行っていて、畝間溝の痕跡が認められる部分も僅かながらある。整地面は等高線に沿っているが、一部入り組むような部分が見られ、北の水田部に比して傾斜が急であることから、畑と想定した。個別畑の単位を捉えることは困難だが、第72図に示した、A区～D区を単位として記載を行う。水田は、顕著な畦や溝は乏しく、谷を階段状に整地した平坦面の連続として捉えられるもので、水回しなどの詳細は把握できない。北端の発掘区界まで、16単位の平坦面が数えられ、これを1号～16号水田として記載を行う。

**1) A区** 発掘区南東部の、谷頭に沿った傾斜を、等高線に沿って弧状に、2～7cmほど浅く削り込んで耕作面を形成している。南辺の弦の方位はN-43°-Eで、等高線の向きに近い。西のB区との間は70cmほどあって、馬入れ状の斜路が形成される。北西のD区との境界は把握できない。25-90-H～L-10～17グリッドに相当する。南端部から、水田部との境界となる段差の上縁まで南北12.5m、東西は21mほどある。最高位標高539.71m、最低位標高539.12m。西部と東部に微弱な畝間溝痕跡が残されており、西部を1号畑、東部を2号畑とする。また、25-90-I-15グリッド西部で木杭が1本認められている。

**1号畑** 25-90-J・K-12グリッド 標高539.4～539.5mの北西向き緩傾斜部に、畝間溝痕跡と、耕作具による切削痕跡が見られる。最長でも20cmほどしかない微弱なもので、深さや断面形状は捉えられていない。幅1.4m間に4条分の痕跡が残されていて、平均的な条間距離は30cm前後と推測される。畝/畝間溝の方位はN-23°-W前後を示す。等高線と直交気味に斜交する方向である。

**2号畑** 25-90-H・I-14グリッド 標高539.4～539.5mの北西向き緩傾斜部に、ごく微弱な畝間溝痕跡が認められたもので、深さや断面形状は捉えられていない。最長の痕跡が2.2mほど。幅1.8m間に3条の痕跡が残されていて、条間距離は80cm、100cmである。畝/畝間溝の方位はN-40°-W前後を示す。等高線と直交気味に斜交する方向である。

**2) B区** A区の西にあり、南側の斜面を2～7cmほど浅く削り込んで耕作面を形成している。東のA区との間は70cmほどあって、馬入れ状の斜路が形成される。北のC区との間は2.7mほどある。西は発掘区界に達して全体を把握できないが、東西幅は13.3mほどが確認できる。

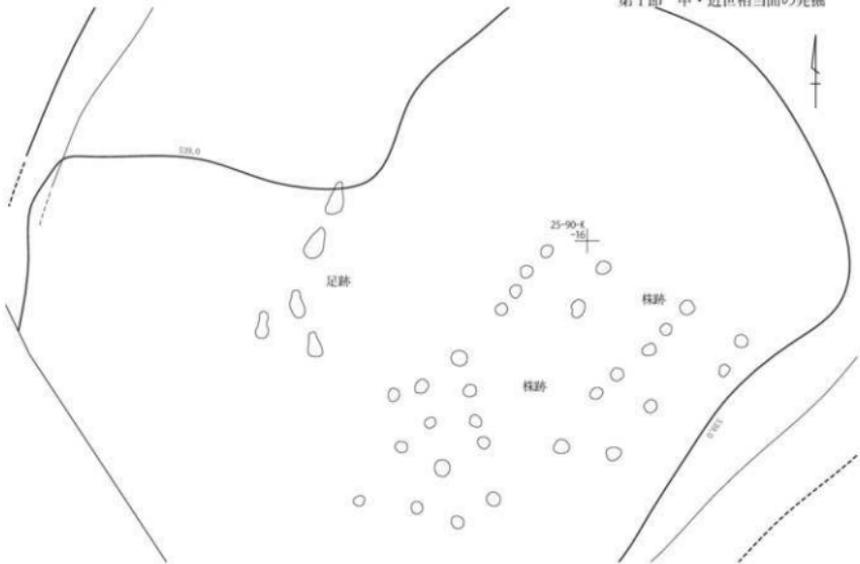
25-90-L～O-10・11グリッドに相当する。最高位標高539.53m、最低位標高539.25m。南辺はN-80°-Eを示し、等高線にほぼ沿う。

**3) C区** B区の北にあり、南側の斜面を6～8cmほど削り込んで耕作面を形成している。北の水田部との間は7.8mほどある。西は発掘区界に達して全体を把握できないが、東西幅9.2mほどが確認できる。25-90-M～O-11・12グリッドに相当する。最高位標高539.43m、最低位標高539.28m。南辺はN-75°-Eを示し、等高線にほぼ沿っていて、B区の南辺と並行する。

**4) D区** C区の東にあって、西端はC区東辺を切る位置にある。また、A・B区境界の延長上に当たる。北は発掘区界に切られて連続が把握できない。東は終端が捉えられないが、A区と水田部の間に削り込むことになる。南側の斜面を5～6cm削り込んで耕作面を形成している。25-90-L・M-10・12グリッドに相当する。最高位標高539.19m、最低位標高538.99m。西辺は確認長3.5m、N-75°-W、南辺は確認長4.8m、N-45°-Eを示す。等高線にほぼ沿っていて、A区南辺の弦方向やE区南辺と近い方向である。C区との接合部及び北東部に礫のまとまりが見られる。また、畑番号は付さなかったが、北東部に1条だけ、畝間溝痕跡とみられる表現がある。長1.3m、N-40°-Wを示す。A区2号畑と近い方向であり、この連続とも考えられる。

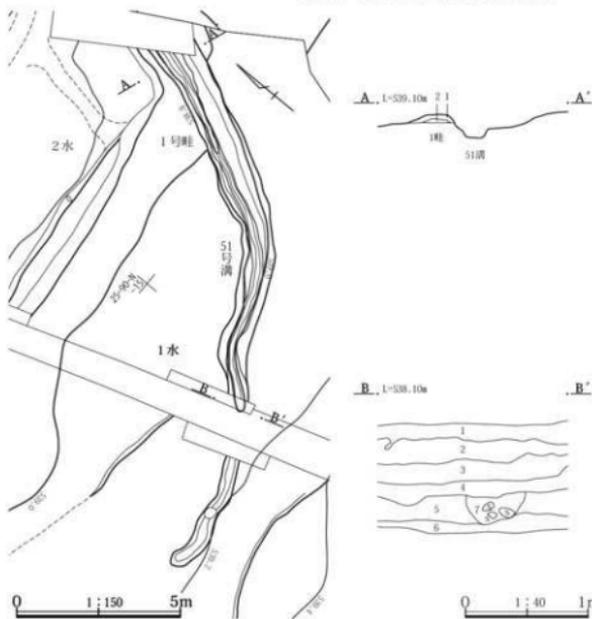
**5) 1号水田** 25-90-I～Q-12～18グリッド A区・D区・C区の北にある。南及び東の斜面を10～14cmほど削り込んで耕作面を形成している。西は52号溝に画され、北は2号水田との境界をなす段差及び51号溝に画されている。51号溝はこの田の中ほどを、南西-北東方向に横切っている。また、西部中央近くには東西方向に伸びる段差がある。谷頭部において、耕作単位が入り組んだ状況にあったのかもしれない。東西31.5m、南北17mほどの範囲を占める。西部ではC区との境界段差の下縁から、2号水田との境界段差の上縁まで12.4m、東部ではA区との境界段差下縁から51号溝まで8mある。田面の最高位標高539.37m、最低位標高538.99m。東部の25-90-J・K-15グリッドには、株跡が点々と残されており、この北西に接して、つま先を南に向けたと見られる足跡の連続が確認されている。

**6) 2号水田** 25-90-K～Q-15～18グリッド 1号水田



第80図 第2区画c面部分図3詳細図

0 1:40 1m



第81図 51号溝

の北に接する。51号溝が東南角を斜めに切り取るように走り、西は52号溝に画される。南は1号水田との境界段差で、52号溝から51号溝まで、16.9mある。西半部では段差が不明瞭であるが、東部では犬走り状の平坦面を伴う段差が明瞭に残る。1号水田の田面から10cm下がった位置に、幅40cmほどの平坦面が形成され、2号水田の田面は、これからさらに5cm下にある。東端近くでは、この段差に沿って、木杭が打たれている状況も見られる。発掘区東端の51号溝との接点では、溝の北部に灰白色土を積んだ1号畦が形成されていて、溝から直接水が入らないような造作とみられる。北辺は3号水田との境界をなす段差で、東西幅23m、 $N-83^{\circ}-E$ 方向に延びる。田面の最高位標高538.8m、最低位標高538.5m。

**7) 3号水田** 25-90-K~Q-18~21グリッド 2号水田の北に接する。東は50号溝、西は52号溝に画される。50号溝と田面との間には、平坦面がある。北部では幅1.6~1.8mで、南に向かって徐々に幅を減じ、3号水田東南角にとりつく。平坦面と水田面との比高2~4cm、平坦面と51号溝底面までは12~16cm。この平坦面は5号畑の半ばまで続いている。南は2号水田との境界段差で、東西23m。北辺は4号水田との境界をなす段差で、東西幅21.4m、 $N-82^{\circ}-E$ 方向に延びる。中央部での南北長は8mほどある。田面の最高位標高538.35m、最低位標高537.83m。北西向きの傾斜だが、中央部が浅い谷状に低くなっている。

**8) 4号水田** 25-90-K~P-21・22グリッド 3号水田の北に接する。東は50号溝、西は52号溝に画されるが、50号溝との間には幅56cmほどの平坦面を介する。南は3号水田との境界段差で、東西幅21.4mある。北辺は5号水田との境界をなす段差で、東西幅21.4m、 $N-77^{\circ}-E$ 方向に延びる。中央部での南北長は2.8mほどと狭い。田面の最高位標高537.79m、最低位標高537.70m。北西向きに、僅かに傾斜する。

**9) 5号水田** 25-90-K~P-21~24グリッド 4号水田の北に接する。東は50号溝、西は52号溝に画されるが、50号溝との間には幅40~56cmほどの平坦面を介する。西端は60cmほどの幅で北に8mほども延び、52号溝と6号・7号水田の西辺をなし、52号溝から8号水田に続く小溝で切られる。50号溝西側の平坦面のように犬走りの機能を持ったものかもしれない。6号水田との境界を

なす北辺段差は、東西幅18m、 $N-77^{\circ}-E$ 方向に延びる。南は4号水田との境界段差で、東西幅21.4m。中央部での南北長は3.8mほどある。田面の最高位標高537.67m、最低位標高537.51m。北西向きに、僅かに傾斜する。

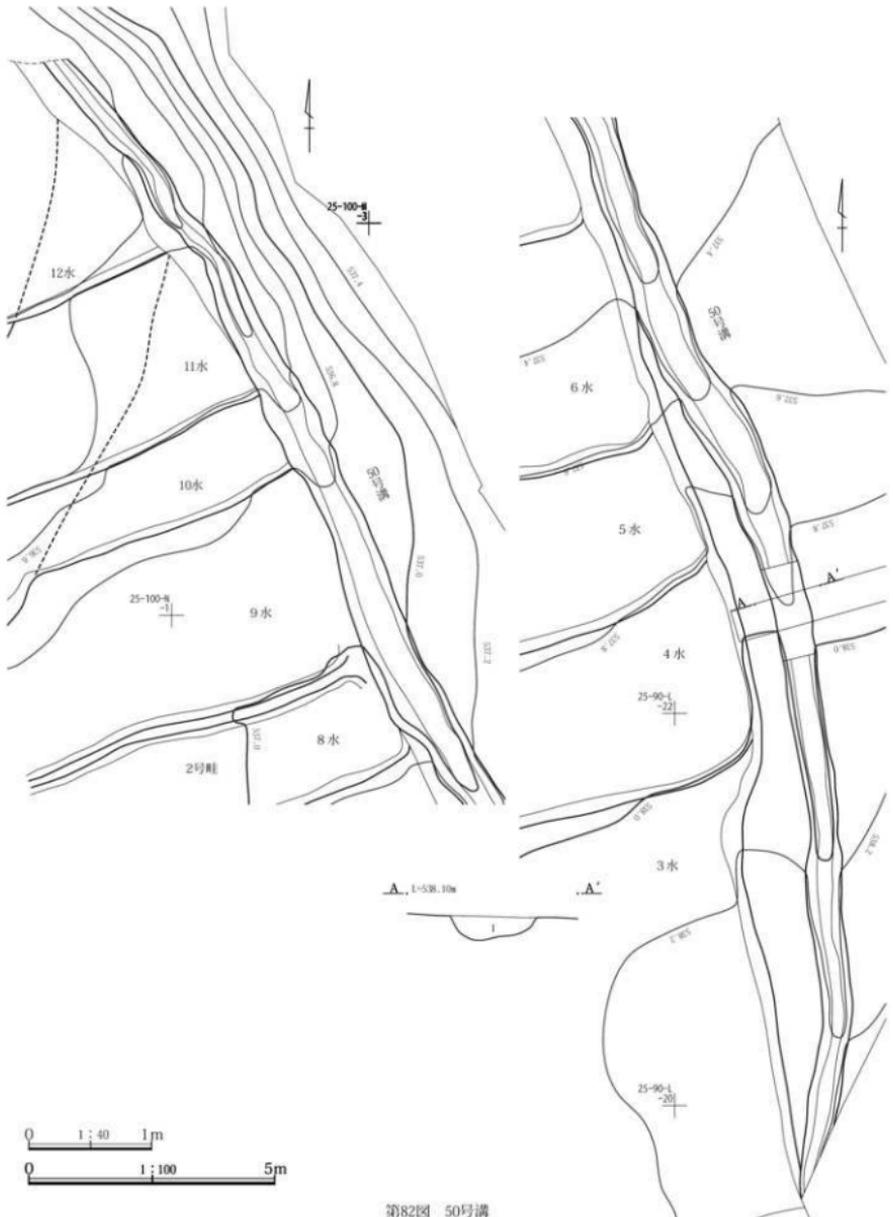
**10) 6号水田** 25-90-L~P-22~24グリッド 5号水田の北に接する。東は、50号溝との間の平坦面が徐々に狭くなって中央付近でなくなり、以北は50号溝と接する。西は5号水田から北に延びる平坦面に画される。南は5号水田との境界段差で、東西22.6m。北辺は7号水田との境界をなす段差で、東西幅16.5m、 $N-77^{\circ}-E$ 方向に延びる。中央部での南北長は3.6mほどある。田面の最高位標高537.44m、最低位標高537.21m。北西向きの傾斜で、北辺中央部西寄りか最も低くなっている。

**11) 7号水田** 25-90-L~P-23~25グリッド 6号水田の北に接する。東は50号溝、西は5号水田から北に延びる平坦面に画される。北西側ではこの平坦面が東に延びて、北辺をなす。南辺は6号水田との境界段差で、東西16.5m。北辺は東西15.2mほどを測るが、8号水田がくい込むようであって、これとの境界段差は東西幅13m、 $N-76^{\circ}-E$ 方向に延びる。中央部での南北長は2.7mほどある。田面の最高位標高537.28m、最低位標高537.08m。北西向きの傾斜で、北辺中央西寄りか最も低い。

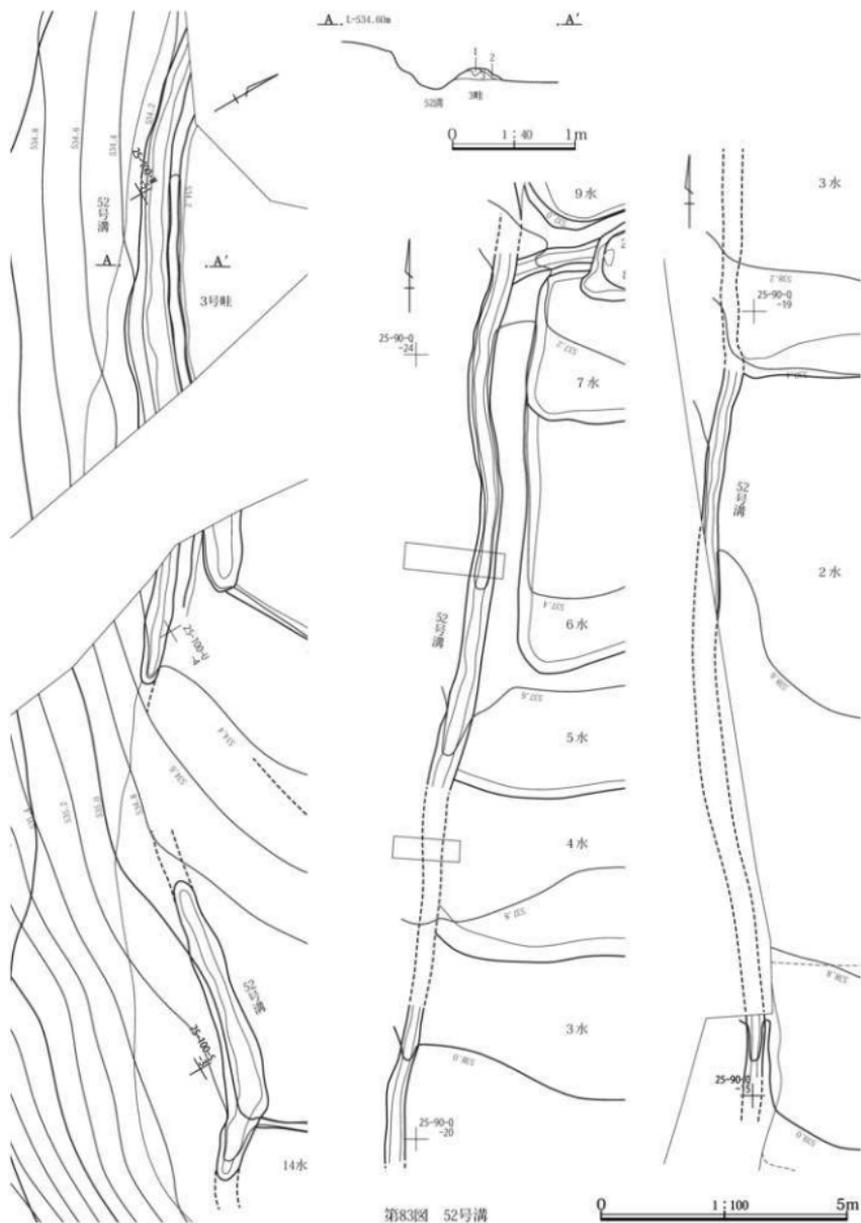
**12) 8号水田** 25-90-L~P-24・25グリッド 7号水田の北辺にくい込むようである。東は50号溝、西は5号水田から延びた平坦面が東に張り出した部分を切ることになる。東西方向の小溝が東辺中央にとりつく。南辺は7号水田との境界段差で、東西幅13m。北辺は9号水田との境界をなす2号畦で、東西幅14.4m、 $N-70^{\circ}-E$ 方向に延びる。中央部での南北長は2.2mほどある。田面の最高位標高537.06m、最低位標高536.92m。北西向きの傾斜で、北辺中央西寄りか最も低い。

**2号畦** 25-90-L~P-24・25グリッド 7号・8号水田と9号水田を区画する。東西長14.4m、 $N-70^{\circ}-E$ 方向に延びる。基部幅1~1.1m、基部に灰黄褐色土、上部に灰白色土を盛って構築する。盛り土高は15cmほど。中央部西寄りか一部途切れる。畦上部東端の標高537.04m、西端の標高537.13m。西端部が最も残りが良く、畦頂部は、8号水田田面から8cm、9号水田田面から15cm高い位置にある。

**13) 9号水田** 25-90・100-M~P-24~1グリッド 8号



第82図 50号溝



第83図 52号溝

水田の北に接する。東は50号溝に画される。西辺は52号溝の延長が確認できず、境界を見いだせない。南は2号畦を挟んで8号水田と接する。北辺は10号水田との境界をなす段差で、東西幅12.2m、N-67°-E方向に延びる。ここから、谷地形が西に曲がり始める。中央部西寄りでの南北長は4mほどある。田面の最高位標高537.01m、最低位標高536.75m。北西向きに傾斜する。北辺中央部から西側では、円弧状の崩落が見られる。こうした崩落は11号水田中にもあり、この崩落線が水田開削前の地形に近いものと見られる。東部の斜面を切った土を用いて、谷部の低地を盛土整形した部分が、崩落したのであろう。

**14) 10号水田** 25-90・100-M～P-25～2グリッド 9号水田の北に接する。東は50号溝に画される。西辺は特定の境界を見いだせない。南は9号水田との境界段差で、東西幅21.2m、西部は円弧状に崩れる。北辺は11号水田との境界をなす段差で、東西幅11.5m、N-66°-E方向に延びる。中央部東寄りでの南北長は1.4mほどしかない。田面の最高位標高536.73m、最低位標高536.55m。北西向きに傾斜する。

**15) 11号水田** 25-100-M～P-1・2グリッド 10号水田の北に接する。東は50号溝に画される。西辺は特定の境界を見いだせない。南は10号水田との境界段差で、東西幅11.5m。北辺は12号水田との境界をなす段差で、東西幅12.5m、N-66°-E方向に延びる。南北の境界段差が平行していて、南北長は3.5mほどである。田面の最高位標高536.57m、最低位標高536.21mだが、北西部が円弧状に崩れていて、中央部は上位の田面から7cmほど陥没する。9号水田で見られたように、盛土整形した部分が、崩落したのであろう。全体としては北西向きに傾斜する。

**16) 12号水田** 25-100-N～P-1～4グリッド 11号水田の北西に接する。ここから、谷地形が西に屈曲し、N-45°-W近くを示す。南の、11号水田との境界段差はN-66°-E方向であるが、北の13号水田との境界段差は、N-32°-Wを示す。このため、12号水田の平面形状は、東辺を下底、西辺を上底とする台形状を呈することになる。東辺北部は攪乱されて把握できないが、南部は50号溝に画される。西辺は谷の左岸を削り込んだ段差による。東西幅は10.1mほど、東辺は7.8m、西辺は2.1mほどである。田面の最高位標高536.28m、最低位標高535.98m。

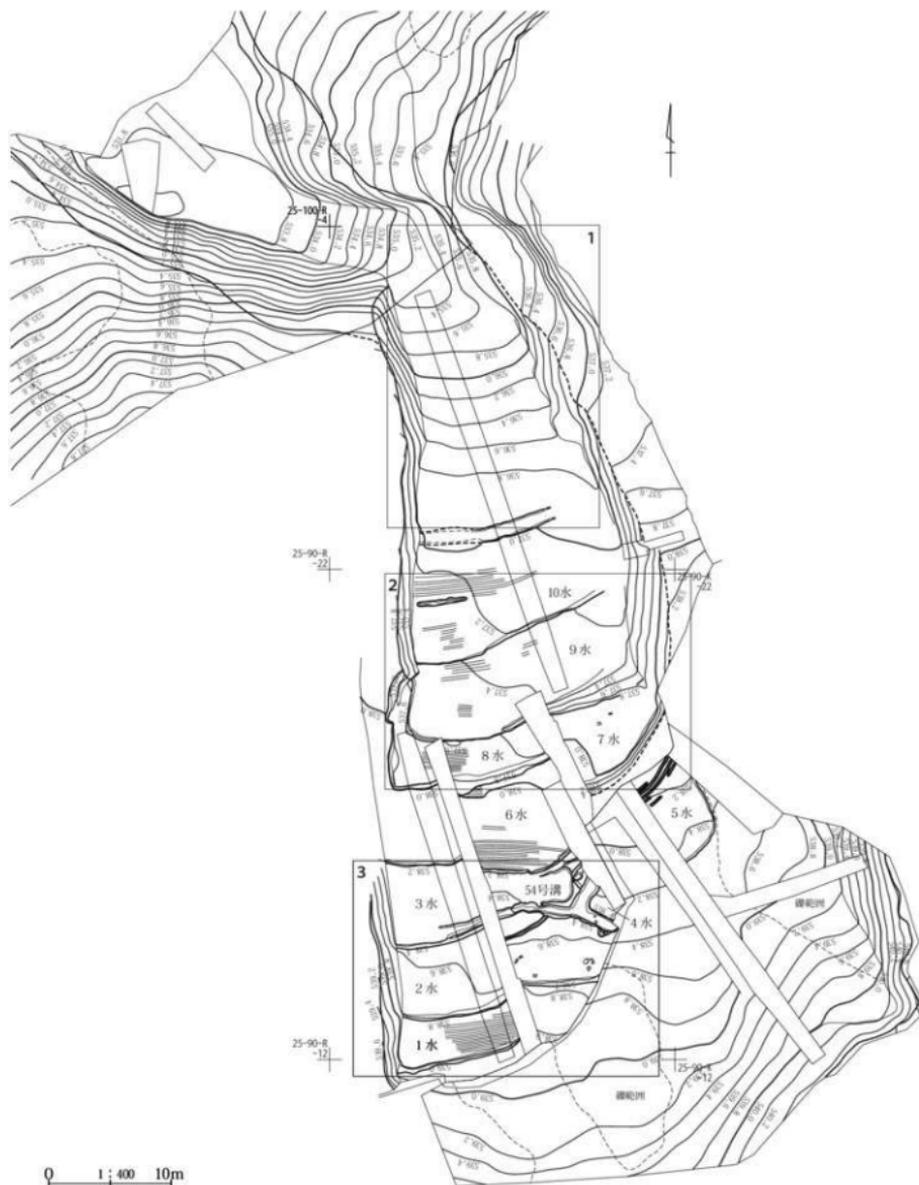
北西向きに傾斜する。

**17) 13号水田** 25-100-O～Q-2～4グリッド 12号水田の北西に接する。東辺は攪乱に切られて把握できない。西辺は谷の左岸を削り込んだ段差による。この水田の北西に比高60～70cmの段差があって、北西辺はこれに規制されてN-32°-W方向に走る。このため、13号水田の平面形状は西辺を底辺とする狭長な三角形形状を呈する。東辺は2.32m、西辺は0.5mほどしか確認できない。田面の最高位標高535.95m、最低位標高535.92mで、狭い範囲であるため、ほとんど傾斜はない。

**18) 14号水田** 25-100-P～R-2～4グリッド 13号水田の北西にあり、幅1.35～2.2mほどの間隔を置いて、60～70cm下位にある。北西辺の段差で谷頭部を区切っており、他の三方は斜面を整形している。南西辺北部は52号溝の延長とみられる溝で区切られ、北東辺は北東部に斜面から崩落したとみられる磯がある。北西辺の段差は、西端が52号溝にとりつき、N-34°-Eで3mほど北東に延びてから、北に80cmほど進み、再び北東に折れる。田面の平面形状は、不整な隅丸の三角形形状に近く、東西7m、南北6.2mほどの範囲を占める。田面の最高位標高535.28m、最低位標高535.05m。北西向きに傾斜する。

**19) 15号水田** 25-100-R～U-3～6グリッド 西南辺は52号溝に画され、北東辺は谷の斜面裾部に至る。南東辺は14号水田との境界段差である。北西辺は16号水田との境界段差で、南東に膨らんだ円弧を描く。谷の形状に沿って南東が狭く、北東に開く平面形状で、南東の14号水田との境界は幅5.5m、北西の16号水田との境界は幅10.5mある。最高位標高534.99m、最低位標高534.22m。全体の傾斜が9%近くあって、水田ではない可能性もある。なお、北西向きに傾斜し、中央近くで北西に向いた円弧状の前落線が見られる。16号水田との境界と相似形であり、水田の区画とも見られるが、傾斜度を勘案して、同一区画内の崩落と考えた。

**20) 16号水田** 25-100-S～W-4～6グリッド 15号水田の北西にある。北東は調査区界に切られ、さらに広がりを持つ。南西辺は3号畦を介して52号溝と接する。北東辺は谷の斜面裾部に至る。谷の形状に沿った不定形の平面形で、北東-南西の幅10.5m、北西-南東の確認長は11mほどを測る。田面の最高位標高534.22m、最低位標高534.06m。他の田面に比してごく均平に整地されてい



第84図 第2区画d面

る。

**21) 3号畦** 25-100-U~W-4・5グリッド 52号溝の北東辺に沿って、16号水田の南西辺を画す。南東端は15号水田と16号水田の境界段差に接し、北西端は調査区界に至る。長11.5m、裾幅幅36~80cm。方位はN-63°-W。畦上部の最高位標高534.27m。

#### 22) 溝

**50号溝** 25-90・100-K~N-19~3グリッド 確認面最高位標高538.32m、最低位標高536.03m、底面最高位標高538.17m、最低位標高536.04m。長さ40m。東にやや膨らみつつ、N-15°-Wで、谷の東辺を縦るように南北に走る。南端は2号水田と3号水田の境界段差の東端に接する位置で発掘区界に切られる。北端は攪乱に切られて以北が捉えられなくなる。南端から6号水田の途中までは西側に犬走り状の平坦面を伴う。確認面での上端幅60~120cm、田面側からの深さは最大で19cmほどである。大型の礫を多量に含む暗褐色土で埋没する。

**51号溝** 25-90-J~O-13~18グリッド 確認面最高位標高539.20m、最低位標高538.47m、底面最高位標高539.08m、最低位標高538.43m。長さ28.5m。南部ではN-65°-E、北部ではN-25~30°-E方向に流下する。南部は徐々に細くなって特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。確認面での上端幅は最大で1.3mほどあり、この東側は中段をもって、西に偏して上端幅40cmほどが一段深く掘られる。確認面からの深さは最大24cmある。途中、発掘区が異なることにより一部途切れる。北部では下位部分のみが確認されていて、確認面での上端幅は24cm、深さ9cmほどとなる。砂粒主体の黄褐色土で埋没する。

**52号溝** 25-90・100-P~W-14~5グリッド 確認面最高位標高539.05m、最低位標高534.13m、底面最高位標高539.00m、最低位標高534.05m。断続的ながら、谷の西縁に沿って延び、総延長は77.6mある。南部ではほぼ南北方向を示し、北部では谷の曲線に沿ってN-30~72°-W方向に蛇行しながら流下する。南端は1号水田の北部で途切れ、以南の連続が捉えられなくなる。北端は発掘区界に至る。確認面での幅30~50cm前後、田面からの深さは10cmほどである。

#### (4) d面

c面から30~60cm下位にあたる。にぶい黄褐色の砂質土のブロックを含む、にぶい黄褐色土で被覆された面である。谷頭からc面の6号水田付近以南にかけて段整地された耕地面画が作られている。上位面で認められた谷の東西を画する溝は認められず、谷の斜面を切り込んで整地したものである。c面における平坦面間の境界段差が直線的であったのに対して、この面の畑では谷頭方向にやや膨らんだ、ゆるい弧状をなしている。耕土は混入物の少ない黒色土で、下位の黒褐色土と共に、多量のイネ機動細胞珪酸体が検出されている。一方、この面で特徴的なのが、湛水した水田面や、稲刈り後の田面には想定しがたい、ほぼ東西方向に伸びる畝間溝痕跡と思われる遺構である。54号溝に乱された可能性のある2・3号水田を除く各水田にあり、特に4号水田では明確な溝状痕跡が並列する。

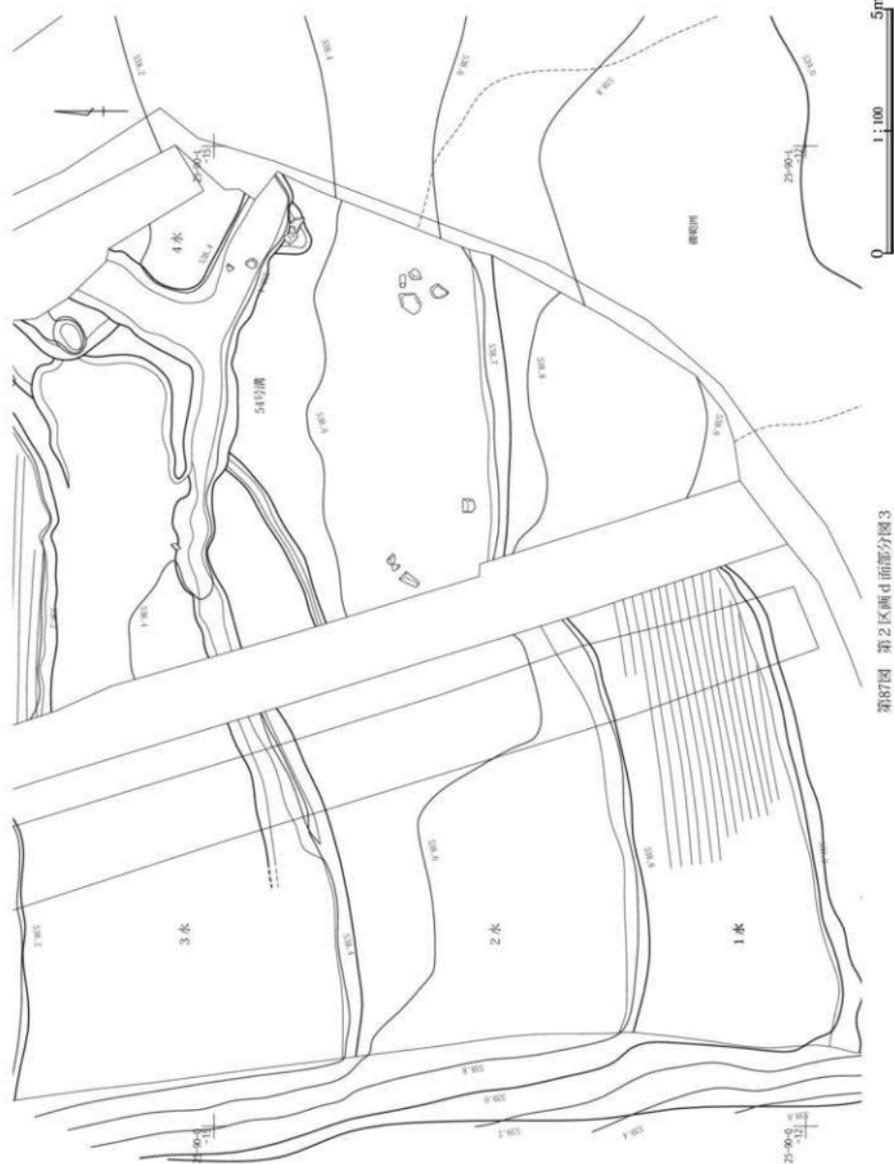
**1) 1号水田** 25-90-L~P-11~13グリッド 水田最南部にある。2号水田の南に接する。中央やや東寄りにトレンチ及び発掘区界があって、この東西でやや様相が異なる。東部は東から南にかけて発掘区界となっており、明確な耕地境界が認められない。北は2号水田との間に比高11cmほどの境界段差が作られている。西部では、南辺、西辺で谷斜面の裾部を切り込んで、各平坦面を作り出している。西辺で各裾部の加工が明瞭ではないが、南辺では、傾斜裾部を12~20cm掘り込んでいる。北辺は、2号水田との間に比高16~21cmの境界段差を設ける。東部の境界段差とは食い違っていて、方向もやや異なる。東西を合わせた東西方向の確認長16.25m。東部での南北確認長4.5m、北辺の境界段差はN-87°-Eとほぼ東西に延びる。西部は南北長3.75m、南辺の境界段差はN-77°-E、北辺はN-80°-Eを示す。田面の最高位標高539.05m、最低位標高538.7m。北西向きに傾斜する。西部の東寄りに畝間溝状の痕跡が残される。最大長5.7m、方向はN-80°-Eで、谷の傾斜方向に直交する。南北幅4.5m間に7条認められていて、平均的な条間距離は56cmほどを測る。

**2) 2号水田** 25-90-L~P-12~15グリッド 1号水田の北に接する。東辺は調査区界に切られる。西辺は斜面裾部を切るが、境界は明瞭ではない。南辺は1号水田との境界段差である。北辺は54号溝を介して3号水田と接





第2区画 d 面部分図2



第87図 第2区画の面部分図3

する。南北辺共に中央東寄りが北方向に張り出している、南辺東部はN-85°-E、西部はN-73°-E方向を示す。北辺は54号溝の方向に従うことになるが、東部でN-78°-E、西部ではN-77°-Wを示す。2号水田南端と、54号溝北部の3号水田田面との比高は20~25cmほどある。東西幅18.2m、南北長は東部で5.1m、西部で5.7m。田面の最高位標高538.78m、最低位は後述の小溝に囲まれて北隅部の標高538.40mにあるが、この部分を除くと538.51mで、均平な田面である。中央東寄りにトレンチ及び発掘区界があって、この東西でやや様相が異なる。東部は田面に角礫が多く残され、北西部に南西-北東方向に走る小溝がある。25-90-N・M-14グリッドにあって、長4m、幅20~35cm、深さ3~5cmで、N-60°-E方向に走る。底面最高位標高は538.56m、最低位標高は538.53m。北西向きに傾斜する。東端は54号溝に接し、西端はトレンチに切られる。西部の田面では確認されていない。この溝の北側は南側より10cmほど低い窪地となっている。

**3) 3号水田** 25-90-M~P-14・15グリッド 東辺は54号溝の北から西に沿う畦状の盛り上がりで画される。西辺は斜面裾部を切るが、境界は明瞭ではない。南辺は54号溝に画されるが、西端部は捉えられない。北辺は4号水田との境界段差だが、中央東寄りのトレンチ及び発掘区界の東側は西側より1mほど南にあって、かなり大きく食い違ふ。東部の境界段差はN-77°-E、西部のそれはN-87°-Eを示す。田面の最高位標高538.48m、最低位標高538.20mで北西向きに傾斜するが、東部が高く、西部が低くっており、東部では上面が削平されている可能性がある。

**4) 4号水田** 25-90-L-14・15グリッド 西部を54号溝に囲まれ、東部は発掘区界に切られる。東西2m、南北2mほどの小さな平坦面である。田面の標高は538.43mで、54号溝底面より18cmほど高く、南西の2号水田田面からは11cm低く、北西の3号水田田面よりは11cm高い。発掘区界、トレンチを挟むが、北東の5号水田と関連づけられる区画かもしれない。

**5) 5号水田** 25-90-J・K-16~18グリッド 北東辺北部は発掘区界に切られ、南部から南東辺にかけては谷裾部を切って整地を行っている。南西辺、北西辺は発掘区界に切られる。北西辺の長3.7m、南西辺の長8.1m。南

辺の境界段差はN-43°-E、東辺のそれはN-28°-Wを示している。トレンチ及び発掘区界等を介して、西の3号水田、6号水田とは7mほど離れ、中間には遺構が認められていない。北西の7号水田とも、発掘区界を介して1.7mほど離れる。田面の最高位標高は538.43m、最低位標高は538.05m。北西向きに傾斜する。北西部に断続的な畝間溝跡が認められた。最も長いもので3.6m、確認面での上端幅15~30cm、深さ2~3cmで、N-37°-Eに延びる。条間は32~52cmで、北部の密な部分では平均35cmほどである。

**6) 6号水田** 25-90-M-Q-15~18グリッドに主体的な部分があるが、西辺が8号水田の西辺に沿ってさらに北に延びており、北限が把握できない。東辺はトレンチ及び調査区界に切られ、東の5号水田とは7m、7号水田とは1.6mほど離れる。南は3号水田、北は8号水田と接する。東西長15.4m、南北長は東部で8.4m、西部で5.9m。北辺の境界段差はほぼ直線的に谷を横断し、N-72°-Eを示す。田面の最高位標高は538.23m、最低位標高は537.96mで、均平な田面である。東部の南北端近くで、ほぼ東西方向に延びる畝間溝が認められている。北部では南北2m間に3条の畝間溝が並列する。長い物でも2m足らずで、条間距離は30cm・36cmである。南部では2.3m間に8条が並列する。最長の畝間溝は東の発掘区界から西のトレンチまで7.4mにわたって延びる。条間距離は36~38cmである。

**7) 7号水田** 25-90-K~M-17~19グリッド トレンチ、発掘区界を介して、6号・8号水田の東1.6~2m、5号水田の北1.7mにある。南東に開くがんだ扇形に近い平面形で、東西確認長8.5m、南北長7.7mほどの範囲を占める。東南隅が把握できないが、南から東にかけては谷の傾斜裾部に画され、北辺は幅1~2.5m、比高57~66cmの境界段差によって9号水田と画される。田面の最高位標高は538.09m、最低位標高は587.83mで、東向きの傾斜となっている。南辺の急な傾斜面で5号水田と画されるように表現されているが、L-18近くにあたる5号水田北東隅の田面標高538.07m、同所での7号水田田面標高537.95mに対して、南側斜面上部の標高は358.65mで、かなり不自然な切り土がなされていることになる。

**8) 8号水田** 25-90-M~P-17~19グリッド 6号水田



第888図 54号溝



第89図 石積

の北に接する。東辺はトレンチを介して7号水田に接するが、田面の高さは30cmほど低い。西辺は谷斜面の裾を田面まで20cmほどの高さで切って整地する。北に接する9号水田の西辺に沿って幅1~1.4mほどで北に5.2mほど伸び、北端では東西2条に分かれる複雑な構造を有する。北辺の境界段差は、中央が南側にやや膨らんだ弧状を呈し、弦の方位はN-85°-Eを示す。東端近くでは幅2.3m、比高58cmほどあるが、中央のトレンチ東部では

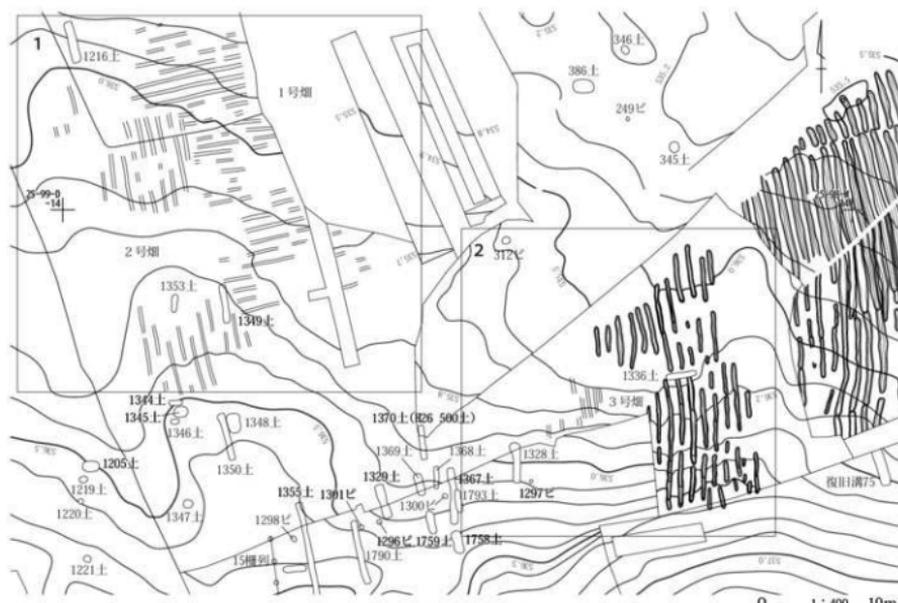
比高は57cmと変わらないものの、幅は1mほどに狭まる。また、トレンチの西側では上端幅50cm、深さ8cmほどの溝が長2mほどの範囲で見られる。以西は比高10~20cmほどの段差となる。東側の南辺は6号水田との境界段差で、田面の比高は26~28cmほどある。北辺は9号水田との境界段差で、9号水田の田面が12~23cmほど低い位置にある。東西12.5m、南北長は東部で2.8m、西部では4.2m、西端の延長部を加えると9.4mを測る。田面の最高

位標高は南辺中央近くで537.68m、最低位標高は北東隅が537.58m、北西端の突出部で537.56m。ほぼ均平に作られているが、北辺中央西寄りにやや等高線の乱れが見られ、水流の痕跡かと思われる。この部分の南に、東西に伸びる畝間溝痕跡がある。最長のもので3.76m、南北1.8m間に6条が並列する。畝間溝はN-87°-E、条間距離は35cmほどである。

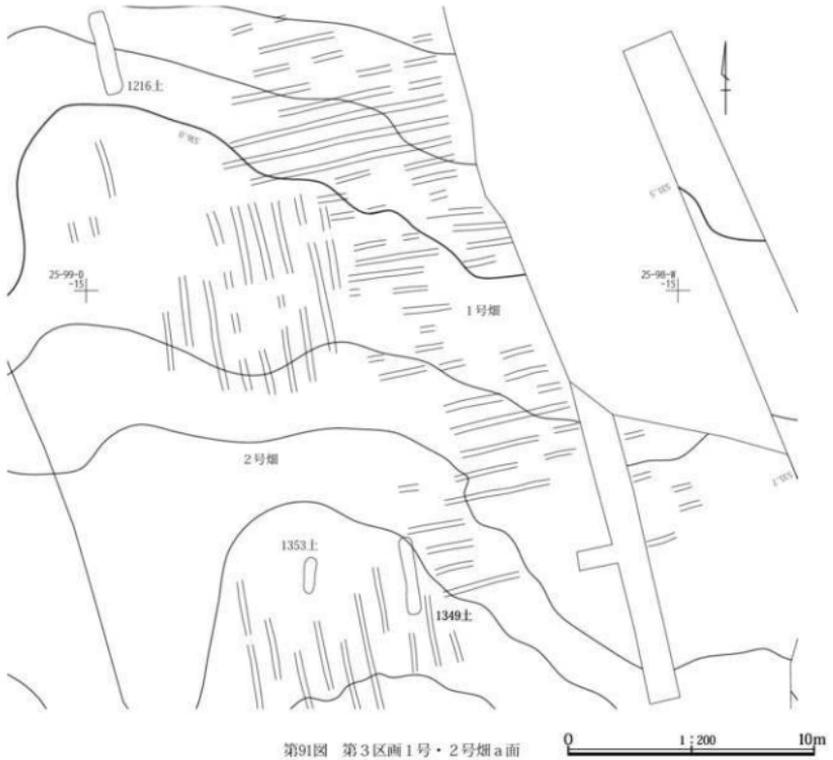
**9) 9号水田** 25-90-K~P-18~21グリッド 8号水田の北に接する。また、8号水田の西端から北に伸びる部分に西を画される。東はトレンチ、発掘区界を介して7号水田と隣接する。北辺は10号水田との境界段差で、東部は直線的に伸びてN-70°-E、西部ではやや南側に膨らんでいて、N-80°-Eを示す。田面の最高位標高537.49m、最低位標高537.10mで、西が高く東が低い、ほぼ均平に作られている。10号水田田面との比高は東部で15cmほど、西部では18~24cmほどある。中央部北より西部に畝間溝痕跡と思われる遺構がある。中央北部はN-70°-E方向に伸びる2条が並行して、条間距離は62cmほど。西北部ではN-81~84°-E方向に伸びる3

条が並行し、条間距離は45~50cm。この両者は北辺の境界段差に近い方向に伸びている。西南部にはN-87°-W方向に伸びる3条があって、条間距離は35cmほどと狭い。こちらは南辺の境界段差に近い方向を示す。

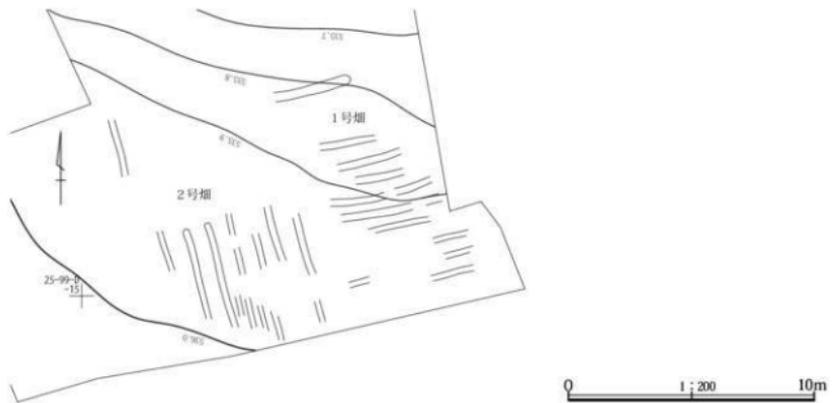
**10) 10号水田** 25-90-L~P-20~23グリッド 9号水田の北に接する。東西17m、南北13mほどの範囲を占める。東辺は長6mほどで、特定の境界施設なく谷裾部で画される。西辺は長9.5mほどで、やはり特定の境界施設なく谷裾部で画される。南辺は9号水田との境界段差で長18m、北辺は長15.5mほどあって、浅い溝で以北と画される。この水田より北では遺構が認められていない。北辺は南西にやや膨らんだ弧状をなしていて、弦の方位はN-75°-E。境界をなす溝はL~N-22・23グリッドにあたる北辺中央部のみが確認されているが、長11m、幅75cmほどで、N-78°-E方向に伸びる。田面の最高位標高537.34m、最低位標高536.15m。全体的には南西-北東方向に傾斜するが、西部は北方向への傾斜が強い。西部には断続的な畝間溝痕跡が認められる。中央部に長4m、幅40~45cm、深さ5~9cm、N-81°-E方向に伸び



第90図 第3区画



第91図 第3区画1号・2号畑 a面



第92図 第3区画1号・2号畑 b面



第93図 第3区画部分図2

る小溝があって、その北側では、 $N-80\sim 85^{\circ}-E$ の畝間溝が5条並列する。条間距離は40~45cmである。小溝の南には短い畝間溝痕跡が5条あって、条間距離は40~45cmと北の畝間溝群と近いが、方位は $N-75\sim 80^{\circ}-E$ とややばらつく。

11) 54号溝 25-90-L~O-14・15グリッド 2号水田と3号水田、3号水田と4号水田を区分する。東辺は調査区界に切れ、西辺は3号水田南辺西寄りて途切れていて、東西15.25mが確認されている。北に膨らむ弧状を呈し、東部は $N-80^{\circ}-W$ 、西部は $N-75^{\circ}-E$ 方向を示す。上端幅70~115cmほどで、3号水田田面からの深さは2~6cm、4号水田田面からは10cmほどある。東端近くで北に分岐し、 $N-30^{\circ}-E$ 方向に3mほど延びる。こちらは上端幅125cm、4号水田田面からの深さは22cmある。底面の最高位標高はトレンチとの交点東側にあっ

て538.42m。ここから東西両側に低くなるが、西端部538.23m、東端部538.32m、北端は538.21mで基本的には東から西へ、南から北への傾斜とみられる。

12) 石積 25-90-K~M-14~19グリッド 発掘時に「3~4面石積み」すなわちd面の遺構として記録されているが、土坑面の水田遺構より下位にあって、同一面の存在ではない。写真記録及び土層観察所見を欠く。平面的な分布状況から、グリッド17ライン付近に1mほどの間隔を置いて、南北2群に分けられる。

北群 25-90-K~M-17~19グリッド 上位では5号水田と7号水田の間にある斜面下にあたる。標高537.6~537.3mの北西向き傾斜部にあって、直近の5号水田、7号水田の田面からは50cmほども下位にあたる。東西4m、南北3.5mほどの範囲に大小の円礫、垂角礫が散在するほか、北2.2mほどの位置にも平坦な円礫がある。最

も大きな礫で52cm×40cmほど。立体的に組まれた状態は見られない。

**南群** 25-90-K-M-14~16グリッド 上位では5号~7号水田に囲まれて、水田が確認できない部分に当たる。標高537.8~537.5mの北西向き傾斜部において、等高線に沿うように北東-南西方向に円礫、垂角礫と木材片がおよそN-35°-E方向に並ぶ。径36cmの平坦な円礫、40cm×30cmほどの垂角礫が大きなもので、北群よりやや小ぶりである。また、上面が平坦な礫が多いように見受けられる。北東-南西の長4.2m、幅1.6mほどで、石を積み上げた立体的な構造は見られないが、平面的には敷き詰められたような密度であり、南東辺に大振りの木材片が並ぶ。水路的な構造を有したものかもしれない。

### 3 第3区画

遺跡中部のやや東寄りにある。北寄りには、断続的且つ弱いながらも、東西方向に延びるもの、南北方向に延びるもの、2者の畝間溝痕跡が捉えられた。ここでは、さらに5cmほど下位にも、上層とほとんど重なるような畝間溝痕跡が捉えられている。上位をa面、下位をb面として、それぞれ東西に延びる畝間溝を1号畑、南北に延びる畝間溝を2号畑とした。東部では、比較的明瞭な畝間溝痕跡が認められ、これを3号畑とした。南北に延びるもので、これは前報告で記載した第4面畑第1区画に連続するものと思われる。

**a面1号畑** 25-98・99-V-B-11~17グリッド 確認面最高位標高536.3m、最低位標高535.8m。北向きの緩傾斜面にある。東は発掘区界に切られ、西、南、北は特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。西は2号畑と入り組むように接するが、切り合いは認められず、新旧は判断できない。東西20m、南北25mほどの間に、N-74~75°-E方向に延びる断続的な畝間溝の痕跡が、30条並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間距離は70~80cmほどである。

**a面2号畑** 25-98・99-Y-D-10~19グリッド 確認面最高位標高536.4m、最低位標高536.0m。北向きの緩傾斜面にある。西、南、北は特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。東は1号畑と入り組むように接するが、切り合いは認められず、新旧は判断できない。東西16m、南北26mほどの間に、N-8~10°-W方向に延びる断続的な畝間溝の痕跡が、12条ほど並列する。等高線

とはほぼ直行する方向である。残りが悪いが、条間距離は70cm前後とみられる。

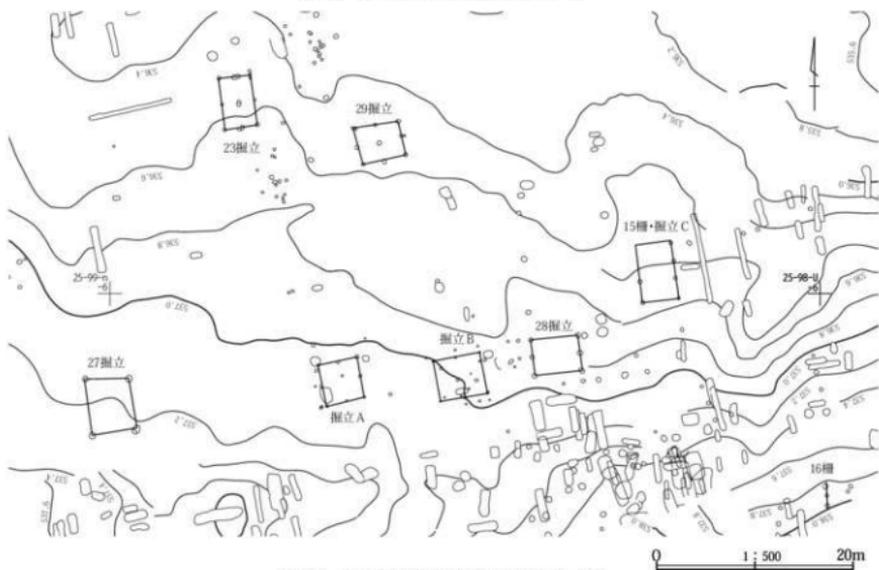
**b面1号畑** 25-98・99-Y-B-14~16グリッド a面1号畑の北部に相当する。確認面最高位標高536.0m、最低位標高535.9m。北東向きの緩傾斜面にある。南は発掘区界に切られ、北と東は特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。西は2号畑と接するが、切り合いは認められず、新旧は判断できない。東西8m、南北8.5mほどの間に、N-75~80°-E方向に延びる断続的な畝間溝の痕跡が、10条並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向であり、上位のa面1号畑の痕跡と重なり合うものもある。非常に粗であるため、条間距離を求めがたいが、およそ70cmほどと見られる。

**b面2号畑** 25-99-A-C-15~17グリッド a面2号畑の北部に相当する。確認面最高位標高536.0m、最低位標高535.8m。北東北向きの緩傾斜面にある。西と南は発掘区界に切られ、北は特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。東は1号畑と接するが、切り合いは認められず、新旧は判断できない。東西7.5m、南北9mほどの間に、N-15°-W方向に延びる断続的な畝間溝の痕跡が、10条並列する。等高線とは直交気味に斜交する方向であり、上位のa面2号畑の痕跡と重なり合うものもある。全体としては非常に粗でありながら、一部密な部分もみられる。条間距離は、密な部分では40cm、粗な部分では80cmほどと見られる。

**b面3号畑** 25-99-N-S-7~13グリッド 確認面最高位標高536.59m、最低位標高535.90m。北向きの緩傾斜面にある。東西は特定の境界施設なく連続が捉えられなくなる。西側にはごく微弱な畝間溝痕跡が連続する。南北も発掘区界手前で畝間溝が途切れるが、端部は揃っておらず、この間で完結すると判断できる状態ではない。東西17mほどの間に、畝間溝の痕跡が21条並列する。東部の14条は比較的明瞭な畝間溝だが、西部の7条はごく痕跡的なものである。N-1~2°-E方向と、ほぼ南北に延びる。等高線とは直交する方向である。南北長は、21.5mほどある。畝間溝上端幅は50cm前後、確認面から畝間溝底部までは、深いものでも7cmほどである。平均的な条間距離は80cmほどある。前報告で記載した第4面第1区画畑が東にある。97-P-24グリッドから98-O-9~14グリッドにかけて、東西80m、南北50mに渡って、

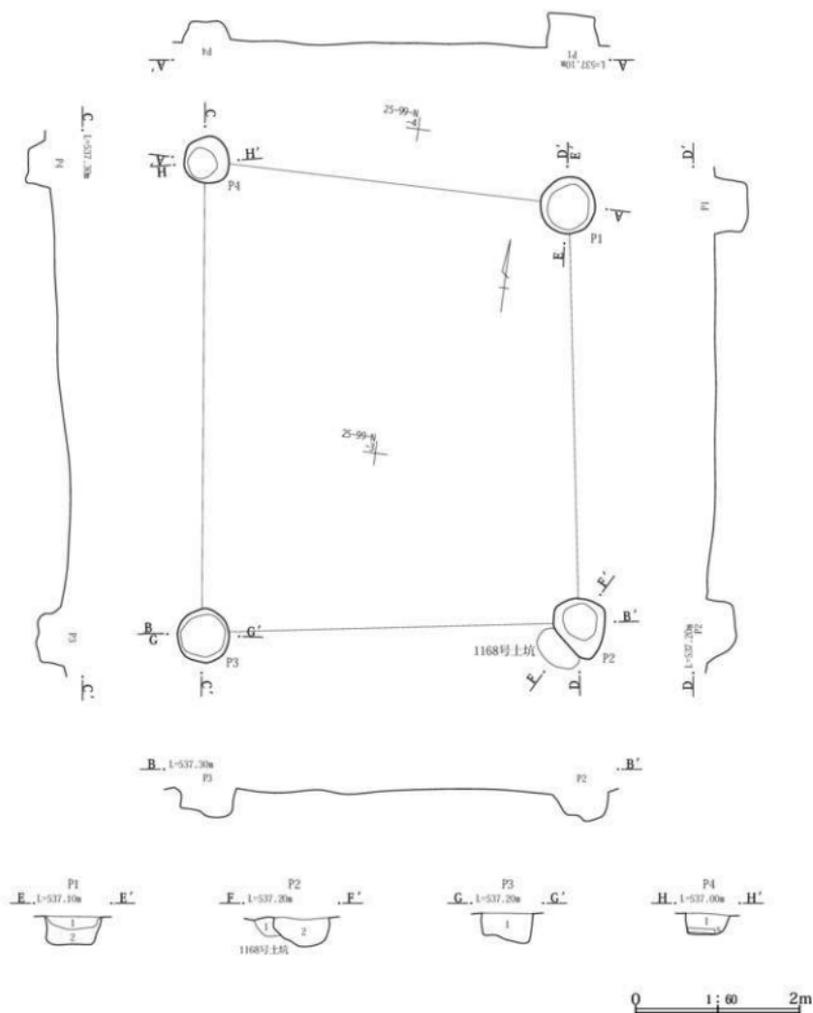


第94図 中・近世面獨立柱建物・柵の位置

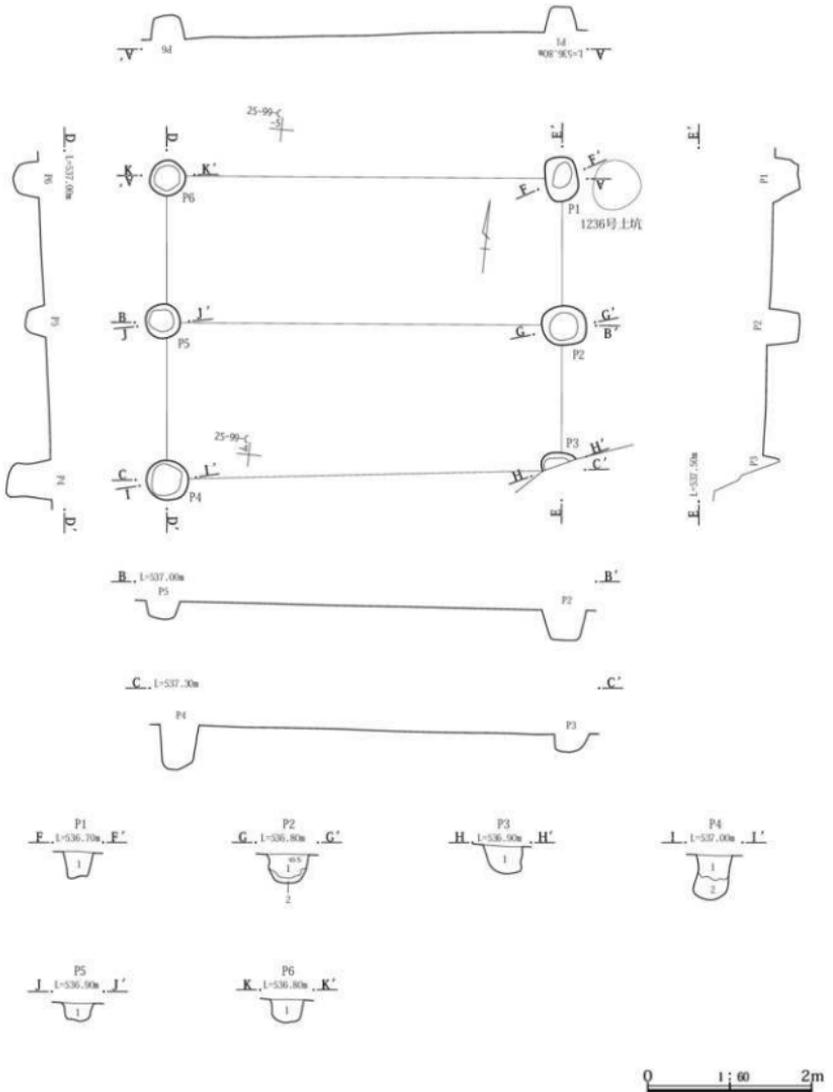


第95図 中・近世面獨立柱建物・柵の位置 部分

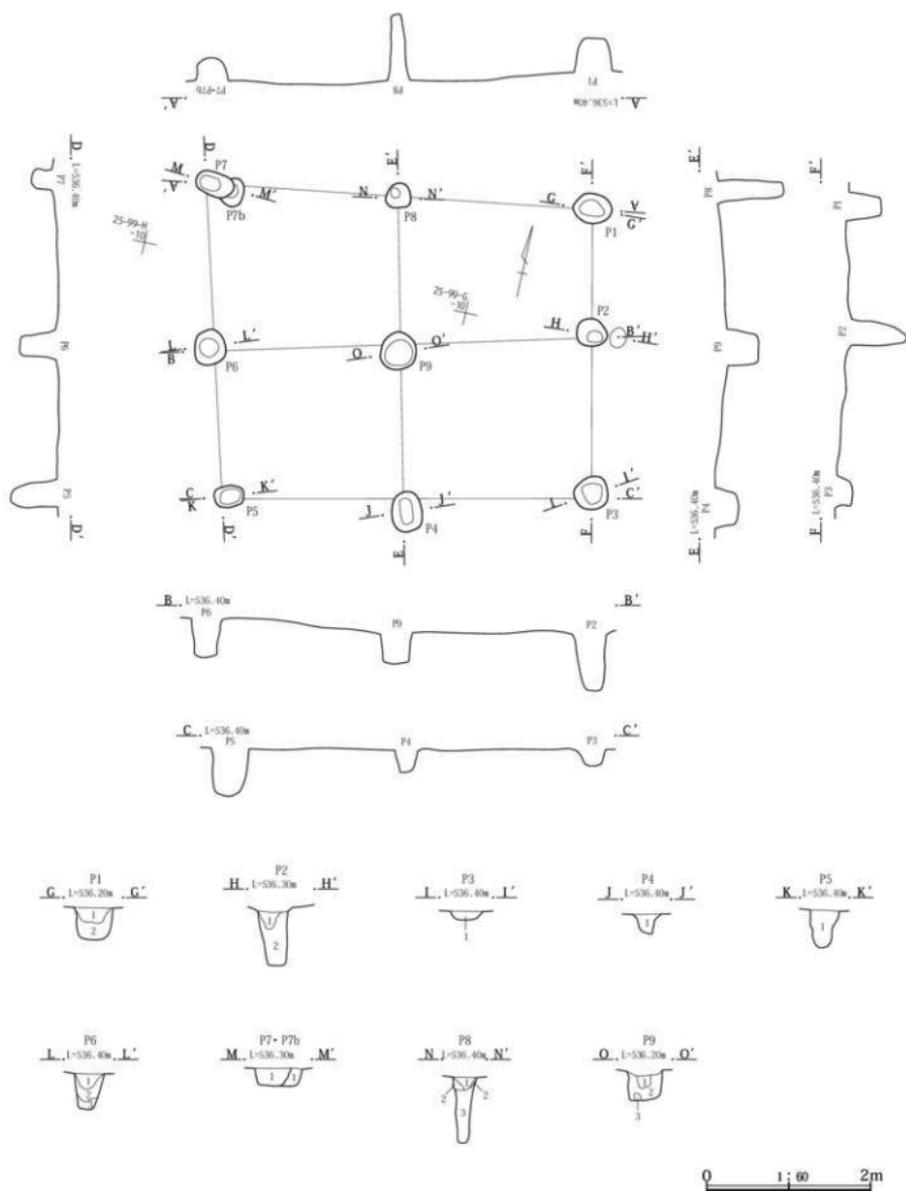




第97図 27号掘立柱建物

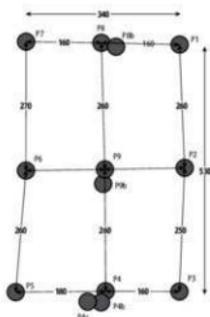


第98図 28号掘立柱建物

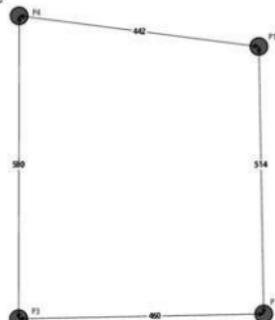


第99図 29号掘立柱建物

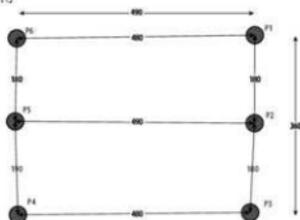
23号掘立柱建物



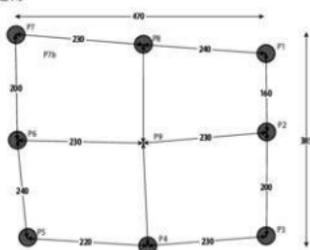
27号掘立柱建物



28号掘立柱建物



29号掘立柱建物



第100図 掘立柱建物柱穴配置模式図1

第5表 掘立柱建物柱穴計測表1

23号掘立柱建物

	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)
P1	32×28	54	535.98
P2	27×25	17	536.41
P3	42×40	27	536.37
P4	31×(22)	32	536.34
P5	34×32	39	536.24
P6	30×27	23	536.34
P7	44×35	43	536.08
P8	52×(36)	60	535.92
P9	40×(26)	32	536.26
P4b	(32)×32	37	536.27
P4c	33×32	43	536.20
P8b	48×40	66	535.89
P9b	42×40	45	536.13

27号掘立柱建物

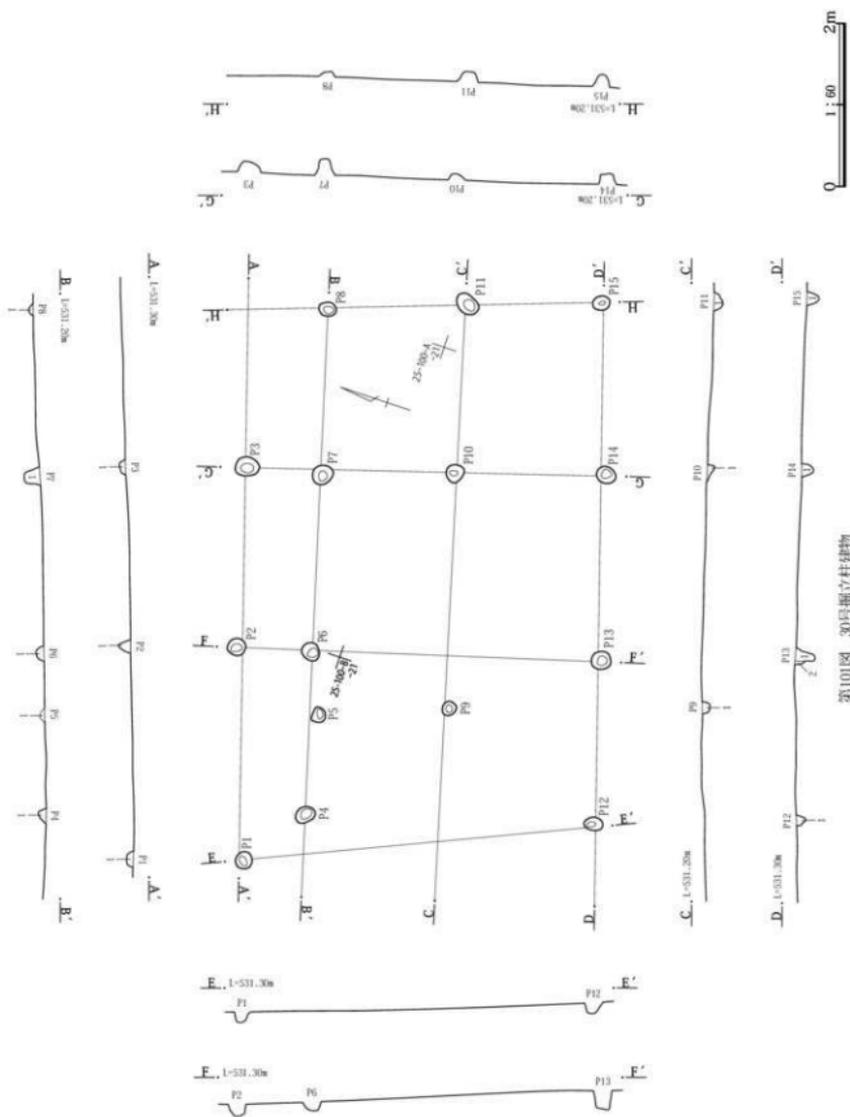
	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)	調査時名称
P1	70×68	40	536.54	1103号土坑
P2	72×62	38	536.68	1170号土坑
P3	70×67	36	536.72	1154号土坑
P4	54×53	26	536.64	1106号土坑

28号掘立柱建物

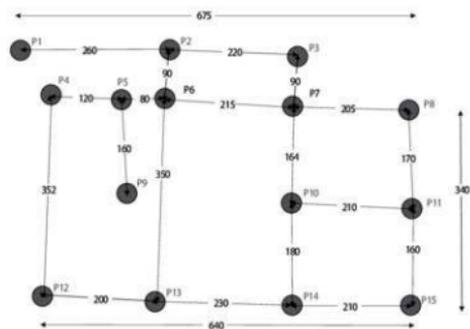
	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)	調査時名称
P1	55×40	32	536.28	1054号ビット
P2	54×48	35	536.31	1235号土坑
P3	42×(20)	21	536.52	1226号土坑
P4	50	54	536.32	1051号ビット
P5	42	23	536.54	1052号ビット
P6	42	29	536.40	1053号ビット

29号掘立柱建物

	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)	調査時名称
P1	48×36	39	535.69	1116号ビット
P2	24×18	52	535.37	1127号ビット
P3	40×40	44	535.79	1076号ビット
P4	48×36	23	536.00	1077号ビット
P5	36×26	45	535.79	1087号ビット
P6	40×36	45	535.79	1123号ビット
P7	48×28	21	535.99	1089号ビット
P8	30×28	81	535.38	1117号ビット
P9	40×42	37	535.70	1121号ビット
P7b	34×(25)	20	535.98	1090号ビット



第101図 30号掘立柱建物



第102図 掘立柱建物柱穴配置模式図2 30号掘立柱建物

第6表 掘立柱建物柱穴計測表2

30号掘立柱建物

	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)
P1	20	8	530.93
P2	22	15	530.83
P3	30×24	8	530.84
P4	25×18	9	530.94
P5	20	6	530.96
P6	22	10	530.91
P7	26×22	21	530.76
P8	22×16	6	530.82

	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)
P9	16	9	530.98
P10	24×22	8	530.93
P11	50×20	12	530.82
P12	23×16	12	531.01
P13	23	25	530.9
P14	23×20	14	530.92
P15	21×17	15	530.85

り、相互に関連を持つものである。24号・30号掘立柱建物は単独で立地する。上層の天明泥流下の遺構から見ると、屋敷群の東にやや外れた畑中にあたり、下層の平安時代竪穴建物群から見ると、東部の一群とほぼ重なる位置にある。遺跡西部の掘立柱建物群とは異なり、居住が継続していることがわかる。

なお、19号掘立柱建物は東端の掘立柱建物群北部にあり、前報告に記載すべきものが漏れたために、改めて採録する。また、発掘時には掘立柱建物として扱われていないが、編集時点で掘立柱建物の可能性が高いと思われたもの3棟について、項末に略述した。なお、この3棟については、全形を示す写真がない。

各柱穴の計測値及び柱間の計測値は模式図及び表に示した。各柱穴の径は確認面での上端径、柱間は柱穴間の芯々距離を示す。

## 2 掘立柱建物

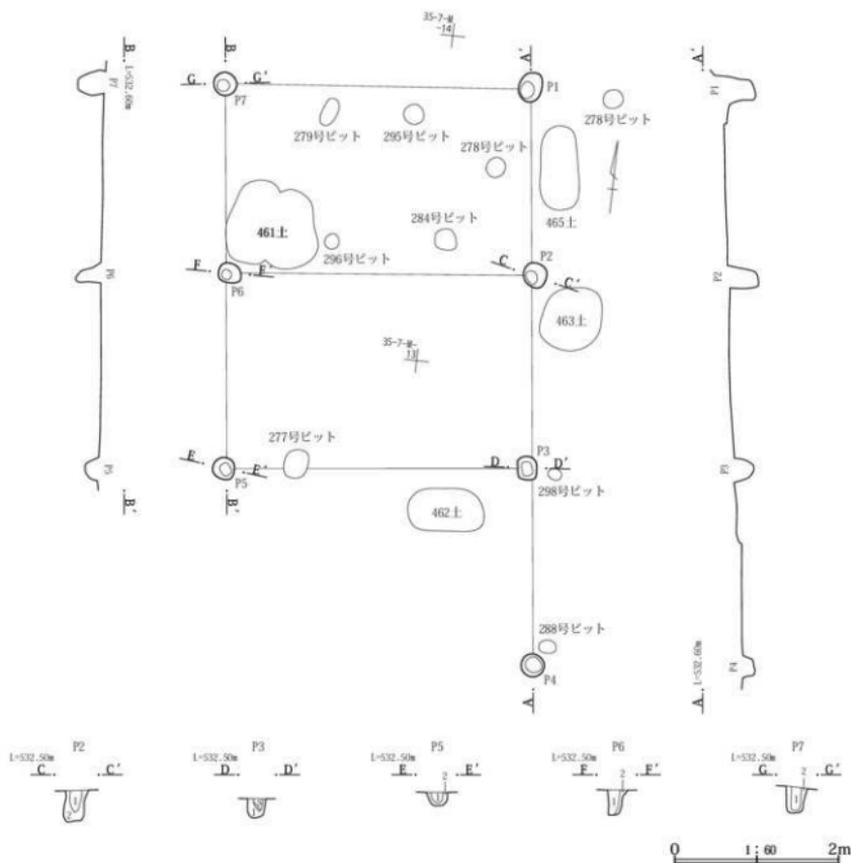
### (1) 23号掘立柱建物

25-99-J・K-10・11グリッド 確認面最高位標高536.66m、北向きに緩傾斜部にある。東南に9.5mほど離れて29号掘立柱建物がある。北東にビット群及び700・701号、782号土坑など円形、楕円形の平面形を呈する土坑があり、北西には692号～695号土坑など、細長い平面形の土坑がまとまる。南には小ビットのまとまりが見られる。

2間×2間の総柱建物で、東西3.4m、南北5.4m、長軸方位はN-7°～9°-W。西辺中柱のP6がやや東に入り、南辺が僅かに西に寄る。北辺のP1・P7・P8及び南西隅のP5が深く、他は比較的浅い。底面標高では、深く掘られたものほど低い値を示す。柱痕は認められていない。

### (2) 27号掘立柱建物

25-99-M・N-2・3グリッド 確認面最高位標高537.08m、北西向きに緩傾斜部にある。南東隅のP2が



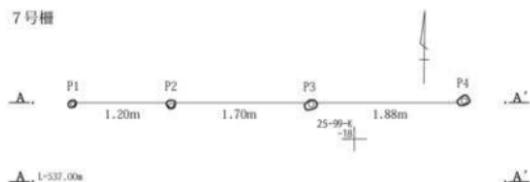
第7表 掘立柱建物柱穴計測表3

19号掘立柱建物

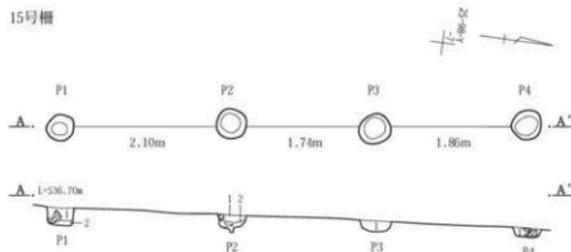
	径(cm)	深(m)	底部標高(m)	調査時名称
P1	36×28	36	531.94	286号ビット
P2	31×28	38	531.90	272号ビット
P3	28×23	24	531.96	276号ビット
P4	22×16	7	531.97	288号ビット
P5	29×27	17	532.10	281号ビット
P6	29×25	31	531.99	273号ビット
P7	29×28	33	532.01	280号ビット

第103図 19号掘立柱建物

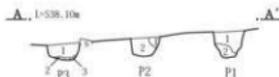
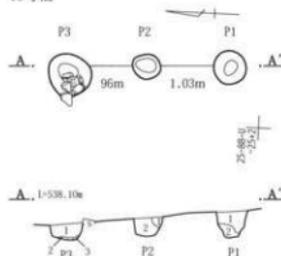
7号櫓



15号櫓



16号櫓



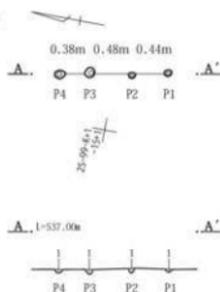
0 1:60 2m

第10図 櫓

第8表 櫓柱穴計測表

	7号櫓		
	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)
P1	10	20	536.24
P2	11	3	536.35
P3	17×11	22	536.12
P4	15×10	3	536.23

8号櫓



7号・8号櫓

- 1 暗褐色土 白色・褐色粒子を少量含む。黄褐色砂を含み、明るい部分もある。
- 2 黒褐色土 白色・褐色粒子を僅かに含む。1層に比して黒みが強い。

16号櫓

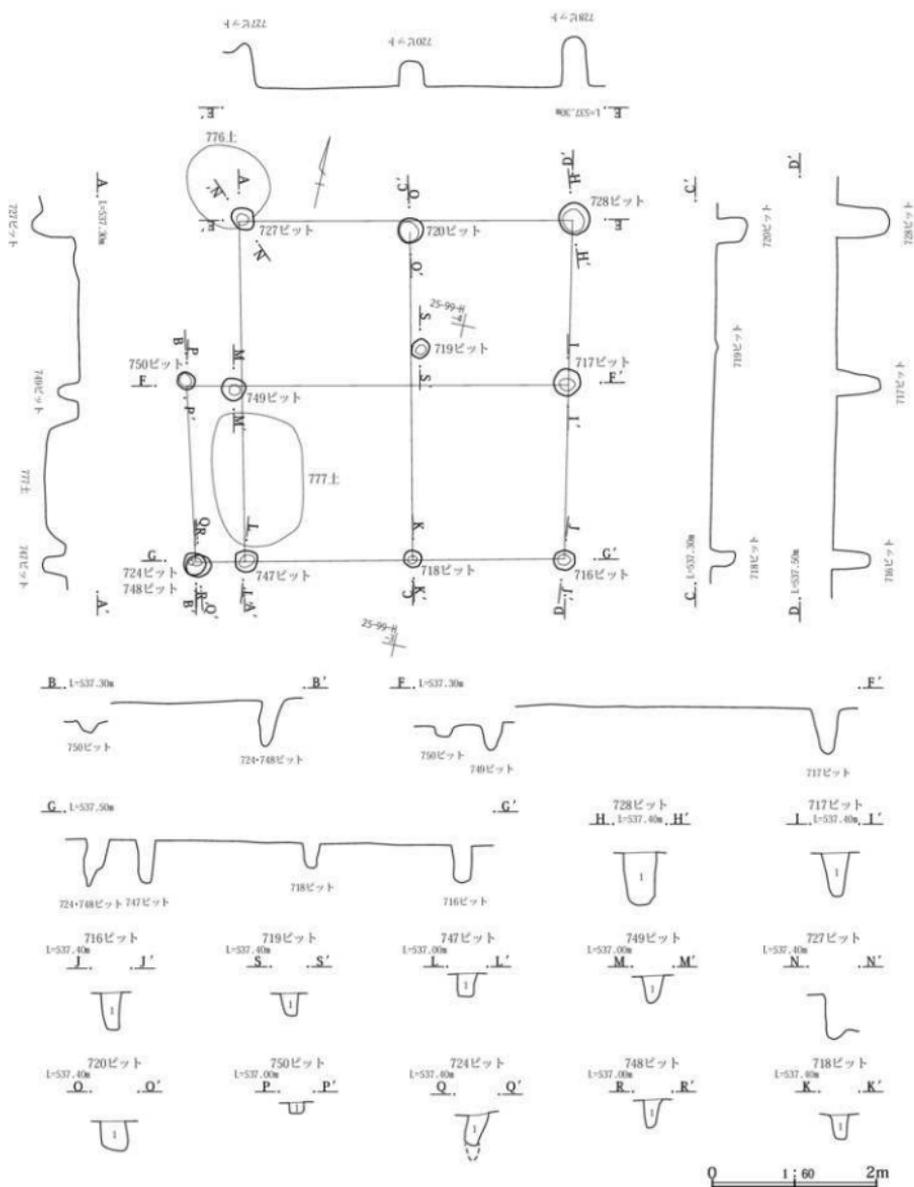
- P1
  - 1 10YR3/4 暗褐色土 2~3mmの礫を5%程含む。
  - 2 10YR3/4 暗褐色土 5~7mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂粒、3~5mmの炭化粒をごく僅かに含む。やや締まりなし。
- P2
  - 1 10YR3/4 暗褐色土 20~40mmの礫を非常に多く含む。
  - 2 10YR3/4 暗褐色土 3~10mmの礫を10%程まばらに含む。5mm程の炭化粒をごく僅かに含む。
- P3
  - 1 10YR2/3 黒褐色土 5~30mmの礫を5%程含む。
  - 2 10YR8/3 浅黄褐色砂礫 もろい部分と固い部分が混在する。

	8号櫓		
	径 (cm)	深 (cm)	底部標高 (m)
P1	8	4	536.5
P2	7	7	536.48
P3	12	6	536.47
P4	14×10	5	536.49

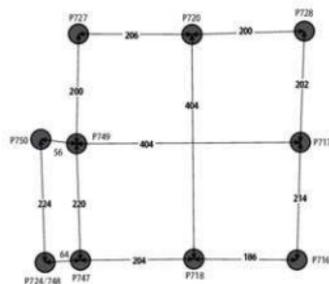
	15号櫓		
	径 (cm)	深 (cm)	底部標高 (m)
P1	33	23	536.34
P2	35	23	536.25
P3	39	15	536.26
P4	36	15	536.17

	16号櫓		
	径 (cm)	深 (cm)	底部標高 (m)
P1	52	18	537.6
P2	34	23	537.67
P3	39	35	537.62

第2章 発掘された遺構と遺物



第105図 掘立柱建物A



第106図 掘立柱建物A柱穴配置模式図

1168号土坑を切るが、周辺に同時期の遺構は希薄である。北東の23号掘立柱建物まで26m、東の28号掘立柱建物まで41m。東19mには、後述する掘立柱建物Aの想定位置がある。1間×1間の総柱建物で、東西4.42~4.6m、南北5.14~5.8m。東辺を上底とする台形に近い平面形を呈する。長軸方位はN-8~10°-Wを示す。当初はそれぞれが独立した土坑として発掘されており、発掘過程で掘立柱建物へと判断が変更されている。各柱穴は比較的大きく、断面形は幅広の鍋状に近いものが多い。覆土に関する記載を欠くが、写真記録から見ると、柱穴ごとに様相が異なる。P1は下層がばげけたローム珪を含む暗褐色土、上層は多量のロームブロックと焼土小ブロックの混土を主体とする褐色土ロームブロックで埋められる。P2は小礫を含む暗褐色土らしい。P3は小礫を含む暗褐色~にぶい黄褐色土と見られ、下にローム粒を多く含む。P4は礫混じりの黒褐色土が主体で、底面に平坦な礫を伴う。いずれも柱痕は認められておらず、単独の土坑とした当初の判断を支持したい。

### (3) 28号掘立柱建物

25-99-B・C-3・4グリッド 確認面最高位標高536.84m、北東向きの緩傾斜部にある。北東に1217号・1218号の円形土坑、西に接するようにP1050などの小ピットが小さく纏まる。南側には建物の軸に近い北西-南東方向に長軸を持つ幅の狭い長方形土坑が多く認められる。北西の29号掘立柱建物まで21m、西の27号掘立柱建物まで41mある。また、掘立柱建物Bが西5mにある。天明泥流下面では23号建物の東に隣接する位置に当たる。2間×1間の東西棟の側柱建物で、棟方向は

第9表 掘立柱建物A柱穴計測表

	掘立柱建物A		
	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)
P728	39×37	64	536.41
P717	34×33	53	536.52
P716	27×25	46	536.64
P718	22×20	31	536.82
P747	25	31	536.62
P749	28	35	536.55
P727	31×27	55	536.50
P720	32×30	35	536.69
P750	20	15	536.75
P724/748	36×26	61	536.58

N-84°-E。東西4.8~4.9m、南北3.6~3.7m。おおよそ整った長方形の平面形を呈する。各柱穴はほぼ円形の平面形で、断面形はやや深い椀状から鍋状。P1・2・4が深く、特にP4は高位置にあって深く掘り込まれ、底部標高がP1・2に近い。覆土に関する記載を欠く。柱痕は認められていない。

### (4) 29号掘立柱建物

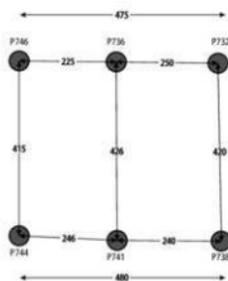
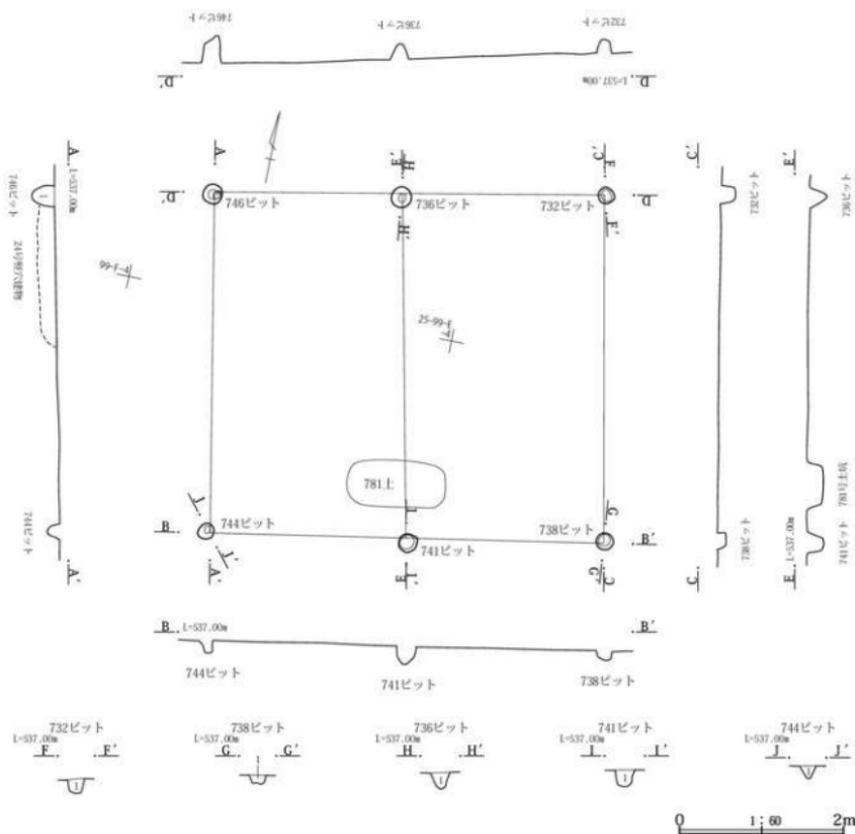
25-99-F・G-9・10グリッド 確認面最高位標高536.25m。北向きの緩傾斜部にある。北西に9.5mほど離れて23号掘立柱建物があり、その間に62号焼土、703~705号ピットなどがあるが、同時期の遺構は乏しい。2間×2間の総柱建物で、東西4.5~4.7m、南北では西辺が長く3.85m、東辺が3.6m。東辺を上底とする台形に近い平面形を呈する。棟方向はN-80°-E。P2・3・5・6・8が特に深い。覆土に関する記載を欠く。柱痕は認められていない。

### (5) 30号掘立柱建物

25-99・100-Y~B-20・21グリッド 確認面最高位標高531.12m。下位段丘西端近くの北東向き傾斜部にある。下位段丘では唯一の掘立柱建物である。孤立的にあって、周辺には同時期の遺構は全くない。土層断面図の採取状況を見ると、P6-8-15-13で、西辺の中柱を欠く2間×2間の母屋を基本として、これにP1-2-13-12及びP2-3-6-7が付属する構造が考えられていたらしい。東西6.4m、南北4.4mほどの規模となる。棟方向はN-74°-E。

ピットの配置からは、P8-15-12-4を隅柱とする2間×3間の母屋にP1-3が付属する形態も想定されよ

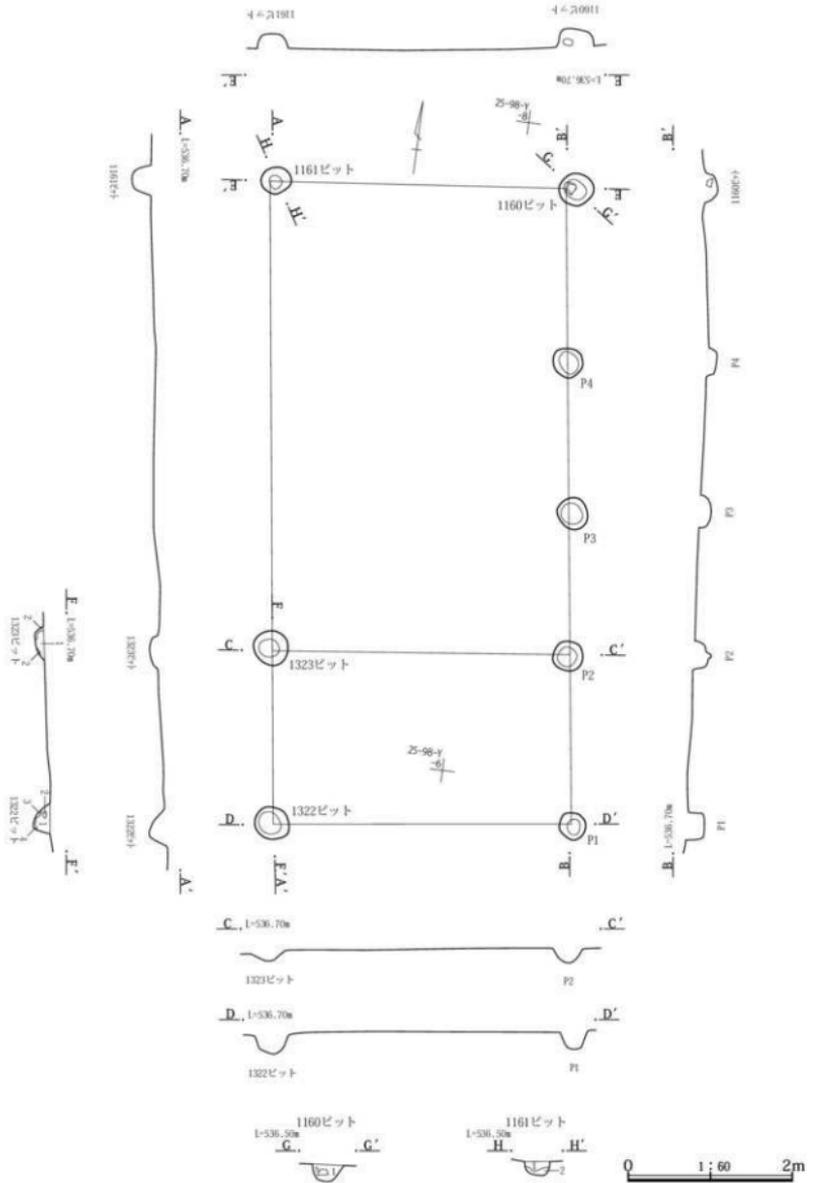
## 第2章 発掘された遺構と遺物



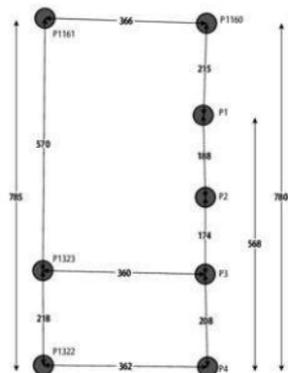
第107図 掘立柱建物B

第10表 掘立柱建物B柱穴計測表

	掘立柱建物B		
	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)
P732	20	19	536.54
P738	20	11	536.66
P741	24×22	22	536.61
P744	20×18	17	536.74
P746	23	34	536.50
P736	24×23	22	536.58



第108図 掘立柱建物C



第109図 掘立柱建物C 柱穴配置模式図

う。この場合、母屋の規模は、東西6.4m、南北3.5mほどとなる。しかし、P11がやや大きいものの、各ピット共に覆土に関する記載を欠くが、小規模で浅いものであり、柱痕も認められていない。いずれも柱穴としての確証に欠ける。

#### (6) 19号掘立柱建物

35-7-L・M-12・13グリッド 確認面最高位標高532.27m。遺跡西部北端の土坑、ピット集中部分にあたる。南に10～13号掘立柱建物、1号柵などがあり、13号掘立柱建物までは1.7mほどしかない。北辺は調査区外になるが、1間×3間の側柱建物で、東西3.7m、南北7m以上の南北棟と想定される。長軸方位はN-8°-W。各柱穴は径30cm内外。P4は浅いが、底面標高は他と大差なく、比較的揃っている。断面は深いU字状ないし椀状で、覆土は黄橙色土粒を含む黒褐色土。P2・5・7では、黒色の柱痕が認められている。

### 3 柵

#### (1) 7号柵

25-99-J・K-18グリッド 確認面最高位標高536.44m、北東向き斜面にある。4区画畑の北に当たり、遺構密度は低い。上下両面でも遺構が乏しい場所である。南に680号～682号土坑が並ぶが、いずれも深さ4～7cmと浅いものである。南10mほどに8号柵があるが、方向を異にし、関連性は把握できない。等高線と強く斜行するように、4.78m間に4基のピットが並ぶ。方位はN-90°と東西を示す。各ピットは径10cmほどと小さく、P1・

第11表 掘立柱建物C 柱穴計測表

	掘立柱建物C		
	径(cm)	深(cm)	底部標高(m)
15号柵P1	33	23	536.34
15号柵P2	35	23	536.25
15号柵P3	39	15	536.26
15号柵P4	36	15	536.17
P1160	40×38	17	536.13
P1161	36×32	17	536.20
P1322	42	23	536.29
P1323	42	13	536.32

3は20cmほどの深さがあるが、P2・4はごく浅い。微弱な痕跡である。覆土は暗褐色土を主体とする。

#### (2) 8号柵

25-99-K-15グリッド 確認面最高位標高536.55m。北東向き斜面にある。北10mほどに7号柵があるが、同時期の遺構も、上下両面の遺構も乏しい場所にある。等高線と斜行するように、1.3m間に4基のピットが並ぶ。方位はN-11°-Wで、南北方向に近い。各ピットは径10cm前後とごく小さく、深さも10cmに満たない。非常に微弱な痕跡である。覆土は暗褐色土を主体とする。柱痕は認められていない。

#### (3) 15号柵

25-98-X-5～7グリッド 確認面最高位標高536.57m。北向き斜面にある。東から南にかけて土坑やピットが多い。西3.6mに1322号、1323号ピットが並列し、8mほど離れて28号掘立柱建物がある。上位面では第10区画の畑中あたり、下位面では54号、110号竪穴建物が近接する。等高線と直行するように、5.75m間に4基の柱穴が並ぶ。方位はN-7°-W。各柱穴は円形の平面形で、断面形は鍋状ないし椀状。P3・P4が浅いが、底部レベルは相応に低位にある。覆土に関する記載を欠くが、柱痕は認められていない。P4以北は調査区界となる。北に接する調査区ではこの柵の延長線上に乗るP1160などを確認しており、これらを含めて、後述の掘立柱建物Cを想定する。

## (4)16号柵

25・88・98-T-25・1グリッド 確認面最高位標高537.97m。北西向き斜面にある。発掘区南端近くに当たり、東側には1284号、1285号ピットが近接し、西側、北側もやや離れるが土坑、ピットがある。天明泥流下面では10区画の畑中にあたり、古代相当面では103号壑穴建物に北に近接する位置にある。等高線とやや斜行して、およそ2m間に3基の柱穴が並ぶ。方位はN-3°-W。各柱穴は円形の平面形で、断面形はやや深い鍋状。土層断面図と観察所見が整合しない部分があるが、P1・2は暗褐色土を主体とし、P3は黒褐色土を主体とする。柱痕は認められていない。P1の上面には礫がまともである。

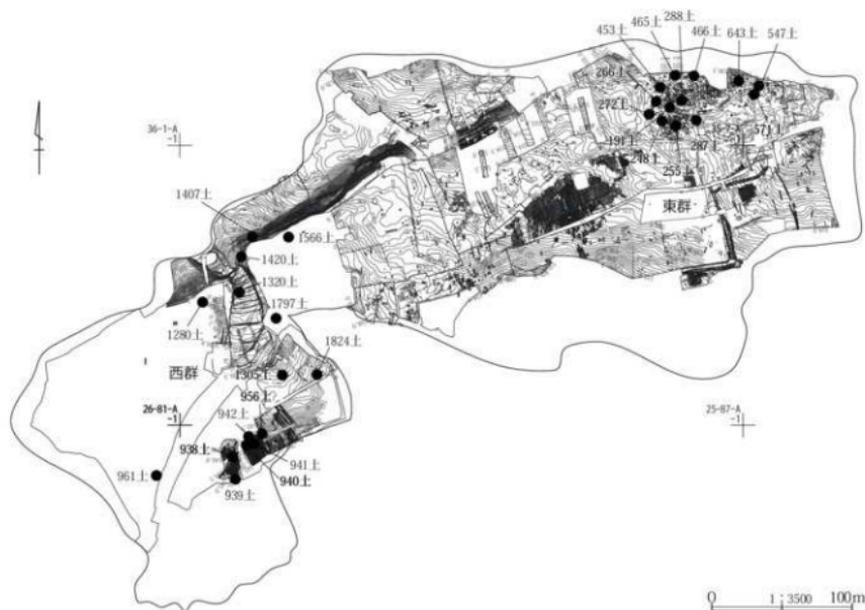
## 4 掘立柱建物が想定されるピット群

ここでは、発掘時点においては掘立柱建物と判断されていないものの、報告書編集時点で、隣接区や下面の発掘時に確認されたピットを組み合わせることにより、掘立柱建物の可能性が高いと判断されたものについて略述

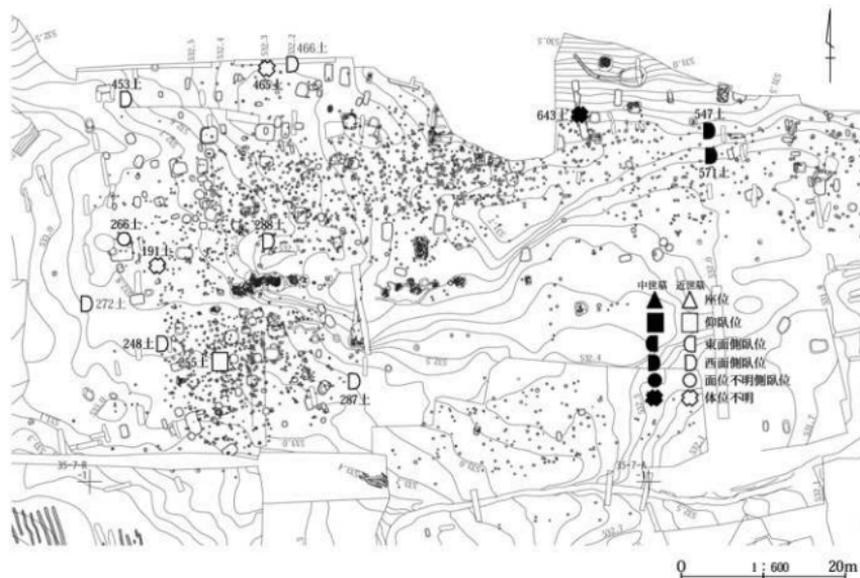
する。掘立柱建物Aは西辺を除く3辺を構成するピットについて、連続する高低図が採取されていて、発掘時にも掘立柱建物の可能性が考えられていたものである。同Bは4辺ともに掘立柱建物同様の高低図採取がなされているが、掘立柱建物とはされなかった。同Cは15号柵として記録されたものであるが、隣接区で認められたピットとの組み合わせにより掘立柱建物を想定したものである。

## (1)掘立柱建物A

25-99-G・H-3・4グリッド 確認面最高位537.19m。北向き緩傾斜部にある。27号掘立柱建物と28号掘立柱建物の中間近くに位置する。東に40号土坑、北に776号土坑がある。777号土坑と重複する。平安時代面発掘時に確認されたP747～750が他と同一の覆土であるため、これを含めて掘立柱建物が構成されるものとした。なお、P724とP748は同一の柱穴である。2間×2間の母屋の西南1間分に張り出し状の施設があるものと想定する。東西3.9～4.06m、南北4.16～4.2m。南辺がやや



第110図 墓坑の位置



第111図 墓坑東群

短い、ほぼ正方形の平面形で、長軸の方位は $N-11^{\circ}-W$ を示す。各柱穴はほぼ円形の平面形で、断面形はやや深いU字状。P727・728は覆土の記載を欠くが、他は内部の719号ピットを含めて、黒灰色土と淡灰褐色土の混土で、炭化物を含む。

## (2) 掘立柱建物B

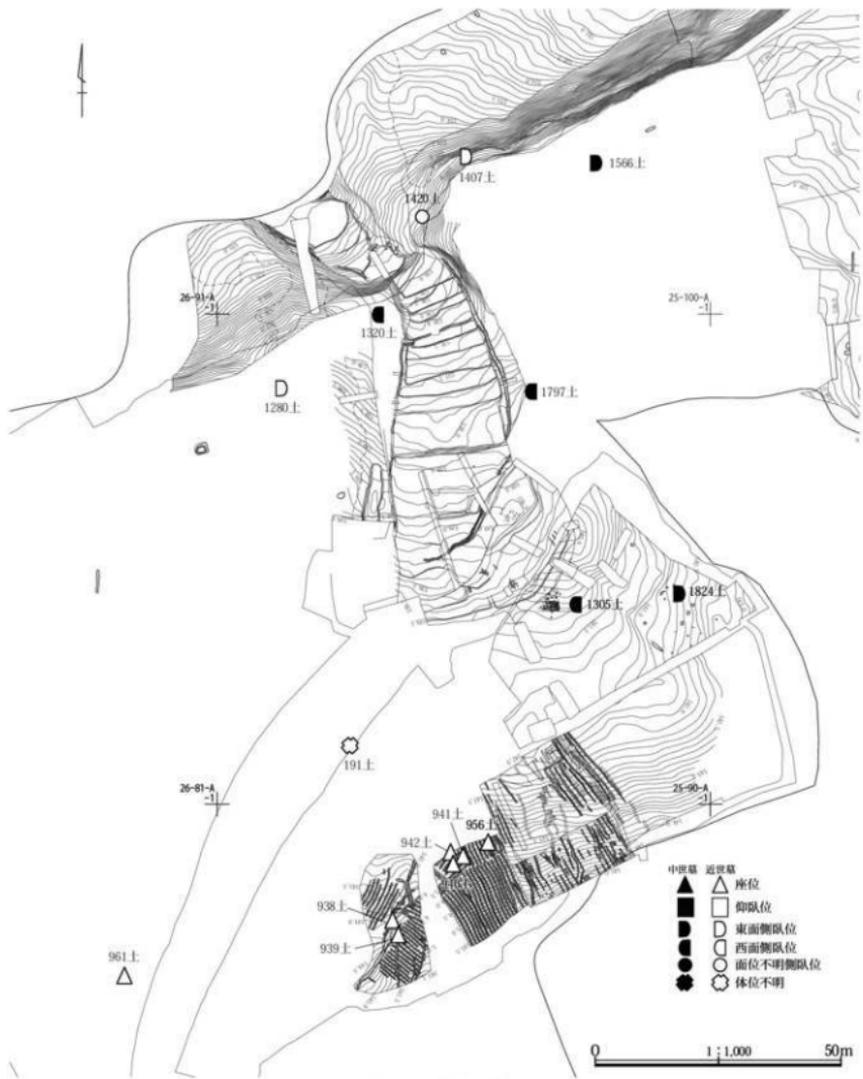
25-99-D・E-3・4グリッド 確認面最高位標高536.90m。掘立柱建物Aと28号掘立柱建物の中間近くに位置する。土坑、ピットが比較的多い場所で、781号土坑と重複する。P746は平安時代の24号竪穴建物を切る。平安時代面発掘時に確認されており、掘立柱建物同様の高低図が採取されているが、掘立柱建物としては扱われていない。掘立柱建物Aと同様の柱穴覆土であることから、両者が同時存在した可能性が高いものと判断した。2間×1間の側柱建物で、東西4.75～4.86m、南北4.15～4.26m。棟方向は $N-72\sim 80^{\circ}-E$ 。各柱穴は円形の平面形を呈し、断面形はU字状。覆土は黒灰色土と淡灰褐色土の混土で、炭化物を含む。

## (3) 掘立柱建物C

25-98-X・Y-5～7グリッド 確認面最高位標高536.57m。15号柵の北に、平安時代相当面発掘時に確認されたP1160が、同柵の延長上においてP1-P2間と近い柱間を持つことから、これと一連のものと考えた。またP1161はP1322-1323の延長上に当たり、P1160と対応する位置にある。P1160・1161・1322・1323は、ともに黒褐色土を覆土とする。これらにより、4間×1間の側柱建物として想定した。南北7.8m、東西3.6mの細長い南北棟で、棟方向は $N-7^{\circ}-W$ 。各柱穴は円形の平面形で断面形は椀状、柱痕は認められていない。

## 第5項 墓坑

本項では土坑として調査された遺構のうち、人骨が出土している等により墓坑である事が明確な15基を扱う。中・近世の所産であるが、発掘面は2面から5面の各面にわたっており、発掘面と帰属すべき時代が必ずしも一致しない。このため、副葬品や覆土の観察所見等により



第2章 発掘された遺構と遺物

938・939号土坑



938号土坑



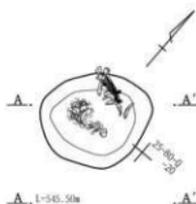
25-90-0  
-19m

939号土坑

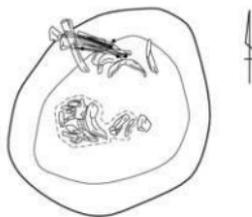


0 1:60 2m

938号土坑



A. 1-56.50m

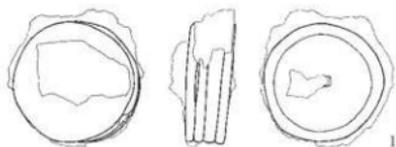


938号土坑

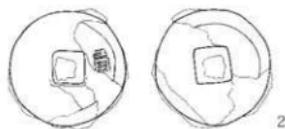
1 10YR3/3 暗褐色土 5~20mmの礫を多く含む。

0 1:40 1m

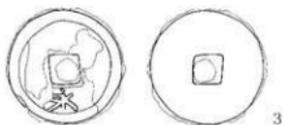
0 1:20 50cm



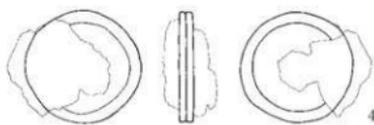
1



2



3



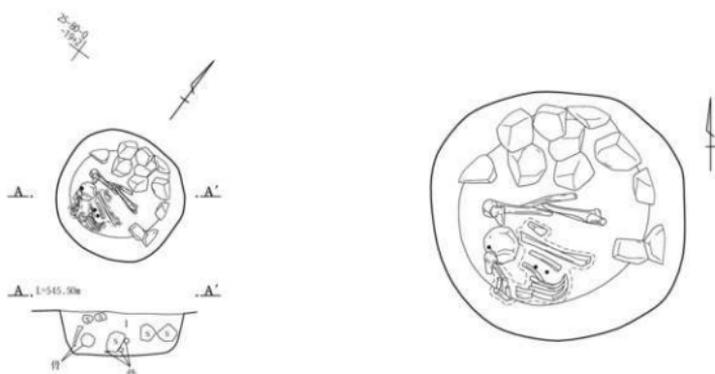
4

938号土坑出土遺物

0 1:1 2cm

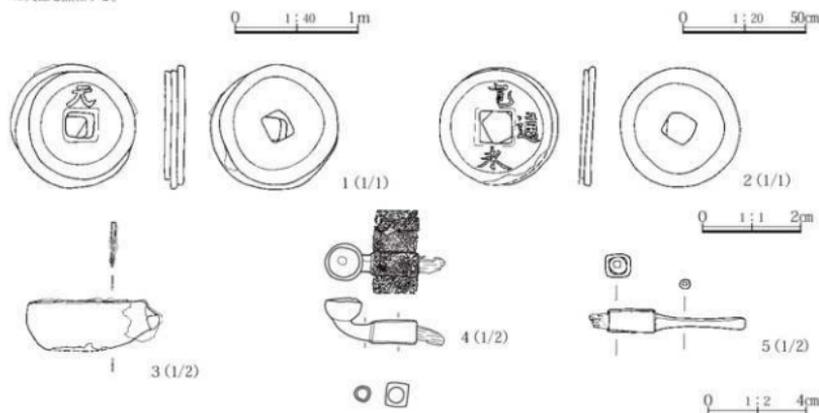
第113図 墓坑1(938号・939号土坑)

## 939号土坑



## 939号土坑

1 10YR2/1 黒色土 5~20mm程の礫を多く含む。60mm~100mm程の大礫も点在する。



第114図 墓坑2(939号土坑)

時期判定を行って、近世期に属すると考えられるものを前段で、中世に属すると考えられるものを後段で扱った。

前報告では、本遺跡東部に集中する12基の墓坑(以下「東群」)の記載を行った。東群は東に寺院があるものの、天明泥流下では畑となっている場所で、家屋敷の集中部とはかなり離れている。掘立柱建物など一段階古い時期の遺構が周囲に多く認められる地域にあって、比較的密集度が高い状態で営まれている。本報告では遺跡西部の墓坑群(以下「西群」)について記載する。天明泥流下では家屋敷が多く認められる地域に当たる。墓坑のあり方は、

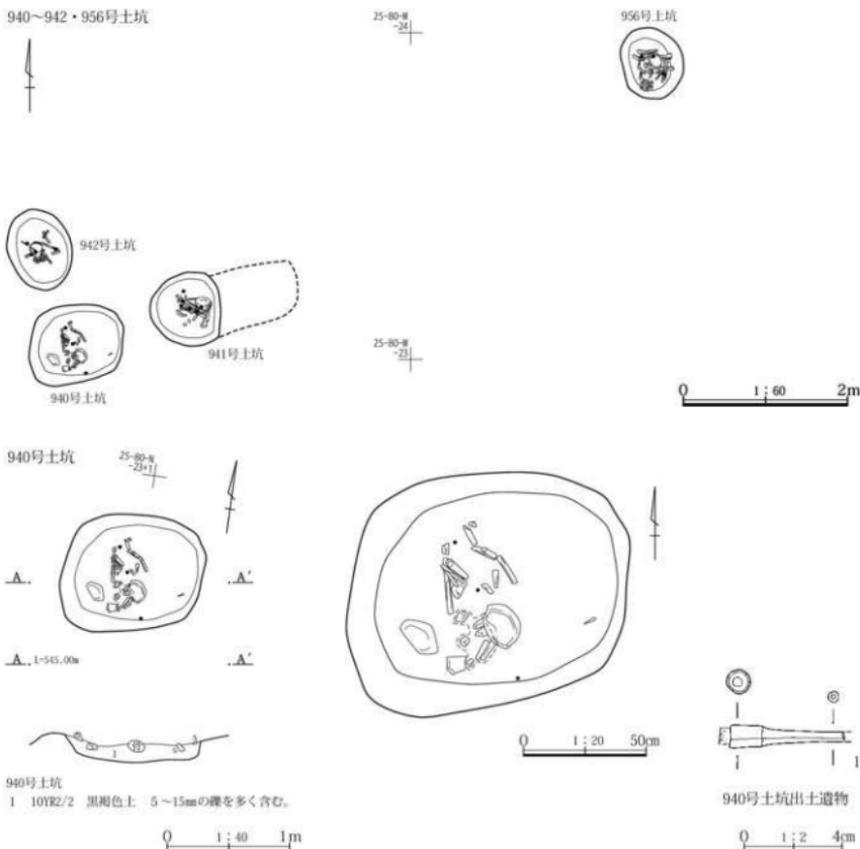
東群に比すると散在的であって、両者間で墓域への意識が異なることが観取される。

東西両群共に中世墓と近世墓があり、中世墓が群内の東側にある傾向が認められる。標準とされた掃属面からすると、近世墓は3面に、中世墓は4面に属するものであり、その間には洪水あるいは斜面崩壊による堆積物が介在するはずである。中世墓を覆うような土砂堆積があって、墓地の立地が変化したものかもしれない。

埋葬体位は側臥位が主で、頭位を北に置き、左腕側を下にして東面する体位での埋葬が多数を占める。東群で

第2章 発掘された遺構と遺物

940~942・956号土坑



第115図 墓坑3 (940~942号・956号土坑)

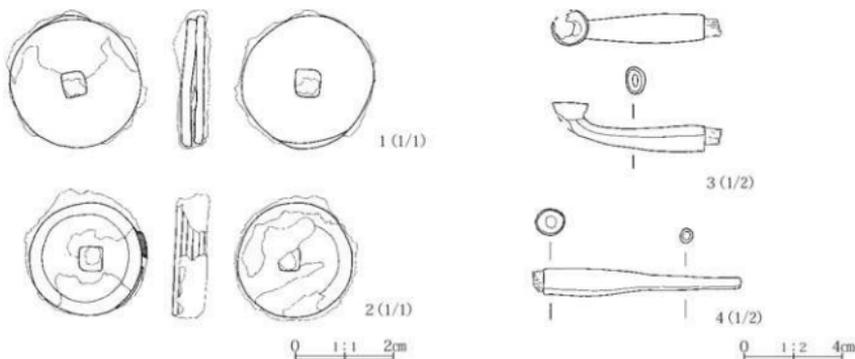
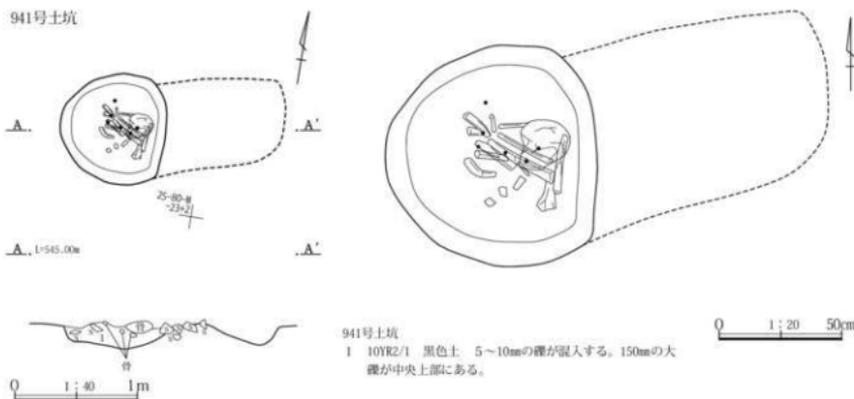
は仰臥位が1体ある。西群では右腕側を下にして西面するものが3体、座位のものが7体ある。座位のものは近世期に限られ、かつ南西部に集中して営まれていて、他の埋葬位位の墓坑とは独立した集団をなすかに見える。

なお、本項にかかる人骨の形質人類学・骨学的記載は新潟医療福祉大学リハビリテーション学部教授奈良貴史氏に依頼して行っており、この成果は第3章第3節に掲載した。

**938号土坑** 25-80-Q-19・20グリッド 確認面最高位標高545.06m。遺跡西南部の発掘区界近くにある。上位段

丘南辺に近く、北向き傾斜面に立地する。南東1.08mに939号土坑があり、北東9mほどに940号~942号土坑がある。天明泥流下面では第5区画1号ヤックラの東辺北部に当たる。近世相当面では畑を切る状態にある。長軸長90cm、短軸長78cm、長軸方位N-34°-E。平面形は北東-南西方向がやや長いゆがんだ円形。掘り方は隅丸方形に近い。深さ16cmで、断面は浅い鍋状。覆土は礫を多く含む暗褐色土で、上位にやや大ぶりの垂角礫に乗る。人骨の残りはさほど良くないが各部位の骨が残る。頭骨が墓坑のほぼ中央にあり、脚の骨が北部にあることから、

941号土坑



第116図 墓坑4(941号土坑)

北面した座位の姿勢で埋葬されたものと思われる。壮年の女性と推定される。銭が重なった状態で出土している。近世。

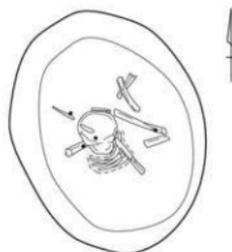
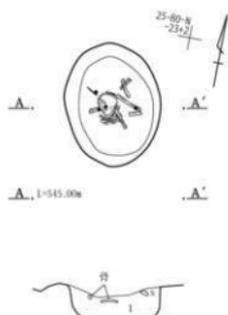
**939号土坑** 25-80-P-19グリッド 確認面最高位標高545.43m。遺跡西南部の発掘区界近くにある。上位段丘南辺に近く、北向き傾斜面に立地する。北西1.08mに938号土坑がある。天明泥流下面では1号ヤックラの東辺中部に当たる。長軸長109cm、短軸長104cm、長軸方位N-49°-W。平面形は北東-南西方向がやや長いゆがんだ円形。掘り方は隅丸方形に近い。北部に礫が集中する。深さ42cmで、断面は深い鍋状。覆土は礫を多く含む黒色

土。人骨の残りはさほど良くないが各部位の骨が残る。土坑の南西部に頭骨があり、その北に足骨が揃った状態にあることから、北面した座位屈葬で埋葬したものと思われる。壮年期後半の男性と推定される。銅銭、煙管、雁首・吸口が出土している。近世。

**940号土坑** 25-80-M・N-22・23グリッド 確認面最高位標高544.46m。941号、942号土坑と共に遺跡西南部にある。上位段丘南部の、北向き傾斜面に立地する。東の941号土坑まで18cm、北の942号土坑までは10cmほどしかない。南西方向に9~9.5mほど離れて、938号、939号土坑がある。天明泥流下面では6区画にあって14号道と

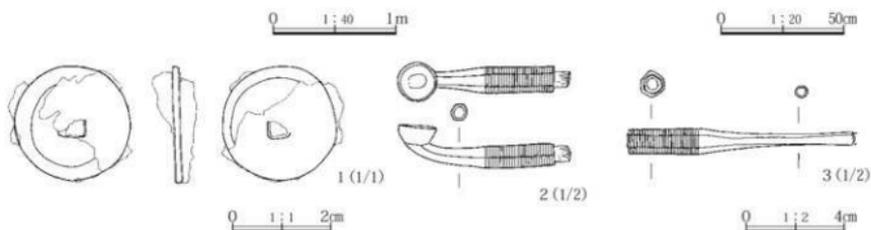
第2章 発掘された遺構と遺物

942号土坑

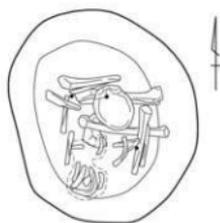
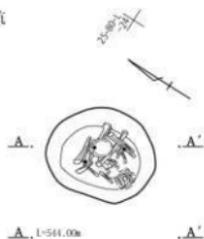


942号土坑

1 10YR2/1 黒色土 東側は30~50mm、西側は5~10mmの礫を多く含む。



956号土坑



0 1:40 1m

0 1:20 50cm



0 1:2 4cm

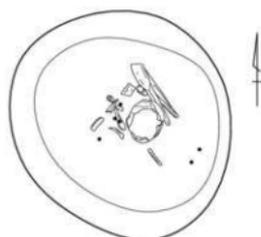
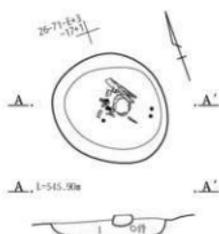
第117図 墓坑5 (942号・956号土坑)

15号道の交点の北東側にあたる。近世相当面では畑を切る状態にある。長軸長119cm、短軸長115cm、長軸方位N-75°-E。平面形は東西に長いゆがんだ長円形ないし隅丸長方形に近い。深さ27cmで、断面は鋼状。覆土は礫を多く含む黒褐色土。中央南部に頭骨があり、その北に

足骨があることから、北面した座位屈葬で葬られたものと思われる。性別は判定できないが、壮年の人物と推定される。漆片、煙管、釘が出土している。近世。

941号土坑 25-80-M-23グリッド 確認面最高位標高544.45m。941号、942号土坑と共に遺跡西南部にある。

961号土坑

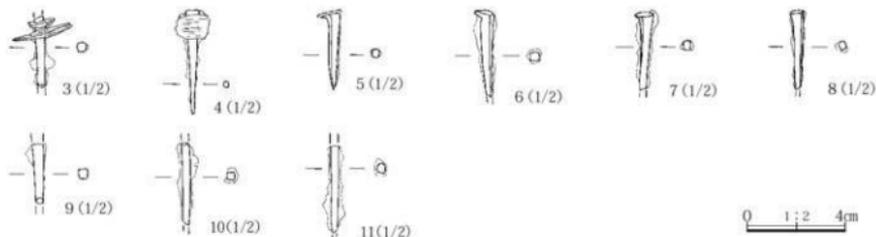
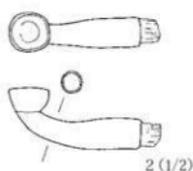
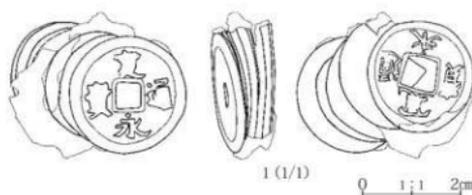


961号土坑

1 10YR2/1 黒色土 東側には30~50mmの中礫、西側は5~10mmの礫を多く含む。

0 1:40 1m

0 1:20 50m



第118図 墓坑6 (961号土坑)

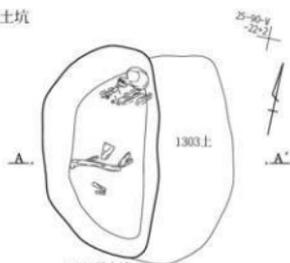
上位段丘南部の、北向き傾斜面に立地する。西の940号土坑まで18cm、北西の942号土坑までは120cm、東の956号土坑までは6mほどある。天明泥流下面では第6区画にあって、14号道と15号道の交点の北東側で、15号道の北に接する位置にあたる。近世相当面では畑を切る状態にある。長軸長92cm、短軸長88cm、長軸方位N-30°-W。平面形はゆがんだ円形。東辺がやや直線のだが、下位の知敷間溝の影響を受けたものかもしれない。深さ21cmで、断面は底部が波打つが、鍋状に近い。覆土は礫を多く含む黒色土で、中央上部にやや大型の礫が乗る。土坑東部に頭骨がありその西に四肢骨が認められることから、西面した座位屈葬で葬られたものかと思われる。熟年以上

の男性と推定される。重なった状態の銭と煙管が出土している。近世。

**942号土坑** 25-80-N-23グリッド 確認面最高位標高544.25m。940号、941号土坑と共に遺跡西南部にある。上位段丘南部の、北向き傾斜面に立地する。南の940号土坑まで10cmほどしかない。南東の941号土坑までは120cmほど。天明泥流下面では第6区画にあって14号道と15号道の交点の北東側で、14号道の東にはほぼ接する位置にあたる。近世相当面では畑を切る状態にある。長軸長101cm、短軸長77cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北に長い長円形。深さ28cmで、断面は深い鍋状。覆土は礫を含む黒色土。土坑中央近くに頭骨があり、椎骨、肋

第2章 発掘された遺構と遺物

1280号土坑



1280号土坑

1:538.80m



1280号土坑

1 10YR2/2 黒褐色土 50mm程の礫をまばらに含む。人骨を含む。

0 1:40 1m



0 1:20 50m

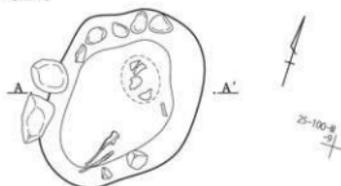


1280号土坑出土遺物

0 1:1 2cm



1407号土坑



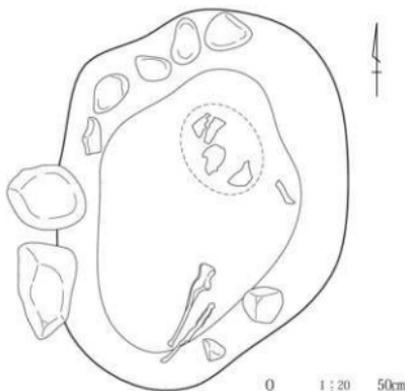
1:536.20m



1407号土坑

1 10YR3/2 黒褐色土 大小の褐色砂質土ブロックを多く含む。締めりあり。

0 1:40 1m



0 1:20 50m

第119図 墓坑7 (1280号・1407号土坑)

1420号土坑

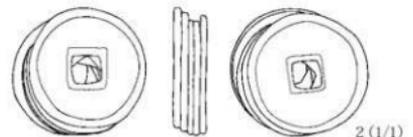
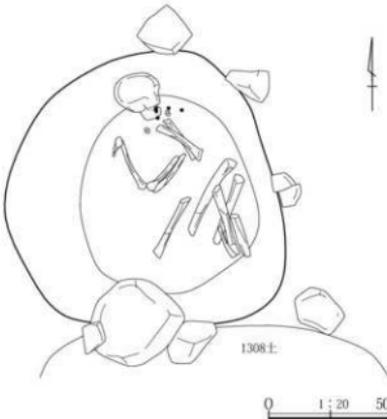
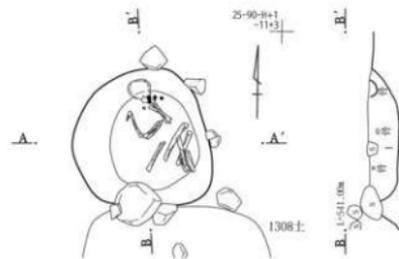
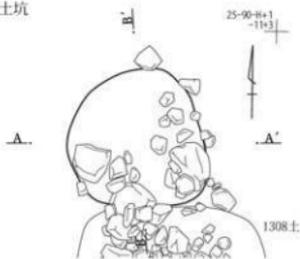


1420号土坑

- 1 10YR3/2 黒褐色土 20~50mmの礫を少量含む。  
2 10YR3/4 暗褐色土 50~200mmの礫を多く含む。



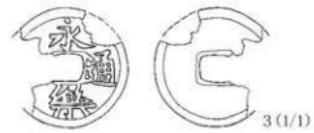
1305号土坑



2 (1/1)



1 (1/4)

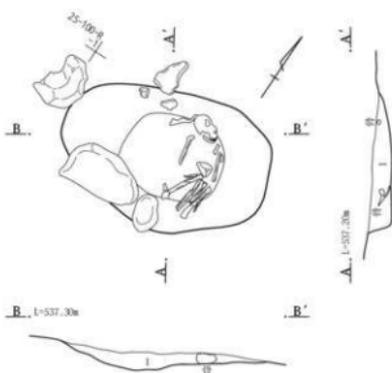


3 (1/1)

第120図 墓坑8 (1420号・1305号土坑)

第2章 発掘された遺構と遺物

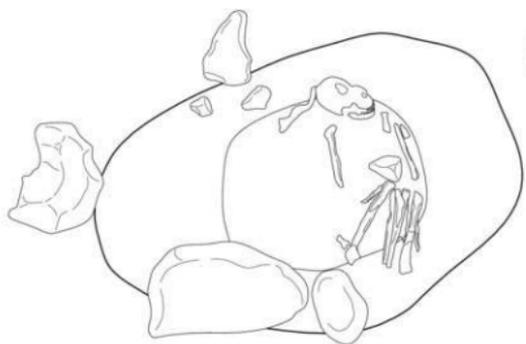
1320号土坑



1320号土坑

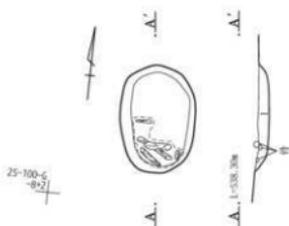
- 1 10YR2/2 黒褐色土 5～10mmの礫や5～7mmの炭化物を僅かに含む。20～60mmの礫を所々に含む。

0 1:40 1m



0 1:20 50cm

1566号土坑



1566号土坑

- 1 黒褐色土 小礫を含む。やや粗粒。粘性は弱い。

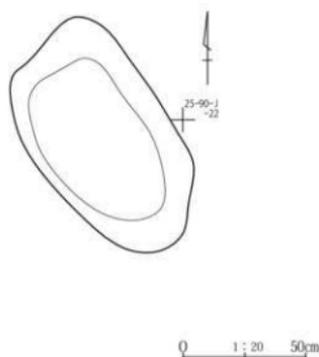
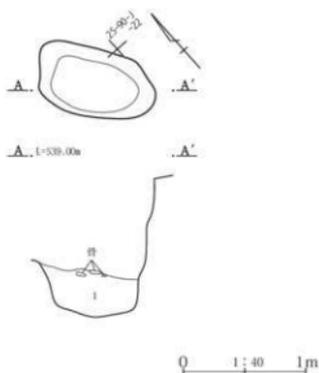
0 1:40 1m



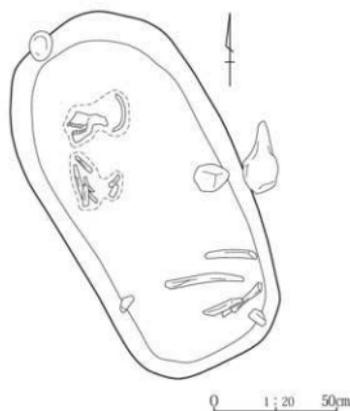
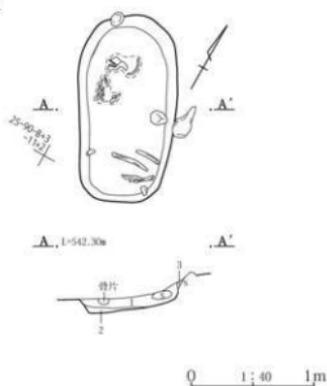
0 1:20 50cm

第121図 墓坑9(1320号・1566号土坑)

1797号土坑



1824号土坑



第122図 墓坑10(1797号・1824号土坑)

骨がその直下にある。四肢骨が頭骨の北東側にあるところから見て、北面あるいは東面した座位屈葬で葬られたものと思われる。10歳前後の男児と推定される。銭や煙管、釘が出土している。近世。

**956号土坑** 25-80-L-23・24グリッド 確認面最高位標高543.52m。遺跡西南部にある。上位段丘南部の、北向き傾斜面に立地する。西の941号土坑まで6mほどある。2面では6区画にあって15号道の北にあたる。近世相当面では畑が連続する位置にあるが、周囲が攪乱されており、直接的な切り合い関係は捉えられない。形状や葬法が上記各墓と類似するため、本土坑も畑の上位にあ

るものと思われる。長軸長90cm、短軸長74cm、長軸方位N-26°-W。平面形は南北にやや長いゆがんだ長円形。掘り方では隅丸長方形を呈する。深さ25cmで、断面は鍋状。覆土に関する記載を欠く。土坑中央近くに頭骨があり、その直下に四肢骨があって、肋骨は南部に寄る。北面した膝立ちの座位屈葬で葬られたものと思われる。熟年以上の男性と推定される。木質を伴う釘が出土している。

**961号土坑** 26-71-E-16・17グリッド 確認面最高位標高545.68m。遺跡西南端近くにある。上位段丘南部の、北向き緩傾斜面に立地する。周囲には同面に帰属する遺

構はなく、直近の墓坑である938号・939号土坑までも、東方に60m以上離れる。天明泥流下面では、第2区画の畑南端に当たる。長軸長92cm、短軸長88cm、長軸方位N-70°-W。平面形は北西-南東方向にやや長いゆがんだ円形。深さ16cmで、断面は鍋状。覆土は礫を含む黒色土。頭骨、四肢骨、椎骨が残っている。土坑中央近くに頭骨があり、北側に足骨がある。大腿骨が直立した状態で残されており、北面した膝立ちの座位屈葬で葬られたものと思われる。熟年以上の男性と推定される。釘が骨の周囲から出土しており、棺に用いられたものと考えられる。釘26点の他、銅銭、煙管が出土している。近世。

**1280号土坑** 25-90-V-22グリッド 確認面最高位標高538.63m。遺跡西北部にある。上位段丘北端近くの、北向き傾斜面に立地する。中世相当面の墓坑である1320号土坑とは24.5m、1420号土坑とは40mほど離れている。1303号土坑を切る。さらに東には1278号土坑、北東に1279号土坑、南東に1277号土坑がある。この3基も規模や形態、覆土中に礫を混ざる点などが墓坑に類似するものの、骨や銅銭は出土していない。天明泥流下面では第4区画東北部に当たり、下位段丘へ下る急斜面が間近に迫る位置に当たる。長軸長170cm、短軸長94cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南北方向に長い長円形。深さ42cmで、断面は鍋状。覆土は比較的大型の礫をまばらに含む黒褐色土。頭骨、四肢骨が残っている。頭を北に置き、右側を下にして西面する。大腿骨が東西方向を示すことから側臥屈葬で葬られたものと思われる。熟年以上の男性と推定される。重なった状態の銭が出土している。近世。

**1407号土坑** 25-100-M-8・9グリッド 確認面最高位標高536.3m。遺跡北部中央西寄りにある。下位段丘南端の北向き傾斜地で、上位段丘との間の急斜面直下に近い位置にある。南西15mほどに1420号土坑がある。天明泥流下面では13区画に当たる。長軸長158cm、短軸長119cm、長軸方位N-20°-E。平面形は北東-南西に長いゆがんだ長円形で、輪郭を録取するように礫が配される。深さ25cmで、東部上面が削平され、詳細が把握できないが、鍋状の断面形を呈したものと思われる。覆土は褐色砂質土ブロックを多く含む締まった黒褐色土。骨の残存は悪いが、頭骨、四肢骨が残っている。頭を北に置き、右側を下にして西面する、側臥屈葬で葬られたものと思

われる。壮年期前半の女性と推定される。副葬品はない。近世。

**1420号土坑** 25-100-O-5・6グリッド 確認面最高位標高535.99m。遺跡北部中央西寄りにある。下位段丘南端の北向き傾斜地で、上位段丘との間の急斜面直下に近い位置にある。北東15mほどに1407号土坑がある。天明泥流下面では13区画に当たり、南東から北西に走る5号溝が崖下を綴るように北東に分岐する部分近くにあたる。長軸長120cm、短軸長75cm、長軸方位N-35°-W。平面形は北西-南東方向に長い隅丸長方形。深さ22cmで、断面形は鍋状。覆土は礫を少量含む黒褐色土。骨の残存が悪く、埋葬姿勢の詳細は判断できないが、頭位は北にあり、側臥位で埋葬されたものと思われる。副葬品はない。近世。

**1305号土坑** 25-90-H-11グリッド 確認面最高位標高540.85m。遺跡西部、上位段丘に張り出した尾根の西側にあたる北西向き傾斜地にある。この墓坑の周辺はほぼ平坦だが、北から西にかけて、小さな段差があって北西に下る。3-2面とされる近世前期から中世にかけての調査面であって、南に接する1308号土坑とともに、南から北に下る47号溝と重複する。重複関係を直接示す記録は採取されていないが、47号溝埋没後にこの土坑が掘削されているらしい。同じく中世の墓坑と見られる1824号土坑が東24mにある。天明泥流下面では2号屋敷9号建物の南西壁に接するような位置に当たり、平安時代相当面では56号竪穴建物の西方11mほどに当たる。長軸長110cm、短軸長110cm。平面形はゆがんだ円形。周囲に垂角礫が散在するが、特定の構造を持ったものかどうかかわからない。深さ27cmで、断面は鍋状。残りは悪いものの、ほぼ全身の骨が残っている。北部に頭骨があり、中部に上肢、南部に下肢骨がある。頭位を北に置き、左側を下にして東面する側臥屈葬で葬られたものであろう。鉄片、重なった状態の銭が出土している。中世～近世前期か。

**1320号土坑** 25-90・100-Q-25・1グリッド 確認面最高位標高537.1m。遺跡北部中央西寄りにある。上位段丘北部の段丘崖に近い北東向き傾斜地で、埋没浅谷の西側にあたる。同時期の遺構は周辺になく、孤立的に存在していて、平安時代の遺構と共に、古代相当面に附属するものとして調査されている。中世相当面で調査された墓坑である1280号土坑は南西方向24.5m、北東の下位段

丘上の近世相当面で調査された墓坑(1420号土坑)までは、直線距離で11mほど離れている。天明泥流下面では6号屋敷15号建物の西にある畑内に当たる。古代相当面でも周辺には遺構が乏しく、直近の遺構である南の1489号土坑までも20mある。長軸長172cm、短軸長105cm、長軸方位N-70°-E。平面形は東西に長い楕円形ないし隅丸長方形の墓坑として調査されているが、骨が東部に偏し、骨の乗る底面より西側部分のほうが低くなっていることからみると、西部は掘りすぎているものと思われる。深さ13cm~20cmで、断面は鍋状かと思われる。覆土は黒褐色土を主体とし、礫や炭化物を僅かに含む。残りは悪いものの、ほぼ全身の骨が残っている。北部に頭骨があり、中部に上肢、南部に下肢骨がある。頭位を北に置き、左側を下にして東面する側臥屈葬で葬られる。熟年以上の男性と推定される。副葬品はない。中世~近世前期か。

**1566号土坑** 25-100-F-8 グリッド 確認面最高位標高538.17m。遺跡北部中央西寄りにある。上位段丘北寄りの北向き緩傾斜部に当たる。今回報告する墓坑の中では

東端に当たり、孤立的にある。近世相当面に帰属するものとされるが、平安時代の遺構と同時に調査されていて、周辺には中・近世に属するとされる遺構は乏しい。1245号・1246号土坑が北東12.4m、1600号土坑が南東20mにあるのみである。天明泥流下面では、14号屋敷41号建物の南西隅近くに当たることになる。古代相当面では1569号、1573号、1580号土坑や95号竪穴建物が近接する。長軸長88cm、短軸長61cm、長軸方位N-9°-W。平面形は南北に長い長円形。深さ9cmで、断面は皿状。覆土は小礫を含む黒褐色土。全体に骨の残存が悪く、南部に下肢骨が纏まっている。頭骨は認められていないが、頭位を北に置き、右側を下にして西面する側臥屈葬と想定する。成人の男性と推定される。副葬品はない。中世または近世。

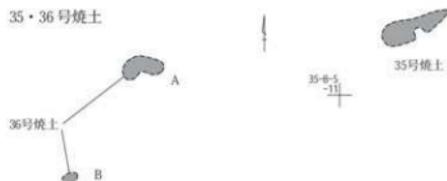
**1797号土坑** 25-90-I・J-21・22グリッド 確認面最高位標高538.7m。長軸長101cm、短軸長56cm、長軸方位N-47°-W。平面形は南辺が丸みを持つ長円形ないし隅丸長方形。深さ30cmで、断面形は鍋状。覆土は礫や炭化物を少量含む褐色土を主体とするが、この上面に骨が乗



第123図 中近世焼土遺構の位置

第2章 発掘された遺構と遺物

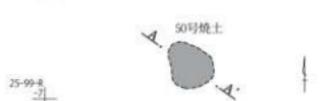
35・36号焼土



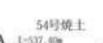
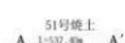
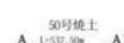
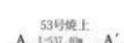
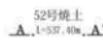
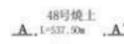
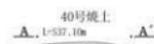
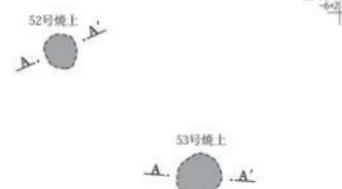
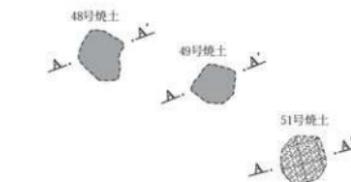
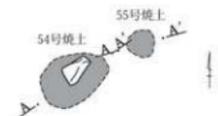
40号焼土



48～51号焼土



52～55号焼土

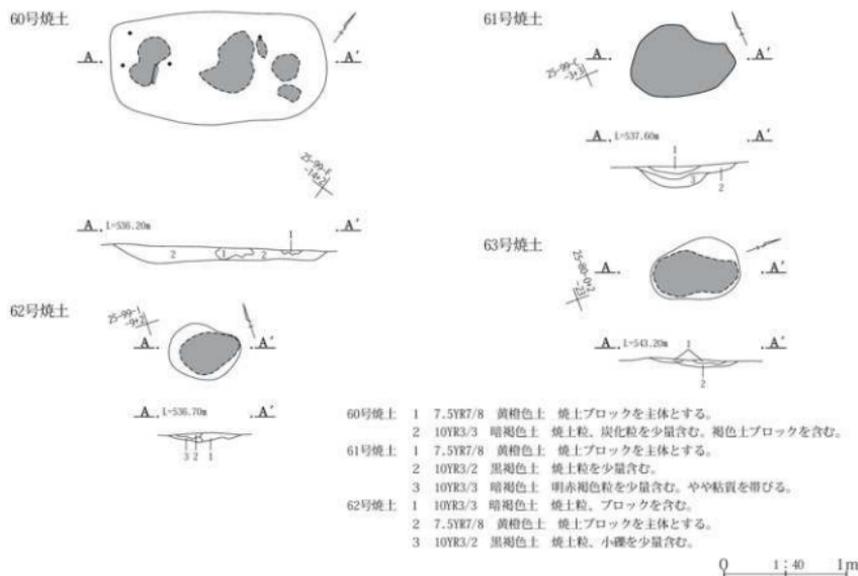


第124図 焼土遺構1

る。骨は残存が非常に悪いが、頭骨、四肢骨が残っている。頭骨を北に置き、左側を下にして東面する側臥屈葬で葬られる。性別は判定できないが、熟年以上の人物と推定される。中世。

**1824号土坑** 25-90-B-11グリッド 確認面最高位標高542.02m。遺跡西部、上位段丘に張り出した尾根の西側

裾部に近い西向き傾斜部にある。この墓坑の周辺はほぼ平坦だが、西側には湾入するやや急な傾斜部がある。古代相当面にあつて、105号竪穴建物を切るものとして調査されている。同じく中世の墓坑と見られる1305号土坑が西24mにある。天明泥流下面では2号屋敷11号建物内の北東部に当たる。長軸長153cm、短軸長79cm、長軸方



第125図 焼土遺構2

位N-25°-W。平面形は北辺が丸みを持つ長円形ないし隅丸長方形。深さ10cmで、断面形は鍋状。骨の残存が悪いが、頭骨、四肢骨が残っている。頭位を北に置き、右側を下にして西面する側臥屈葬で葬られる。性別は判定できないが、壮年の人物と推定される。中世。

## 第6項 焼土遺構

火熱により酸化変化した土粒子やブロックを多く含む土壌の、不定型な広がり焼土遺構としている。この地域の遺跡ではよく見られるもので、斜面崩落土が断続的に堆積するという地形的な特性から、崩落土下の旧地表面が部分的に保存されたために、通常では捉えがたい遺構が残されていると解釈される。

地山のロームがその場で焼土化したものと、持ち込まれたローム土が焼土化したもの、焼土ブロックが黒色～暗褐色土の地山中に含まれるものの3形態がある。本遺跡の地山のうち、黒色土、黒褐色土は鉄分含有量が低い。これが火熱を受けても、顕著な赤化は生じない。赤化した、いわゆる焼土として認識されるのは、鉄分を

含むローム相当土である。従って、焼土の形状は必ずしも火熱を受けた土壌全体の形状を示すものではない。さらに個々の焼土を見ると、ローム土の質や含有量によるものであろう、赤化の度合い、色調、硬軟も様々であり、単一の成因によるものとは考えがたい。また、面的に焼けたものが動植物によって攪乱、分断されたために複数の焼土が隣接して配されているように見える場合もある。中・近世相当面、古代面の発掘時にそれぞれ確認されている。

中・近世の焼土遺構については、東部の掘立柱建物群に近接した位置にある26号～33号、畑中の41号、42号、当時の基幹道路であったであろう4号道と9号道の交点近くの路面下にある47号の12か所を前報告で記載した。本報告では、遺跡西部にある21か所及び下位段丘東部にある2か所の焼土遺構を記載する。各焼土の成因、性格が一様ではないため、分布状況には必ずしも意味を認め得るものではないが、遺跡西部で北に張り出す尾根の東側に多くが集中する。土坑、ピットはやや粗で、掘立柱建物に近い場所にある印象がある。下位段丘の焼土は共

に断面に関する記載を欠き、写真記録も不十分であるため評価できない。なお、中世相当面調査時に確認した38号、39号焼土は2号殿治遺構の一部として、近世相当面調査時に確認した83号から88号焼土は、天明泥流下面27号建物の一部として別に記載する。

**35号焼土** 35-8-R-11グリッド 確認面標高529.15m。長軸長58cm、短軸長25cmほどの、北東-南西に長く、南西部が太い涙滴状の範囲に広がる。厚さに関する記録はない。写真記録でも焼土の範囲や赤化状況が捉えがたい。灰、炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。西の36号焼土Aまで180cmほど。

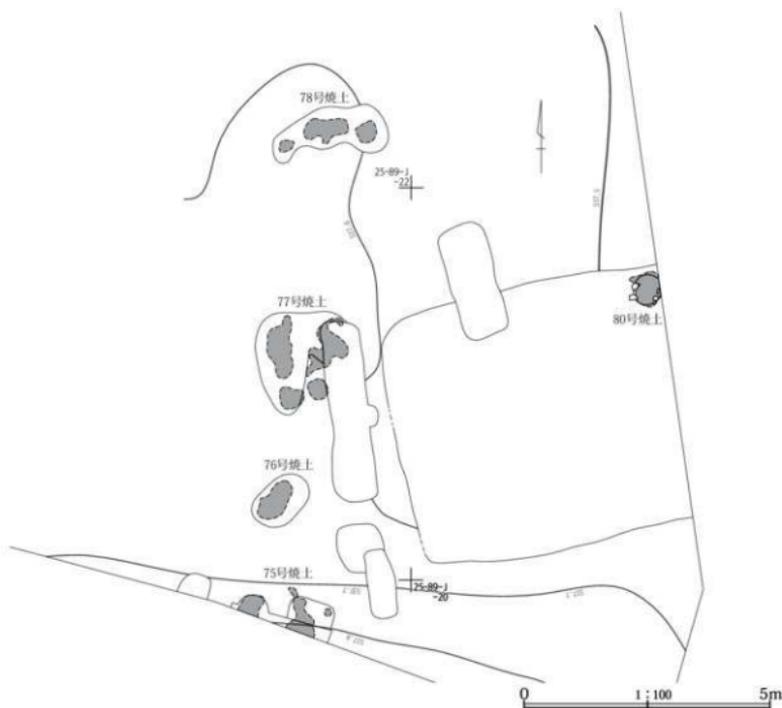
**36号焼土A** 35-8-S-11グリッド 確認面標高529.26m。長軸長32cm、短軸長14cmほどの、東西に長い弧形の範囲に広がる。厚さに関する記録はない。南西のB部と共に36号焼土と命名されている。写真記録からは地山が

暗褐色土で、これに食い込むように、橙色の焼け締まった焼土が見えるが、範囲や構造は捉えがたい。灰、炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。東の35号焼土まで180cmほど。南西のB部まで86cm。

**36号焼土B** 35-8-S-10グリッド 確認面標高529.23m。長軸長12cm、短軸長8cmほどの、北東-南西に長い楕円形の範囲に広がる。厚さに関する記録はない。北東のA部と共に36号焼土と命名されている。写真記録を欠く。北東のA部まで86cm。

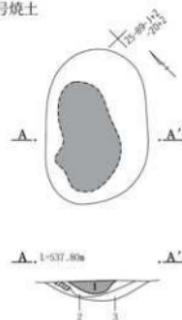
**37号焼土** 確認状況写真のみ残されている。撮影方向も不明であるが、不定形の樹枝状の広がりがあり、中央から写真上方にかけての赤化が強い。

**40号焼土** 25-99-G-4グリッド 確認面標高537.05m。長軸長70cm、短軸長60cmの、東西にやや長いびつな方

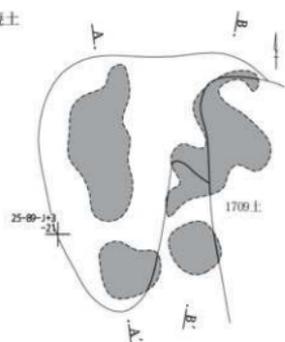


第126図 焼土遺構3

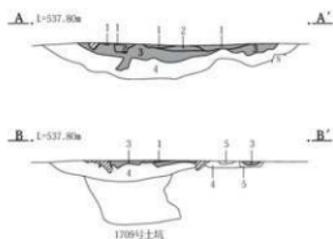
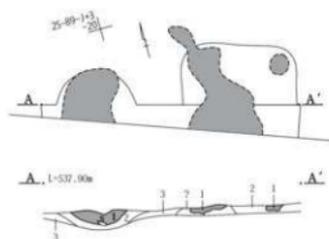
76号焼土



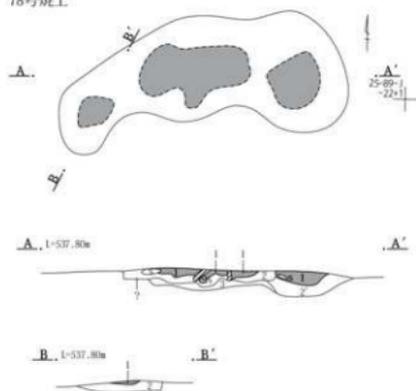
77号焼土



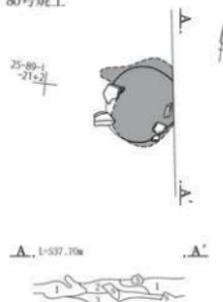
75号焼土



78号焼土



80号焼土



0 1:40 1m

第127図 焼土遺構4

形の範囲に広がる。厚さ7cmほどで、地山の淡灰褐色土の上面がよく焼けている。中央部の赤化が強い。上面を灰褐色土が覆い、周囲に大きな炭化物が散布する。中世相当面調査時に確認されている。728号ピット(掘立柱建物Aの北東隅柱穴)の東30cmほどの位置に当たる。

**48号焼土** 25-99-Q-6グリッド 確認面標高537.4m。長軸長48cm、短軸長40cmほどの、南北に長い不整長円形の範囲に広がる。厚さ5cmほどで、写真記録から見ると、地山は小礫混じりの暗褐色土で、皿状の浅い凹み中に黄褐色ロームが入る。赤化は弱い。炭化物等に関する記載はない。周辺には土器片が散在する。中世相当面調査時に確認されている。北東の50号焼土まで130cm、南東の49号焼土まで61cmほど。

**49号焼土** 25-99-Q-6グリッド 確認面標高537.37m。長軸長40cm、短軸長34cmほどの、ゆがんだ円形ないし隅丸方形の範囲に広がる。厚さ5cmほどで、写真記録から見ると地山は小礫混じりの暗褐色土で、皿状の浅い凹み中に黄褐色ロームが入る。北部でやや赤化が強い。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。北の50号焼土まで130cm、北西の48号焼土まで61cmほど。

**50号焼土** 25-99-Q-7グリッド 確認面標高537.35m。長軸長43cm、短軸長36cmほどの、北西-南東にやや長いゆがんだ円形の範囲に広がる。厚さ5cmほどで、写真記録では小礫混じりの暗褐色土の地山に黄褐色ロームが陥入したかに見える。赤化は弱い。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。南西の48号焼土、南の49号焼土までともに130cmほど。

**51号焼土** 25-99-Q-6グリッド 確認面標高537.33m。長軸長38cm、短軸長38cmほどの、ややゆがんだ円形の範囲に広がる。厚さ4cmほどの焼土があるとされるが、写真記録からは読み取れない。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。北西の49号焼土まで60cmほど、東の52号焼土までは320cmほどある。

**52号焼土** 25-99-P-6グリッド 確認面標高537.28m。長軸長28cm、短軸長26cmほどの、ややゆがんだ円形の範囲に広がる。厚さ7.5cmほどの焼土があるとされるが、写真記録からは焼土粒を含む小礫混じりの黒褐色ないし暗褐色土の落ち込みがあるかに見える。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。西

の51号焼土まで320cm、北東の54号焼土まで150cm、南東の53号焼土まで120cmほどある。

**53号焼土** 25-99-P-6グリッド 確認面標高537.29m。長軸長38cm、短軸長34cmほどの、ややゆがんだ円形の範囲に広がる。厚さ5cmほどの焼土があるとされるが、写真記録からは斑状の焼土を含む小礫混じりの黒褐色ないし暗褐色土が広がるかに見える。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。北西の52号焼土まで120cm、北の54号焼土まで220cmほどある。

**54号焼土** 25-99-P-6グリッド 確認面標高537.2m。長軸長58cm、短軸長40cmほどの、北東-南西に長い長円形の範囲に広がる。厚さ5cmほどの焼土があるとされるが、写真記録からは南西部に焼土化の弱い黄褐色のロームブロックが有り、礫の周囲から北東側にかけて、赤化した土粒子が地山の暗褐色土に混入するように見える。中央の礫には顕著な被熱痕跡は見られない。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。南西の52号焼土まで150cm、北東の55号焼土とは20cmほどと近接する。

**55号焼土** 25-99-P-6グリッド 確認面標高537.26m。長軸長25cm、短軸長25cmほどの、ややゆがんだ円形の範囲に広がる。厚さ15cmほどの範囲に焼土のブロック、粒子が含まれる。写真記録からは、ピットの覆土上位にやや大きなロームブロックが含まれ、以下にはやや赤化の強い粒子や斑が含まれるかに見える。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。南西の54号焼土とは20cmほどと近接する。

**60号焼土** 25-99-F-14グリッド 確認面標高536.09m。長軸長176cm、短軸長92cm、深さ10~12cmの、北東-南西に長い隅丸方形の土坑内に、斑状の焼土が広がる。中央部には方形の比較的低明瞭な輪郭を持ち、何らかの構造物の痕跡を思わせる明褐色の焼土がある。周囲には土器片が点在する。中世相当面調査時に確認されている。炭化物等に関する記載はない。掘立柱建物群の北に位置するが、周辺には同時期の遺構は乏しい。

**61号焼土** 25-99-B-3グリッド 確認面標高537.41m。長軸長84cm、短軸長58cmほどの、東西に長い長円形の範囲に広がる。厚さ5cmほど明褐色のローム土で、赤化は弱い。2・3層は地山。周辺にも同質のローム斑が広がっている。炭化物等に関する記載はない。近世相当面調査

時に確認されており、周囲には畑痕跡が広がる。

**62号焼土** 25-99-H-9 グリッド 確認面標高536.56m。長軸長50cm、短軸長30cmほどの、東西に長い偏円形の範囲に広がる。厚さ6cmほど。写真記録で見ると赤化は弱い。地山は小礫混じりの暗褐色土。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。29号掘立柱建物の西、23号掘立柱建物の南東に当たり、西には多くのピットがあるが、直近には同時期の遺構は乏しい。

**63号焼土** 25-80-O-23グリッド 確認面標高543.12m。長軸長70cm、短軸長34cmほどの、南北に長いゆがんだ長円形の範囲に広がる。厚さ2～3cm。北部の方が赤化が強く、輪郭も明瞭。南部は汚れた斑が地山の黒褐色土に混じる。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認された。切り合いは確認されていないが、29号建物の北西隅部にごく近い。

**75号焼土** 25-89-J-19グリッド 確認面標高537.73m。長軸長164cm、短軸確認長82cmほどの、中央が抜けた円環状の範囲に広がる。最大厚10cmほどで、西部が厚い。写真記録を欠く。発掘時に本焼土とされている写真は縄文時代の79号焼土のものである。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。周辺には土坑やピットがあり、北160cmほどに76号焼土がある。

**76号焼土** 25-89-J-20グリッド 確認面標高537.46m。長軸長90cm、短軸長54cmほどの、北東-南西に長いゆがんだ長円形の範囲に広がる。厚さは10cmほどある。写真記録で見ると赤化は弱い。地山は混入物の比較的小さい暗褐色土で、周辺土壌への焼土の混入は見られない。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認されている。南の75号焼土まで160cm、北の77号焼土まで140cmほど。

**77号焼土** 25-89-J-20・21グリッド 確認面標高537.65m。長軸長98cm、短軸長80cmほどの不整形の範囲に、灰、焼土がまとまりを持ちながら広がる。写真撮影時に上位土壌が完全に除去されていないため、それぞれの焼土の面的な広がりが関係は捉えたいが、円形を基調とした単位がいくつかあるようにも見える。赤化は比較的強く、10cm以上の厚みを持つ部分もある。炭化物等は記録されていない。中世相当面調査時に確認されている。1709号土坑の上位にあり、南の76号焼土まで

140cm、北の78号焼土まで360cmほど、東の80号焼土まで600cmほどある。

**78号焼土** 25-89-J-22グリッド 確認面標高537.52m。東西2mほどの間に3か所のまとまりが認められている。東部は径45cmほどの円形の範囲が中心で、西部のまとまりはこれから流出した焼土が地山の暗褐色土に斑状に混じたものであろう。東部の焼土は12cmほどの厚さがあり、椀状の断面を呈して、中央部上面がやや強く赤化する。中世相当面調査時に確認されている。炭化物等に関する記載はない。南の77号焼土まで360cmほどある。

**80号焼土** 25-89-H-21グリッド 確認面標高537.43m。長軸長72cm、短軸確認長60cmほどの、ゆがんだ円形の範囲に広がる。6cmほどの厚みがあって、99号竪穴建物の床面に接する。西側には円礫、角礫がある。炭化物等に関する記載はない。中世相当面調査時に確認され、中世の焼土とされているが、同時に99号竪穴建物も調査されており、竪穴建物に伴う火所である可能性もあろう。

## 第7項 炭窯

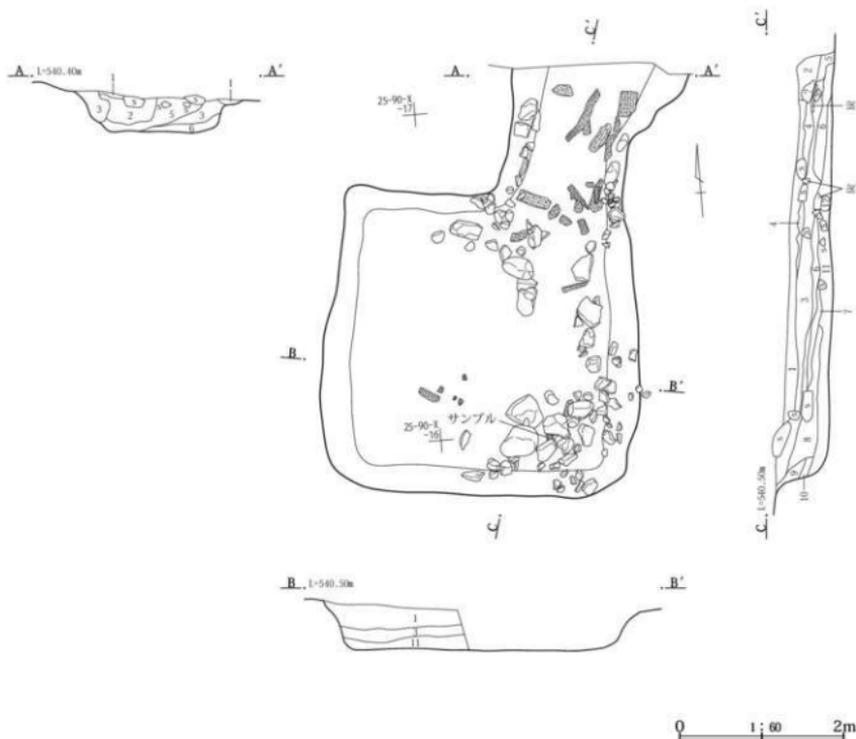
**1号炭窯** 25-90-W・X-15～17グリッド 確認面最高位標高540.37m、確認面最低位標高540.17m。遺跡北西部の上位段丘上の北東向き傾斜面に立地する。近世相当面の遺構として確認されているが、周辺には同時期の遺構は乏しい。北西13mに畑があり、北20mに1280号土坑(墓坑)及び1270号～1277号、1303号土坑があるに過ぎない。また、天明泥流下面では第4区画畑の中にあつて、8号屋敷31号建物の北12mほどの位置に当たる。床面が東西3.0m、南北3.1mほどの方形の平面形を呈する本体の北東部に、北に向けて幅90～120cmの焚き口が付される。本体部はN-4～9°-E、焚き口西壁はN-17°-Eを示す。確認面からの深さは最大65cmほどで、底面は緩やかに波打ちながらもほぼ平坦。断面形は鍋状を呈する。焚き口部の横断面では東壁が比較的強く立ち上がるのに対し、西壁はやや開く。焚き口部と本体東壁近くに炭化材が多く見られ、焚き口部のものは上位の材が軸方向に並行に並び、下位では直交方向を向くものも見られる。東壁に沿っては角礫・垂角礫が多くあり、写真記録では焚き口部を含め、礫が列状に配されるかに見える。

中・近世のものとして個別平面図・写真が採取されているが、中・近世面の全体図には反映されておらず、確

## 第2章 発掘された遺構と遺物

認面標高も中・近世面全体図における同地点の標高値より20cm前後低い。また、下位の古代面においても、同地点では遺構の記載やこの遺構があることによる等高線の乱れが記録されていない。位置の記録に関して何らかの錯簡がある可能性がある。さらに、炭化物の出土が限定的で少量であること、壁や底面に酸化による赤化がほとんど見られず、覆土中の焼土ブロックも少量且つ赤化の弱いものであること、また本体の平面形状からも、遺構の性格を炭窯とするには強い違和感を感じる。出土炭化

材はクリと同定されたが、炭の原料としてクリが使われることは多くなく、一方平安時代竪穴建物の用材はクリが主体を占める。写真記録を見ると、炭窯周囲の雑混じり土がさらに掘削可能であり、外周に方形の輪郭が想定される。さらに焼き口が想定された部分は、この輪郭を竪穴建物とした場合には、竈位置にあてはまる。周囲の平安時代竪穴建物とほぼ同方向をとる事などから見て、焼失した平安時代竪穴建物を炭窯と誤認した可能性を感じる。



第128図 1号炭窯

## 第8項 土坑・ピット

本項では、発掘時に近世相当面、中世相当面に帰属するものとされた土坑・ピットの記載を行う。次節で扱う古代相当面や別に報告する縄文時代面を含めて、面・時代の認定が発掘区毎に共有されていない場合もあるため、発掘時の判断に従いつつも、特に土坑については帰属面・時代を編集段階で変更したものがある。変更部分については各土坑の記載中に示した。ピットの帰属面・時代については、発掘時の判断に従った。なお、個別ピットの記載については、煩瑣を避け、遺構一覧表に計測値等を示すにとどめた。

### 1 近世相当面の土坑・ピット

近世相当面では、土坑・ピットが場所によって、形態を異にするいくつかのまとまりをもって分布する。北部の下位段丘は他の遺構も含めて残存が悪く、土坑・ピットがみとめられない。また遺跡東部でも墓坑や復旧坑はあるものの、下位段丘との境界近くに、少数が点在するほか、部分図1に示した小さなまとまりがあるに過ぎない。遺跡中部においては、部分図2に示した西寄りの部分では、小規模な円形土坑が小さなまとまりを持って分布し、部分図3ではやや大きな円形土坑が密集する様相が見られる。いずれも、同時期とみられる遺構は乏しく、部分図3周辺から北に微弱な畑遺構が認められるのみである。

参考図A～Cは前報告で記載した近世相当面の土坑、ピットの概要である。こちらも地点毎に形態の差が認められた。参考図Aでは、円形平面の土坑が目立ち、これに混じってやや長い隅丸方形ないし長円形平面の土坑が散在する。これらの細長い土坑は、同面の畑の畝と近似した方向を示す。この東から参考図Bにかけて及びこれらの北側では、南北方向に長軸を置く幅が狭く長い土坑が東西に並列するように並ぶ。こうした土坑は、地割りに沿って作られた芋穴様のもののように思われる。断面形では下半が膨らむ袋型を呈する物が多く、復旧溝とすべきものも含まれるだろう。北部ではやや長い隅丸方形ないし長円形平面の土坑が、やはり南北方向に長軸を置いて並ぶ。参考図Cは調査区東部で、天明泥流下で確認された寺院遺構の敷地下にあたる。ここでは、長円形、

長方形の土坑が多数のピットと混在している。寺院西辺外にはこれと直行するように細長い隅丸長方形の平面形を有するピットが並ぶ。寺院に先行する建物などの痕跡かもしれない。

#### (1) 土坑

**645号土坑** 35-8-R-12グリッド 長軸長48cm、短軸長40cm、深さ16cm、長軸方位N-30°-W。平面形は円形、断面形は鍋状。古代および中世相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

**646号土坑** 35-8-R・S-12グリッド 長軸長89cm、短軸長85cm、深さ12cm、長軸方位N-67°-W。平面形は円形、断面形は浅い鍋状。古代及び中世相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

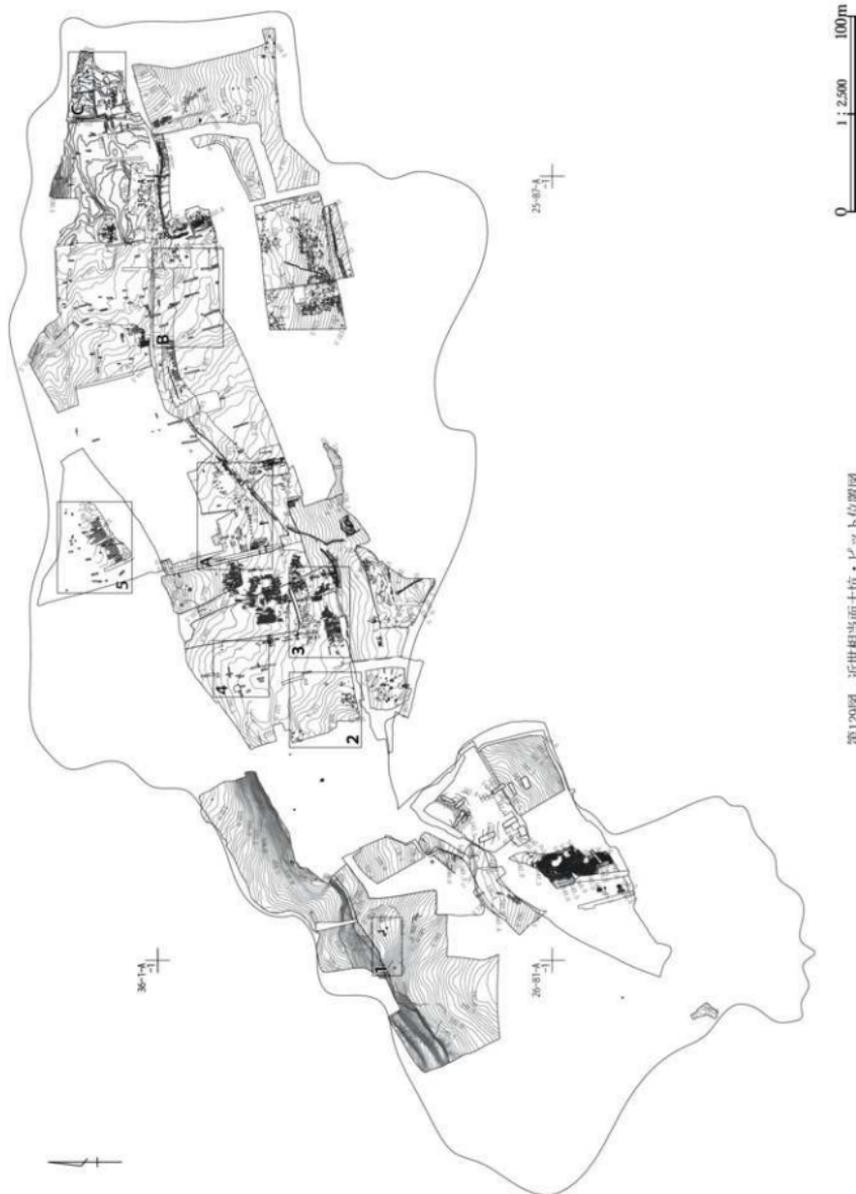
**647号土坑** 35-8-R・S-11グリッド 長軸長119cm、短軸長81cm、深さ81cm、長軸方位N-85°-E。平面形は長円形、断面形は深い箱形。覆土は上層はロームブロックを含む暗褐色土、下層はロームブロックを多量に含む褐色土を主体とする。

**648号土坑** 35-8-T-10グリッド 長軸長92cm、短軸長82cm、深さ36cm、長軸方位N-54°-E。平面形は円形、断面形は鍋状。古代及び中世相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

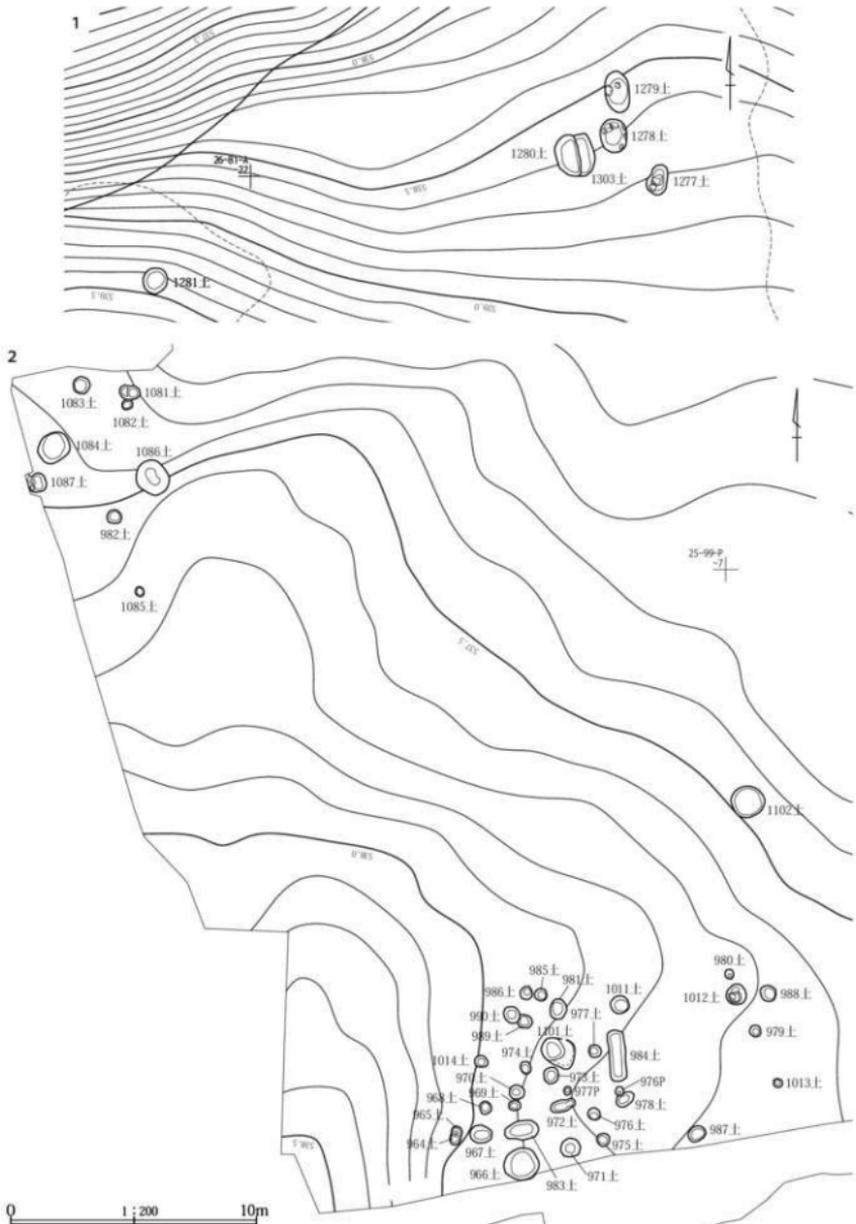
**649号土坑** 35-8-U-9・10グリッド 長軸長294cm、短軸長73cm、深さ56cm、長軸方位N-8°-E。平面形は長円形、断面形は鍋状。古代及び中世相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

**652号土坑** 35-9-A-8・9グリッド 長軸長364cm、短軸長58cm、深さ69cm、長軸方位N-15°-W。平面形は長円形、断面形は下部がやや膨らんだ袋状。古代及び中世相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

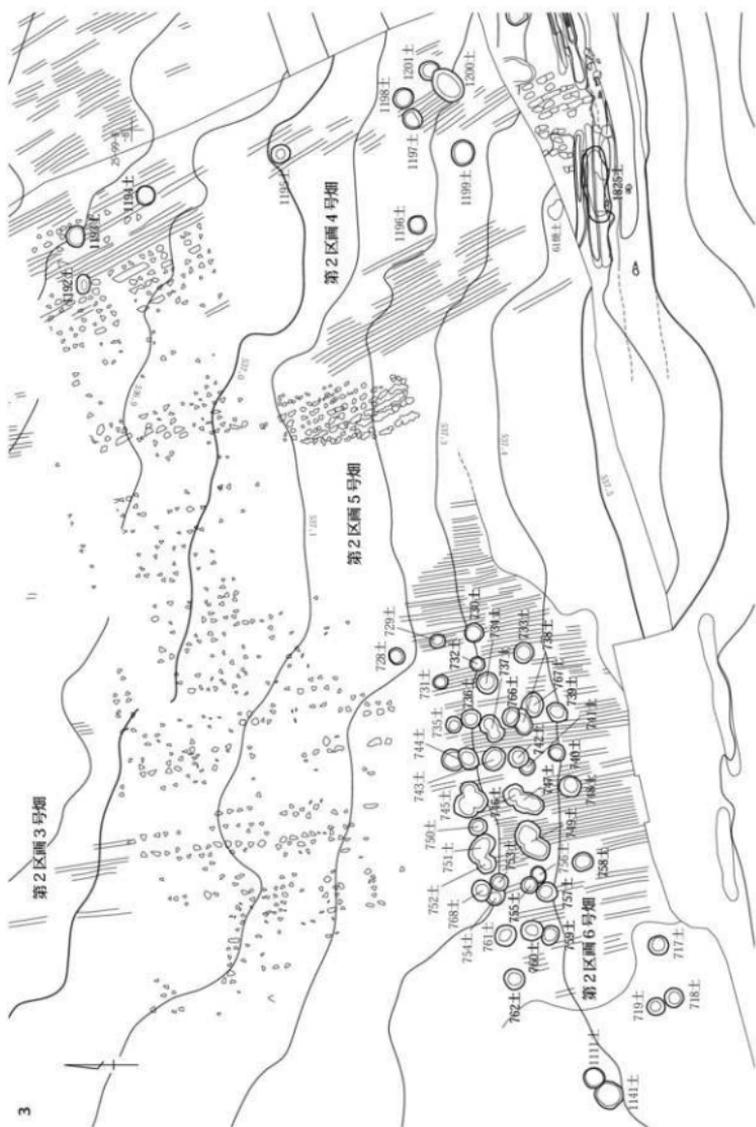
**653号土坑** 35-9-B-8・9グリッド 長軸長490cm、短軸長60cm、深さ45cm、長軸方位N-4°-E。平面形は長円形、断面形は下部がやや膨らんだ袋状。古代及び中世相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が



第120図 近世相当面土坑・ピット位置図



第130図 近世相当面土坑・ピット位置図 部分図1・2

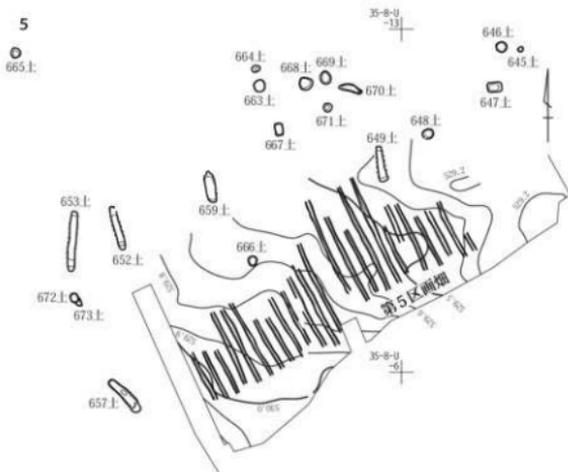


第131図 近世相当面土坑・ピット位置図 部分図3

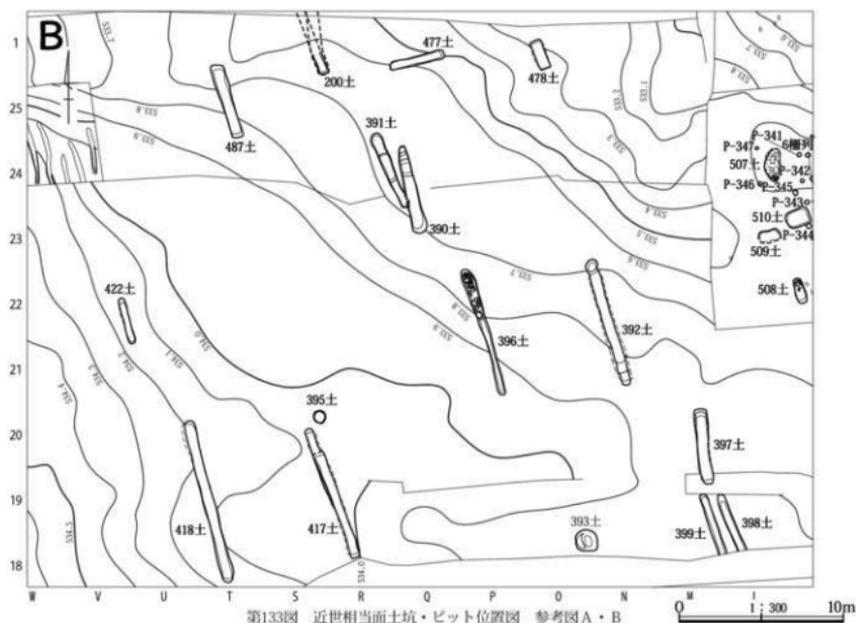
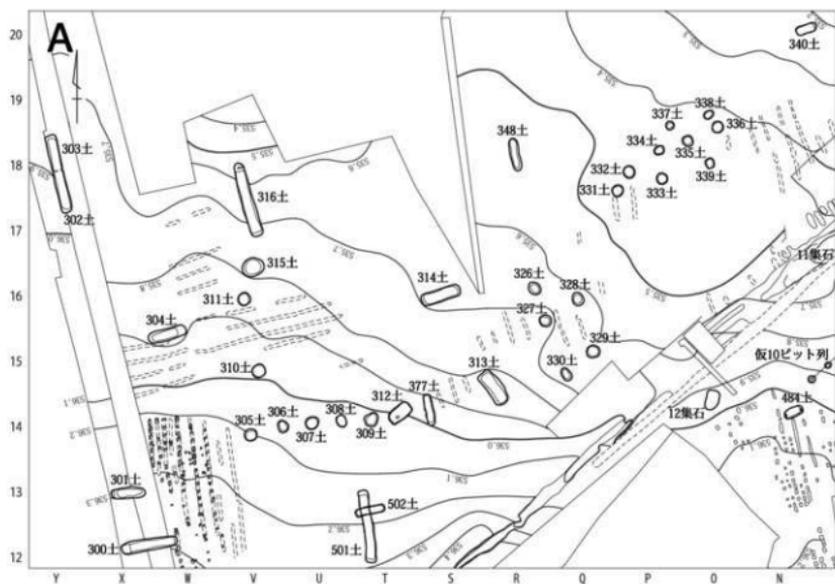
4



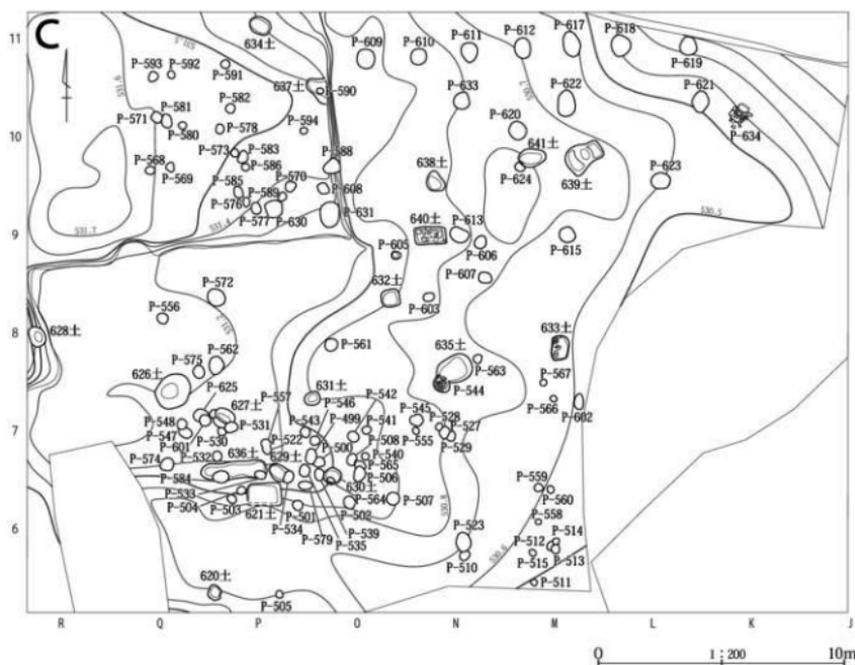
5



第132図 近世相当面土坑・ピット位置図 部分図4・5



第133図 近世相当面土坑・ピット位置図 参考図A・B



第134図 近世相当面土坑・ピット位置図参考図C

天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

**656号土坑** 25-90-M-16グリッド 長軸長156cm、短軸長137cm、深さ26cm、長軸方位N-67°-E。平面形は円形、断面形は鍋状。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

**657号土坑** 35-9-A-5グリッド 長軸長347cm、短軸長82cm、深さ22cm、長軸方位N-45°-W。平面形は長円形、断面形は浅い鍋状。中央部が一段低く掘り込まれる。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

**658号土坑** 35-9-B-6グリッド 長軸確認長137cm、短軸長61cm、深さ26cm、長軸方位N-55°-W。平面形は不定形、断面形は上部が大きく開く鍋状。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥

流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

**659号土坑** 35-8-X-9・10グリッド 長軸長257cm、短軸長83cm、深さ106cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い長円形。681号ピットと重複する。断面形は鍋状に近いが、上部がやや括れる。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土が天明泥流下畑耕土相当のくすんだ暗褐色土のため、近世のものとした。

**663号土坑** 35-8-W-11グリッド 長軸長96cm、短軸長89cm、深さ10cm、長軸方位N-14°-W。平面形は円形、断面形は鍋状。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。

**664号土坑** 35-8-W・X-12グリッド 長軸長69cm、短軸長53cm、深さ63cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東

西にやや長い偏円形。断面形は上部が開くU字状を基本とするらしい。東部が一段深く掘られるが、木根様に見える。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。

**665号土坑** 35-9-C-12グリッド 長軸長83cm、短軸長78cm、深さ18cm、長軸方位N-28°-W。平面形は南北にやや長いゆがんだ円形、断面形は皿状に近いが、底面中央がやや盛り上がる。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。

**666号土坑** 35-8-W-X-8グリッド 長軸長79cm、短軸長73cm、深さ15cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南北に僅かに長い円形、断面形は鍋状。断面図中央の凹凸は木根による攪乱であろう。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。

**667号土坑** 35-8-W-10-11グリッド 長軸長102cm、短軸長68cm、深さ46cm、長軸方位N-9°-W。平面形は隅丸長方形、断面形は深い鍋状。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。

**668号土坑** 35-8-V-W-11-12グリッド 長軸長109cm、短軸長109cm、深さ20cm。平面形はゆがんだ円形、断面形は皿状に近い。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下

畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。

**669号土坑** 35-8-V-11-12グリッド 長軸長108cm、短軸長86cm、深さ22cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南北に長い卵形、断面形は鍋状。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。

**670号土坑** 35-8-U-V-11グリッド 長軸長189cm、短軸長58cm、深さ29cm、長軸方位N-77°-W。平面形は東西に長い長円形に近い不定形。ごく浅いため、断面形は明確に捉えられない。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。23号竪穴建物と切る。

**671号土坑** 35-8-V-11グリッド 長軸長71cm、短軸長69cm、深さ47cm、長軸方位N-41°-W。平面形は円形、断面形は上部が開く碗状で、中央が一段低く掘り込まれる。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。

**672号土坑** 35-9-B-7グリッド 長軸長78cm、短軸長63cm、深さ24cm、長軸方位N-19°-W。平面形は南北にやや長い隅丸方形。断面形は鍋状。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。覆土下部には礫を多く含む。673号土坑と切る。

645号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)。硬質。地山土と炭化物を少量含む。

646号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)。硬質。地山土を少量含む。

647号土坑 1 暗褐色土(ブロックを混土で、地山の黄色ローム質土を多量に含む。

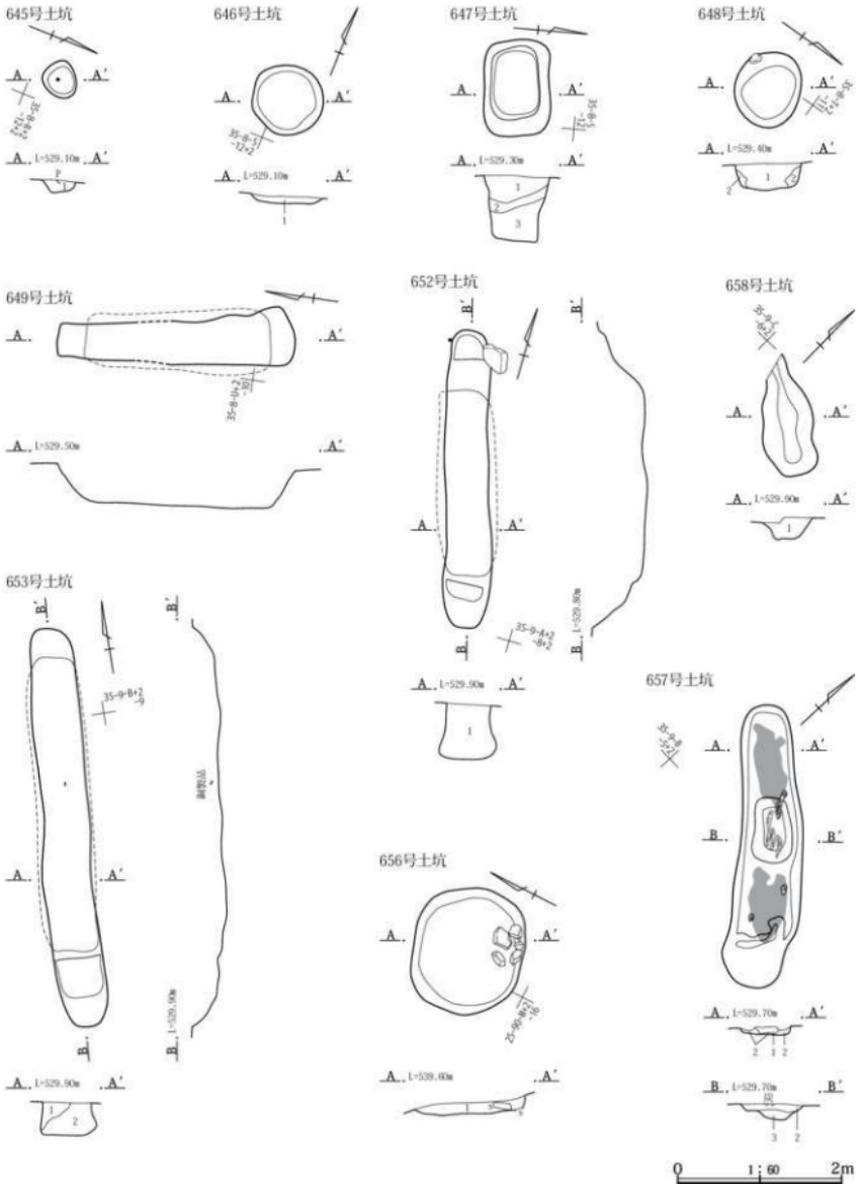
2 褐色土(ブロックを混土で、地山の黄色ローム質土を多量に含む。

3 黄褐色主体のブロックの混土。

648号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)。やや軟質。

2 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)と地山土のブロックの混土。

649号・652号・653号・656号・658号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)と地山土のブロックの混土。



第135図 近世相当面の土坑1

**673号土坑** 35-9-B-7グリッド 長軸確認長72cm、短軸長48cm、深さ17cm、長軸方位N-32°-W。平面形は不定形、断面形は鍋状だが底部が礫層に当たる。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、炭化物を少量含んだくすんだ暗褐色土と地山土の混土であるとの記載があるため、近世のものとした。672号土坑に切られる。

**680号土坑** 25-99-K-17グリッド 長軸長69cm、短軸長61cm、深さ6cm、長軸方位N-39°-W。平面形は円形、断面形はごく浅い皿状。覆土は泥流下面畑の耕土に当たる暗褐色土が主体で、地山土と炭化物を少量含む。

**681号土坑** 25-99-J-17グリッド 長軸長61cm、短軸長52cm、深さ7cm、長軸方位N-64°-W。平面形は円形、断面形はごく浅い皿状。覆土は地山土を主体とするブロックの混土を主体とする。

**682号土坑** 25-99-J-17グリッド 長軸長40cm、短軸確認長19cm、深さ6cm、長軸方位N-10°-W。平面形は東部が発掘区界にあたり不詳。円形を呈したものかと思われる。断面形は浅い皿状。中世、近世相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑耕土相当の、暗褐色土と黄灰色シルトの混土を主体とするとの記載があるため、近世のものとした。

**683号土坑** 25-99-N-18グリッド 長軸長229cm、短軸長132cm、深さ32cm、長軸方位N-83°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。中世相当面の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として、天明泥流下畑耕土相当の、灰褐色土ブロックを主体とするとの記載があるため、近世のものとした。

**684号土坑** 25-99-M・N-16・17グリッド 長軸長545cm、短軸長42cm、深さ40cm、長軸方位N-81°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は深い鍋状。中世相当面の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として、天明

泥流下畑耕土相当の、暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とするとの記載があるため、近世のものとした。重複する685号土坑覆土と同相であり、685号土坑と直交するように重複する。

**685号土坑** 25-99-N-16・17グリッド 長軸長338cm、短軸長72cm、深さ30cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。中世相当面の発掘図面に記録されているが、覆土の観察所見として天明泥流下畑の耕土に相当する暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とするとの記載があるため、近世のものとした。重複する684号土坑覆土と同相であり、684号土坑と直交するように重複する。

**686号土坑** 25-99-N-15・16グリッド 長軸長224cm、短軸長67cm、深さ44cm、長軸方位N-6°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**687号土坑** 25-99-N-15グリッド 長軸長269cm、短軸長78cm、深さ42cm、長軸方位N-19°-W。平面形は南北に長い長円形ないし幅の狭い隅丸方形、断面形は下部がやや膨らんだ弱い袋状。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**688号土坑** 25-99-O・P-15グリッド 長軸確認長179cm、短軸長78cm、深さ52cm、長軸方位N-9°-W。平面形は幅の狭い隅丸長方形と思われるが、北部が発掘区外となる。断面形は下部が僅かに広がる弱い台形。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとし

659号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)と地山土のブロックの混土。

671号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)。硬質。地山土と炭化物を少量含む。

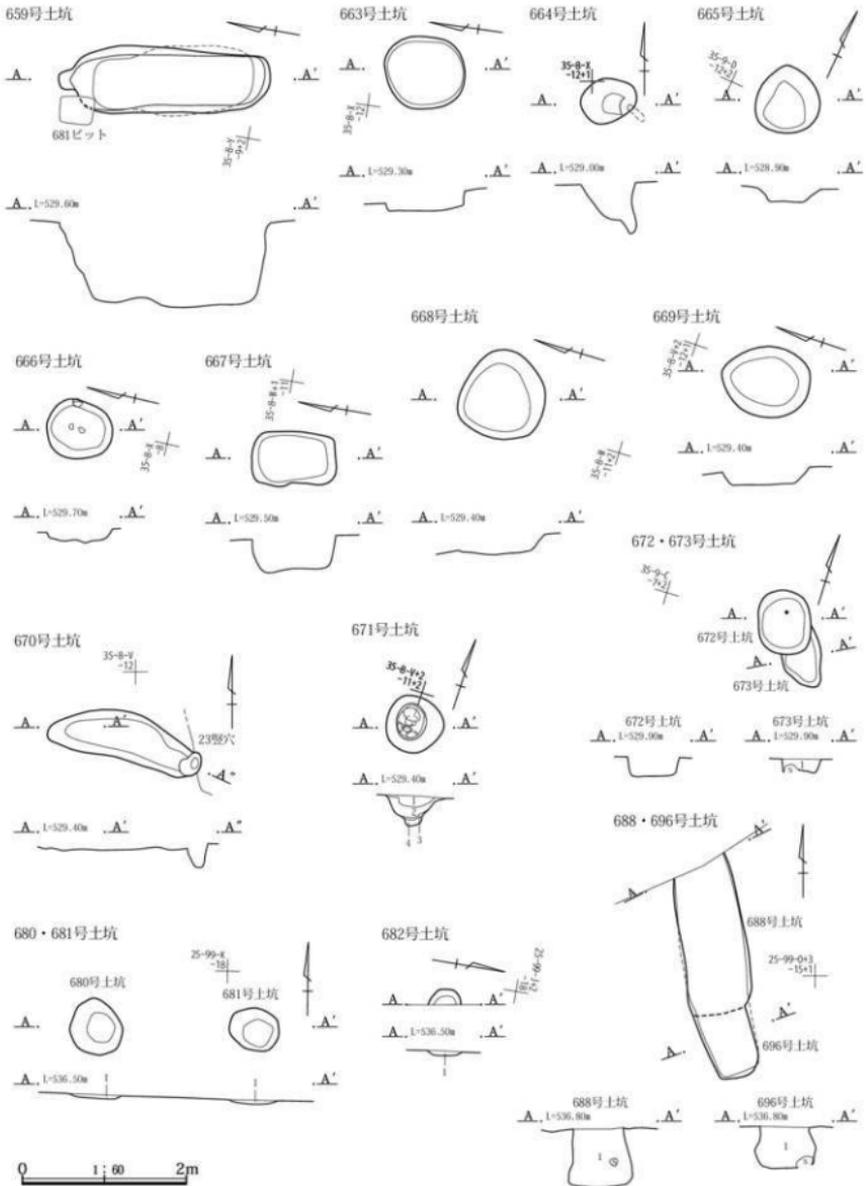
672号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)と地山土のブロックの混土。

673号・680号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)。硬質。地山土と炭化物を少量含む。

681号土坑 1 地山土主体のブロックの混土。

682号土坑 1 くすんだ暗褐色土(天明泥流下畑の耕土)と黄灰色シルトの混土。

688号・696号土坑 1 暗灰褐色土と地山土のブロックの混土。黄色土ブロックを含まない。締まりあり。炭化物を少量含む。天明泥流下畑耕作土の下に堆積した土壌の下位から切り込んでおり、近世相当面の耕作土に伴う土坑の可能性が高い。



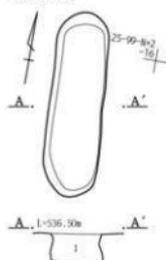
第136図 近世相当面の土坑2

第2章 発掘された遺構と遺物

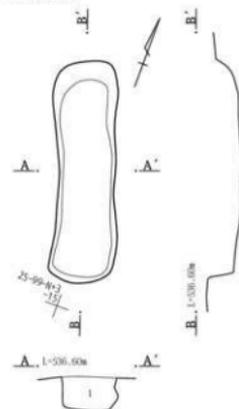
683号土坑



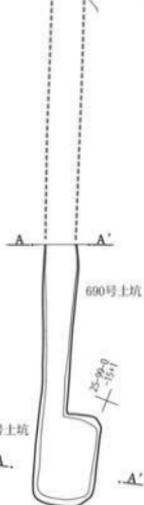
686号土坑



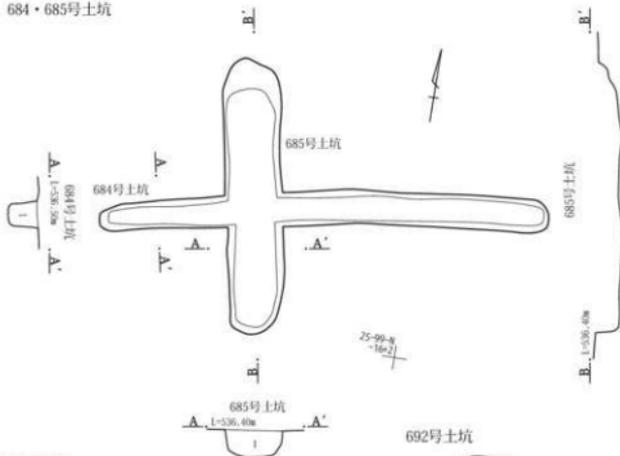
687号土坑



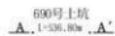
689・690号土坑



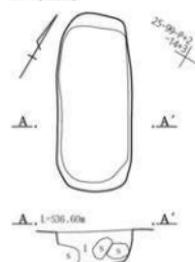
684・685号土坑



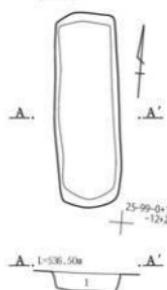
689号土坑



691号土坑



692号土坑



第137図 近世相当面の土坑3

た。696号土坑を切る。

**689号土坑** 25-99-Q-15グリッド 長軸長113cm、短軸長78cm、深さ23cm、長軸方位N-79°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。690号土坑の西端を切る。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の低位から切り込んでいるため、近世のものとした。

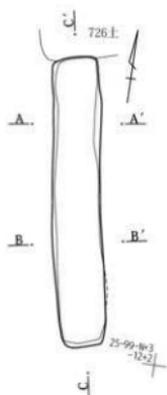
**690号土坑** 25-99-O-Q-15グリッド 長軸長565cm、短軸長42cm、深さ25cm、長軸方位N-70°-E。平面形は溝状、断面形は下底が広がる台形状。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。689号土坑に切られる。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天

明泥流下畑耕作土の低位から切り込んでいるため、近世のものとした。

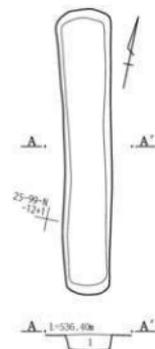
**691号土坑** 25-99-P-14グリッド 長軸長215cm、短軸長92cm、深さ41cm、長軸方位N-30°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状を基本とするが、底面は地山礫層に当たって乱れる。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。やや大振りの円礫を含む。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の低位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**692号土坑** 25-99-O-12・13グリッド 長軸長248cm、短軸長79cm、深さ30cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は暗灰褐色

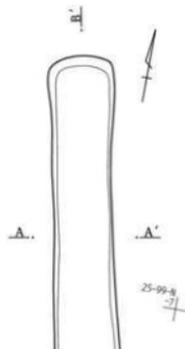
683号土坑



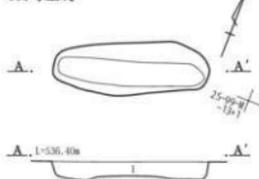
694号土坑



697号土坑



695号土坑



683号～687号土坑 1 灰褐色ブロックの混土。黄色土ブロックを少量含む。締まりあり。礫を少量含む。

689号～692号・694号・695号・697号土坑 1 暗灰褐色土と地山のブロックの混土。黄色土ブロックを含まない。締まりあり。炭化物を少量含む。

0 1:60 2m

第138図 近世相当面の土坑4

土と地山土ブロックの混土を主体とする。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**693号・698号土坑** 発掘時には693号、698号の2基の土坑として捉えられている。断面ともに図上では区分できないので、1基の土坑として扱う。25-99-N・O-12・13グリッド 長軸長354cm、短軸長59cm、深さ50cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い、幅の狭い長方形。断面形は深い鍋状。覆土は観察所見を欠くが、北部では下位に円礫を含む。726号土坑と重複する。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**694号土坑** 25-99-M・N-12グリッド 長軸長345cm、短軸長67cm、深さ22cm、長軸方位N-14°-W。平面形は南北に長い、幅の狭い長方形。断面形は鍋状。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**695号土坑** 25-99-M-13グリッド 長軸長186cm、短軸長63cm、深さ23cm、長軸方位N-72°-E。平面形は幅の狭い長円形、断面形は鍋状。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**696号土坑** 25-99-O・P-14・15グリッド 長軸確認長80cm、短軸長64cm、深さ50cm、長軸方位N-17°-W。北部を688号土坑に切られて全形が把握できないが、南北に長い長方形の平面形と思われる。断面形は下部が膨らむ弱い袋状。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**697号土坑** 25-99-N-6・7グリッド 長軸長479cm、短軸長89cm、深さ41cm、長軸方位N-12°-W。平面形は幅の狭い長方形ないし溝状。断面形は箱状。覆土は暗灰

褐色土と地山土ブロックの混土を主体とする。中位に円礫を含む。中世相当面の発掘図面に記録されているが、天明泥流下畑耕作土の下位から切り込んでいるため、近世のものとした。

**717号土坑** 25-99-J-2グリッド 長軸長82cm、短軸長76cm、深さ17cm、長軸方位N-14°-W。平面形は円形、断面形は椀状。覆土は洪水層の黄色粗砂層と淡灰褐色土のブロックの混土を主体とする。耕作痕を切る円形状土坑が数多く確認された部分にあって、洪水砂を集めたような埋没状況を示す。

**718号土坑** 25-99-J-2グリッド 長軸長78cm、短軸長76cm、深さ11cm、長軸方位N-74°-W。平面形は円形、断面形は椀状。覆土は洪水層の黄色粗砂層と淡灰褐色土のブロックの混土を主体とする。耕作痕を切る円形状土坑が数多く確認された部分にあって、洪水砂を集めたような埋没状況を示す。

**719号土坑** 25-99-J・K-2グリッド 長軸長74cm、短軸長69cm、深さ18cm、長軸方位N-12°-W。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は暗灰褐色土を主体とし、黄色粗砂と淡灰褐色土を少量含む。古代相当面の発掘時採取図に記録されているが、発掘担当所見として江戸時代かとされており、これに従う。

**728号土坑** 25-99-G-5グリッド 長軸長68cm、短軸長66cm、深さ5cm、長軸方位N-26°-E。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**729号土坑** 25-99-G-4グリッド 長軸長62cm、短軸長55cm、深さ8cm、長軸方位N-7°-W。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

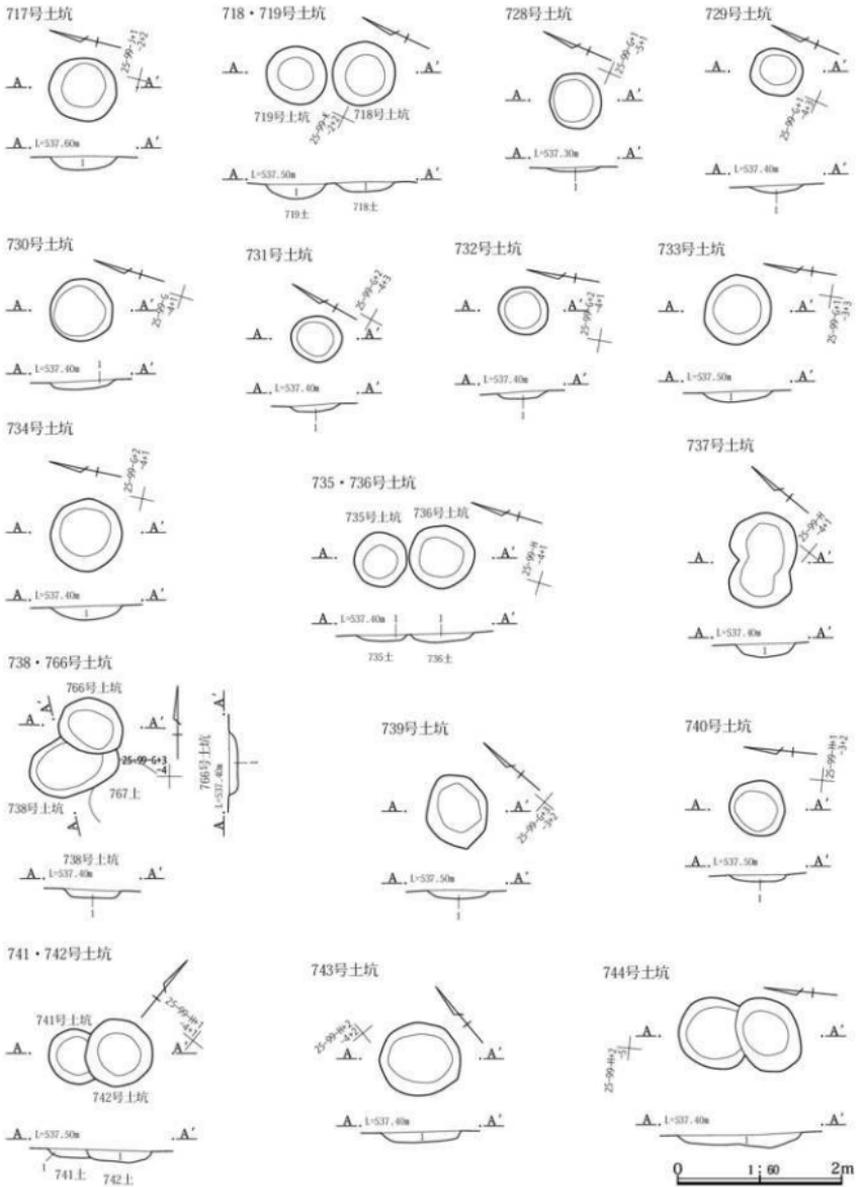
**730号土坑** 25-99-G-4グリッド 長軸長76cm、短軸長73cm、深さ9cm、長軸方位N-44°-W。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**731号土坑** 25-99-G-4グリッド 長軸長63cm、短軸長

717号・718号土坑 1 洪水層の黄色粗砂層と淡灰褐色土のブロックの混土。暗灰褐色土のブロックを少量含む。洪水砂と淡灰褐色土のブロックを混土で埋没しており、まるで洪水砂を集めたように見える。洪水砂には黄色粗砂のほか白色シルトと灰色粘土がラミナ状に入る。

719号土坑 1 暗灰褐色土 黄色粗砂層と淡灰褐色土を少量含むブロックの混土。洪水砂をごく僅かに含む。

728号~744号・766号土坑 1 淡灰褐色土 暗灰褐色土を少量含むブロックの混土。



第139図 近世相当面の土坑5

56cm、深さ10cm、長軸方位N-28°-W。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**732号土坑** 25-99-G-4グリッド 長軸長61cm、短軸長58cm、深さ8cm、長軸方位N-4°-E。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**733号土坑** 25-99-G-3・4グリッド 長軸長84cm、短軸長77cm、深さ10cm、長軸方位N-52°-W。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**734号土坑** 25-99-G-4グリッド 長軸長88cm、短軸長87cm、深さ18cm、長軸方位N-80°-E。平面形は円形、断面形は浅い椀状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**735号土坑** 25-99-G・H-4グリッド 長軸長67cm、短軸長65cm、深さ9cm、長軸方位N-54°-W。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**736号土坑** 25-99-G・H-4グリッド 長軸長81cm、短軸長75cm、深さ13cm、長軸方位N-28°-W。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**737号土坑** 25-99-G・H-4グリッド 長軸長115cm、短軸長81cm、深さ17cm、長軸方位N-54°-E。平面形は不定形、断面形は浅い椀状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**738号土坑** 25-99-G・H-3・4グリッド 長軸長109cm、短軸長70cm、深さ9cm、長軸方位N-68°-E。平面形は楕円形、断面形はごく浅い椀状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。766号、767号土坑と重複。

**739号土坑** 25-99-G・H-3グリッド 長軸長95cm、短軸長73cm、深さ12cm、長軸方位N-37°-E。平面形は楕円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**740号土坑** 25-99-H-3グリッド 長軸長69cm、短軸長66cm、深さ9cm、長軸方位N-30°-E。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**741号土坑** 25-99-H-3・4グリッド 長軸長69cm、短軸長64cm、深さ11cm、長軸方位N-78°-W。平面形は円形、断面形はごく浅い椀状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。742号土坑と重複。

**742号土坑** 25-99-H-3・4グリッド 長軸長82cm、短軸長80cm、深さ14cm、長軸方位N-59°-W。平面形は円形、断面形はごく浅い椀状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。741号土坑と重複。

**743号土坑** 25-99-H-4グリッド 長軸長98cm、短軸長88cm、深さ14cm、長軸方位N-50°-W。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**744号土坑** 25-99-H-4グリッド 長軸長147cm、短軸長87cm、深さ14cm、長軸方位N-2°-E。平面形は円形土坑が2基南北に連なった弧形、断面形は皿状ないし椀状で、南部がやや深い。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**745号土坑** 25-99-H・I-4グリッド 長軸長143cm、短軸長138cm、深さ14cm、長軸方位N-73°-E。平面形は円形土坑が3基重なり合った三累環状を呈し、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

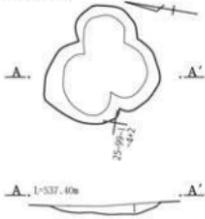
**746号・747号土坑** 発掘時には2基の土坑として捉えられている。平断面ともに図上では区分できないので、1基の土坑として扱う。25-99-H-3・4グリッド 長軸長173cm、短軸長90cm、深さ18cm、長軸方位N-28°-E。平面形は円形土坑が3基連続するような形状を呈する。断面形は底面が乱れた皿状で、北部がやや浅い。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**748号土坑** 25-99-H-3グリッド 長軸長90cm、短軸長84cm、深さ9cm、長軸方位N-9°-W。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

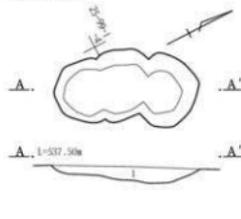
**749号土坑** 25-99-I-3・4グリッド 長軸長177cm、短軸長111cm、深さ15cm、長軸方位N-54°-E。平面形は2基の円形土坑が東西に並列した弧形、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**750号土坑** 25-99-I-4グリッド 長軸長76cm、短軸長70cm、深さ12cm、長軸方位N-40°-W。平面形は円形、断面形は皿状ないし浅い鍋状。覆土は淡灰褐色土を主体

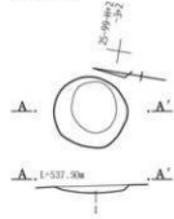
745号土坑



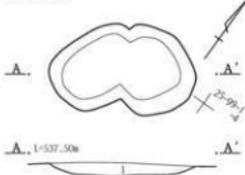
746号土坑



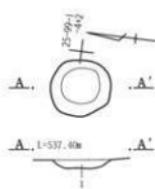
748号土坑



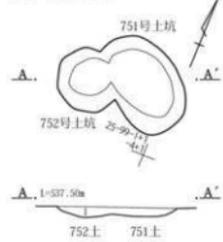
749号土坑



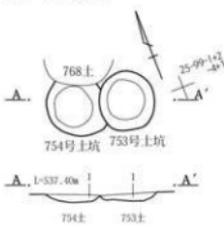
750号土坑



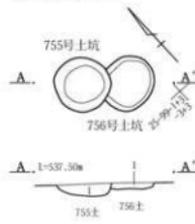
751・752号土坑



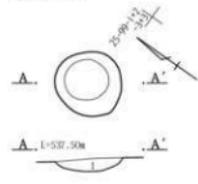
753・754号土坑



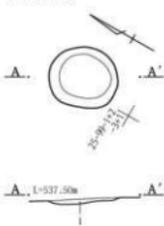
755・756号土坑



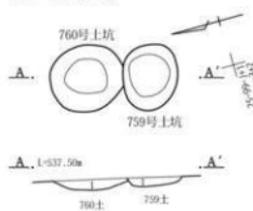
757号土坑



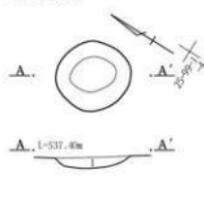
758号土坑



759・760号土坑



761号土坑



745号～761号土坑 1 淡灰褐色土 暗灰褐色土を少量含むブロックの混上。

0 1:60 2m

とし、暗灰褐色土を少量含む。

**751号土坑** 25-99-1-4グリッド 長軸長124cm、短軸長81cm、深さ13cm、長軸方位N-53°-W。平面形は楕円形、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。752号土坑と重複。

**752号土坑** 25-99-1-4グリッド 長軸長81cm、短軸確認長73cm、深さ11cm、長軸方位N-33°-W。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。751号土坑と重複。

**753号土坑** 25-99-1-4グリッド 長軸長73cm、短軸長69cm、深さ13cm、長軸方位N-16°-W。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。754号土坑と重複。

**754号土坑** 25-99-1-4グリッド 長軸長82cm、短軸長70cm、深さ13cm、長軸方位N-35°-W。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。753号土坑と重複。768号土坑に切られる。

**755号土坑** 25-99-I・J-3・4グリッド 長軸長70cm、短軸長67cm、深さ16cm、長軸方位N-37°-W。平面形は円形、断面形は浅い椀状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。756号土坑を切る。

**756号土坑** 25-99-1-3グリッド 長軸長68cm、短軸長62cm、深さ8cm、長軸方位N-86°-W。平面形は円形、断面形はごく浅い鍋状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。755号土坑に切られる。

**757号土坑** 25-99-1-3グリッド 長軸長82cm、短軸長77cm、深さ17cm、長軸方位N-35°-W。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**758号土坑** 25-99-1-3グリッド 長軸長82cm、短軸長74cm、深さ7cm、長軸方位N-29°-W。平面形は円形、断面形はごく浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**759号土坑** 25-99-J-3グリッド 長軸長80cm、短軸長68cm、深さ12cm、長軸方位N-74°-W。平面形は楕円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。760号土坑を切る。

**760号土坑** 25-99-J-3・4グリッド 長軸長90cm、短軸長82cm、深さ15cm、長軸方位N-6°-W。平面形は円形、断面形はごく浅い鍋状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。759号土坑に切られる。

**761号土坑** 25-99-J-4グリッド 長軸長92cm、短軸長85cm、深さ14cm、長軸方位N-31°-W。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**762号土坑** 25-99-J-4グリッド 長軸長86cm、短軸長82cm、深さ13cm、長軸方位N-23°-E。平面形は円形、断面形は浅い椀状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。

**766号土坑** 25-99-G・H-4グリッド 長軸長81cm、短軸長67cm、深さ13cm、長軸方位N-52°-W。平面形は円形、断面形はごく浅い鍋状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。738号土坑を切る。

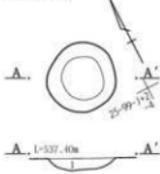
**767号土坑** 25-99-G-3・4グリッド 長軸長100cm、短軸長89cm、深さ16cm、長軸方位N-84°-E。平面形は楕円形、断面形は底面が乱れ、中央がやや深くなる、浅い鍋状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。738号土坑に切られる。

- 762号・767号・768号土坑 1 淡灰褐色土 暗灰褐色土を少量含むブロックの混土。  
 964号・965号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を多量に含む。地山礫(30~200mm)を含む。  
 2 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色粒を含む。地山砂礫を多量に含む。  
 966号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を全体に含む。地山礫(20~100mm)を含む。  
 967号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 地山礫(20~50mm)を多量に含む。黄褐色粒を少量含む。  
 968号土坑 1 10YR3/1 褐色土 大型地山礫を含む。黄褐色粒を少量含む。  
 2 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。やや粘質。  
 969号・970号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を多量に含む。地山礫(30~50mm)を上層に含む。  
 971号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。地山礫(30~50mm)を多量に含む。  
 972号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒・ブロックを含む。地山礫(10~50mm)を多量に含む。  
 973号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。地山礫(10~40mm)を多量に含む。  
 974号土坑 1 10YR3/1 褐色土 褐色粘質土ブロックを含む。地山礫(10~30mm)を上層に含む。  
 975号・976号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を少量含む。地山礫(10~50mm)を多量に含む。  
 977号土坑 1 10YR3/1 褐色土 黄褐色粒を少量含む。褐色粘質土主体。  
 2 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を少量含む。地山礫(10~20mm)を含む。

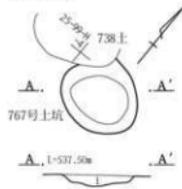


第141図 土坑出土遺物1(971号土坑)

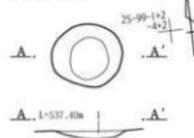
762号土坑



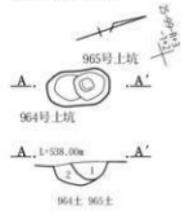
767号土坑



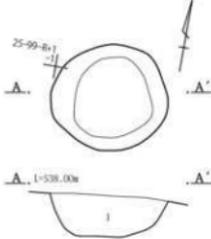
768号土坑



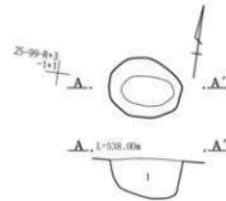
964・965号土坑



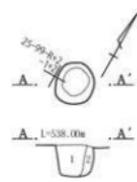
966号土坑



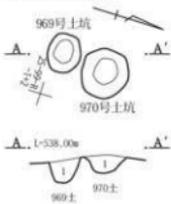
967号土坑



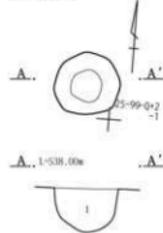
968号土坑



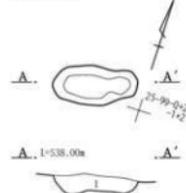
969・970号土坑



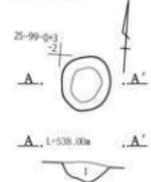
971号土坑



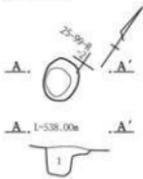
972号土坑



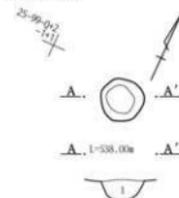
973号土坑



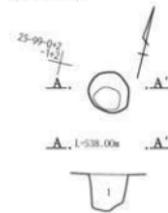
974号土坑



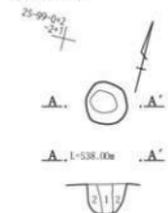
975号土坑



976号土坑



977号土坑



第14図 近世相当面の土坑 7

**768号土坑** 25-99-1-4グリッド 長軸長86cm、短軸長76cm、深さ14cm、長軸方位N-84°-W。平面形は円形、断面形は浅い皿状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、暗灰褐色土を少量含む。754号土坑を切る。中世、近世相当面双方の発掘図面に記録されているが、発掘担当者の所見として江戸時代かとされているため、これに従う。

**964号土坑** 25-99-R-1グリッド 長軸確認長42cm、短軸長42cm、深さ25cm。平面形は円形、断面形はやや深い椀状。覆土は暗褐色土を主体とし、黄褐色粒を多量に含む。やや大振りのものを含む地山由来の礫が入る。965号土坑に切られる。

**965号土坑** 25-99-R-1グリッド 長軸長42cm、短軸長42cm、深さ22cm。平面形は楕円形、断面形はやや深い椀状。覆土は暗褐色土を主体とし、黄褐色粒を含む。下層には地山の砂粒を含む。964号土坑を切る。

**966号土坑** 25-89・99-Q・R-25・1グリッド 長軸長138cm、短軸長130cm、深さ52cm、長軸方位N-77°-E。平面形は円形、断面形はやや深い鍋状。覆土は暗褐色土を主体とし、黄褐色粒を含む。地山由来の礫を含む。

**967号土坑** 25-99-R-1グリッド 長軸長90cm、短軸長72cm、深さ47cm、長軸方位N-81°-E。平面形は楕円形、断面形はやや深い鍋状。覆土は黒褐色土を主体とし、地山由来の礫を多量に含む。黄褐色粒を少量含む。

**968号土坑** 25-99-R-1グリッド 長軸長50cm、短軸長45cm、深さ39cm、長軸方位N-16°-W。平面形は円形、断面形は深い鍋状。覆土は大型の地山由来の礫を含む褐色土を主体とする。黄褐色粒を少量含む。東壁際には

やや粘質の暗褐色土がある。

**969号土坑** 25-99-R-1グリッド 長軸長47cm、短軸長40cm、深さ23cm、長軸方位N-89°-E。平面形は楕円形、断面形は上部がやや開く深い鍋状。覆土は黄褐色粒を多量に含む暗褐色土を主体とする。

**970号土坑** 25-99-R-1グリッド 長軸長60cm、短軸長57cm、深さ20cm、長軸方位N-65°-E。平面形は円形、断面形は上部が大きく開く椀状。覆土は黄褐色粒を多量に含む暗褐色土を主体とする。

**971号土坑** 25-99-Q-1グリッド 長軸長80cm、短軸長74cm、深さ52cm、長軸方位N-83°-E。平面形は円形、断面形はU字状。覆土は黄褐色粒を多量に含む暗褐色土を主体とする。寛永通宝の破片が出土している。

**972号土坑** 25-99-Q-1グリッド 長軸長120cm、短軸長50cm、深さ20cm、長軸方位N-72°-E。平面形は乱れた長円形、断面形は鍋状に近い西端が椀状に窪む。覆土は黄褐色土の粒やブロックを含む暗褐色土を主体とする。地山由来の礫が多量に含まれる。

**973号土坑** 25-99-Q-1グリッド 長軸長70cm、短軸長60cm、深さ33cm、長軸方位N-25°-E。平面形は楕円形、断面形は上部が開く椀状に近いが、底部が乱れる。覆土は黄褐色土の粒やブロックを含む暗褐色土を主体とする。地山由来の礫が多量に含まれる。

**974号土坑** 25-99-Q・R-1グリッド 長軸長50cm、短軸長40cm、深さ33cm、長軸方位N-6°-W。平面形は楕円形、断面形は上部が崩れるが、やや深い箱状に近い。覆土は褐色土を主体とする。上部に地山由来の礫を多

978号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を少量含む。地山礫(10~40mm)を含む。

979号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒・ブロックが相互に堆積する(人為的)。

2 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色粒・ブロックが不整に堆積する。大型の礫が混入する(人為的)。

980号土坑 1 10YR6/4 にぶい黄褐色土 黄褐色粒、黒色土、炭分凝縮ブロックを含む。粘質土。

981号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。地山礫(10~200mm)を含む。

982号・983号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を少量含む。地山礫(10~50mm)を多量に含む。

984号・985号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。地山礫(10~100mm)を多量に含む。

986号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。地山礫(10~50mm)を多量に含む。

987号・988号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。地山礫(10~30mm)を多量に含む。

989号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色粒。地山礫(10~20mm)を含む。

990号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒。地山礫(10~30mm)を含む。

1011号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。地山礫(10~50mm)を多量に含む。

1012号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色粒。地山礫(50~100mm)を含む。

1013号土坑 1 10YR6/4 にぶい黄褐色土 黄褐色粒を多量に含む。上層に炭化粒を含む。

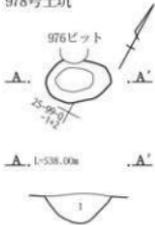
1014号土坑 1 10YR7/8 黄褐色土 黄褐色粒・ブロック。黒色ブロックが相互に堆積する(人為的)。

2 10YR1/1 褐色土 黄褐色粒を少量含む。地山礫(10~30mm)を含む。

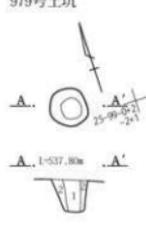
1081号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色粒・ブロックを含む。地山礫(10~20mm)を少量含む。

1082号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色粒・ブロックを多量に含む。

978号土坑



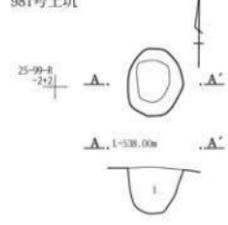
979号土坑



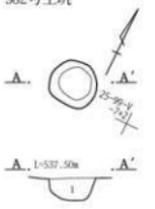
980号土坑



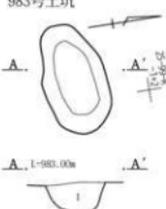
981号土坑



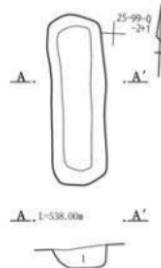
982号土坑



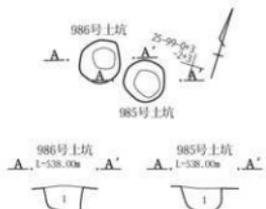
983号土坑



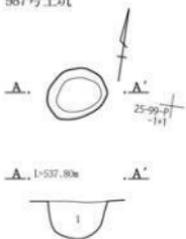
984号土坑



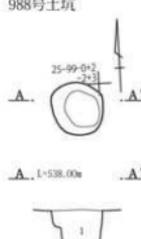
985・986号土坑



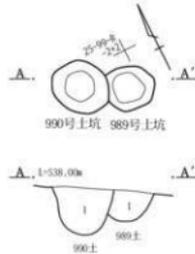
987号土坑



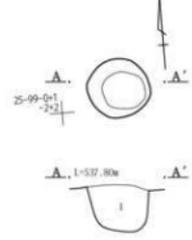
988号土坑



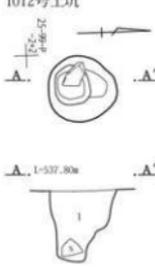
989・990号土坑



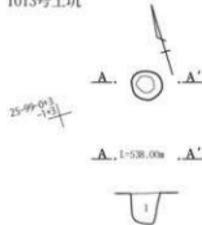
1011号土坑



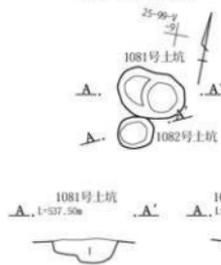
1012号土坑



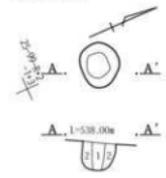
1013号土坑



1081・1082号土坑



1014号土坑



第143図 近世相当面の土坑 8

量を含む。

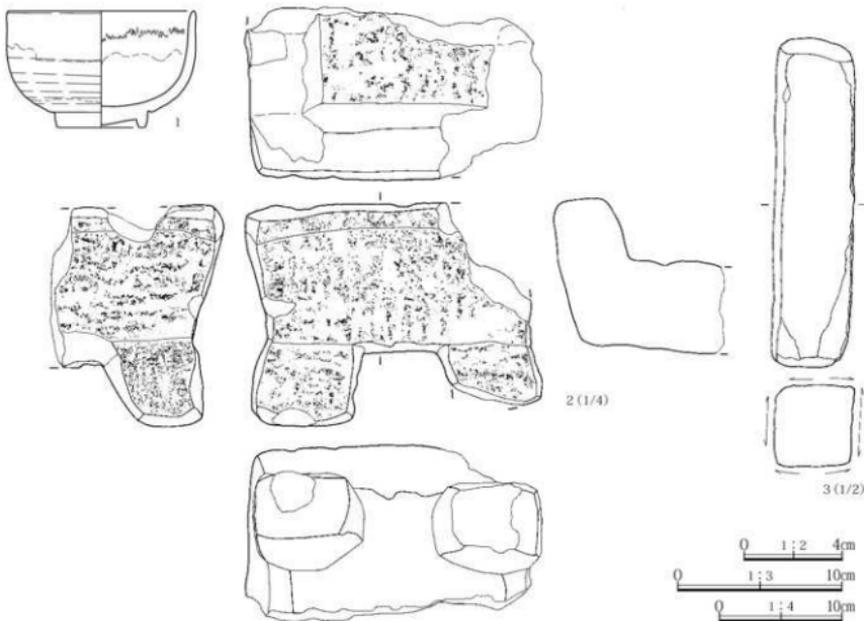
**975号土坑** 25-99-Q-1グリッド 長軸長52cm、短軸長50cm、深さ22cm、長軸方位N-68°-E。平面形は円形、断面形は椀状。覆土は地山由来の礫を多量に含む暗褐色土を主体とする。

**976号土坑** 25-99-Q-1グリッド 長軸長50cm、短軸長48cm、深さ42cm、長軸方位N-38°-W。平面形は円形、断面形は底部が乱れるが、やや深い箱形に近い。覆土は

地山由来の礫を多量に含む暗褐色土を主体とする。

**977号土坑** 25-99-Q-2グリッド 長軸長50cm、短軸長50cm、深さ37cm。平面形は円形、断面形はやや深い椀状。覆土は壁際に地山由来の礫を含む暗褐色土があり、中央には礫を含まない褐灰色の粘質土がある。上位の建物と関連を持つ柱穴とも考えられる。

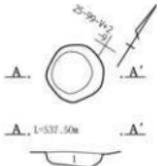
**978号土坑** 25-99-P・Q-1グリッド 長軸長80cm、短軸長50cm、深さ31cm、長軸方位N-62°-E。平面形は楕



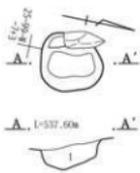
第144図 土坑出土遺物2 (1102号土坑)

- 1083号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色粒・ブロックを含む。地山礫(10~50mm)を含む。
- 1084号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 地山礫、河床石(50~300mm)を多量に含む。
- 2 10YR2/1 黒色土 地山小礫(2~10mm)を含む。綿まりあり。
- 1085号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 地山礫(2~30mm)を多量に含む。
- 1086号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色粒を含む。地山礫(5~20mm)を多量に含む。
- 1087号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色粒、鉄分凝縮ブロックを含む。粘質土。
- 1101号土坑 1 10YR8/6 浅黄褐色土 浅黄褐色粘質土層。
- 2 10YR8/6 黄褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を少量含む。
- 3 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色粒、地山礫(10~20mm)を含む。
- 1102号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 炭化物を含む。礫(50~200mm)を多量に含む。黄褐色粒を少量含む。
- 2 10YR8/6 黄褐色土 黄褐色粘質土主体。黒褐色土、浅黄褐色ブロックを少量含む。
- 1104号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色粒、鉄分凝縮ブロックを含む。
- 2 10YR8/6 浅黄褐色土 浅黄褐色粘質土主体。
- 1111号・1141号土坑 1 木製桶底板。
- 1192号~1196号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 鉄分を多く含む。粘性あり。

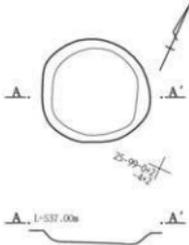
1083号土坑



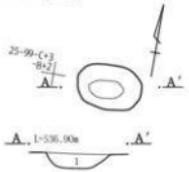
1087号土坑



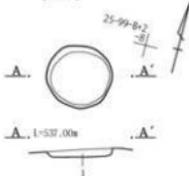
1102号土坑



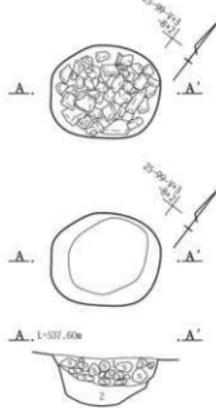
1192号土坑



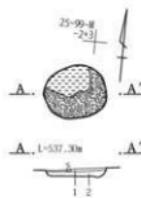
1194号土坑



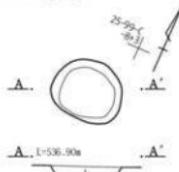
1084号土坑



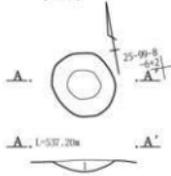
1104号土坑



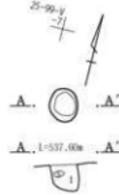
1193号土坑



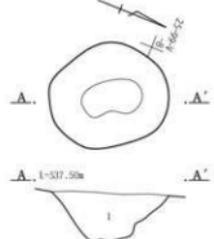
1195号土坑



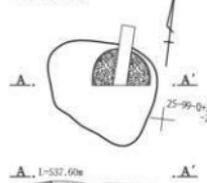
1085号土坑



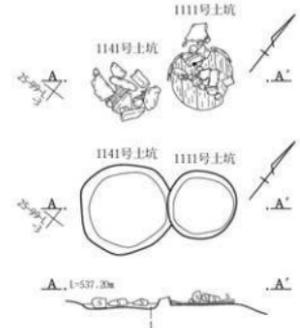
1086号土坑



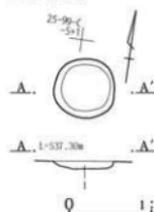
1101号土坑



1111・1141号土坑



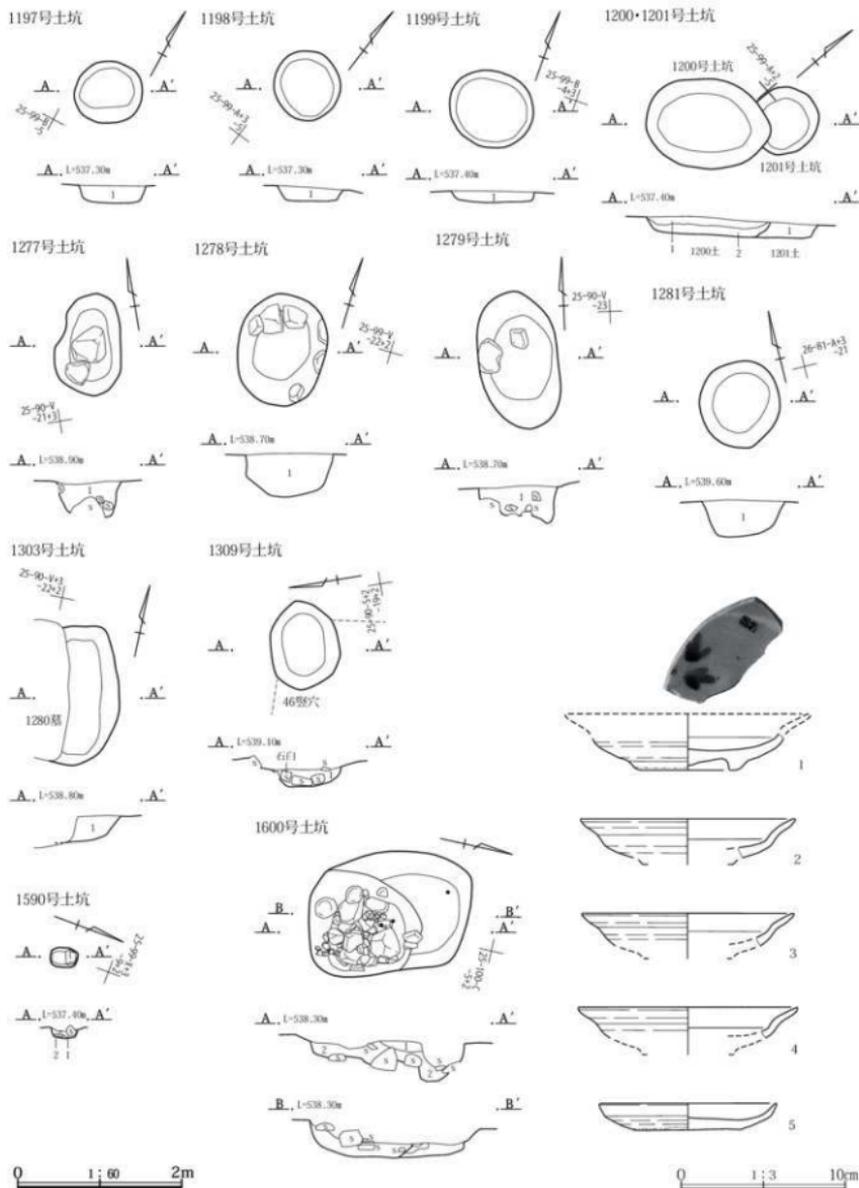
1196号土坑



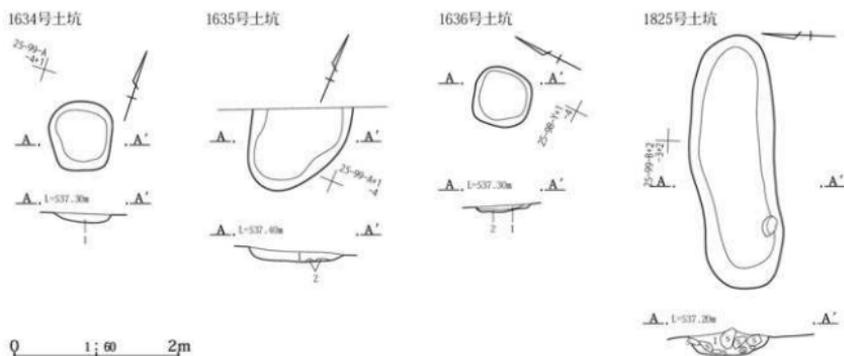
0 1:60 2m

第145図 近世相当面の土坑9

第2章 発掘された遺構と遺物



第146図 近世相当面の土坑10・土坑出土遺物3(1600号土坑)



第147図 近世相当面の土坑11

- 1197号～1199号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 鉄分多く混じる。粘性あり。  
 1200号土坑 1 10YR4/4 褐色土 鉄分多く混じる。締まりあり。  
 2 10YR3/2 黒褐色土 鉄分混じる。やや軟質。  
 1201号土坑 1 10YR2/3 黒褐色土 鉄分混じる。  
 1277号土坑 1 10YR2/3 黒褐色土 5～10mmの礫を僅かに含む。5～10mmの粒状の黄褐色土(10YR5/8)をまばらに含む。  
 2 10YR5/8 黄褐色土 5～20mmの礫を僅かに含む。  
 1278号土坑 1 10YR2/2 黒褐色土 30～100mmの礫を多量に含む。  
 1279号土坑 1 10YR2/2 黒褐色土 30～100mmの礫を多量に含む。  
 2 10YR6/6 明黄褐色土 5mm前後の礫を多く含む。  
 1281号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 20～150mmの礫を含む。土坑全体に50～200mmの礫を多く含む。  
 1309号土坑 1 10YR2/2 黒褐色土 2～7mmの礫や30mmの礫を含む。7mmの炭化物を僅かに含む。  
 1590号土坑 1 黒褐色土 礫を多く含む。  
 2 黒褐色土 礫、地山粒を多く含む。  
 1600号土坑 1 黄褐色土 黄色砂質土を多く含む。  
 2 黒褐色土 礫を多く含む。やや軟質。  
 1825号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土(10YR2/3)を40%含む。酸化土を僅かに含む。1～3mmの礫をごく僅かに含む。礫と礫の間は締まりなくもろい。100～300mmの礫を多く含む、これを廃棄した土坑と考えられる。

円形、断面形は上部が開く椀状。覆土は地山由来の礫を含む暗褐色土を主体とする。976号ピットに切られる。

**979号土坑** 25-99-O-2グリッド 長軸長46cm、短軸長46cm、深さ40cm。平面形は円形、断面形は逆台形状。覆土は黄褐色ブロックと暗褐色土の混土で、壁際には大型の礫が含まれる。上位の建物と関連を持つ柱穴とも考えられる。

**980号土坑** 25-99-O・P-2グリッド 長軸長40cm、短軸長34cm、深さ44cm、長軸方位N-20°-W。平面形は楕円形、断面形は底部が乱れるが、狭いU字状に近い。覆土は黒色土や鉄分の凝集ブロックを含むにふい黄褐色土を主体とする。

**981号土坑** 25-99-Q-2グリッド 長軸長82cm、短軸長66cm、深さ56cm、長軸方位N-10°-E。平面形は楕円形、断面形は深い椀状。覆土は黄褐色粒や地山由来の礫

を含む暗褐色土を主体とする。

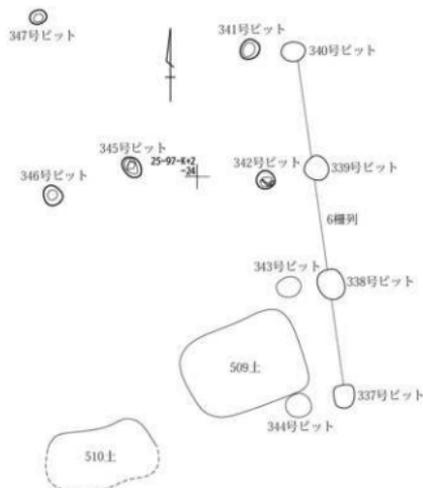
**982号土坑** 25-99-V-7グリッド 長軸長60cm、短軸長58cm、深さ27cm、長軸方位N-64°-E。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は少量の黄褐色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。

**983号土坑** 25-99-Q・R-1グリッド 長軸長140cm、短軸長78cm、深さ38cm、長軸方位N-77°-E。平面形は楕円形、断面形は底面がやや乱れるが、椀状に近い。覆土は少量の黄褐色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。

**984号土坑** 25-99-Q-1・2グリッド 長軸長210cm、短軸長65cm、深さ21cm、長軸方位N-6°-W。平面形は南北に長い長方形、断面形は鍋状。覆土は少量の黄褐色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。

第2章 発掘された遺構と遺物

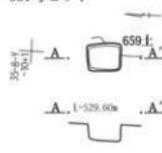
341・342・345・346・347号ビット



680号ビット



681号ビット



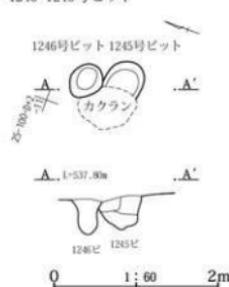
976号ビット



977号ビット



1245・1246号ビット



第148図 近世相当面のビット

**985号土坑** 25-99-Q-2グリッド 長軸長50cm、短軸長50cm、深さ33cm。平面形は円形、断面形は椀状。覆土は少量の黄橙色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。

**986号土坑** 25-99-Q・R-2グリッド 長軸長54cm、短軸長50cm、深さ29cm、長軸方位N-23°-E。平面形は楕円形、断面形はゆがんだ箱状。覆土は少量の黄橙色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。

**987号土坑** 25-99-P-1グリッド 長軸長72cm、短軸長58cm、深さ44cm、長軸方位N-53°-E。平面形は楕円形、断面形は深い椀状。覆土は少量の黄橙色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。

**988号土坑** 25-99-O-2グリッド 長軸長68cm、短軸長62cm、深さ61cm、長軸方位N-58°-E。平面形は楕円形、断面形は西辺上部が崩れるが、深い鍋状ないしU字状。覆土は少量の黄橙色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。底面に大型の礫がある。

**989号土坑** 25-99-Q・R-2グリッド 長軸確認長58cm、短軸長55cm、深さ32cm、長軸方位N-59°-W。平面形は楕円形、断面形は椀状。覆土は少量の黄橙色粒や地山由

来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。990号土坑に切られる。

**990号土坑** 25-99-R-2グリッド 長軸長73cm、短軸長62cm、深さ58cm、長軸方位N-35°-W。平面形は楕円形、断面形は椀状。覆土は少量の黄橙色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。989号土坑を切る。近世相当面、縄文時代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の状況から近世のものとした。

**1011号土坑** 25-99-P・Q-2グリッド 長軸長80cm、短軸長72cm、深さ55cm、長軸方位N-78°-E。平面形は楕円形、断面形は深い鍋状。覆土は少量の黄橙色粒や地山由来の多量の礫を含む暗褐色土を主体とする。

**1012号土坑** 25-99-O-2グリッド 長軸長83cm、短軸長72cm、深さ55cm、長軸方位N-2°-E。平面形は円形、断面形は深い鍋状で、南部が一段深く掘られる。覆土は土層観察所見と断面図が整合しないが、黄橙色粒を含む暗褐色土を主体とする。底面近くに大型の礫がある。

**1013号土坑** 25-99-O-1グリッド 長軸長36cm、短軸長34cm、深さ37cm、長軸方位N-73°-W。平面形は円形、断面形はやや深い鍋状ないし箱状。覆土は黄橙色粒を多

く含むにぶい黄褐色土を主体とする。上層には炭化物粒を含む。

**1014号土坑** 25-99-R-1・2グリッド 長軸長56cm、短軸長50cm、深さ37cm、長軸方位N-58°-W。平面形は円形、断面形は幅の広いU字状。覆土は壁際に黄褐色粒や地山由来の礫を含む褐色土、中央には黄褐色土ブロックと黒色土ブロックの混土がある。上位の建物と関連を持つ柱穴とも考えられる。

**1081号土坑** 25-99-U・V-8グリッド 長軸長80cm、短軸長59cm、深さ26cm、長軸方位N-80°-E。平面形は全体としては楕円形を呈する、断面形は東部がやや深く掘られて鍋状の断面を示し、西部は一段浅くなる。覆土は黄褐色土や地山由来の礫を含む黒褐色土を主体とする。

**1082号土坑** 25-99-V-8グリッド 長軸長45cm、短軸長39cm、深さ13cm、長軸方位N-64°-E。平面形は楕円形、断面形はやや浅い鍋状。覆土は黄褐色土を多量に含む暗褐色土を主体とする。

**1083号土坑** 25-99-V-8グリッド 長軸長67cm、短軸長67cm、深さ17cm。平面形は円形、断面形はやや浅い鍋状。覆土は黄褐色土や地山由来の礫を含む黒褐色土を主体とする。

**1084号土坑** 25-99-V-8グリッド 長軸長130cm、短軸長112cm、深さ68cm、長軸方位N-53°-E。平面形は楕円形、断面形はゆがんだ鍋状。覆土は上位は地山由来の礫や河床礫を多量に含む。下層は締まった黒色土を主体とする。

**1085号土坑** 25-99-U-6グリッド 長軸長40cm、短軸長33cm、深さ29cm、長軸方位N-14°-W。平面形は楕円形、断面形は箱形に近い。底部が東側に傾斜する。覆土は地山由来の礫を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1086号土坑** 25-99-U-7・8グリッド 長軸長140cm、短軸長124cm、深さ61cm、長軸方位N-40°-W。平面形は楕円形、断面形は上部が大きく開く逆台形状。覆土は地山由来の礫を多量に含む黒褐色土を主体とする。黄褐色土を含む。

**1087号土坑** 25-99-V・W-7グリッド 長軸長76cm、短軸長70cm、深さ37cm、長軸方位N-12°-W。平面形は楕円形、断面形は底部が乱れるが鍋状に近い。覆土は黄褐色土や鉄分の凝集ブロックを含む黒褐色土を主体とする。

る。近世相当面、縄文時代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の状況から近世のものとした。

**1101号土坑** 25-99-Q-1・2グリッド 長軸長140cm、短軸長110cm、深さ79cm、長軸方位N-71°-W。平面形は不定形、断面形は幅の広い箱状。覆土下位には地山由来の礫や黄褐色土を含む黒褐色土、上層に浅黄褐色の粘質土が乗る。近世相当面、縄文時代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の状況から近世のものとした。

**1102号土坑** 25-99-O-4グリッド 長軸長130cm、短軸長124cm、深さ13cm、長軸方位N-64°-E。平面形は円形、断面形は浅い鍋状。土層断面図を欠くが、覆土上位に炭化物、地山由来の礫、黄褐色土を含む黒褐色土、下位は黄褐色土が主体とされる。陶器破片、砥石、石製品が出土している。近世相当面、縄文時代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の状況から近世のものとした。

**1104号土坑** 25-99-L・M-2グリッド 長軸長80cm、短軸長70cm、深さ12cm、長軸方位N-68°-E。平面形は楕円形、断面形は浅い鍋状。覆土下位には浅黄褐色の粘質土があり、上位に黄褐色土や鉄分の凝集ブロックを含む黒褐色土がある。北西部の表層には炭化物が乗る。陶器破片が出土している。

**1111号土坑** 25-99-K-3グリッド 長軸長83cm、短軸長83cm、深さ10cm。平面形は円形、断面形はごく浅い箱状。桶が置かれた痕跡で、底面に円形の板が残り、この上に礫が乗る。1141号土坑と接する。

**1141号土坑** 25-99-K-3グリッド 長軸長112cm、短軸長110cm、深さ18cm、長軸方位N-51°-E。平面形は円形、断面形はごく浅い箱状。東に接する1111号土坑と同じく、桶が置かれた痕跡。

1111号、1141号が接した状態にあり、大小2基の桶が埋め置かれたものと想定される。土坑上位の天明泥流下面の建物に付属する便所と共通する形状である。泥流下面でのこの位置は畑になっていて建物はないため、建物等が廃絶した後に畑地とされたことが示される

**1192号土坑** 25-99-C-8グリッド 長軸長76cm、短軸長54cm、深さ19cm、長軸方位N-81°-E。平面形は楕円形、断面形は浅い鍋状。覆土は鉄分を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1193号土坑** 25-99-B・C-8グリッド 長軸長85cm、短軸長75cm、深さ10cm、長軸方位N-65°-E。平面形は楕円形、断面形は浅い鍋状。覆土は鉄分を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1194号土坑** 25-99-B-7グリッド 長軸長78cm、短軸長78cm、深さ11cm。平面形は円形、断面形は浅い鍋状。覆土は鉄分を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1195号土坑** 25-99-B-6グリッド 長軸長78cm、短軸長76cm、深さ15cm、長軸方位N-6°-E。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は鉄分を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1196号土坑** 25-99-B・C-5グリッド 長軸長72cm、短軸長70cm、深さ10cm、長軸方位N-82°-E。平面形は円形、断面形は浅い鍋状。覆土は鉄分を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1197号土坑** 25-99-A-5グリッド 長軸長82cm、短軸長74cm、深さ23cm、長軸方位N-62°-E。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は鉄分を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1198号土坑** 25-99-A-5グリッド 長軸長84cm、短軸長80cm、深さ19cm、長軸方位N-38°-W。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は鉄分を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1199号土坑** 25-99-B-4グリッド 長軸長100cm、短軸長94cm、深さ15cm、長軸方位N-70°-E。平面形は円形、断面形は浅い鍋状。覆土は鉄分を多く含む暗褐色土を主体とする。

**1200号土坑** 25-99-A-4グリッド 長軸長148cm、短軸長110cm、深さ20cm、長軸方位N-40°-E。平面形は楕円形、断面形は鍋状。覆土は下層は黒褐色土、上層は褐色土を主体とする。1201号土坑を切る。

**1201号土坑** 25-99-A-4・5グリッド 長軸長82cm、短軸長78cm、深さ18cm、長軸方位N-2°-E。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。1200号土坑に切られる

**1277号土坑** 25-90-U-21・22グリッド 長軸長124cm、短軸長80cm、深さ49cm、長軸方位N-16°-E。平面形は不定形、断面形は底面が大型の地山礫に当たる。断面図と土層観察所見が整合しないが、礫や黄褐色土粒を含む黒褐色土を主体とする覆土と思われる。

**1278号土坑** 25-90-V-22グリッド 長軸長146cm、短軸長107cm、深さ57cm、長軸方位N-12°-W。平面形は楕円形、断面形は中央が深い鍋状。覆土は礫を多く含む黒褐色土を主体とする。

**1279号土坑** 25-90-V-22・23グリッド 長軸長170cm、短軸長96cm、深さ45cm、長軸方位N-3°-W。平面形は楕円形、断面形は底面が地山礫に当たるが、鍋状に近い。断面図と土層観察所見が整合しないが、礫を多く含む黒褐色土を主体とする覆土と思われる。

**1281号土坑** 26-81-A・B-20・21グリッド 長軸長106cm、短軸長99cm、深さ49cm、長軸方位N-37°-E。平面形は円形、断面形は深い鍋状。覆土は礫を多く含む黒褐色土を主体とする。近世相当面、縄文時代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の状況から近世のものとした。

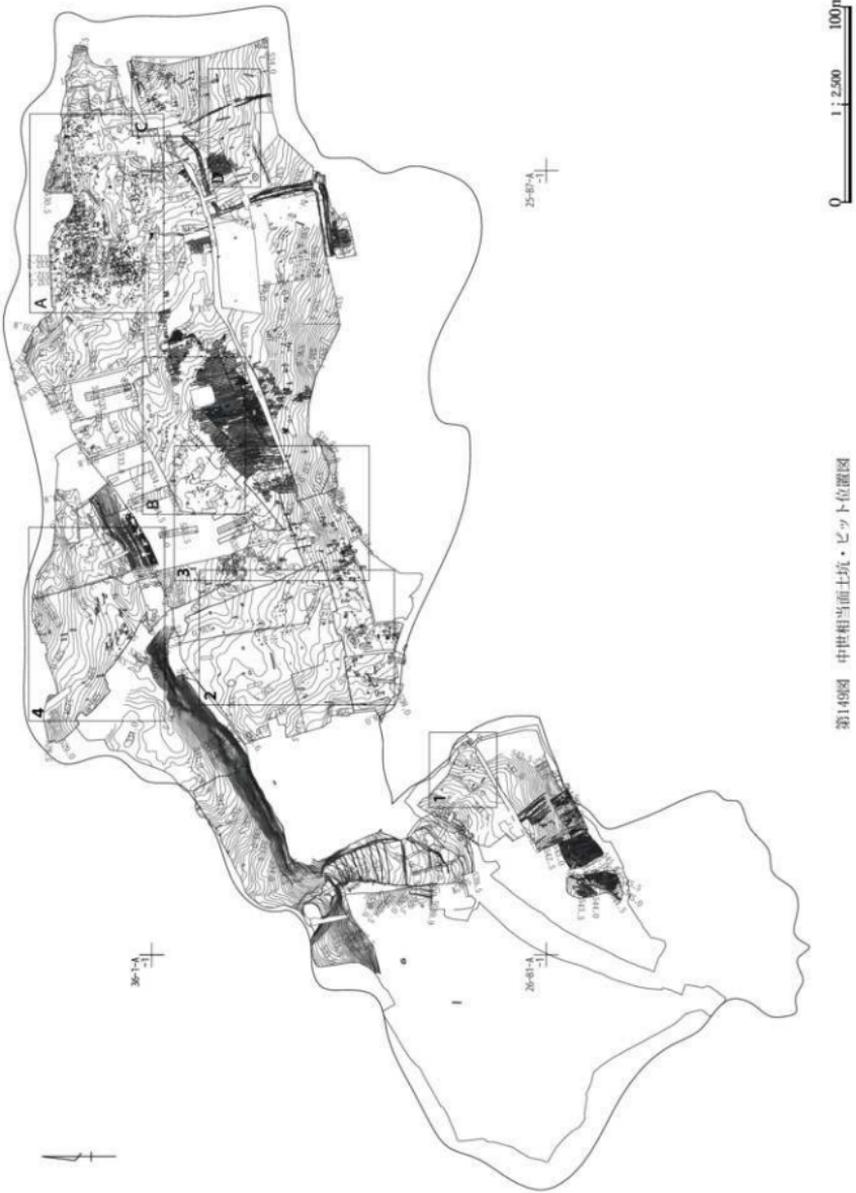
**1303号土坑** 25-90-V-22グリッド 長軸長170cm、短軸確認長60cm、深さ35cm、長軸方位N-6°-W。平面形は楕円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。1280号土坑(墓坑)に切られる。

**1309号土坑** 25-90-S-19グリッド 長軸長107cm、短軸長82cm、深さ27cm、長軸方位N-83°-W。平面形は東西に長い楕円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。立位の石臼片を含む角礫、垂角礫が中央部に入る。古代相当面、縄文時代相当面双方の発掘図面に記録されているが、覆土の状況から近世のものとした。

**1590号土坑** 25-99-X-9グリッド 長軸長66cm、短軸長49cm、深さ26cm、長軸方位N-20°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形。北辺に沿うように垂角礫がある。断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とし、礫を含む。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、覆土の状況から近世のものとした。

**1600号土坑** 25-100-B・C-4・5グリッド 長軸長144cm、短軸長114cm、深さ45cm、長軸方位N-10°-W。平面形はゆがんだ長方形、断面形は鍋状。覆土は下層はやや軟質の黒褐色土が主体で、東南部が一段深く掘られ、ここにやや大振りの角礫を含む礫が多く入れられている。上層に黄色砂質土を多く含む黄褐色土が乗る。肥前、瀬戸美濃系陶器の皿片が複数個体出土している。

**1634号土坑** 25-98-Y-3・4グリッド 長軸長86cm、短軸長78cm、深さ12cm、長軸方位N-17°-W。平面形は



第149図 中世相当面土坑・ピット位置図

楕円形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠く。

**1635号土坑** 25-99-A-3・4グリッド 長軸確認長106cm、短軸長120cm、深さ17cm、長軸方位N-4°-W。平面形は楕円形、断面形は浅い鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1636号土坑** 25-98-Y-4グリッド 長軸長72cm、短軸長70cm、深さ9cm、長軸方位N-73°-E。平面形は隅丸方形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠く。

**1825号土坑** 25-99-B-3グリッド 長軸長310cm、短軸長103cm、深さ33cm、長軸方位N-85°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。礫を多く含む。石白片が出土している。

## (2)ピット

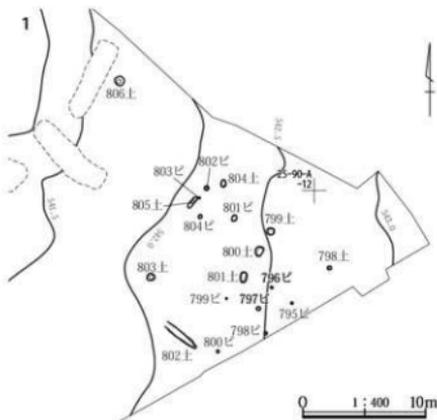
前報告では、近世相当面(3面)のピット104基を記載した。遺跡東端にある天明泥流下面の寺院部分や、この寺院に関連した堂宇であろう3号建物の下層で多くが確認されている。本報告で記載する近世相当面のピット11基は、遺跡中部西寄りの、円形から楕円形の土坑が多く見られる部分に2基(976・977号ピット)、遺跡中部北寄りに孤立的に2基(1245・1246号ピット)があったもので、これに前報告で記載が漏れた341・342・345～347号ピット、680・681号ピットを追加した。近世相当面は、洪水堆積物やこの下の遺構が認められた部分が狭いこともあってか、遺跡西部ではピットがほとんど認められていない。

### 2 中世相当面の土坑・ピット

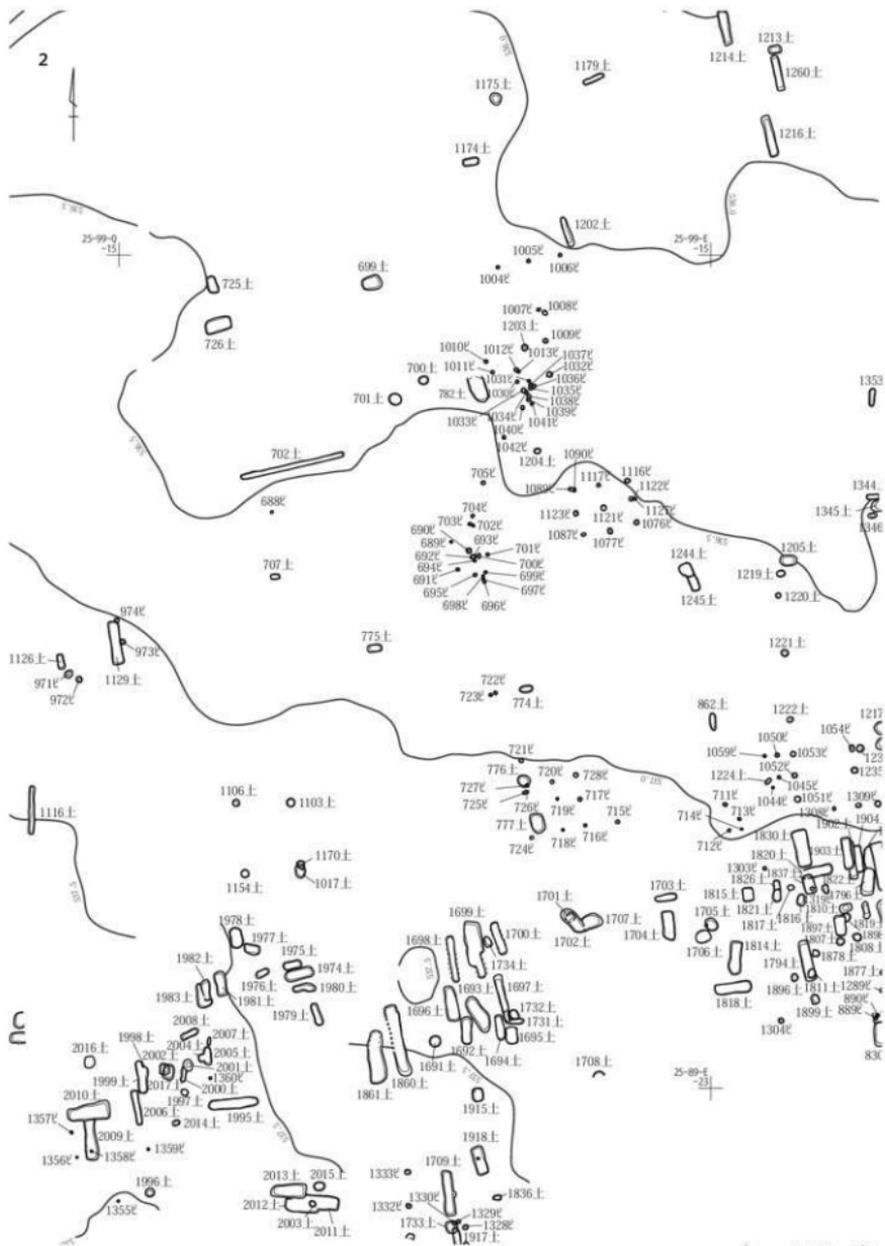
中世相当面では、土坑、ピットが多数発掘されている。土坑は近世相当面の145基に対して297基、ピットは近世相当面の11基に対して199基が発掘されている。近世相当面では土坑・ピットが認められなかった下位段丘面を含め、遺跡内のより広範囲に分布するが、やはり粗密があり、場所毎に形態がやや異なる。全体的な傾向を見ると、近世相当面では、長軸長平均122cm、短軸長平均73.5cm、と比較的小振りで、重複比平均が1.67と小さく、従って円形から偏円形の平面形を呈するものが多いのに対し、中世相当面の土坑は短軸長平均こそ74cmと近世相当面のそれに近いものの、長軸長の平均は189.7cmに及ぶ。702号土坑や1355号土坑という長さ8mを超えるものがあるように、長円形から溝状に近い平面形を呈する

ものが目立ち、この面で発掘された土坑の、特徴的な形態と捉えられる。これにより、古代、あるいは縄文時代面の発掘時に確認された土坑のうち、この形態のものについては、中世相当面に帰属する土坑として本項に記載した。遺跡西部では部分図1に示した円形土坑やピットの小さなまとまりがあるほか、円形、長円形の土坑が点在する。遺跡中部では部分図2・3に見られるように、南部の傾斜面近くには多くの土坑・ピットがまとまる。東西、南北方向に長軸を持つ細長い土坑が並び、円形や小判形の土坑も多く見られる。北部には小型の円形土坑が目立つ。下位段丘面では東部に土坑・ピットが集中する。東西、南北方向に長軸を持つ細長い土坑や円形土坑が混在する。東端では土坑が見られず、小ピットが点在する。

参考図A～Dは前報告で記載した中世相当面の土坑、ピットである。参考図Aは遺跡西北部で、煙痕跡と円形土坑、狭長な溝状土坑が認められる。天明泥流下面での7号道・1号水路以北に限定され、以南に煙道構が残されるのとは対照的なあり方を示す。ピットは西部に集中し、土坑はこのピット集中部を挟んで西寄りの群と東寄りの群に分かれるようである。参考図Bは今回報告する部分と連続する地域で、微弱な煙痕跡や狭長な土坑が散在する。掘立柱建物群とともに、土坑やピットが高い密度で認められる。土坑は長方形、方形のものが円形土坑より多い。墓場もこの部分の西寄りに多い。溝状の土坑は見られない。参考図C・Dは遺跡の東端近くで、参考



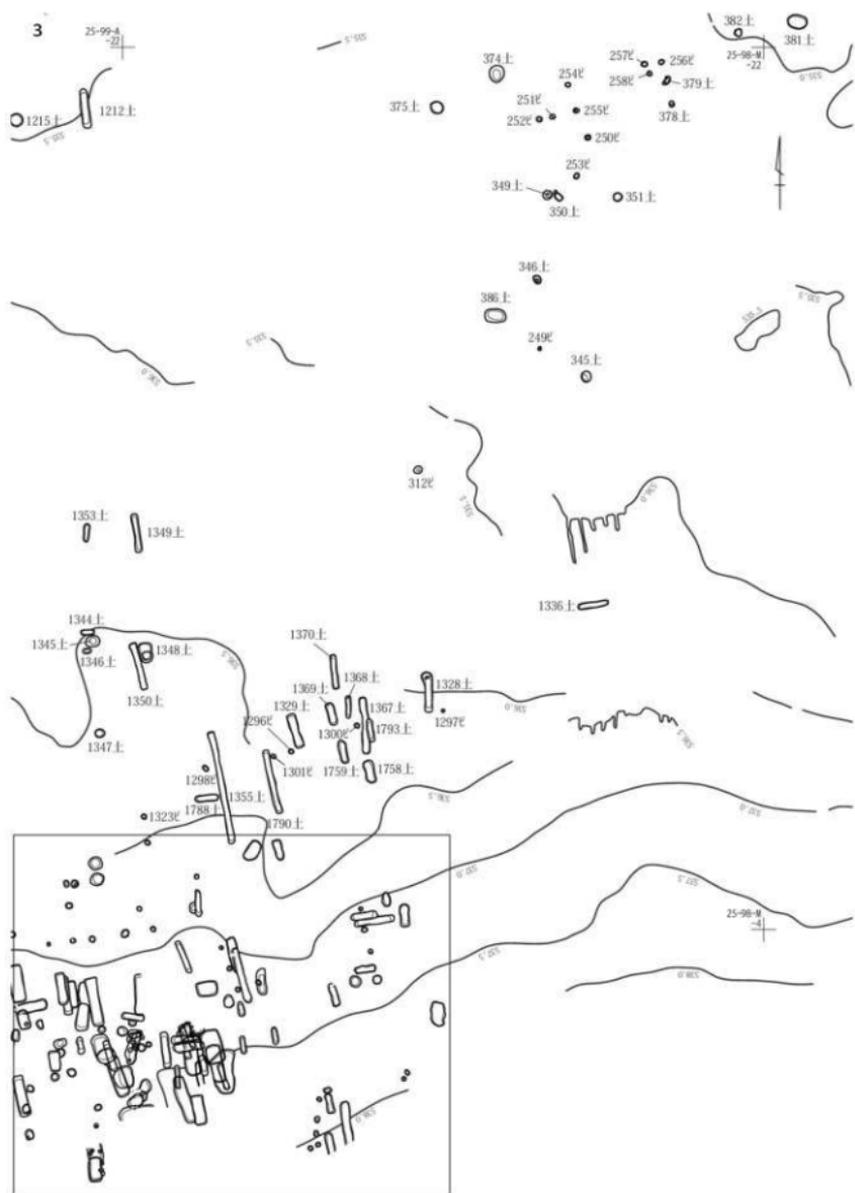
第150図 中世相当面土坑・ピット位置図 部分図1



第151図 中世相当面土坑・ピット位置図 部分図2

0 1:400 10m

第2章 発掘された遺構と遺物



第152図 中世相当面土坑・ピット位置図 部分図3

図Cでは特にビットの密集部分を示したが、建物として組み合うものは認められていない。ここから参考図Dにかけては、東西方向、南北方向それぞれに長軸を持つ狭長な溝状の土坑が見られる。南北方向を示すものは畑道構の畝間溝と方向をそろえており、畑の地割りと関係を持って掘られた土坑であると思われる。東西方向に長軸を持つ土坑も同様の性格を持つとすれば、この周辺に地割りの変換線があったものとも考えられる。ここでは7号道・1号水路相当位置を境に形態の異なる土坑が作られているのであり、境界の南北で土地利用が異なっていたことが示される。

### (1) 土坑

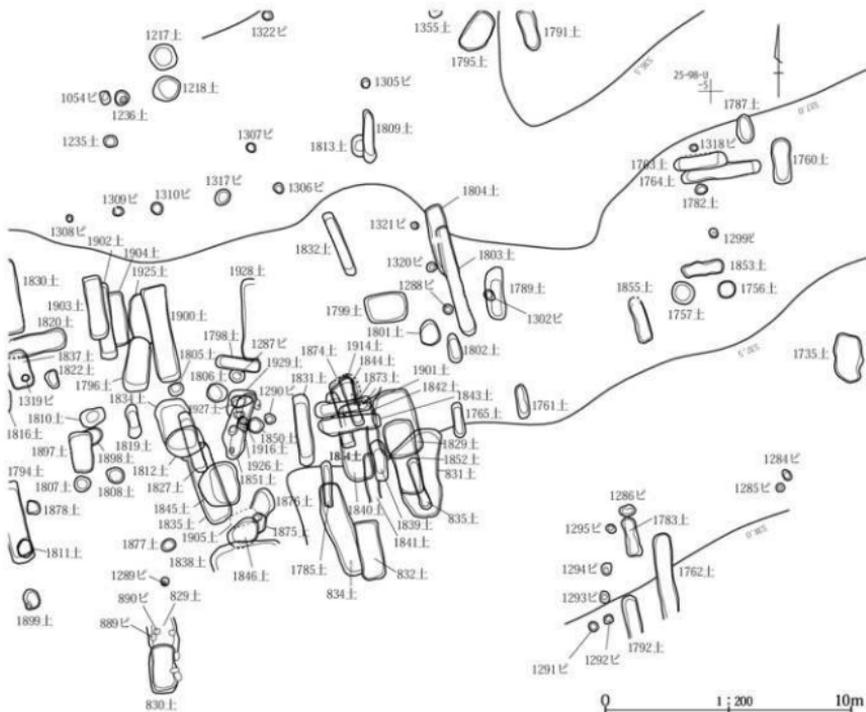
**699号土坑** 25-99-K・L-14グリッド 長軸長159cm、短軸長117cm、深さ32cm、長軸方位N-75°-E。平面形

は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状で壁は強く立ち上がる。覆土は暗灰褐色土と地山の暗色土ブロックの混土を主体とし、少量の炭化物や土師器片を含む。

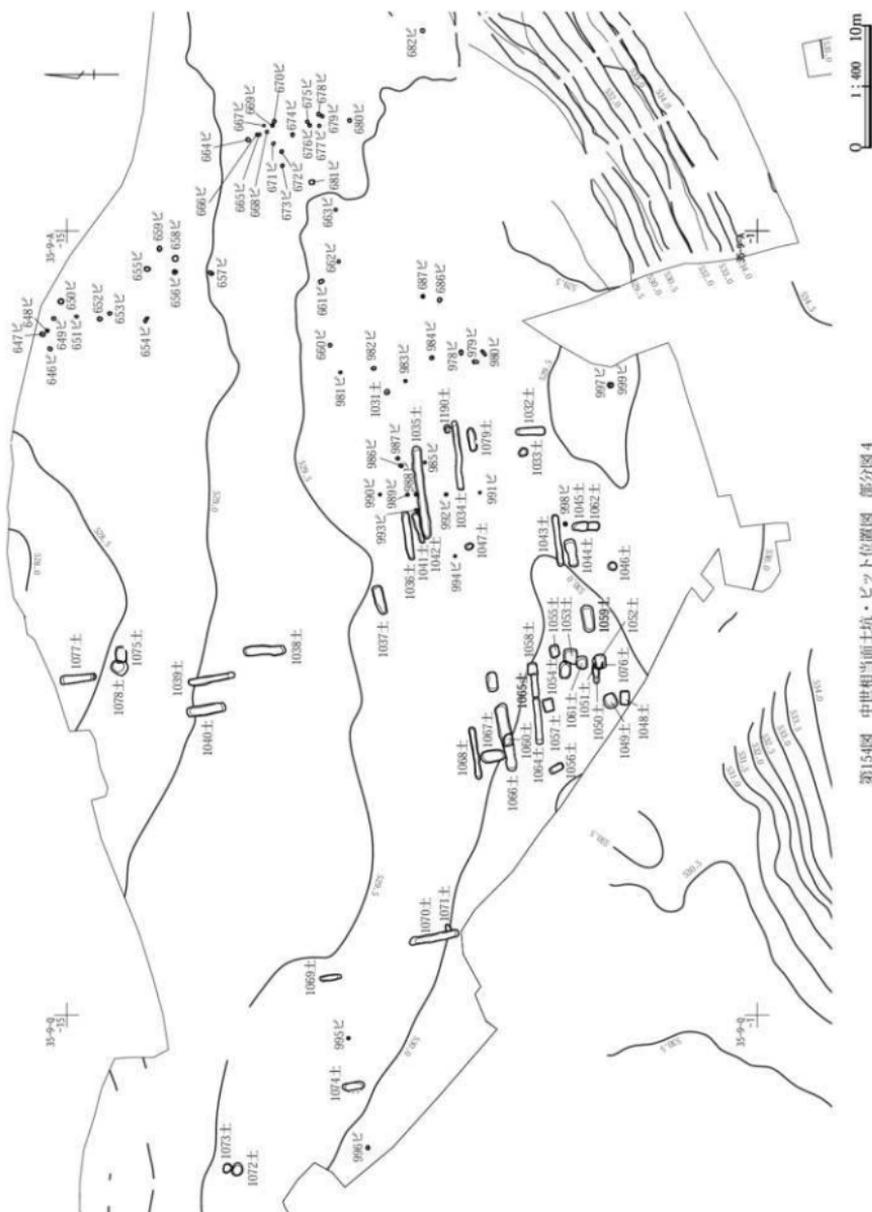
**700号土坑** 25-99-J-12グリッド 長軸長81cm、短軸長70cm、深さ19cm、長軸方位N-68°-E。平面形は円形、断面形は椀状。覆土は暗灰褐色土と地山土ブロックの混土を主体とし、少量の炭化物や土師器片を含む。

**701号土坑** 25-99-K-11・12グリッド 長軸長105cm、短軸長94cm、深さ26cm、長軸方位N-59°-W。平面形は円形、断面形は上方になだらかに開く鍋状。覆土は暗灰褐色土と地山の褐色土ブロックの混土を主体とする。

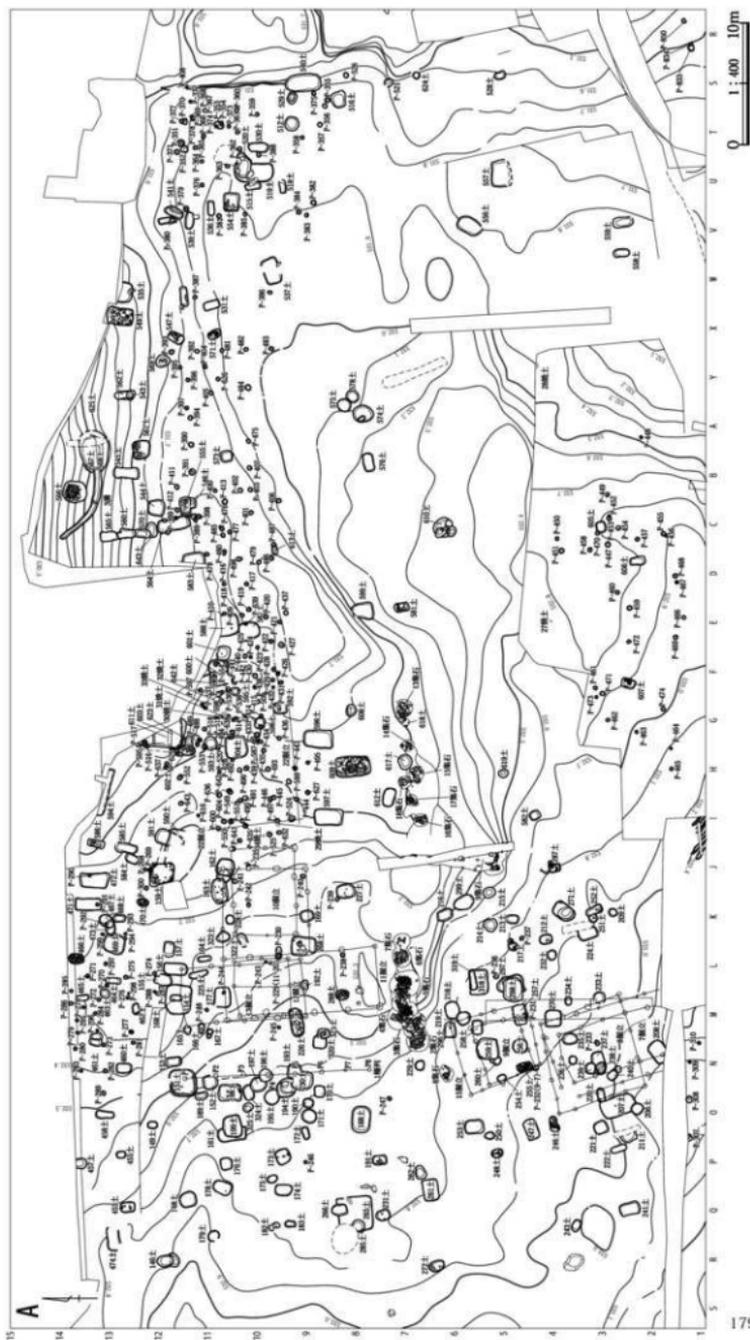
**702号土坑** 25-99-L~N-10グリッド 長軸長855cm、短軸長49cm、深さ21cm、長軸方位N-77°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は箱状。覆土は淡灰褐色シルト



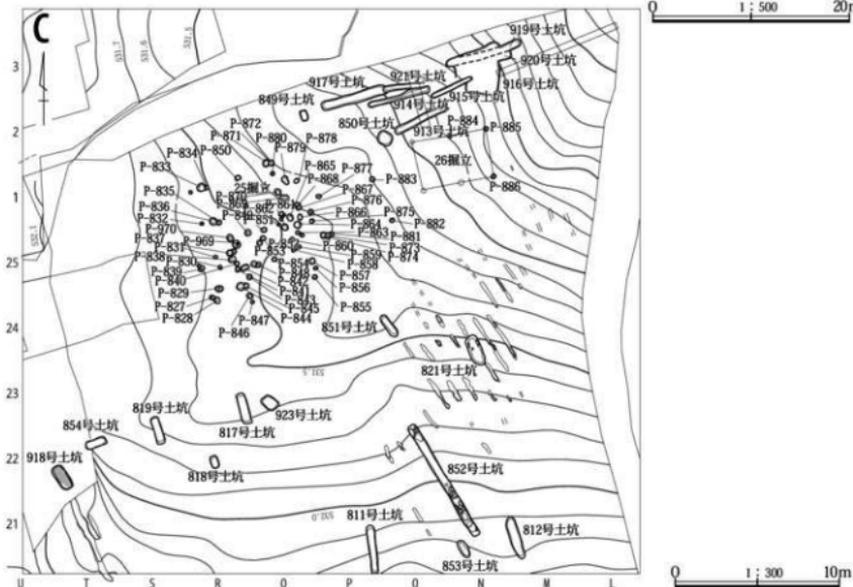
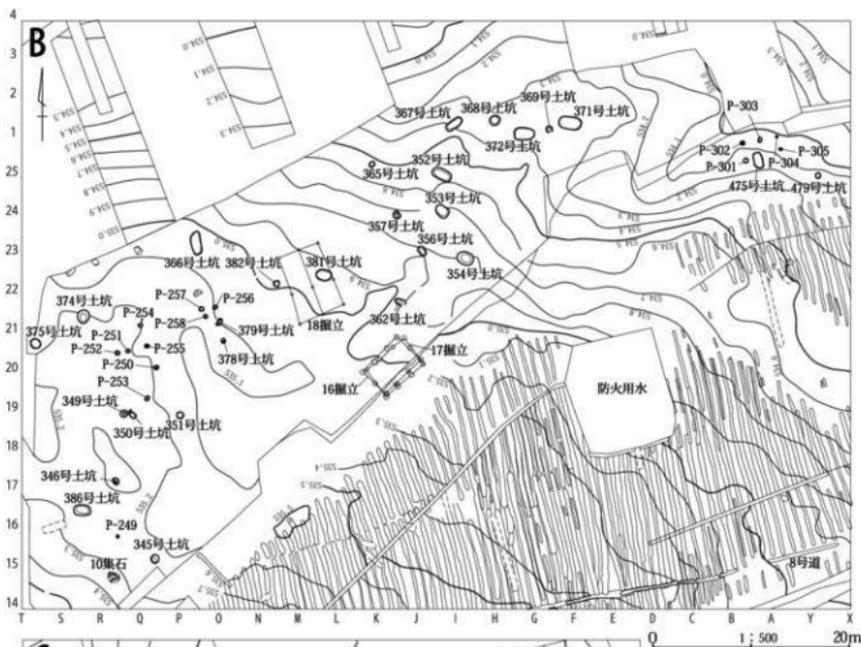
第153図 中世相当面土坑・ビット位置図 部分図3詳細図



第154図 中世相当土坑・ピット位置図 部分図4



第155図 中世相当面土坑・ピット位置図 参考図A



第156図 中世相当面土坑・ピット位置図 参考図B・C

質土と地山の褐色土ブロックの混土を主体とし、炭化物を多く含む。

**707号土坑** 25-99-M-8グリッド 長軸長73cm、短軸長

43cm、深さ9cm、長軸方位N-85°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は浅い鍋状。覆土は淡灰褐色シルト質土と地山の暗褐色土ブロックの混土を主体とし、炭化物を少量含む。

**725号土坑** 25-99-N・O-14グリッド 長軸長142cm、短軸長82cm、深さ16cm、長軸方位N-17°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は浅い鍋状。覆土は淡灰褐色シルト質土と地山の褐色土ブロックの混土を主体とし、炭化物を少量含む。南壁際には円礫・垂角礫が入っている。

**726号土坑** 25-99-N・O-13グリッド 長軸長214cm、短軸長116cm、深さ19cm、長軸方位N-75°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は浅い鍋状。覆土は淡灰褐色シルト質土と黒褐色シルト質土の混土を主体とする。693号土坑と重複する。中世、古代相当面双方の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**774号土坑** 25-99-H-6グリッド 長軸長107cm、短軸長59cm、深さ19cm、長軸方位N-84°-E。平面形は東西に長い楕円形、断面形は鍋状。覆土は黒灰褐色土と淡灰褐色土の混土を主体とし、小礫や鉄分の凝集斑を含む。

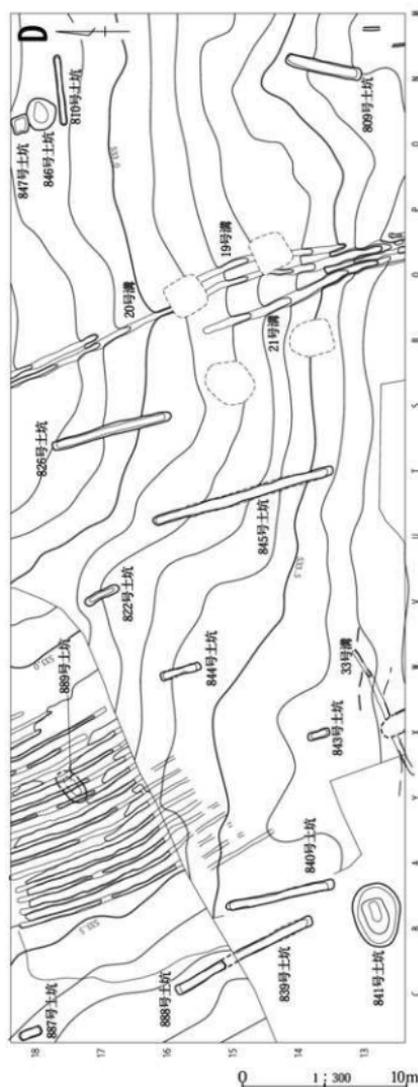
**775号土坑** 25-99-K-6・7グリッド 長軸長115cm、短軸長60cm、深さ41cm、長軸方位N-83°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は箱状。覆土は淡灰褐色土を主体とし、壁沿いに黒褐色土が入る。

**776号土坑** 25-99-H-4グリッド 長軸長107cm、短軸長98cm、深さ41cm、長軸方位N-29°-W。平面形は円形、断面形は深い鍋状。覆土は黒灰褐色土と淡灰褐色土の混土を主体とする。

**777号土坑** 25-99-H-3グリッド 長軸長162cm、短軸長109cm、深さ46cm、長軸方位N-17°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は炭化物を含む淡灰褐色土を主体とし、下に黄灰色シルトが入る。

**779号土坑** 25-90-P・Q-15グリッド 長軸長100cm、短軸長72cm、深さ8cm、長軸方位N-3°-E。平面形は南北に長い隅丸長方形、西辺両隅は丸みを持たずに強く屈曲する。断面形は浅い皿状。覆土は黒褐色土を主体とする。水田より上位にある。

**782号土坑** 25-99-I-12グリッド 長軸確認長225cm、



第157図 中世相当面土坑・ピット位置図 参考図D

短軸長133cm、深さ48cm、長軸方位N-25°-W。平面形は南北に長いゆがんだ長円形、断面形は鍋状。覆土は黒灰褐色土を主体とし、淡灰褐色土を含み、大きな炭化物を多量に含む。また、北部を中心に角礫、亜角礫を多く含む。

**798号土坑** 25-89-Y-10グリッド 長軸長35cm、短軸長32cm、深さ49cm、長軸方位N-78°-W。平面形は円形、断面形は深い箱状。覆土は観察所見を欠くが、円礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**799号土坑** 25-90-A-11グリッド 長軸長62cm、短軸長59cm、深さ42cm、長軸方位N-68°-W。平面形は円形、断面形は上部がやや開く。覆土は観察所見を欠くが、下にやや大型の角礫が詰め込まれたように入る。

**800号土坑** 25-90-B-10グリッド 長軸長82cm、短軸長63cm、深さ43cm、長軸方位N-19°-E。平面形は南北に長い偏円形、断面形は深い鍋状。覆土は観察所見を欠く。底面は礫層に当たり、北壁沿いは円礫が積み重なるように入る。

**801号土坑** 25-90-B-10グリッド 長軸長86cm、短軸長52cm、深さ14cm、長軸方位N-8°-E。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、小礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**802号土坑** 25-90-C-8・9グリッド 長軸確認長313cm、短軸長58cm、深さ21cm、長軸方位N-51°-W。平面形は北西-南東に長い溝状。北端は大型の礫に当たって途切れる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。写真記録からは下層が暗褐色土相当、上層は下層より明るく見える。

**803号土坑** 25-90-D-10グリッド 長軸長66cm、短軸長60cm、深さ12cm、長軸方位N-64°-E。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠くが、写真記録からは灰色がかった黒褐色土相当に見える。

**804号土坑** 25-90-B-12グリッド 長軸長61cm、短軸長42cm、深さ22cm、長軸方位N-4°-E。平面形は南北に長い偏円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、小礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**805号土坑** 25-90-C-11グリッド 長軸長107cm、短軸長34cm、深さ31cm、長軸方位N-38°-E。平面形は北東-南西に長い長円形ないし短い溝状、断面形はU字状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色から黒褐色土を主体とするものと思われる。

**806号土坑** 25-90-D・E-14グリッド 長軸長78cm、短軸長70cm、深さ43cm、長軸方位N-8°-W。平面形は円形、断面形は上部が開く逆台形状。覆土は観察所見を欠くが、砂礫を多く含み、特に上位に角礫が多い。

**813号土坑** 25-90-O・P-17グリッド 長軸長90cm、短軸長85cm、深さ12cm、長軸方位N-49°-E。平面形は円形、断面形は皿状。覆土は締まった暗褐色土を主体とする。水田より上位にある。

**814号土坑** 25-90-M-18グリッド 長軸長80cm、短軸長60cm、深さ6cm、長軸方位N-29°-W。平面形は北西-南東に長い隅丸長方形、断面形は浅い皿状。覆土は締まった暗褐色土を主体とする。水田より上位にある。

**815号土坑** 25-90-M-18グリッド 長軸長70cm、短軸長62cm、深さ10cm、長軸方位N-21°-W。平面形は角度を変えた長円形土坑がV字状に重複したように見える。断

699号・700号土坑 1 暗灰褐色土 やや締まる。地山上ブロックと炭化物を含む。土師器片を含む。

701号土坑 1 暗灰褐色土 やや締まる。地山上ブロックと炭化物を含む。

702号土坑 1 淡灰褐色シルト質土と地山のブロックの混土。炭化物を少量含む。

707号土坑 1 淡灰褐色シルト質土と地山のブロックの混土。炭化物を多く含む。

725号・726号土坑 1 淡灰褐色シルト質土と黒褐色シルト質土のブロックの混土。

774号土坑 1 黒灰褐色土と淡灰褐色土の混土。炭化物を少量含む。

775号土坑 1 淡灰褐色土 地山上ブロックを少量含む。壁面は黒褐色土。底面は黄色ローム質土。

776号土坑 1 黒灰褐色土と淡灰褐色土の混土。炭化物を少量含む。

777号土坑 1 淡灰褐色土 大きな炭化物を多く含む。下部に黄鉄が入る。

2 くすんだ灰褐色土。

3 黄灰色シルト 洪水砂か。

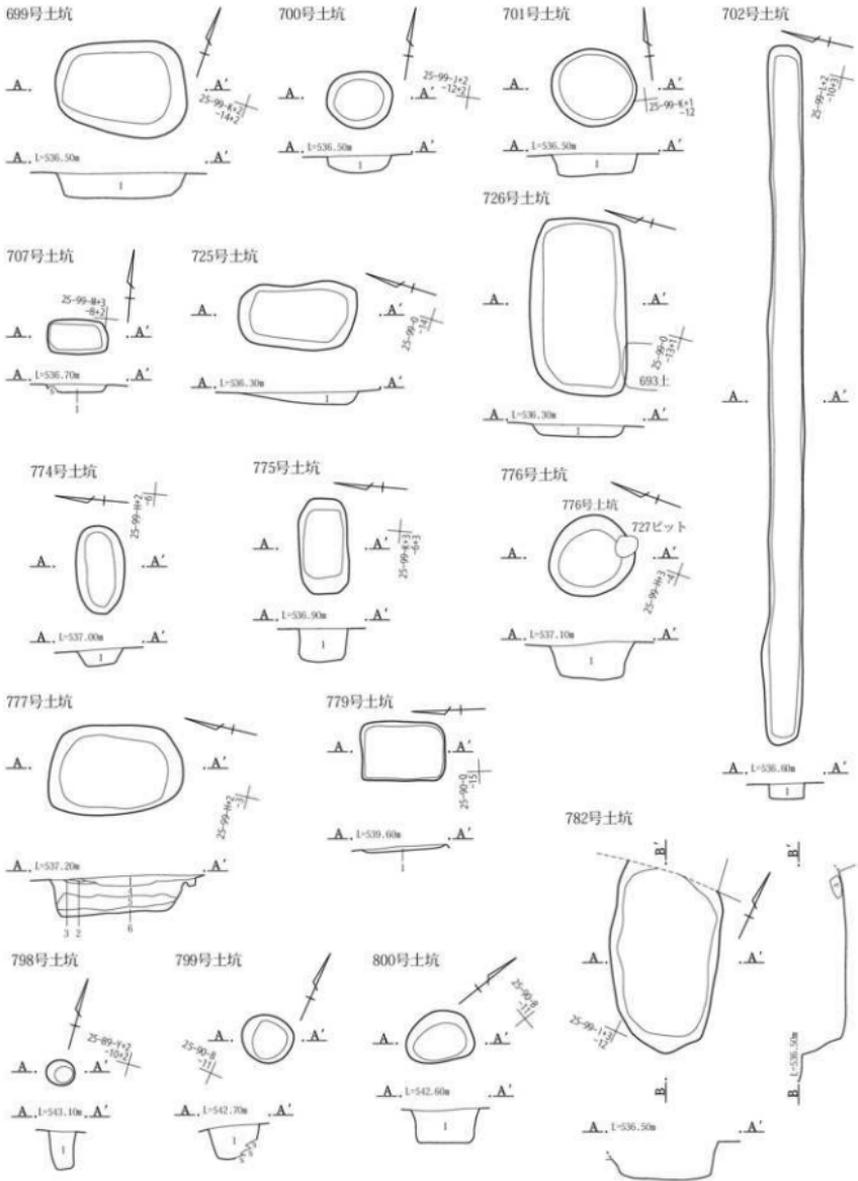
4 黒灰褐色土と淡灰褐色土上ブロックの混土。大きな炭化物を多く含む。

5 4層と同じだが、黒灰褐色土を主体とする。大きな炭化物を多量に含む。

6 5層と地山の混土。

779号土坑 1 黒褐色粘質土 水田より上位にある。

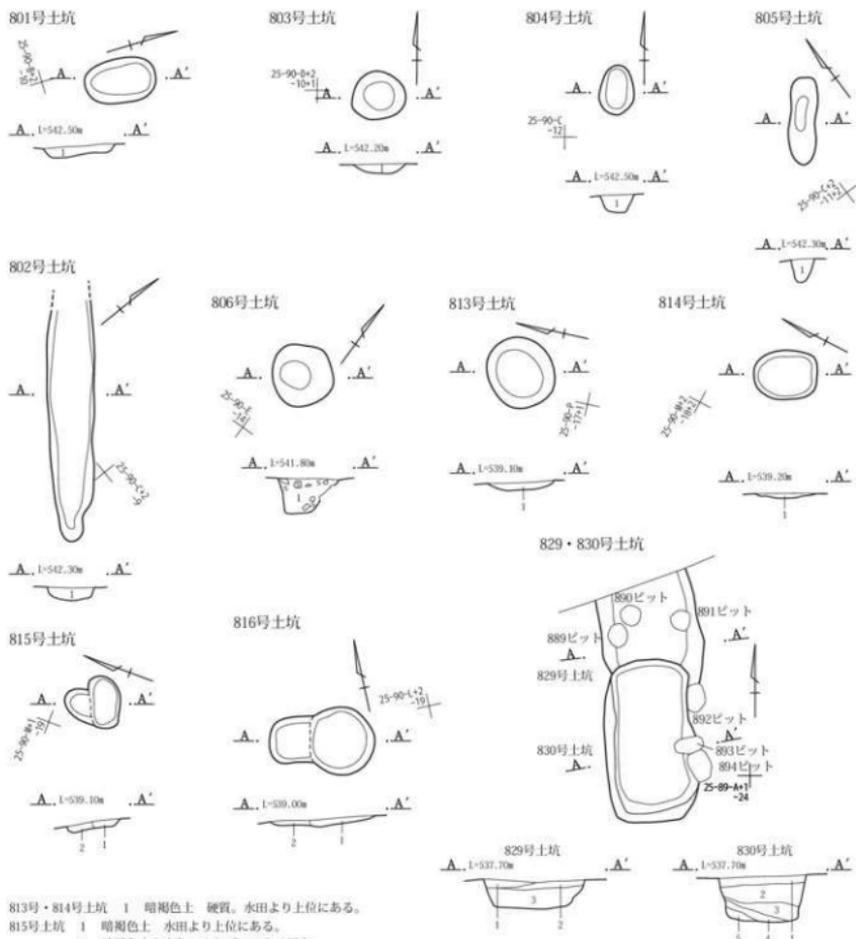
782号土坑 1 黒灰褐色土と淡灰褐色土の混土。黒灰褐色土が主体。大きな炭化物を多量に含む。



第158図 中世相当面の土坑 1

0 1:60 2m

第2章 発掘された遺構と遺物



- 813号・814号土坑 1 暗褐色土 硬質。水田より上位にある。
- 815号土坑 1 暗褐色土 水田より上位にある。
- 2 暗褐色土と白色シルトブロックの混土。
- 816号土坑 1 暗褐色土 水田より上位にある。
- 2 灰褐色土。
- 1017号土坑 1 10YR6/4 にぶい黄褐色土 下層に焼土ブロックと黒褐色土が相互に堆積する。
- 2 10YR2/1 黒色土 褐色ブロックを含む。締まりあり。
- 1031号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。砂質土。締まり弱い。
- 1032号土坑 1 10YR3/2 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。やや締まりあり。
- 1033号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを含む。
- 2 10YR4/4 褐色土 黄褐色ブロックを多量に含む。ごく小粒の白色軽石を少量含む。
- 1034号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積土。芋穴状。
- 1035号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを含む。やや締まりあり。芋穴状。
- 1041号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を多量に含む。鉄分凝縮ブロックを含む。締まりあり。芋穴状。

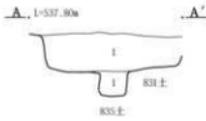
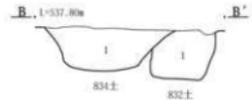
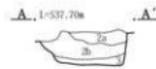
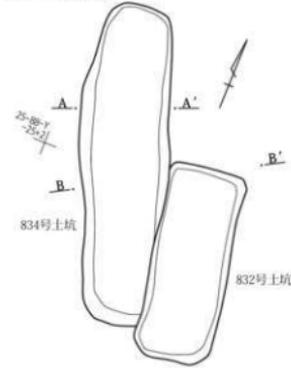
0 1:60 2m

第159図 中世相当面の土坑2

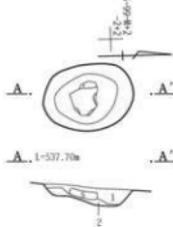
831・835号土坑



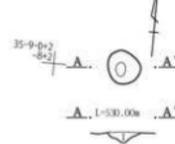
832・834号土坑



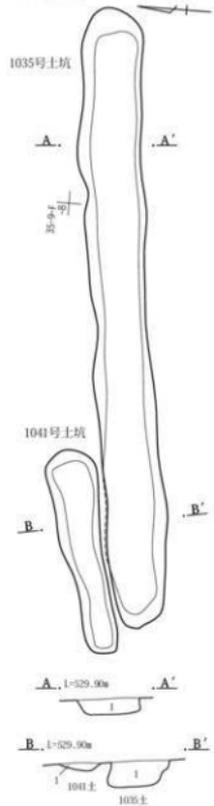
1017号土坑



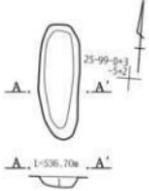
1031号土坑



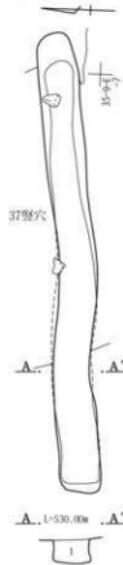
1035号土坑



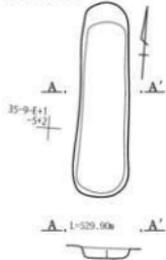
862号土坑



1034号土坑



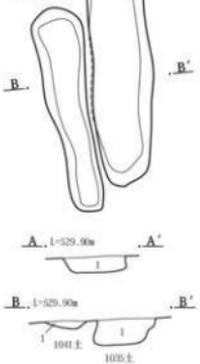
1032号土坑



1033号土坑



1041号土坑



第160図 中世相当面の土坑3

0 1:60 2m

面形は浅い鍋状。覆土は北部では暗褐色土、南部は暗褐色土と白色シルトブロックの混土を主体とする。水田より上位にある。

**816号土坑** 25-90-L-18・19グリッド 長軸長128cm、短軸長82cm、深さ11cm、長軸方位N-77°-W。東部の円形土坑と西部の隅丸長方形土坑が重複したかに見える。断面形は皿状。覆土は東部は灰褐色土、西部は暗褐色土を主体とする。水田より上位にある。

**829号土坑** 25-89-A-24グリッド 長軸確認長146cm、短軸長122cm、深さ30cm、長軸方位N-10°-W。平面形は北部が調査区界に切られるが、南北に長い隅丸長方形の平面形と思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、地山ローーム起源の褐色土斑を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。830号土坑に切られる。

**830号土坑** 25-89-A-23・24グリッド 長軸長210cm、短軸長110cm、深さ58cm、長軸方位N-0°。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、写真記録からは、ローームブロックを含む黒褐色土が西側から流入したように見える。829号土坑を切る。

**831号土坑** 25-88・98-W・X-25・1グリッド 長軸長362cm、短軸長180cm、深さ46cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北に長いゆがんだ長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。835号土坑を切る。1829号・1852号土坑と重複する。土師器小片が出土している。

**832号土坑** 25-88-X-25グリッド 長軸長232cm、短軸長95cm、深さ55cm、長軸方位N-8°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は観察所見を欠くが、地山ローーム起源の褐色土斑を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。平面図では834号土坑を切るかに描かれるが、土層断面図では同土坑に切られる。

**834号土坑** 25-88-X-25グリッド 長軸長375cm、短軸確認長104cm、深さ51cm、長軸方位N-14°-W。平面形は南北に長い、幅の狭い隅丸長方形、断面形は上部が大きく開く鍋状。覆土は観察所見を欠くが、地山ローーム起源の褐色土斑を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。平面図では832号土坑に切られるかに描かれるが、土層断面図では同土坑を切る。1785号土坑と重複する。

**835号土坑** 25-88・98-W・X-25・1グリッド 長軸長218cm、短軸長46cm、深さ37cm、長軸方位N-28°-W。平面形は南北に長い、幅の狭い長円形、断面形は箱状。覆土は観察所見を欠くが、ローーム小ブロックを多く含む。土師器小片が出土している。1852号土坑と重複する。

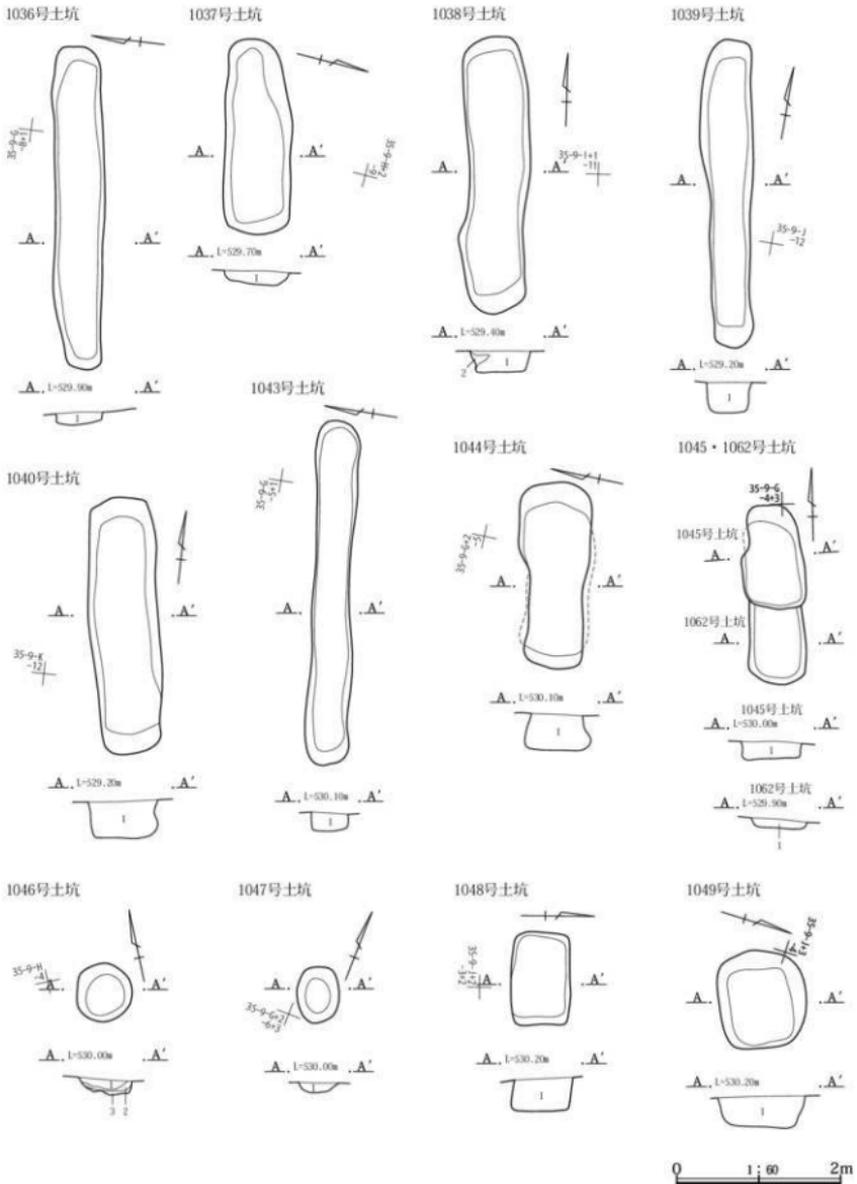
**862号土坑** 25-99-D・E-5グリッド 長軸長140cm、短軸長49cm、深さ12cm、長軸方位N-4°-W。平面形は南北に長い、幅の狭い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、混入物の少ない暗褐色ないし黒褐色土を主体とするものと思われる。

**1017号土坑** 25-99-M-2グリッド 長軸長110cm、短軸長81cm、深さ33cm、長軸方位N-1°-E。平面形は南北に長い楕円形、断面形は鍋状に近いが底面が北に傾斜する。覆土は底面近くに黒色土があり、上位は焼土ブロックと黒褐色土が相互に堆積する。中央に扁平な垂角礫がある。

**1031号土坑** 35-9-D-8グリッド 長軸長44cm、短軸長38cm、深さ10cm、長軸方位N-13°-W。平面形は円形、断面形は中央が窪むが椀状に近い。覆土は砂質の暗褐色土を主体とする。

**1032号土坑** 35-9-E-5グリッド 長軸長237cm、短軸長65cm、深さ20cm、長軸方位N-2°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は浅い鍋状。覆土は黒褐色土を

1036号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を多量に含む。締まりあり。宇穴状。
1037号土坑	1	10YR3/2	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。やや締まりあり。宇穴状。
1038号土坑	1	10YR3/2	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒、鉄分凝縮ブロックを含む。宇穴状。
1039号土坑	1	10YR3/2	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを含む。人為的堆積土。宇穴状。
1040号土坑	1	10YR3/2	黒褐色土	黄褐色粒・ブロックを多量に含む。ごく小粒の白色軽石を含む。人為的堆積土。宇穴状。
1043号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	褐色土ブロックを含む。小礫を少量含む。人為的堆積土。宇穴状。
1044号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	下層に黄褐色粒・ブロックを多量に含む。ごく小粒の白色軽石を含む。人為的堆積土。宇穴状。
1045号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、褐色土ブロックを含む。下層に20mmから30mmの小礫を含む。
1062号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石を含む。黄褐色粒・ブロックを少量含む。
1046号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石を多量に含む。褐色土ブロックを少量含む。
1047号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。砂質土。締まり弱い。
1048号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色粒・ブロックを多量に含む。20mmほどの小礫を下層に含む。人為的堆積土。
1049号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色粒・ブロックを多量に含む。黒色土ブロックを含む。人為的堆積土。



第161図 中世相当面の土坑4

主体とする。

**1033号土坑** 35-9-E-5グリッド 長軸長78cm、短軸長66cm、深さ11cm、長軸方位N-45°-W。平面形はゆがんだ円形、断面形は浅い鍋状。覆土は暗褐色土を主体とする。壁際に黄褐色土ブロックを多く含む褐色土が入る。やや厚手の土師器甕胴部・口縁部小片が出土している。

**1034号土坑** 35-9-D~F-6・7グリッド 長軸長512cm、短軸長50cm、深さ36cm、長軸方位N-87°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は箱形。覆土は黄褐色土の小ブロックを多く含む黒褐色土を主体とする。37号竪穴建物を切る。須恵器杯口縁部小片、土師器・須恵器小片が出土している。

**1035・1042号土坑** 35-9-E~G-7グリッド 長軸長760cm、短軸長74cm、深さ33cm、長軸方位N-82°-E。平面形は東西に長い溝状で、東部が1035土坑、西部が1042土坑とされているが、両土坑の境界や切り合いはわからない。断面形はゆがんだ鍋状。覆土は黄褐色土粒を含む暗褐色土を主体とする。須恵器杯口縁部小片が出土している。

**1036号土坑** 35-9-F・G-7・8グリッド 長軸長396cm、短軸長60cm、深さ17cm、長軸方位N-82°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は鍋状。覆土は黄褐色土粒を含む暗褐色土を主体とする。須恵器杯口縁部小片、土師器小片が出土している。

**1037号土坑** 35-9-H-8グリッド 長軸長240cm、短軸

長80cm、深さ17cm、長軸方位N-71°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形はゆがんだ鍋状。覆土は黄褐色土粒を含む黒褐色土を主体とする。須恵器甕頸部小片が出土している。

**1038号土坑** 35-9-I-10・11グリッド 長軸長338cm、短軸長78cm、深さ35cm、長軸方位N-3°-W。平面形は南北に長い、幅の狭い隅丸方形、断面形は鍋状。覆土は黄褐色土粒を含む黒褐色土を主体とする。土師器小片が出土している。

**1039号土坑** 35-9-J-11・12グリッド 長軸長376cm、短軸長62cm、深さ42cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は深い鍋状。覆土は黄褐色土粒を含む黒褐色土を主体とする。

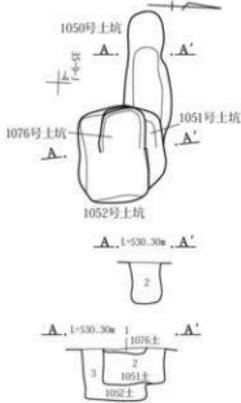
**1040号土坑** 35-9-J-11・12グリッド 長軸長316cm、短軸長84cm、深さ48cm、長軸方位N-6°-W。平面形は南北に長く幅の狭い隅丸方形ないし溝状、断面形は鍋状。覆土は黄褐色土粒を含む黒褐色土を主体とする。

**1041号土坑** 35-9-F・G-7・8グリッド 長軸長250cm、短軸長60cm、深さ9cm、長軸方位N-75°-E。平面形は東西に長いゆがんだ長円形ないし溝状、断面形は皿状。覆土は黄褐色土粒や同斑を含む黒褐色土を主体とする。

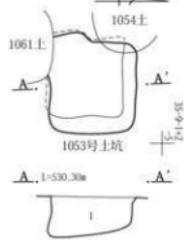
**1043号土坑** 35-9-F・G-4・5グリッド 長軸長420cm、短軸長50cm、深さ27cm、長軸方位N-82°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は鍋状。覆土は褐色土ブロック

1050号~1052号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土粒・黒色土ブロックを含む。人為的堆積土。
	2	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。黒色土ブロックを含む。人為的堆積土。
	3	10YR7/4	にぶい黄褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。黒色土ブロックを含む。人為的堆積土。
1076号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土粒、黒色土ブロックを含む。人為的堆積土。
1053号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。黒色土ブロックを含む。人為的堆積土。
1054号土坑	1	10YR3/2	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色土粒、鉄分凝縮ブロックを多量に含む。粘質土。
1055号・1056号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。黒色土ブロックを含む。人為的堆積土。
1057号土坑	1	10YR7/4	にぶい黄褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。黒色土ブロックを含む。上層に褐斑粘質土を含む。人為的堆積土。
1058号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。20mm前後の小礫を下層に含む。人為的堆積土。
1059号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。
	2	10YR4/4	褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積土。
	3	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、褐色土粒を含む。輪まりあり。
	4	10YR3/2	黒褐色土	黄褐色土粒を少量含む。粘質土。
	5	10YR7/8	黄褐色土	地山起源の黄褐色砂質土主体。
1060号・1066号土坑	1	10YR7/4	にぶい黄褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積土。
	2	10YR3/2	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色土粒を多量に含む。
	3	10YR4/4	褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色土粒を多量に含む。
	4	10YR7/8	黄褐色土	地山黄褐色砂質土ブロックを主体とする。
1061号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土粒・ブロックを含む。
1063号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積土。
1065号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。上層に褐斑粘質土を含む。人為的堆積土。
	2	10YR7/4	にぶい黄褐色土	黄褐色土粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積土。

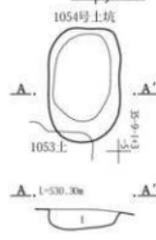
1050・1051・1052・1076号土坑



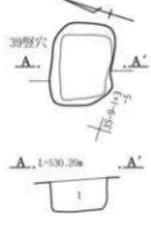
1053号土坑



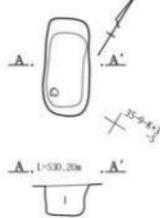
1054号土坑



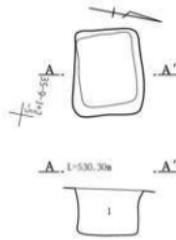
1055号土坑



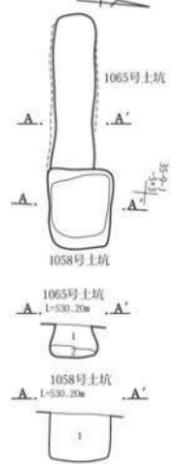
1056号土坑



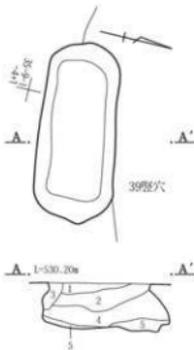
1057号土坑



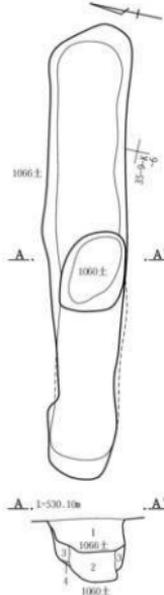
1058・1065号土坑



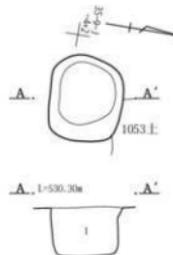
1059号土坑



1060・1066号土坑



1061号土坑



1063号土坑



0 1:60 2m

第162図 中世相当面の土坑5

クを含む暗褐色土を主体とする。

**1044号土坑** 35-9-G-4グリッド 長軸長238cm、短軸長86cm、深さ46cm、長軸方位N-79°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は下部がややふくれた弱い袋状。覆土は黄褐色土粒を含む暗褐色土を主体とする。須恵器甕胴部小片が出土している。

**1045号土坑** 35-9-F・G-4グリッド 長軸長126cm、短軸長80cm、深さ24cm、長軸方位N-3°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は暗褐色土を主体とする。1062号土坑の北部を、直列するように切る。須恵器杯小片が出土している。

**1046号土坑** 35-9-G-3・4グリッド 長軸長70cm、短軸長67cm、深さ22cm、長軸方位N-7°-E。平面形は円形、断面形は底部が乱れるが椀状に近い。覆土は暗褐色土を主体とする。

**1047号土坑** 35-9-G-6グリッド 長軸長66cm、短軸長50cm、深さ16cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北にやや長い楕円形、断面形は椀状。覆土は暗褐色土を主体とする。

**1048号土坑** 35-9-J-3グリッド 長軸長114cm、短軸長72cm、深さ39cm、長軸方位N-90°。平面形は東西に長い長方形、断面形は箱状。覆土は暗褐色土を主体とする。

**1049号土坑** 35-9-J-3・4グリッド 長軸長118cm、短軸長106cm、深さ36cm、長軸方位N-68°-E。平面形は胴張りのある方形、断面形は鍋状。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土を主体とする。須恵器杯小片が出土している。

**1050号土坑** 35-9-I・J-4グリッド 長軸確認長142

cm、短軸長60cm、深さ61cm、長軸方位N-88°-E。平面形は東西に長いゆがんだ長円形、断面形は深い鍋状で、中央部が括れる。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土を主体とする。1051・1052・1076号土坑に切られる。

**1051号土坑** 35-9-I-4グリッド 長軸確認長60cm、短軸長80cm、深さ44cm、長軸方位N-90°。平面形は隅丸方形に近いものと思われる、断面形は箱形。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土が水平の互層をなす。1050・1052号土坑を切る。1076号土坑に切られる。

**1052号土坑** 35-9-I-4グリッド 長軸長112cm、短軸長86cm、深さ63cm、長軸方位N-82°-E。平面形は隅丸方形に近いものと思われる。断面形は箱形。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土が水平の互層をなす。1076号土坑と重複。1050号土坑を切る。1051号土坑に切られる。

**1053号土坑** 35-9-I-4グリッド 長軸長120cm、短軸長104cm、深さ49cm、長軸方位N-90°。平面形は隅丸方形、断面形は鍋状に近いが底面が南に傾斜する。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土を主体とする。土師器小片が出土している。1054号土坑と重複。1061号土坑に切られる。

**1054号土坑** 35-9-I・J-4・5グリッド 長軸長140cm、短軸長88cm、深さ26cm、長軸方位N-90°。平面形は東西に長い楕円形、断面形は鍋状。覆土は黄褐色土、鉄分凝集を含む黒褐色土を主体とする。1053号土坑と重複。

**1055号土坑** 35-9-I-5グリッド 長軸長100cm、短軸

1064号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色粒・ブロックを多量に含む。上層に褐粘質土を含む。人為的堆積上。

2 10YR7/4 に近い黄褐色土 黄褐色粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積上。

1067号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、鉄分凝縮ブロックを含む。粘質上。

1068号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。

1069号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積上。

1070号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積上。

2 10YR3/2 黒褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。50～100mmの河床礫を下層に含む。人為的堆積上。

1071号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 ごく小粒の白色軽石を多量に含む。黄褐色粒を含む。

1072号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 ごく小粒の白色軽石を多量に含む。黄褐色粒を含む。

2 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石を含む。黄褐色粒・ブロックを多量に含む。

1073号土坑 1 10YR3/2 黒褐色土 ごく小粒の白色軽石を多量に含む。黄褐色粒・ブロックを含む。

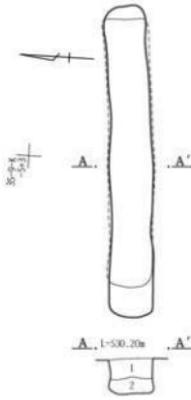
1074号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを多量に含む。黒色土ブロックを含む。人為的堆積上。穴穴状。

1075号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロック、黒色土ブロックを含む。人為的堆積上。

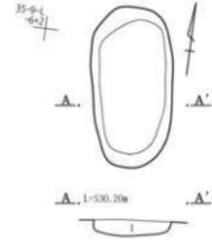
1077号土坑 1 10YR3/3 暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを多量に含む。人為的堆積上。穴穴状。

1078号土坑 1 10YR7/4 に近い黄褐色土 黄褐色粒・ブロック、褐色土ブロックを含む。

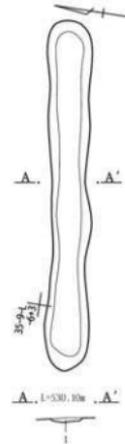
1064号土坑



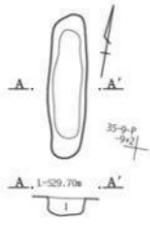
1067号土坑



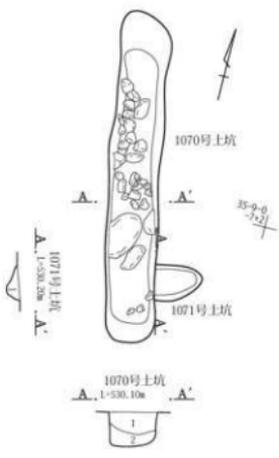
1068号土坑



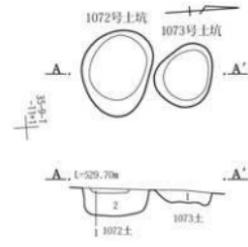
1069号土坑



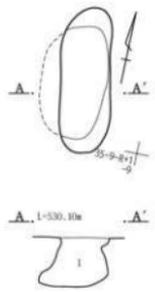
1070・1071号土坑



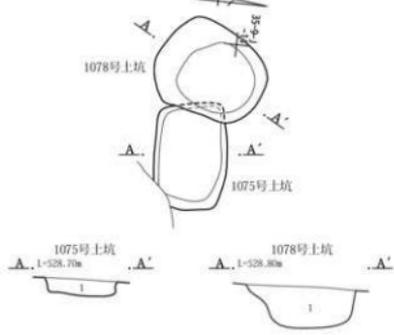
1072・1073号土坑



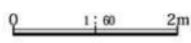
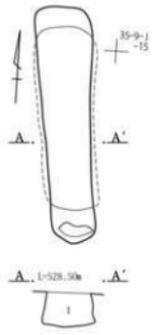
1074号土坑



1075・1078号土坑



1077号土坑



第163図 中世相当面の土坑6

長70cm、深さ40cm、長軸方位N-75°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

**1056号土坑** 35-9-K・L-4・5グリッド 長軸長122cm、短軸長54cm、深さ38cm、長軸方位N-27°-W。平面形は北西-南東に長い隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土を主体とする。土師器小片が出土している。

**1057号土坑** 35-9-J-5グリッド 長軸長106cm、短軸長86cm、深さ57cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東西にやや長い隅丸長方形、断面形は箱形に近い。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを含むふい黄褐色土を主体とする。表層に褐灰色粘質土が乗る。

**1058号土坑** 35-9-I・J-5グリッド 長軸長98cm、短軸長72cm、深さ58cm、長軸方位N-88°-E。平面形は東西にやや長い隅丸長方形、断面形は箱形に近い。覆土は黄褐色土のブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。1065号土坑を切る。

**1059号土坑** 35-9-H・I-4グリッド 長軸長220cm、短軸長96cm、深さ56cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は特に北側の底面が広がり、袋状を呈す。覆土は黄褐色土のブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。39号竪穴建物覆土の土器片と接合する須恵器平底甕底部片、須恵器杯口縁小片ほか、土師器・須恵器小片多数が出土している。

**1060号土坑** 35-9-K-5・6グリッド 長軸長100cm、短軸長80cm、深さ27cm、長軸方位N-78°-E。平面形は

東西に長いゆがんだ長円形、断面形は鍋状で、中央部が一段深くなる。覆土は中央に黄褐色土ブロックを多く含む黒褐色土があり、壁際には黄褐色土粒を多く含む褐色土が堆積する。1066号土坑に切られる。土師器甕胴部片など、土師器・須恵器の小片が出土している。

**1061号土坑** 35-9-I-4グリッド 長軸長104cm、短軸長88cm、深さ59cm、長軸方位N-88°-E。平面形は東西にやや長い隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は黄褐色土のブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。土師器小片が出土している。1053号土坑を切る。

**1062号土坑** 35-9-F・G-4グリッド 長軸確認長100cm、短軸長70cm、深さ13cm、長軸方位N-0°。平面形は北部を1045号土坑に切られるが、南北に長い隅丸長方形と思われる。断面形は鍋状。覆土は暗褐色土を主体とする。

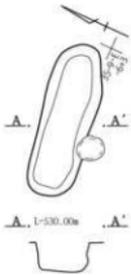
**1063号土坑** 35-9-J-6グリッド 長軸長160cm、短軸長84cm、深さ18cm、長軸方位N-86°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は底面が丸れるが、鍋状に近い。覆土は黄褐色土のブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。

**1064号土坑** 35-9-J・K-5グリッド 長軸長384cm、短軸長54cm、深さ43cm、長軸方位N-86°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は鍋状に近いが中位が僅かに乱れる。覆土は黄褐色土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。表層に褐灰色粘質土が乗る。

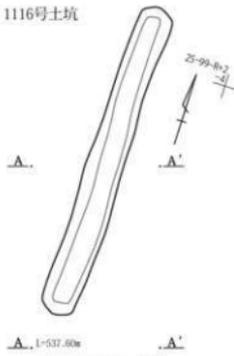
**1065号土坑** 35-9-J-5グリッド 長軸確認長190cm、短軸長50cm、深さ41cm、長軸方位N-86°-E。平面形は

1116号土坑	1	10YR4/6	褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を全体に含む。
1126号土坑	1	10YR3/2	黒褐色土	黄褐色粒を少量に含む。地山礫(20~30mm)を含む。
1129号土坑	1	10YR3/2	黒褐色土	黄褐色粒・ブロックを少量含む。
1174号土坑	1	10YR2/1	黒色土	やや粘質。
	2	10YR2/2	黒褐色土	黄褐色土粒を含む。
	3	10YR5/8	黄褐色土	砂質土。
	4	10YR5/8	黄褐色土	砂粒を多く含むブロック。
1179号土坑	1	10YR2/1	黒色土	やや粘質。
1190号土坑	1	10YR4/4	褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒、黄褐色ブロックを多量に含む。
	2	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。炭化粒を少量含む。
	3	10YR7/4	にぶい黄褐色土	黄褐色粒・ブロックを含む。
1202号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を全体に含む。
1203号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。地山小礫(30~100mm)を数点含む。
1204号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。
1205号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。
1219号土坑	1	10YR4/4	褐色土	軽石混じる。締まりあり。
1212号土坑	1	10YR3/1	黒褐色土	径1~2mmの黄褐色粒を多量に含む。中位から上位にかけて径5~10mmの黄褐色ブロックを含む。締まりあり。芋穴状。
	2	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を全体に含む。やや締まりあり。

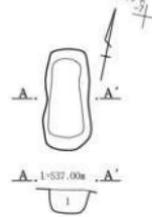
1079号土坑



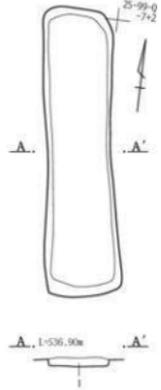
1116号土坑



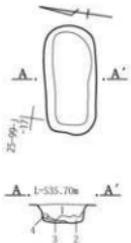
1126号土坑



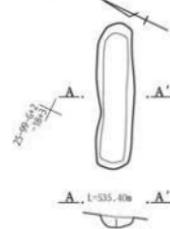
1129号土坑



1174号土坑



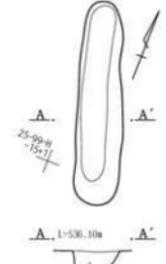
1179号土坑



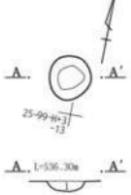
1190号土坑



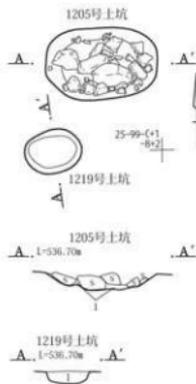
1202号土坑



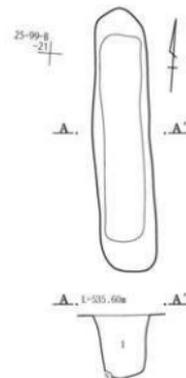
1203号土坑



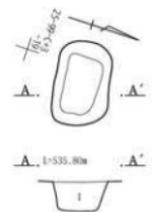
1205・1219号土坑



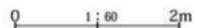
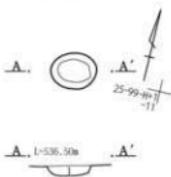
1212号土坑



1213号土坑



1204号土坑



第164図 中世相当面の土坑7

東西に長く幅の狭い長円形、断面形は下部が広がり、袋状を呈する。覆土は黄橙色土や黒色土の小ブロックを含むにぶい黄橙色土を主体とする。表層に褐灰色粘質土が乗る。1058号土坑に切られる。

**1066号土坑** 35-9-J-1~L-5・6グリッド 長軸長554cm、短軸長104cm、深さ49cm、長軸方位N-77°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は深い鍋状に近い。覆土は黄橙色土ブロックや珉を多く含むにぶい黄橙色土を主体とする。1060号土坑を切る。須恵器杯小片が出土している。

**1067号土坑** 35-9-K-6グリッド 長軸長196cm、短軸長100cm、深さ8cm、長軸方位N-8°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は暗褐色土を主体とする。土師器小片が出土している。

**1068号土坑** 35-9-K・L-6グリッド 長軸長428cm、短軸長54cm、深さ9cm、長軸方位N-81°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は浅い皿状。覆土は暗褐色土を主体とする。

**1069号土坑** 35-9-P-9グリッド 長軸長171cm、短軸長46cm、深さ22cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は黄橙色土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

**1070号土坑** 35-9-O-7・8グリッド 長軸長402cm、短軸長66cm、深さ52cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は鍋状。覆土は黄橙色土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。1071号土坑を切る。

**1071号土坑** 35-9-O-7グリッド 長軸確認長58cm、短軸長44cm、深さ15cm、長軸方位N-77°-E。平面形は

西部を1070号土坑に切られるが、東西に長い楕円形を呈するものと思われる。断面形は上部が大きく開く三角形状。覆土は黄橙色土粒を含む黒褐色土を主体とする。

**1072号土坑** 35-9-T-11グリッド 長軸長105cm、短軸長82cm、深さ35cm、長軸方位N-66°-W。平面形は東西に長い偏円形ないし卵形、断面形は鍋状。覆土は黄橙色土粒を含む黒褐色土を主体とする。

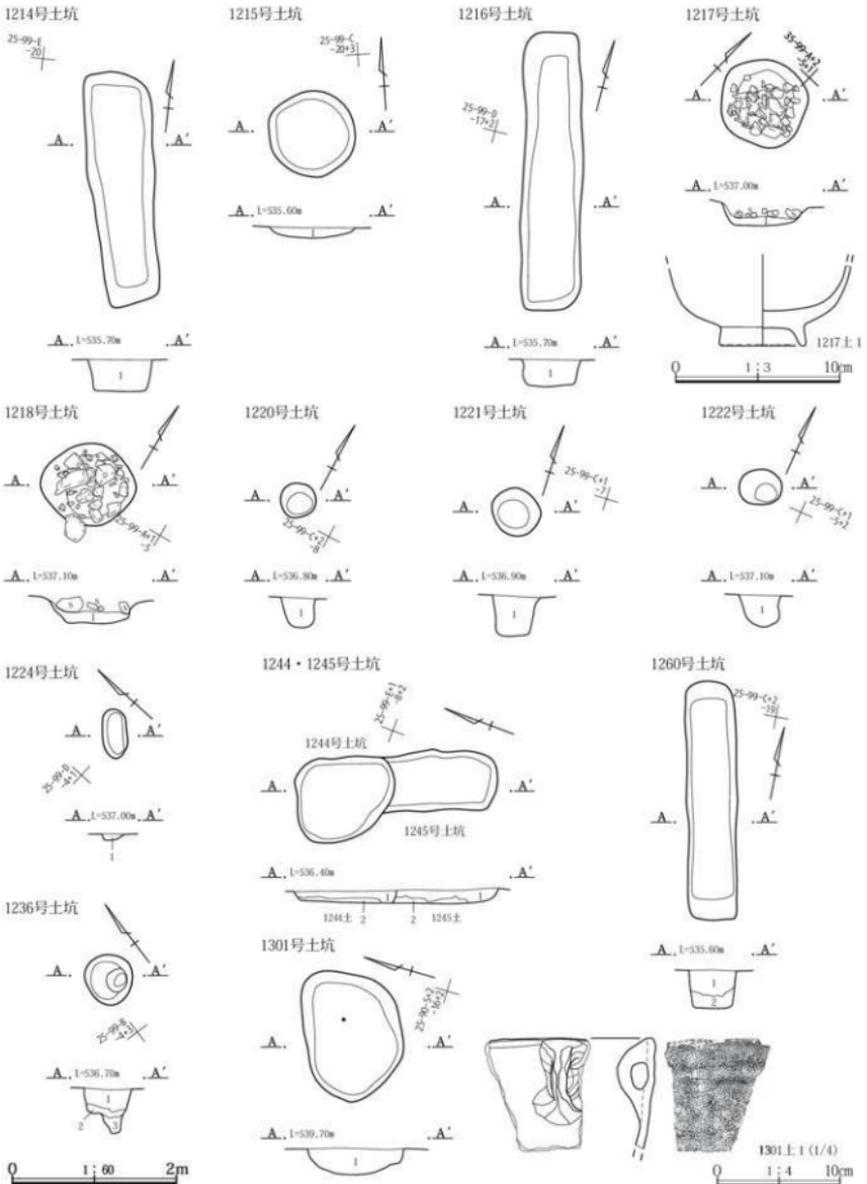
**1073号土坑** 35-9-T-11グリッド 長軸長80cm、短軸長70cm、深さ19cm、長軸方位N-49°-W。平面形は東西にやや長い偏円形、断面形は底面が乱れるが、鍋状に近い。覆土は地山起源のローム珉や黄橙色土粒を含む黒褐色土を主体とする。

**1074号土坑** 35-9-R-8・9グリッド 長軸長178cm、短軸長60cm、深さ61cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は底部近くが膨らむ袋状。特に西壁部は大きくえくり込まれる。覆土は黄橙色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

**1075号土坑** 35-9-I-13・14グリッド 長軸長128cm、短軸長90cm、深さ19cm、長軸方位N-85°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は下部に黄橙色土や黒色土の小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。1078号土坑に切られる。南東隅は大きな地山礫に当たる。

**1076号土坑** 35-9-I-4グリッド 長軸確認長50cm、短軸長54cm、深さ8cm、長軸方位N-87°-E。平面形は東部が1052号土坑と重複して把握できないが、東西に長い隅丸方形を呈するものと思われる。断面形は浅い鍋状。覆土は黄橙色土や黒色土の小ブロックを含む暗褐色土を

1214号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	ごく小粒の白色軽石を含む。中に径10~25mmの黄橙色ブロックを含む。締まりあり。芋穴。
1215号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	小粒の白色軽石を含む。ごく小粒の黄褐色粒を少量含む。締まりあり。
1216号土坑	1	10YR4/3	にぶい黄褐色土	径5~10mmの黄褐色ブロックを含む。地山小礫数点を含む。芋穴。
1217号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を少量含む。粘質土。
1218号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。粘質土。
1220号~1222号土坑	1	10YR4/2	灰黄褐色土	10mmの礫を含む。やや軟質。
1224号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	20mmの礫を含む。
1236号土坑	1	10YR4/1	褐灰色土	鉄分を含む。やや軟質。
	2	10YR3/3	暗褐色土	鉄分を多く含む。締まりあり。
	3	10YR3/2	黒褐色土	50~60mmの礫を含む。
1244号土坑	1	10YR4/1	褐灰色土	鉄分を含む。やや軟質。
	2	10YR3/3	暗褐色土	締まりあり黒色土ブロック。
1245号土坑	1	10YR4/1	褐灰色土	鉄分を含む。
	2	10YR3/3	暗褐色土	締まりあり。
1260号土坑	1	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ごく小粒の白色軽石を少量含む。やや粘質性を帯びる。芋穴。
	2	10YR3/3	暗褐色土	下層にごく小粒の黄褐色粒を僅かに含むが、混入物はほとんどない。
1301号土坑	1	10YR2/1	黒色土	5~10mmの明黄褐色(10YR6/6)砂礫を僅かに含む。20~70mmの礫をまばらに含む。



第165図 中世相当面の土坑8・土坑出土遺物1 (1217号・1301号土坑)

主体とする。1050・1051号土坑を切る。

**1077号土坑** 35-9-J-14・15グリッド 長軸長288cm、短軸長68cm、深さ54cm、長軸方位N-6°-W。平面形は南北に長く、幅の狭い隅丸方形。南辺に小さな段を持つ。断面形は底部がやや広がる深い台形状。覆土は黄褐色土や黒色土の小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。

**1078号土坑** 35-9-I・J-13・14グリッド 長軸長133cm、短軸長114cm、深さ54cm、長軸方位N-28°-E。平面形は南北にやや長い隅丸方形、断面形は鍋状。覆土は黄褐色土や褐色土の小ブロックを含むにぶい黄褐色土を主体とする。1075号土坑を切る。

**1079号土坑** 35-9-E-6グリッド 長軸長190cm、短軸長70cm、深さ36cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。37号竪穴建物と切る。写真記録を欠く。

**1116号土坑** 25-99-R-3・4グリッド 長軸長396cm、短軸長46cm、深さ52cm、長軸方位N-2°-E。平面形は南北に長い溝状、断面形は鍋状に近い。覆土は黄褐色土粒を含む暗褐色土を主体とする。縄文時代の1097号土坑を切る。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**1126号土坑** 25-99-R-6グリッド 長軸長124cm、短軸長58cm、深さ32cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い隅丸方形、断面形は鍋状。上部が狭まる。覆土は黒褐色土を主体とする。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**1129号土坑** 25-99-P-Q-6・7グリッド 長軸長350cm、短軸長87cm、深さ15cm、長軸方位N-9°-W。平面形は南北に長い隅丸方形、断面形は浅い箱状。覆土はローム斑を含む黒褐色土を主体とする。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**1174号土坑** 25-99-I・J-16グリッド 長軸長130cm、短軸長62cm、深さ23cm、長軸方位N-81°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は鍋状。覆土はロームブロックを含むやや粘質の黒色土、黒褐色土を主体とする。

**1179号土坑** 25-99-G-18グリッド 長軸長190cm、短軸長49cm、深さ17cm、長軸方位N-67°-E。平面形は東西

に長い長円形、断面形は椀状。覆土はやや粘質の黒色土を主体とする。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**1190号土坑** 35-9-D・E-7グリッド 長軸長64cm、短軸長52cm、深さ34cm、長軸方位N-70°-E。平面形は東西にやや長い楕円形、断面形は鍋状。上部がやや狭まる。覆土上位は黄褐色土の小ブロックや斑を含む褐色土。下層は黄褐色土粒を含む暗褐色土を主体とする。37号竪穴建物と切る。

**1202号土坑** 25-99-G・H-15グリッド 長軸長250cm、短軸長60cm、深さ33cm、長軸方位N-18°-E。平面形は南北に長く、幅の狭い長円形、断面形は上部の開くU字状。覆土は暗褐色土を主体とする。

**1203号土坑** 25-99-H-13グリッド 長軸長54cm、短軸長50cm、深さ13cm、長軸方位N-0°。平面形は円形、断面形は椀状。覆土は黒褐色土を主体とする。

**1204号土坑** 25-99-H-10・11グリッド 長軸長54cm、短軸長46cm、深さ13cm、長軸方位N-68°-E。平面形は東西に僅かに長い偏円形、断面形は鍋状。覆土は暗褐色土を主体とする。

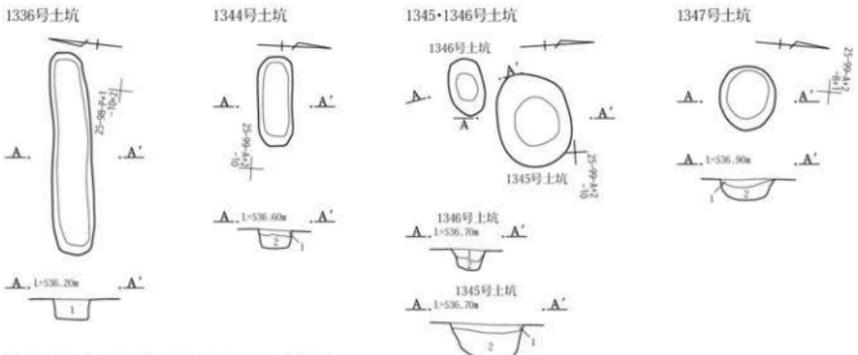
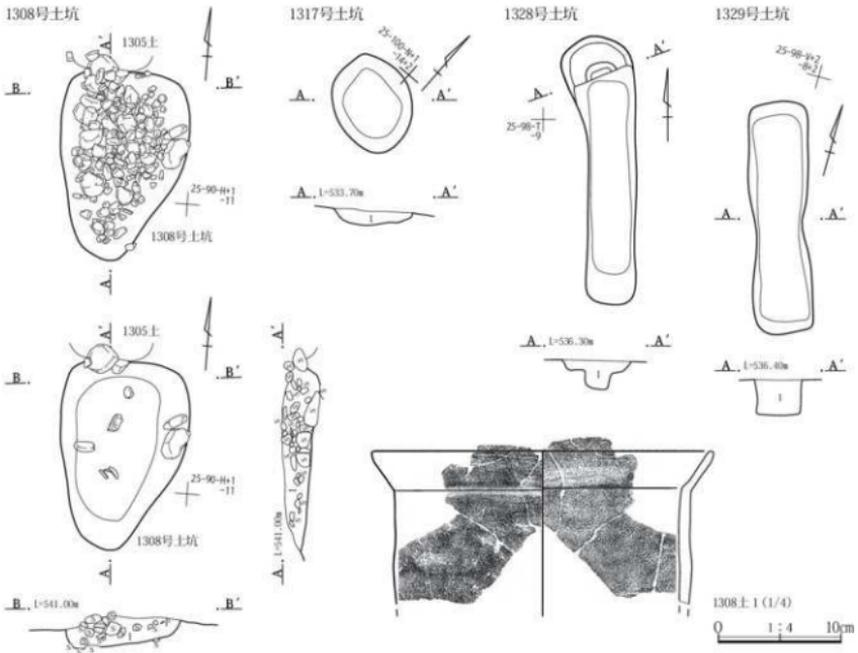
**1205号土坑** 25-99-C-8グリッド 長軸長138cm、短軸長86cm、深さ19cm、長軸方位N-90°。平面形は東西に長い長円形、断面形は皿状。覆土は黒褐色土を主体とする。大小の礫が入る。

**1212号土坑** 25-99-A-20・21グリッド 長軸長320cm、短軸長70cm、深さ69cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長く幅の狭い長円形、断面形はU字状。覆土は黒褐色土を主体とする。中位から上位にかけて黄褐色土の小ブロックを含む。

**1213号土坑** 25-99-C-19グリッド 長軸長104cm、短軸長68cm、深さ38cm、長軸方位N-84°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は上部が開く台形。覆土は暗褐色土を主体とする。

**1214号土坑** 25-99-D-19グリッド 長軸長282cm、短軸長85cm、深さ54cm、長軸方位N-12°-W。平面形は南北に長く、幅の狭い隅丸方形、断面形は上部がやや開くが箱形に近い。覆土は暗褐色土を主体とする。中位に黄褐色土ブロックを含む。

**1215号土坑** 25-99-C-20グリッド 長軸長104cm、短軸長104cm、深さ15cm。平面形は円形、断面形は皿状。覆



- |         |   |         |      |                          |         |   |         |      |                         |
|---------|---|---------|------|--------------------------|---------|---|---------|------|-------------------------|
| 1317号土坑 | 1 | 10YR4/1 | 褐色土  | 鉄分を含む。やや軟質。              |         |   |         |      |                         |
| 1328号土坑 | 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黄褐色土(10YR5/8)小ブロックを多く含む。 | 1345号土坑 | 1 | 10YR4/1 | 褐色土  | 褐色粘質土を含む。鉄分凝縮ブロックを少量含む。 |
| 1329号土坑 | 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 小礫、炭を少量含む。               |         | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黄褐色粒を僅かに含む。             |
| 1336号土坑 | 1 | 10YR4/1 | 褐色土  | 鉄分を含む。やや軟質。              | 1346号土坑 | 1 | 10YR4/1 | 褐色土  | 褐色粘質土を含む。               |
| 1344号土坑 | 1 | 10YR4/1 | 褐色土  | 褐色粘質土、鉄分凝縮ブロックを含む。       |         | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黄褐色粒を僅かに含む。             |
|         | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を僅かに含む。    | 1347号土坑 | 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 小礫、炭少量を含む。              |

第166圖 中世相当面の土坑9・土坑出土遺物2(1308号土坑)

土は暗褐色土を主体とする。

**1216号土坑** 25-99-C-17グリッド 長軸長340cm、短軸長70cm、深さ52cm、長軸方位N-14°-W。平面形は南北に長く、幅の狭い隅丸方形、断面形は箱状。覆土はにぶい黄褐色土を主体とし、黄褐色土のブロックや斑を含む。

**1217号土坑** 25-99-A-4・5グリッド 長軸長104cm、短軸長102cm、深さ28cm、長軸方位N-46°-W。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。中位に中小の礫が入る。

**1218号土坑** 25-99-A-4・5グリッド 長軸長115cm、短軸長100cm、深さ32cm、長軸方位N-62°-E。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。中位に中小の礫が入る。

**1219号土坑** 25-99-C-8グリッド 長軸長70cm、短軸長52cm、深さ14cm、長軸方位N-75°-E。平面形は東西に僅かに長い偏円形、断面形は鍋状。覆土は褐色土を主体とする。

**1220号土坑** 25-99-C-8グリッド 長軸長45cm、短軸長43cm、深さ37cm、長軸方位N-38°-W。平面形は円形、断面形はU字状。覆土は灰黄褐色土を主体とする。

**1221号土坑** 25-99-C-6グリッド 長軸長62cm、短軸長58cm、深さ51cm、長軸方位N-28°-W。平面形は円形、断面形は深い鍋状。覆土は混入物の少ない灰黄褐色土を主体とする。

**1222号土坑** 25-99-C-5グリッド 長軸長50cm、短軸長42cm、深さ37cm、長軸方位N-66°-E。平面形は東西にやや長い偏円形、断面形はU字状。覆土は灰黄褐色土を主体とする。

**1224号土坑** 25-99-C-4グリッド 長軸長62cm、短軸長30cm、深さ8cm、長軸方位N-44°-E。平面形は北東-南西に長い楕円形、断面形は鍋状。覆土は暗褐色土を主体とする。

**1236号土坑** 25-99-A・B-4グリッド 長軸長65cm、短軸長58cm、深さ54cm、長軸方位N-15°-W。平面形は

円形、断面形は上部は鍋状。東部はビット状に深く掘られる。覆土上位は褐灰色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土を主体とする。

**1244号土坑** 25-99-E-8グリッド 長軸長120cm、短軸長103cm、深さ14cm、長軸方位N-27°-W。平面形は北西-南東に長いゆがんだ円形、断面形は鍋状。覆土上位は褐灰色土、下位は暗褐色土を主体とする。1245号土坑を切る。

**1245号土坑** 25-99-E-8グリッド 長軸確認長140cm、短軸長76cm、深さ20cm、長軸方位N-22°-W。平面形は北部を1244号土坑に切られるが、北西-南東に長く、幅の狭い隅丸長方形を呈するものと思われる。断面形は鍋状。覆土上位は褐灰色土、下位は暗褐色土を主体とする。

**1260号土坑** 25-99-C-18・19グリッド 長軸長286cm、短軸長60cm、深さ50cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北に長く、幅の狭い隅丸長方形、断面形は箱形。底面がローム上面にあたる。覆土は上層がにぶい黄褐色土、下層は暗褐色土を主体とする。

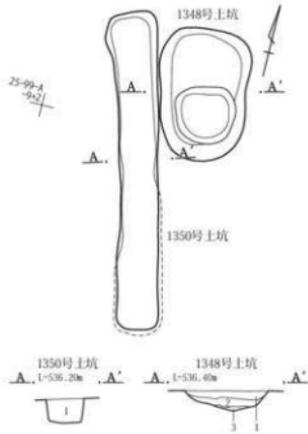
**1301号土坑** 25-90-S-16グリッド 長軸長155cm、短軸長120cm、深さ38cm、長軸方位N-75°-E。平面形は東西に長いゆがんだ偏円形、断面形は底部が礫層に当たって乱れるが、鍋状に近い。覆土は礫を多く含む黒色土を主体とする。内耳銅片が出土している。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、出土遺物から中世のものとした。

**1308号土坑** 25-90-H-10・11グリッド 長軸長230cm、短軸長150cm、深さ19cm、長軸方位N-9°-E。平面形は南北に長く、北部が広がる涙滴状に近い。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、上位は褐色土、下位は暗褐色土を主体とし、下部に大型の、中位以上には中小の礫が多く入る。1305号土坑(墓坑)に切られる。内耳銅片が出土している。

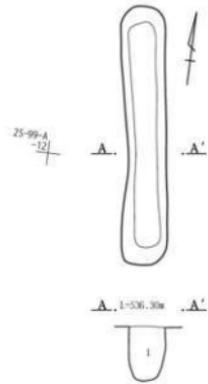
**1317号土坑** 25-100-N-14グリッド 長軸長124cm、短軸長94cm、深さ22cm、長軸方位N-47°-W。平面形は東

1348号土坑	2	10YR3/4	暗褐色土 鉄分を多く含む。
	3	10YR4/4	褐色土 20-30mmの礫を含む。
1349号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土 黄褐色土(10YR5/8)の小ブロックを多く含む。
1350号土坑	1	10YR3/2	暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒・ブロックを含む。明赤褐色粒を少量含む。
1353号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土 ごく小粒の白色軽石、黄褐色粒を含む。
	2	10YR6/4	にぶい黄褐色土 黄褐色砂質土ブロックを含む。
1355号土坑	1	10YR3/1	黒褐色土 径1-2mmの黄褐色粒を多量に含む。やや締まりあり。平穴。

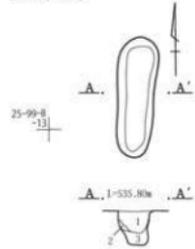
1348・1350号土坑



1349号土坑



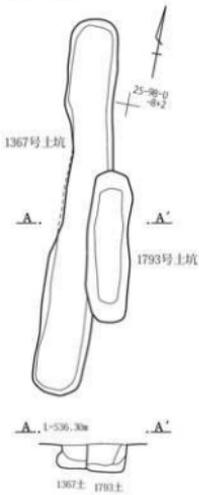
1353号土坑



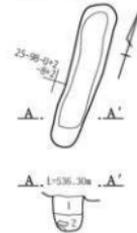
1355号土坑



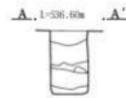
1367・1793号土坑



1368号土坑



1369号土坑



0 1:60 2m

第167図 中世相当面の土坑10

西に長い楕円形、断面形は鍋状。覆土は褐灰色土を主体とする。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**1328号土坑** 25-98-S-8・9グリッド 長軸長320cm、短軸長82cm、深さ47cm、長軸方位N-25°-W。平面形は南北に長く、幅の狭い長円形、断面形は中央が一段深い逆凸形。覆土は黄褐色土小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**1329号土坑** 25-98-V-7・8グリッド 長軸長221cm、短軸長72cm、深さ46cm、長軸方位N-20°-W。平面形は北西-南東に長く、幅の狭い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は土層断面図と観察所見が整合しない。観察所見によると、上位が炭化物を含む黒褐色土、下位は暗褐色土を主体とする。平面写真記録を欠く。

**1336号土坑** 25-98-P-10グリッド 長軸長248cm、短軸長50cm、深さ30cm、長軸方位N-81°-E。平面形は東西に長く、幅の狭い長円形、断面形は箱形。覆土は褐灰色土を主体とする。

**1344号土坑** 25-99-A-10グリッド 長軸長108cm、短軸長40cm、深さ24cm、長軸方位N-87°-E。平面形は東西に長く、幅の狭い長円形、断面形は鍋状。覆土は上層は褐灰色粘質土、下層は暗褐色土を主体とする。

**1345号土坑** 25-99-A-9グリッド 長軸長122cm、短軸長88cm、深さ42cm、長軸方位N-88°-E。平面形は東西に長い楕円形、断面形は深い鍋状。覆土は上層は褐灰色粘質土、下層は暗褐色土を主体とする。

**1346号土坑** 25-99-A-9グリッド 長軸長70cm、短軸長40cm、深さ27cm、長軸方位N-86°-E。平面形は東西に長い楕円形、断面形は深い鍋状。覆土は上層は褐灰色粘質土、下層は暗褐色土を主体とする。

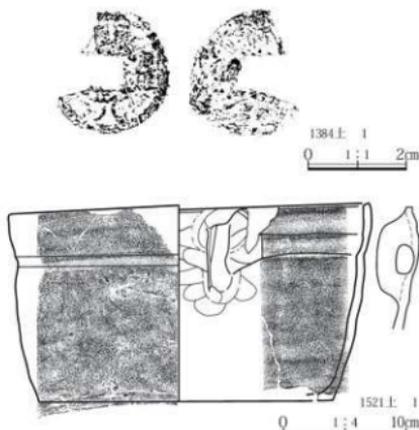
**1347号土坑** 25-99-A-7・8グリッド 長軸長78cm、短軸長68cm、深さ26cm、長軸方位N-90°。平面形は東

西に僅かに長い偏円形、断面形は椀状。覆土は黒褐色土を主体とする。

**1348号土坑** 25-98-Y-9グリッド 長軸長162cm、短軸長112cm、深さ22cm、長軸方位N-12°-W。平面形は南北に長い長円形。南部が隅丸形状に一段深く掘り込まれる。断面形は椀状。覆土は暗褐色土を主体とする。中位には鉄分凝集の薄層が含まれ、下位には褐色土が入る。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**1349号土坑** 25-98-Y-11・12グリッド 長軸長314cm、短軸長56cm、深さ66cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長く、幅の狭い長円形、断面形はゆがんだU字状。覆土は黄褐色土小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から中世のものとした。

**1350号土坑** 25-98-Y-8・9グリッド 長軸長388cm、短軸長50cm、深さ44cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北に長く、幅の狭い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は土層断面図と観察所見が整合しない。観察所見によると、上位が黄褐色土粒、ブロックを含む黒褐色土、下位



第168図 土坑出土遺物3(1384号・1521号土坑)

1384号土坑 1 10YR3/1 黒褐色土 締まり・粘性のない黒褐色土主体で、黄褐色砂質土小ブロックを僅かに含む。

1393号・1394号・1399号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 白色粒、黄粒を多量に含む。小礫を含む。締まりあり。

1401号土坑 1 10YR3/4 暗褐色土 白色粒、黄粒を含む。小礫を少量含む。

2 10YR3/2 黒褐色土 黄粒・ブロックを含む。小礫を少量含む。

1521号土坑 1 10YR2/3 果褐色土 50~100mmの角礫を含む。

2 10YR2/2 黒褐色土 下層に50~100mmの角礫多い。褐色砂

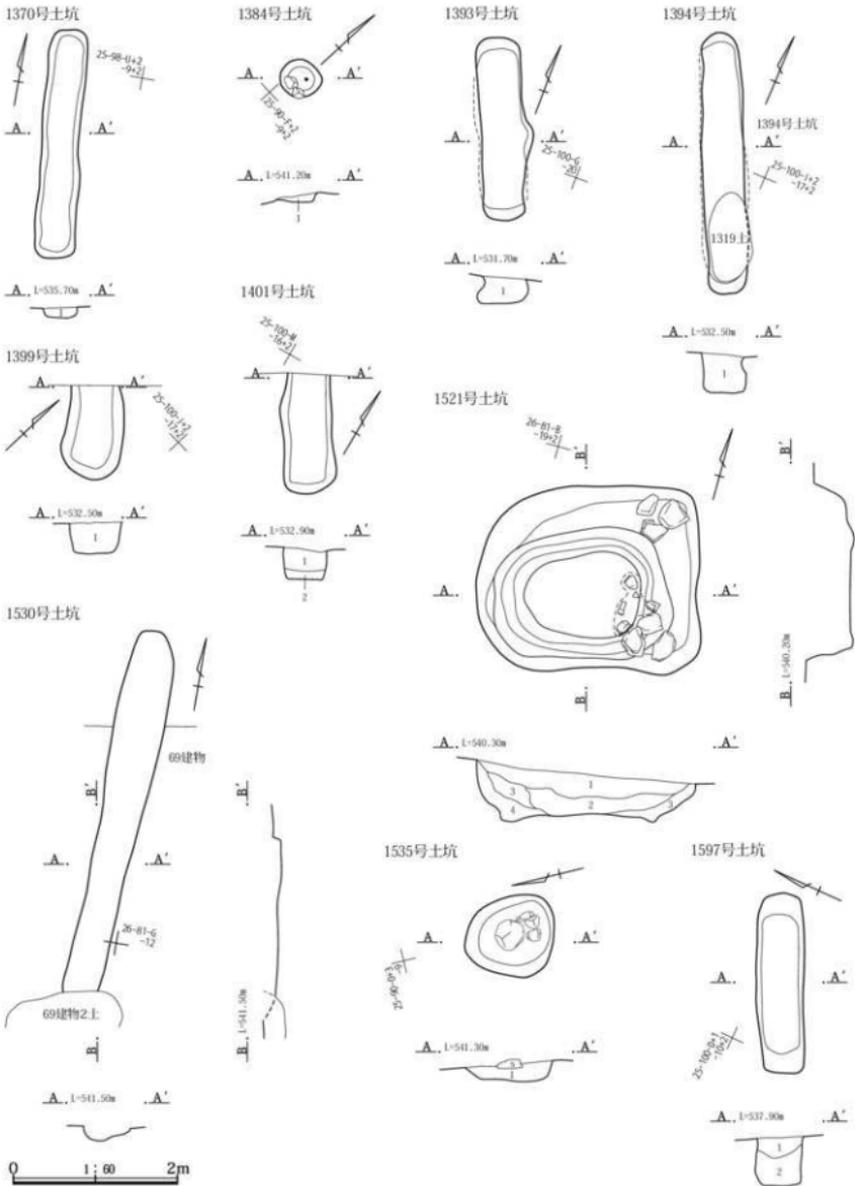
ブロックを少量含む。

3 10YR3/4 暗褐色土 褐色砂ブロックを含む。

4 10YR3/4 暗褐色土 褐色砂多い。10mmの礫を含む。

1597号土坑 1 暗黒褐色土 若干のローム、白色粒を含む。

2 暗黒褐色土 1層と似るがやや黒味を持ち、礫を含む。



第169図 中世相当面の土坑11

は地山礫を多く含む黒褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のものとした。

**1353号土坑** 25-99-A-12・13グリッド 長軸長147cm、短軸長50cm、深さ44cm、長軸方位N-50°-E。平面形は南北に長い長円形、断面形はゆがんだU字状。覆土は上位は暗褐色土、下位はふい黄褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のものとした。

**1355号土坑** 25-98-W・X-5～8グリッド 長軸長892cm、短軸長54cm、深さ52cm、長軸方位N-16°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は深い箱形に近いが下部がやや膨らむ。覆土は黄褐色土粒を多く含む黒褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のものとした。

**1367号土坑** 25-98-U-7・8グリッド 長軸長442cm、短軸長58cm、深さ30cm、長軸方位N-5°-E。平面形は南北に長い長円形、断面形は下部が膨らむ袋状。覆土は観察所見を欠く。土師器小片が出土している。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態から近世のものとした。1793号土坑に切られる。

**1368号土坑** 25-98-U-8グリッド 長軸長160cm、短軸長40cm、深さ27cm、長軸方位N-0°。平面形は南北に長い長円形、断面形はややゆがんだ深い鍋状。覆土は観察所見を欠く。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態から近世のものとした。

**1369号土坑** 25-98-U-8グリッド 長軸長144cm、短軸長64cm、深さ16cm、長軸方位N-17°-W。平面形は北西-南東に長い長円形、断面形はややゆがんだ鍋状。覆土は観察所見を欠くが、覆土全体に角礫を多く含む。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態から近世のものとした。

**1370号土坑** 25-98-U-8・9グリッド 長軸長280cm、短軸長50cm、深さ14cm、長軸方位N-5°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。前報告500号土坑の南部にあたる。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態から近世のものとした。

**1384号土坑** 25-90-F-9グリッド 長軸長50cm、短軸長46cm、深さ14cm、長軸方位N-42°-E。平面形はゆがんだ円形、断面形は鍋状に近いものと思われる。覆土は

締まり・粘性のない黒褐色土主体で、黄褐色砂質土小ブロックを僅かに含む。

**1393号土坑** 25-100-G-19・20グリッド 長軸長224cm、短軸長60cm、深さ36cm、長軸方位N-24°-W。平面形は北西-南東に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は小礫を含む暗褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のものとした。

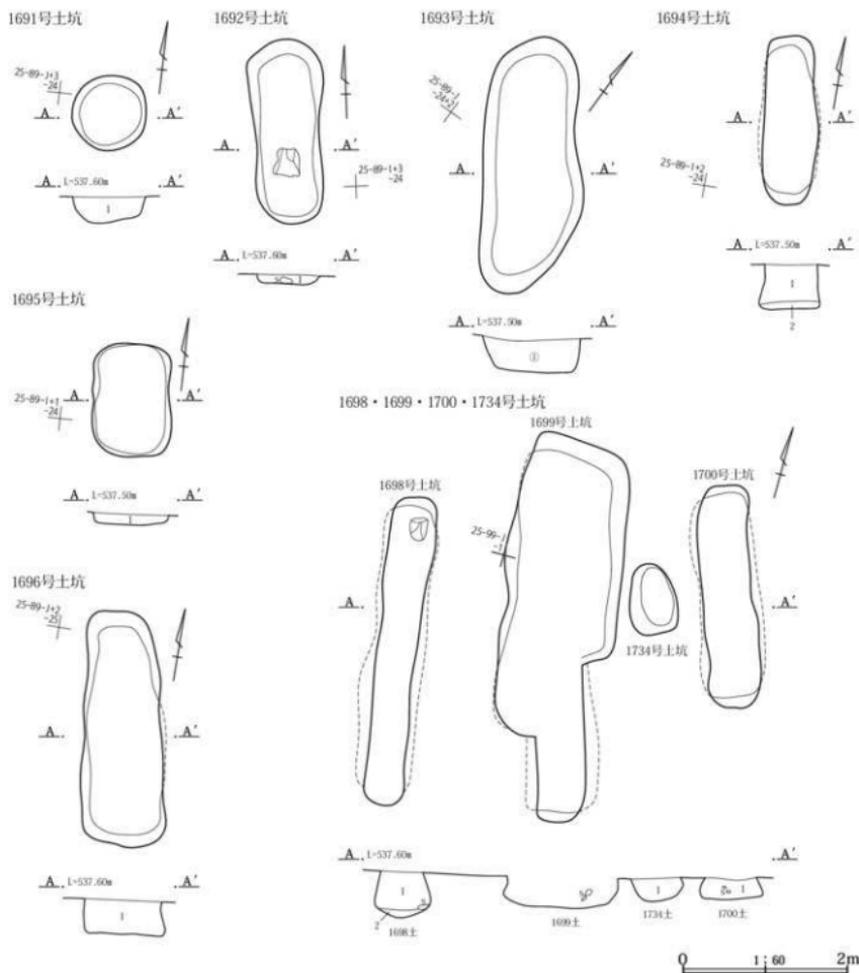
**1394号土坑** 25-100-I-17グリッド 長軸長320cm、短軸長50cm、深さ52cm、長軸方位N-26°-W。平面形は北西-南東に長い溝状、断面形は鍋状。覆土は中・下位に角礫を含む暗褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のものとした。

**1399号土坑** 25-100-J-17グリッド 長軸確認長116cm、短軸長70cm、深さ29cm、長軸方位N-40°-W。平面形は北西部を調査区界に切られるが、北西-南東に長い長円形ないし溝状を呈したと思われる。断面形は鍋状。覆土は暗褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のものとした。

**1401号土坑** 25-100-L-16グリッド 長軸確認長146cm、短軸長62cm、深さ35cm、長軸方位N-38°-W。平面形は北西部を調査区界に切られるが、北西-南東に長い長円形ないし溝状を呈したと思われる。断面形は鍋状。覆土は上位は暗褐色土、下位は黒褐色土を主体とする。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のものとした。

**1521号土坑** 26-81-A・B-18・19グリッド 長軸長314cm、短軸長218cm、深さ78cm、長軸方位N-75°-E。平面形は方円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とし、下位に暗褐色土がある。内耳銅片が出土している。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土、遺物出土状況から近世のものとした。

**1530号土坑** 26-81-F・G-11・12グリッド 長軸長476cm、短軸長60cm、深さ34cm、長軸方位N-3°-E。平面形は南北に長い溝状、断面形は浅い鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。69号竪穴建物に切れる。縄文時代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のもの



第170図 中世相当面の土坑12

とした。

**1535号土坑** 25-90-O-8グリッド 長軸長114cm、短軸長100cm、深さ26cm、長軸方位N-13°-W。平面形は楕円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、黒褐色土を主体とするものと思われる。上部にやや大振りの礫が入る。

**1597号土坑** 25-100-C・D-10グリッド 長軸長220cm、短軸長55cm、深さ58cm、長軸方位N-63°-E。平面形は北東-南西に長い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は黒褐色土あるいは暗褐色土を主体とする。写真記録を欠く。古代相当面の発掘図面に記録されているが、形態や覆土の状況から近世のものとした。

**1691号土坑** 25-89-J-23・24グリッド 長軸長93cm、短軸長91cm、深さ31cm、長軸方位N-40°-E。平面形は円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠くが、小礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。土師器小片が出土している。

**1692号土坑** 25-89-I・J-23・24グリッド 長軸長226cm、短軸長93cm、深さ19cm、長軸方位N-2°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は浅い鍋状。覆土は観察所見を欠くが、暗褐色土を主体とするものと思われる。中央底部近くに垂角礫が入る。

**1693号土坑** 25-89-I-24グリッド 長軸長306cm、短軸長120cm、深さ46cm、長軸方位N-35°-W。平面形は南北に長いゆがんだ長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、円礫を多く含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1694号土坑** 25-89-I-23・24グリッド 長軸長207cm、短軸長68cm、深さ61cm、長軸方位N-8°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は箱形。覆土は観察所見を欠くが、暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1695号土坑** 25-89-H・I-23・24グリッド 長軸長138cm、短軸長90cm、深さ17cm、長軸方位N-5°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は浅い鍋状。覆土は観察所見を欠くが、暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1696号土坑** 25-89-J-24・25グリッド 長軸長290cm、短軸長100cm、深さ47cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は観察所見を欠くが、小礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1697号土坑** 25-89-I-24・25グリッド 長軸長404cm、短軸長65cm、深さ50cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は深い箱形。覆土は観察所見を欠くが、暗褐色土を主体とするものと思われ、下層に垂角礫が入る。1731号土坑を切る

**1698号土坑** 25-89-99-J-25・1グリッド 長軸長380cm、短軸長58cm、深さ58cm、長軸方位N-8°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は下部が膨らみ、底面が丸みを持つ袋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1699号土坑** 25-89-99-I・J-25・1グリッド 長軸長

470cm、短軸長148cm、深さ41cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形の土坑が並列的に重複したものかと思われる。断面形は全体として鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1700号土坑** 25-89-99-I-25・1グリッド 長軸長272cm、短軸長65cm、深さ33cm、長軸方位N-19°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は下部が広がる袋状。覆土は観察所見を欠くが、中に小礫を含む。

**1701号土坑** 25-99-G-1グリッド 長軸長76cm、短軸長67cm、深さ51cm、長軸方位N-55°-E。平面形は隅丸長方形。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を多く含む褐色～暗褐色土を主体とするものと思われる。1702号土坑を切る。

**1702号土坑** 25-99-G・H-1グリッド 長軸長238cm、短軸長110cm、深さ61cm、長軸方位N-42°-W。平面形は北西-南東に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。1701号土坑に切られる。1707号土坑を切る。

**1703号土坑** 25-99-E・F-1グリッド 長軸長180cm、短軸長58cm、深さ13cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は浅い鍋状。覆土は観察所見を欠く。平面図には西部に鉄分凝集があるとの注記がある。写真記録を参照すると、洪水砂を思わせる砂質ないしシルト質の黄灰色土が入っている。

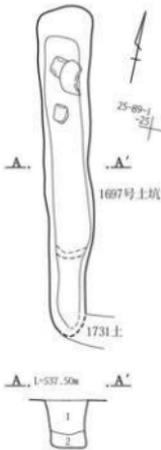
**1704号土坑** 25-99-E-1グリッド 長軸長240cm、短軸長100cm、深さ16cm、長軸方位N-4°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は浅い鍋状。覆土は観察所見を欠くが、地山起源の褐色土斑を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1705号土坑** 25-99-D・E-1グリッド 長軸長112cm、短軸長92cm、深さ25cm、長軸方位N-40°-W。平面形はゆがんだ円形、断面形は鍋状。写真記録及び覆土観察所見を欠く。

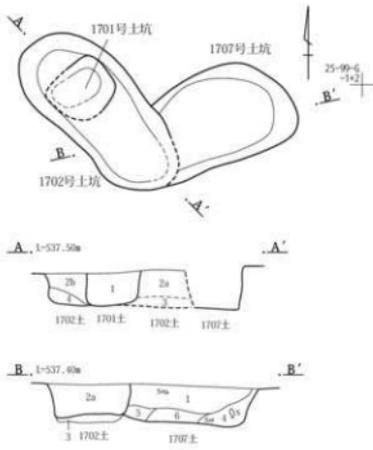
**1706号土坑** 25-89-99-D・E-25・1グリッド 長軸長122cm、短軸長100cm、深さ39cm、長軸方位N-83°-E。平面形は楕円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、地山起源の褐色土斑を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1707号土坑** 25-99-G-1グリッド 長軸確認長180cm、

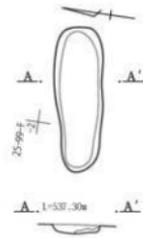
1697号土坑



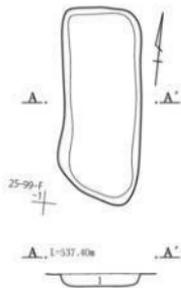
1701・1702・1707号土坑



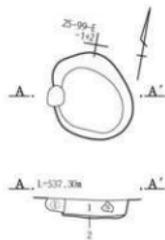
1703号土坑



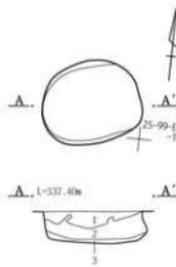
1704号土坑



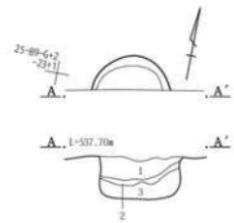
1705号土坑



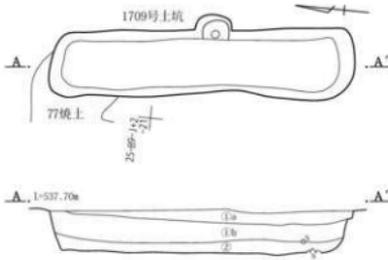
1706号土坑



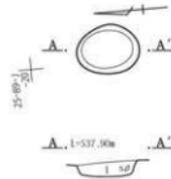
1708号土坑



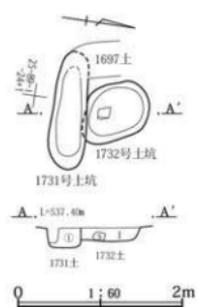
1709号土坑



1710号土坑



1731・1732号土坑



第171図 中世相当面の土坑13

短軸長120cm、深さ57cm、長軸方位N-65°-E。平面形は南西端を1702号土坑に切られるが、北東-南西に長い長円形を呈するものと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1708号土坑** 25-89-G-23グリッド 長軸確認長96cm、短軸確認長40cm、深さ22cm、長軸方位N-80°-E。平面形は南部が調査区界に切られるが、円形を呈したのかと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、下位は地山起源のローム斑を多く含む暗褐色土、中位にロームを含まない暗褐色土を挟んで、上位には黒褐色土が乗る。

**1709号土坑** 25-89-J-20・21グリッド 長軸長370cm、短軸長80cm、深さ53cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長く、幅の狭い隅丸長方形。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。上位に77号焼土が乗る。

**1710号土坑** 25-89-I・J-19グリッド 長軸長76cm、短軸長60cm、深さ20cm、長軸方位N-6°-E。平面形は南北にやや長い偏円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1731号土坑** 25-89-H・I-24グリッド 長軸長150cm、短軸長44cm、深さ34cm、長軸方位N-86°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、暗褐色土を主体とするものと思われる。1697号土坑に切られる。1732号土坑を切る。

**1732号土坑** 25-89-H・I-24グリッド 長軸長82cm、短軸長68cm、深さ18cm、長軸方位N-18°-W。平面形はゆがんだ円形、断面形は鍋状。写真記録及び覆土観察所見を欠く。1731号土坑に切られる。

**1733号土坑** 25-89-J-20グリッド 長軸長100cm、短軸長94cm、深さ12cm、長軸方位N-5°-W。平面形は円形ないし扇張りの強い隅丸方形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠くが、暗褐色土を主体とするものと思われる。1917号土坑、1330号ピットと重複する

**1734号土坑** 25-89-99-I-25・1グリッド 長軸長86cm、短軸長56cm、深さ28cm、長軸方位N-16°-W。平面形は南北に長いゆがんだ長円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。土師器小片が出土している。写真記録を欠く。

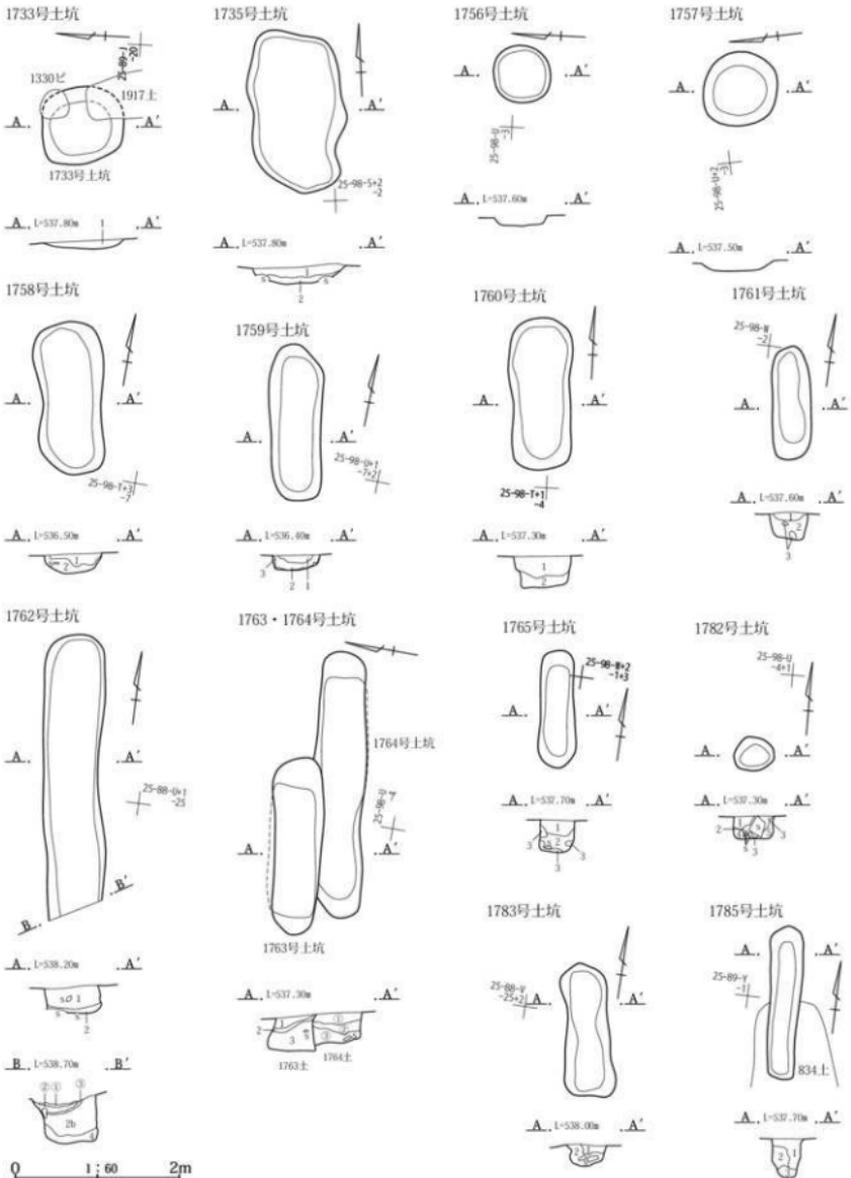
**1735号土坑** 25-98-S-2グリッド 長軸長205cm、短軸長114cm、深さ25cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い隅丸方形に近い不整形、断面形は皿状。覆土は地山起源の褐色土斑を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1756号土坑** 25-98-T-2・3グリッド 長軸長70cm、短軸長70cm、深さ12cm。平面形は円形、断面形は浅い鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。103号竪穴建物を切る。

**1757号土坑** 25-98-U-2・3グリッド 長軸長96cm、短軸長90cm、深さ13cm、長軸方位N-20°-W。平面形は円形、断面形は浅い鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。103号竪穴建物を切る。

**1758号土坑** 25-98-T・U-6・7グリッド 長軸長186

1735号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	10mmの黄褐色土(10YR8/6)ブロック、3~5mmの炭化物粒を僅かに含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	明黄褐色土(10YR6/6)を20%まばらに含む。10~40mmの礫を多く含む。3~7mmの炭化物粒を僅かに含む。
1756号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	1~3mmの礫を5%まばらに含む。7~10mmの礫を僅かに含む。
1757号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	黄褐色土(10YR5/8)ブロックを1%含む。2~7mmの礫、5mmの炭化物粒を僅かに含む。
1758号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	7~15mmの暗褐色(10YR3/4)の砂礫ブロックを3%含む。2~10mmの礫を7%含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	5~10mmの浅黄褐色(10YR8/4)の砂礫ブロックを5%含む。
1759号土坑	1	10YR3/3	暗褐色土	2~4mmの礫を僅かに含む。酸化した土が一部に含まれる
	2	10YR2/3	黒褐色土	褐色(10YR4/4)の砂礫粒を5%まばらに含む。
	3	10YR3/4	暗褐色土	黄褐色(10YR5/8)の砂礫粒を15%まばらに含む。酸化した土を非常に多く含む。
1765号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を10%まばらに含む。1~3mmの礫を7%含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を5%、1~3mmの礫を2%含む。10~40mmの礫を僅かに含む。
	3	10YR4/4	褐色土	1~3mmの礫を2%含む。2~3mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1782号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を20%含む。1~2mmの礫を僅かに含む。5~8mmの礫をごく僅かに含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を30%含む。5~15mmの炭化物を多く含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1~2mmの礫を僅かに含む。5~8mmの礫をごく僅かに含む。
	4	10YR3/4	暗褐色土	1~2mmの礫を僅かに含む。
	5	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%含む。1~2mmの礫をごく僅かに含む。
1785号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	3~7mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒を3%含む。10mmの褐色土(10YR4/6)ブロックを10%含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	3~5mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒をごく僅かに含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を20%まばらに含む。3~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。やや縮まりなし。



第172図 中世相当面の土坑14

cm、短軸長86cm、深さ27cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形はゆがんだ鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。

**1759号土坑** 25-98-U-7グリッド 長軸長190cm、短軸長63cm、深さ25cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。

**1760号土坑** 25-98-T-4グリッド 長軸長185cm、短軸長78cm、深さ47cm、長軸方位N-4°-W。平面形は南北に長い楕円長方形ないし長円形、断面形はやや深い鍋状。覆土は観察所見を欠くが、暗褐色土を主体とするものと思われる。

**1761号土坑** 25-98-V-1・2グリッド 長軸長140cm、短軸長45cm、深さ35cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形はやや深いゆがんだ鍋状。覆土は観察所見を欠く。土師器小片が出土している。

**1762号土坑** 25-88-U-24・25グリッド 長軸確認長338cm、短軸長70cm、深さ31cm、長軸方位N-8°-W。平

面形は南端を調査区界に切られるが、南北に長い溝状ないし幅の狭い長円形を呈するものと思われる。断面形は深い鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。土師器小片が出土している。

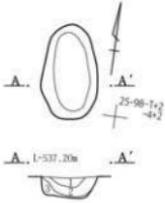
**1763号土坑** 25-98-T・U-4グリッド 長軸長214cm、短軸長60cm、深さ39cm、長軸方位N-82°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は底面が広がる弱い袋状。覆土は観察所見を欠くが、地山起源の褐色土灰を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。1764号土坑を切る。

**1764号土坑** 25-98-T・U-4グリッド 長軸長325cm、短軸確認長70cm、深さ38cm、長軸方位N-78°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、礫を含む暗褐色土を主体とするものと思われる。1763号土坑に切られる。

**1765号土坑** 25-98-W-1グリッド 長軸長145cm、短軸長46cm、深さ39cm、長軸方位N-8°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状ないし幅の広いU字状。

- 1787号土坑
- 1 10YR2/3黒褐色土 3~7mmの明黄褐色(10YR6/8)の砂礫粒をごく僅かに含む。
  - 2 10YR3/4暗褐色土 褐色土(10YR4/6)を10%まばらに含む。5~10mmの明黄褐色(10YR6/8)の砂礫粒をごく僅かに含む。2~10mmの礫を僅かに含む。
- 1794号土坑
- 1 10YR4/4褐色土 1~10mmの明黄褐色(10YR6/8)の砂礫粒をごく僅かに含む。1~2mmの礫を僅かに含む。
  - 2 10YR3/4暗褐色土 黄褐色土(10YR5/8)を30%、黒褐色土(10YR2/3)を10%、黄褐色土(10YR7/8)を5%、酸化土を3%、1~5mmの礫を10%含む。
  - 3 10YR3/4暗褐色土 明黄褐色土(10YR6/8)を30%、黄褐色土(10YR7/8)を15%、黒褐色土(10YR2/3)を10%含む。5~50mmの黄褐色土(10YR5/8)ブロックを10%、1~10mmの礫を15%含む。
  - 4 10YR2/3黒褐色土 黄褐色土(10YR5/8)を25%、酸化した酸化土のブロックを含む。3~15mmの炭化物粒を僅かに含む。
  - 5 10YR5/8黄褐色土 黒褐色土(10YR2/3)を30%含む。2~7mmの礫を僅かに含む。
  - 6 10YR2/3黒褐色土 黄褐色土(10YR5/8)を25%含む。1~2mmの礫をごく僅かに含む。
  - 7 10YR2/1黒色土 粘りあり。
- 1811号土坑
- 1 10YR3/1黒褐色土 灰白色土(10YR8/2)を僅かに含む。酸化し硬化した部分あり。
  - 2 10YR2/3黒褐色土 黄褐色土(10YR5/8)を25%含む。2~5mmの礫を僅かに含む。4~8mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
  - 3 10YR2/3黒褐色土 黄褐色土(10YR5/8)を7%、2~5mmの礫を5%含む。2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
  - 4 10YR3/3暗褐色土 黄褐色土(10YR5/8)を15%、2~5mmの礫を7%含む。2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
  - 5 10YR4/4褐色土 1~2mmの礫をごく僅かに含む。
  - 6 10YR3/3暗褐色土 黄褐色土(10YR5/8)を40%、10~25mmの明黄褐色土(10YR6/8)ブロックを5%、2~7mmの礫を7%含む。
  - 7 10YR2/3黒褐色土 1~2mmの礫をごく僅かに含む。
- 1798号土坑
- 1 10YR3/4暗褐色土 酸化した土を多く含む。5~7mmの礫を僅かに含む。
  - 2 10YR3/3暗褐色土 酸化した土をごく僅かに含む。1~2mmの礫を僅かに含む。
  - 3 10YR2/3黒褐色土 3~5mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒をごく僅かに含む。3~10mmの礫を3%含む。
- 1799号土坑
- 1 10YR2/3黒褐色土 酸化した土を多く含む。1~3mmの礫をごく僅かに含む。
  - 2 10YR2/3黒褐色土 暗褐色土(10YR3/3)を20%まばらに含む。1~5mmの礫を僅かに含む。
  - 3 10YR2/3黒褐色土 暗褐色土(10YR3/3)を20%まばらに含む。1~2mmの礫を僅かに含む。5~10mmの礫をごく僅かに含む。5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
  - 4 10YR2/3黒褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を25%まばらに含む。1~3mmの礫を僅かに含む。3~7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
  - 5 10YR2/3黒褐色土 1~2mmの礫をごく僅かに含む。
  - 6 10YR3/4暗褐色土 褐色土(10YR4/6)を30%含む。
  - 7 10YR5/8褐色土 明黄褐色土(10YR6/8)、暗褐色土(10YR3/3)を30%含む。
  - 8 10YR3/4暗褐色土 黒褐色土(10YR2/3)を20%、褐色土(10YR4/6)を15%含む。2~4mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
  - 9 10YR3/4暗褐色土 黒褐色土(10YR2/3)を25%含む。
  - 10 10YR2/3黒褐色土 暗褐色土(10YR3/3)を25%含む。2~5mmの礫、2~4mmの炭化物粒を僅かに含む。
  - 11 10YR3/4暗褐色土 50%以上炭化物が入る。

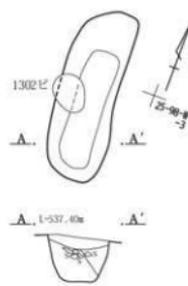
1787号土坑



1788号土坑



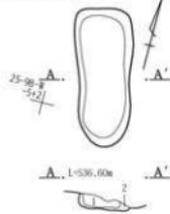
1789号土坑



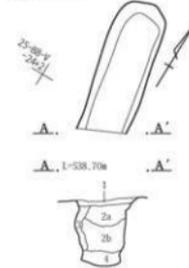
1790号土坑



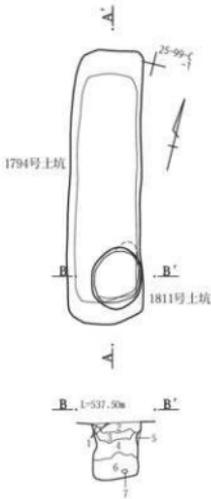
1791号土坑



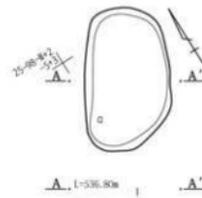
1792号土坑



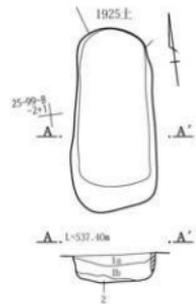
1794・1811号土坑



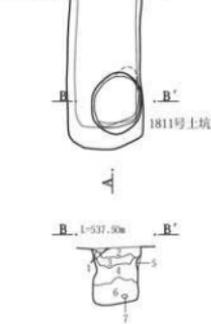
1795号土坑



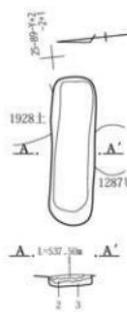
1796号土坑



1794号土坑



1798号土坑



1799号土坑



第173図 中世相当面の土坑15

覆土は観察所見を欠くが、礫を含む黒褐色土を主体とする。

**1782号土坑** 25-98-U-3・4グリッド 長軸長50cm、短軸長40cm、深さ28cm、長軸方位N-85°-E。平面形は東西に長い偏円形、断面形は鍋状。中央に大振りの角礫が入る。覆土は小礫や炭化物を含む黒褐色土、暗褐色土を主体とする。

**1783号土坑** 25-88-U-25グリッド 長軸長160cm、短軸長62cm、深さ20cm、長軸方位N-11°-W。平面形は南北に長い長円形ないし隅丸長方形、断面形は壁面が乱れるが碗状に近い。覆土は観察所見を欠く。

**1785号土坑** 25-79・89-X-25・1グリッド 長軸長186cm、短軸長40cm、深さ52cm、長軸方位N-4°-W。平面形は南北に長く幅の狭い長円形、断面形は壁面が乱れる

がU字状に近い。覆土は黒褐色土を主体とする。834号土坑と重複する。写真記録に混乱があり、同一番号で平面及び土層断面を記録した別遺構の写真があるが、平面図と対応する平面写真のみを掲載した。

**1787号土坑** 25-98-T-4グリッド 長軸長114cm、短軸長70cm、深さ28cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い楕円形、断面形は鍋状。覆土は砂礫を含む暗褐色土を主体とする。

**1788号土坑** 25-98-X-6グリッド 長軸長190cm、短軸長54cm、深さ20cm、長軸方位N-85°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は浅い鍋状。覆土は観察所見を欠く。

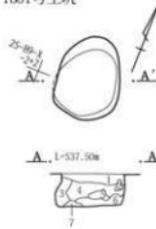
**1789号土坑** 25-98-W-2・3グリッド 長軸長212cm、短軸長70cm、深さ62cm、長軸方位N-10°-W。平面形は

1801号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	明黄褐色土(10YR6/8)を7%まばらに含む。2~7mmの礫を10%含む。	
	2	10YR2/3	黒褐色土	2~7mmの礫をごく僅かに含む。	
	3	10YR3/4	暗褐色土	1~2mmの礫を15%含む。	
	4	10YR3/4	暗褐色土	1~2mmの礫を7%、3~8mmの礫を5%含む。4~10mmの炭化物粒を僅かに含む。	
	5	10YR3/4	暗褐色土	1~2mmの礫を僅かに含む。4~7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。	
	6	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/4)を7%まばらに含む。1~2mmの礫をごく僅かに含む。	
	7	10YR4/4	褐色土	2~5mmの礫をごく僅かに含む。	
1803号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	5mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒、1~2mmの礫をごく僅かに含む。	
	2	10YR3/4	暗褐色土	3~80mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒を20%含む。明黄褐色土(10YR6/8)を10%まばらに含む。1~3mmの礫を20%含む。	
	3	10YR3/4	暗褐色土	1~8mmの礫を10%含む。3mmの炭化物粒をごく僅かに含む。	
	4	10YR2/3	黒褐色土	3~40mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒を20%、2~25mmの明黄褐色(10YR6/8)の砂礫粒も15%含む。明黄褐色土(10YR6/8)を20%含む。50~200mmの礫を多く含む。3~7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。	
1804号土坑	5	10YR3/4	暗褐色土	1~2mmの礫をごく僅かに含む。やや縮まりなし。	
	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%、1~2mmの礫を10%、5~12mmの礫を7%含む。1~3mmの炭化物粒をごく僅かに含む。	
1809号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	3~10mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒を10%、1~2mmの礫を15%含む。	
	2	10YR3/4	暗褐色土	5~20mmの明黄褐色(10YR6/8)砂礫ブロックを10%、20~40mmの褐色土(10YR4/6)ブロックを15%含む。1~2mmの礫を20%含む。3~8mmの炭化物粒を僅かに含む。	
1810号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	1~10mmの礫を15%含む。3~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。	
	2	10YR3/4	暗褐色土	黄褐色土(10YR5/8)を15%含む。1~3mmの礫をごく僅かに含む。	
1812号・1827号・1834号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	2~10mmの礫を10%含む。3~7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。	
	2	10YR3/4	暗褐色土	黄褐色土(10YR7/8)を20%含む。1~5mmの礫をごく僅かに含む。	
	3	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を25%まばらに含む。1~2mmの礫を5%含む。	
	4	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を10%まばらに含む。2~4mmの礫を5%含む。	
	5	10YR3/4	暗褐色土	1~2mmの礫を10%含む。	
	6	10YR3/4	暗褐色土	明黄褐色土(10YR6/8)を25%、1~3mmの礫を10%含む。	
	7	10YR3/4	暗褐色土	2~7mmの礫を10%、3~10mmの炭化物粒を3%含む。	
	8	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%まばらに含む。2~7mmの礫を20%、2~10mmの炭化物粒を5%含む。	
	9	10YR2/3	黒褐色土	明黄褐色土(10YR6/8)を25%まばらに含む。5~10mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒を3%含む。1~2mmの礫を10%含む。	
	10	10YR5/8	黄褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%まばらに含む。	
	11	10YR5/8	黄褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%含む。	
	12	10YR2/3	黒褐色土	3~50mmの黄褐色土(10YR5/8)ブロックを30%含む。3~7mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒を僅かに含む。	
	1813号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	黒色土(10YR2/1)を25%含む。1~2mmの礫を15%含む。
		2	10YR2/3	黒褐色土	酸化した土を多く含む。1~10mmの礫を10%含む。
	1814号土坑	3	10YR3/4	暗褐色土	1~2mmの礫を5%含む。10~70mmの礫を僅かに含む。
1		10YR2/3	黒褐色土	1~8mmの礫をごく僅かに含む。酸化した土を多く含む。	
2		10YR3/1	黒褐色土	褐色土(10YR4/1)を40%含む。底部が粥状に酸化し硬化。	
	3	10YR2/2	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を30%含む。酸化した土を僅かに含む。	

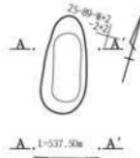
1800号土坑



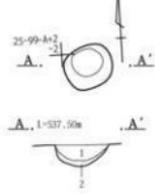
1801号土坑



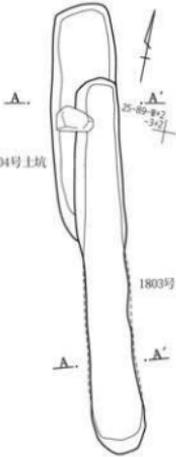
1802号土坑



1805号土坑



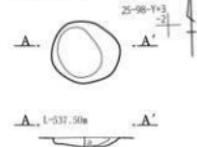
1803・1804号土坑



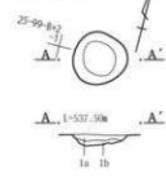
1804号土坑



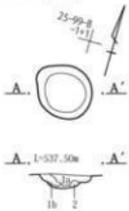
1806号土坑



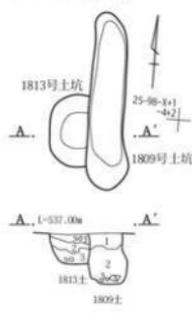
1807号土坑



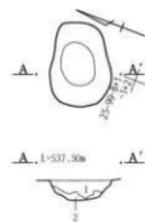
1808号土坑



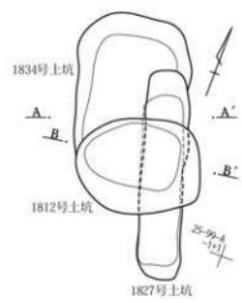
1809・1813号土坑



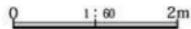
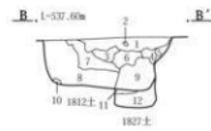
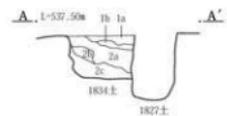
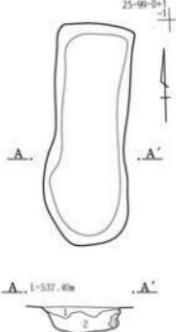
1810号土坑



1812・1827・1834号土坑



1814号土坑



第174図 中世相当面の土坑16

南北に長い長円形、断面形は深い鍋状。覆土は観察所見を欠く。1302号ピットに切られる

**1790号土坑** 25-98-V・W・6・7グリッド 長軸長530cm、短軸長57cm、深さ85cm、長軸方位N-14°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は下部が膨らむ袋状。覆土は観察所見を欠く。

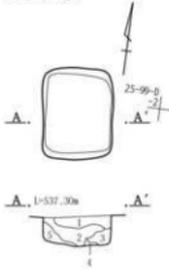
**1791号土坑** 25-98-V-5グリッド 長軸長170cm、短軸長70cm、深さ23cm、長軸方位N-16°-W。平面形は南北

に長い長円形ないし幅の狭い隅丸長方形、断面形は鍋状あるいは弱い袋状。覆土は観察所見を欠く。

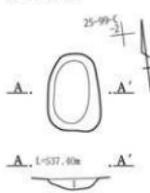
**1792号土坑** 25-88-U-24グリッド 長軸確認長165cm、短軸長63cm、深さ41cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南部を調査区界に切られるが、南北に長い長円形あるいは溝状を呈するものと思われる。断面形は壁面、底面共に乱れるが、深い鍋状に近いものと思われる。覆土は観察所見を欠く。

1815号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	1～5mmの礫を僅かに含む。5～7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%、褐色土(10YR4/6)を5%、2～5mmの礫を10%含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を10%、1～7mmの礫を3%含む。5～10mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	4	10YR2/2	黒褐色土	1～2mmの礫をごく僅かに含む。やや結まりなし。
	5	10YR2/2	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%、1～5mmの礫を5%含む。3～5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1816号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	1～10mmの礫を7%含む。5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1817号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	1～2mmの礫をごく僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を25%、1～2mmの炭化物粒を3%含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1～2mmの礫を僅かに含む。3～7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	4	10YR3/4	暗褐色土	1～2mmの、2～7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	5	10YR2/3	黒褐色土	1～2mmの礫をごく僅かに含む。
1818号土坑	1	10YR2/2	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/3)を30%含む。2～5mmの礫を僅かに含む。
1819号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%、1～5mmの礫を10%含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を25%、褐色土(10YR4/6)を15%、1～5mmの礫を10%含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を25%、褐色土(10YR4/6)を15%、5～30mmの明黄褐色土(10YR6/8)ブロック、1～5mmの礫を10%含む。
1820号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	底部が酸化し硬化。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1～5mmの礫を僅かに含む。2～3mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を25%含む。1～3mmの礫を僅かに含む。
	4	10YR2/3	黒褐色土	1～7mmの礫をごく僅かに含む。
	5	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を25%、褐色土(10YR4/6)を10%含む。一部酸化する。2～5mmの礫を僅かに含む。5～7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1821号土坑	6	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を10%含む。1～5mmの礫を僅かに含む。2～7mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	7	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%含む。1～2mmの礫をごく僅かに含む。
	1	10YR2/3	黒褐色土	1～5mmの礫を7%含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を7%、1～3mmの礫を5%含む。7～13mmの礫、3～8mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を30%含む。1～3mmの礫を僅かに含む。
	4	10YR2/3	黒褐色土	黒褐色土(10YR2/1)を20%、暗褐色土(10YR4/6)を5%含む。1～3mmの礫をごく僅かに含む。
	5	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を30%含む。2～5mmの礫を僅かに含む。8～12mmの礫をごく僅かに含む。
1822号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	1～2mmの礫、5～7mmの礫をごく僅かに含む。
1826号土坑	1	10YR4/4	褐色土	1～2mmの礫をごく僅かに含む。
1829号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/3)を30%、1～7mmの礫を10%含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/3)、1～3mmの礫を10%含む。5～10mmの礫、3～7mmの炭化物粒を僅かに含む。
1830号土坑	3	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/4)を20%含む。1～2mmの礫、5～8mmの礫、3～8mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	1	10YR2/3	黒褐色土	黄褐色土(10YR5/8)を15%、1～8mmの礫を10%、酸化土を5%含む。底部が陥状に酸化し硬化する。
	2	10YR4/1	褐色土	灰黄褐色土(10YR6/2)を10%、酸化土を5%、1～8mmの礫を7%含む。底部が陥状に酸化し硬化する。
	3	10YR3/4	暗褐色土	黄褐色土(10YR5/8)を25%、黒褐色土(10YR3/1)を5%、明黄褐色土(10YR6/8)を3%、酸化土を15%、1～5mmの礫を10%含む。
	4	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を30%、褐色土(10YR4/6)、1～2mmの礫を10%、酸化土を5%含む。5～10mmの礫をごく僅かに含む。
1831号土坑	5	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を20%、明黄褐色土(10YR7/6)を15%含む。黄褐色土(10YR5/8)を10%含む。1～3mmの礫を僅かに含む。3～8mmの礫をごく僅かに含む。
	1	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)、褐色土(10YR4/6)、1～3mmの礫を10%、5～15mmの黄褐色土(10YR5/8)ブロックを15%含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%含む。褐色土(10YR4/6)を5%含む。1～3mmの礫を僅かに含む。3mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	3	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を5%含む。5～10mmの黄褐色土(10YR5/8)ブロックを僅かに含む。1～2mmの礫を僅かに含む。
	4	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を30%、黒褐色土(10YR2/3)、7～30mmの黄褐色土(10YR5/8)ブロックを5%含む。1～2mmの礫を僅かに含む。
	5	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を20%、黒褐色土(10YR2/3)を3%、3～15mmの黄褐色土(10YR5/8)ブロックを10%含む。1～2mmの礫をごく僅かに含む。
	6	10YR2/3	黒褐色土	7～15mmの褐色土(10YR4/6)ブロックを僅かに含む。1～2mmの炭化物粒をごく僅かに含む。

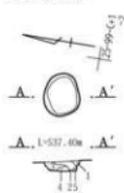
1815号土坑



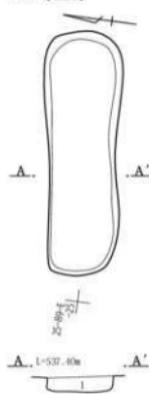
1816号土坑



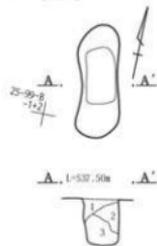
1817号土坑



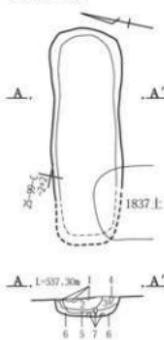
1818号土坑



1819号土坑



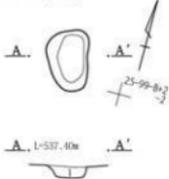
1820号土坑



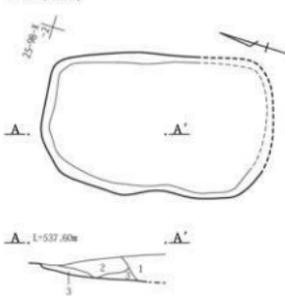
1821・1826号土坑



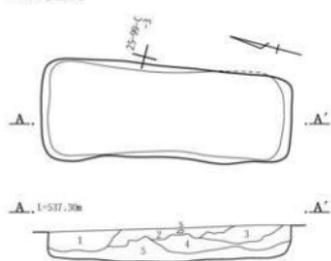
1822号土坑



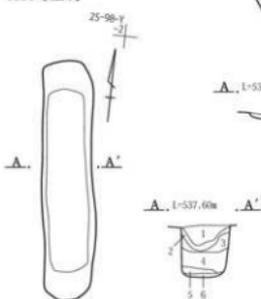
1829号土坑



1830号土坑



1831号土坑



0 1:60 2m

**1793号土坑** 25-98-T・U-7・8グリッド 長軸長184cm、短軸長50cm、深さ40cm、長軸方位N-8°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は箱状。覆土は観察所見を欠く。1367号土坑を切る

**1794号土坑** 25-89・99-B・C-25・1グリッド 長軸長340cm、短軸長87cm、深さ75cm、長軸方位N-14°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は地山起源の黄褐色土と黒褐色土の混土を主体とする。1811号土坑に切られる。

**1795号土坑** 25-98-W-5グリッド 長軸長175cm、短軸長103cm、深さ14cm、長軸方位N-33°-E。平面形は北東-南西に長い隅丸長方形、断面形はごく浅い鍋状。覆土は観察所見を欠く。内耳または焙烙の底部破片が出土している。

**1796号土坑** 25-99-A-1・2グリッド 長軸長225cm、短軸長105cm、深さ40cm、長軸方位N-7°-E。平面形は南北に長い長円形ないし隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。1925号土坑を切る。

**1798号土坑** 25-89・90-Y・A-2グリッド 長軸長180cm、短軸長55cm、深さ14cm、長軸方位N-81°-W。平面形は東西に長い長円形、断面形は箱状。覆土は暗褐色土を主体とする。1287号ピットを切る。1928号土坑と重複する。

**1799号土坑** 25-98-X-2グリッド 長軸長170cm、短軸長120cm、深さ29cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状に近いものと思われる。断面図と観察所見が整合しないが、覆土は暗褐色土

を主体とするものと思われる。110号竪穴建物を切る。

**1800号土坑** 長軸長228cm、短軸長計測不能、深さ26cm。平面記録、位置記録を欠くが、縦断面と思われる図面記録がある。断面形から見ると長円形ないし長方形を呈したものである。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1801号土坑** 25-89-W-2グリッド 長軸長104cm、短軸長76cm、深さ41cm、長軸方位N-12°-W。平面形は南北に長い偏円形、断面形は下部が広がる袋状。覆土は暗褐色土を主体とし、下位に褐色土が入る。

**1802号土坑** 25-89-W-2グリッド 長軸長120cm、短軸長52cm、深さ55cm、長軸方位N-13°-E。平面形は南北に長い楕円形、断面形はやや幅広いU字状。覆土は観察所見を欠く。

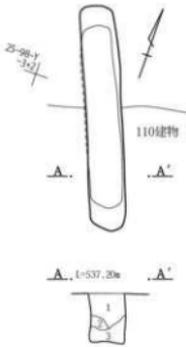
**1803号土坑** 25-89-W-2・3グリッド 長軸長460cm、短軸長60cm、深さ79cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は下部が広がる弱い袋状。覆土は砂礫や明黄褐色土を多く含む黒褐色土を主体とする。1804号土坑を切る。

**1804号土坑** 25-89-W-3グリッド 長軸確認長285cm、短軸長80cm、深さ56cm、長軸方位N-14°-W。平面形は北西・南東に長い溝状ないし幅の狭い隅丸長方形、断面形は箱状に近い。覆土は黒褐色土を主体とする。1803号土坑に切られる。

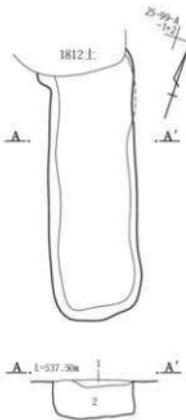
**1805号土坑** 25-99-A-1・2グリッド 長軸長60cm、短軸長50cm、深さ22cm、長軸方位N-57°-E。平面形はゆがんだ円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。

1832号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を30%、3~15mmの黄褐色土(10YR7/8)ブロックを20%、3~20mmの炭化物を2%含む。酸化土を多く含む。1~5mmの礫を10%含む。
	2	10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を5%、1~5mmの礫を7%含む。10~30mmの炭化物を僅かに含む。
	3	10YR2/3 黒褐色土 5~10mmの暗褐色土(10YR3/4)ブロックを2%、1~20mmの礫を5%含む。
1837号土坑	1	10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土(10YR2/3)を20%、黄褐色土(10YR5/8)を10%含む。酸化土、1~5mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を20%、黄褐色土(10YR5/8)を5%含む。1~2mmの礫を僅かに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土(10YR2/3)、黄褐色土(10YR5/8)を10%含む。1~5mmの礫を僅かに含む。
1844号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を10%含む。1~3mmの礫を僅かに含む。5~20mmの礫をごく僅かに含む。
	2	10YR2/3 暗褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を25%、5~10mmの黄褐色土(10YR5/8)ブロックを7%含む。1~2mmの礫を僅かに含む。2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	3	10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を10%、直径5mmの黄褐色土(10YR5/8)ブロックを5%含む。1~8mmの礫、2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1846号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)を5%、1~5mmの礫を15%含む。7~12mmの炭化物をごく僅かに含む。
	2	10YR2/3 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)を30%、1~3mmの礫を10%含む。5~10mmの礫、4~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)を30%含む。黒褐色土(10YR2/3)、1~5mmの礫を10%含む。
	4	10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を10%含む。1~2mmの礫、2~3mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	5	10YR4/6 褐色土 暗褐色土(10YR3/4)を5%含む。1~2mmの礫、2~3mmの炭化物粒をごく僅かに含む。

1832号土坑



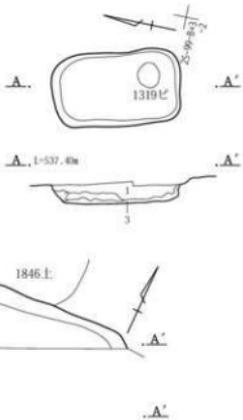
1835号土坑



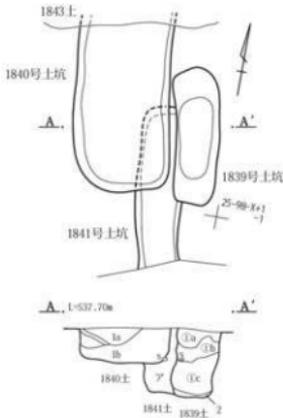
1836号土坑



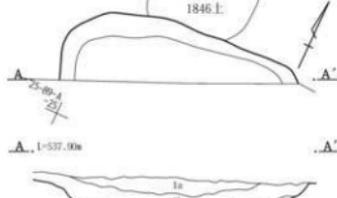
1837号土坑



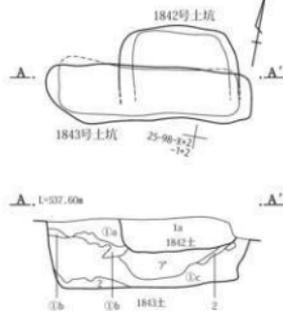
1839・1840・1841号土坑



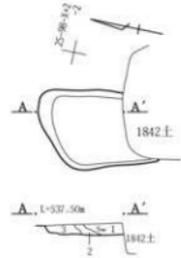
1838号土坑



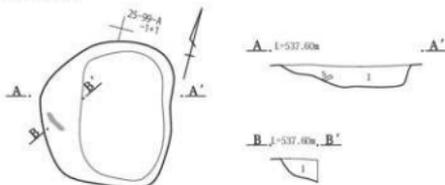
1842・1843号土坑



1844号土坑



1845号土坑



1846号土坑



第176図 中世相当面の土坑18

**1806号土坑** 25-98・99-Y・A-1・2グリッド 長軸長80cm、短軸長78cm、深さ12cm、長軸方位N-62°-W。平面形はゆがんだ円形、断面形は浅い皿状ないし鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1807号土坑** 25-89-99-B-25・1グリッド 長軸長70cm、短軸長70cm、深さ14cm、平面形はゆがんだ円形、断面形は浅い皿状ないし鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1808号土坑** 25-99-A・B-1グリッド 長軸長70cm、短軸長64cm、深さ15cm、長軸方位N-60°-E。平面形はゆがんだ円形、断面形は浅い皿状ないし鍋状。中位に小さな段を持ち、下部は椀状に近い。覆土は観察所見を欠く。

**1809号土坑** 25-98-X-4グリッド 長軸長216cm、短軸長50cm、深さ62cm、長軸方位N-3°-W。平面形は南北に長いゆがんだ長円形、断面形は下部が膨らむ弱い袋状。覆土は砂礫や明黄褐色土を多く含む暗褐色土を主体とする。1813号土坑を切る。

**1810号土坑** 25-99-B-1グリッド 長軸長102cm、短軸長74cm、深さ25cm、長軸方位N-70°-E。平面形は東西に長いゆがんだ楕円形、断面形は椀状。覆土は上層が黒褐色土、下層が暗褐色土を主体とする。

**1811号土坑** 25-89-B・C-25グリッド 長軸長80cm、短軸長60cm、深さ67cm、長軸方位N-17°-W。平面形は南北に長いゆがんだ円形、断面形は深い鍋状ないし箱形。

覆土は観察所見を欠く。1794号土坑を切る。

**1812号土坑** 25-99-A-1グリッド 長軸長155cm、短軸長120cm、深さ85cm、長軸方位N-81°-E。平面形は東西に長いゆがんだ楕円形、断面形は深い鍋状だが、下部が僅かに膨らむ。覆土は暗褐色土を主体とする。1827号、1834号、1835号土坑を切る。

**1813号土坑** 25-98-X-4グリッド 長軸長90cm、短軸確認長50cm、深さ38cm、長軸方位N-5°-W。平面形は東部を1809号土坑に切られるが、南北にやや長い、ゆがんだ円形の平面形を呈するものと思われる。断面形はやや深い椀状。覆土は上層が黒褐色土、下層が暗褐色土を主体とする。

**1814号土坑** 25-89-D-25グリッド 長軸長270cm、短軸長96cm、深さ38cm、長軸方位N-4°-E。平面形は南北に長い隅丸長方形ないし長円形、断面形は鍋状に近いが東壁が乱れる。覆土は黒褐色土を主体とする。

**1815号土坑** 25-99-D-1・2グリッド 長軸長113cm、短軸長86cm、深さ36cm、長軸方位N-5°-W。平面形は南北に僅かに長い、整った隅丸長方形、断面形は鍋状に近いが東壁下部がやや広がる。覆土は黒褐色土を主体とする。

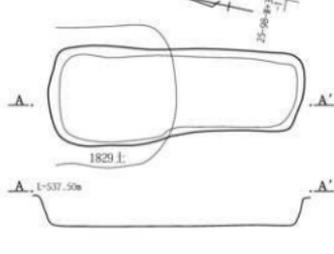
**1816号土坑** 25-99-C-1グリッド 長軸長94cm、短軸長62cm、深さ13cm、長軸方位N-7°-E。平面形は南北に長いゆがんだ長円形、断面形は浅い椀状。覆土は黒褐

1850号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR2/3)を20%、1~2mmの礫を10%含む。2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1851号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR2/3)を20%、褐色土(10YR4/6)を5%、1~5mmの礫を15%、2~10mmの炭化物粒を3%含む。
1852号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%、1~3mmの礫を10%、5~12mmの礫を5%含む。
1854号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を5%含む。1~10mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を40%、暗褐色土(10YR3/4)を10%含む。1~10mmの礫を僅かに含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	3~15mmの粒状の黄褐色土(10YR5/8)を10%含む。1~3mmの礫を僅かに含む。
1855号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1~15mmの礫を僅かに含む。2~3mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を25%、暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1~2mmの礫をごく僅かに含む。
1901号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を30%、暗褐色土(10YR3/4)を20%含む。5~15mmの炭化物をごく僅かに含む。1~5mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を20%、暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1~3mmの礫を僅かに含む。5~10mmの炭化物をごく僅かに含む。5~15mmの褐色土ブロックを含む。やや締まりなし。
	3	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を20%、暗褐色土(10YR3/4)を10%、5~30mmの褐色土ブロックを含む。1~5mmの礫を僅かに含む。やや締まりなし。
	4	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)、暗褐色土(10YR3/4)を10%、5~20mmの褐色土ブロックを含む。やや締まりなし。
	5	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1~8mmの礫を10%含む。2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1873号土坑	1	10YR2/3	暗褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1~8mmの礫を10%含む。2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	1~2mmの礫・炭化物粒をごく僅かに含む。
1874号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%、褐色土(10YR4/6)を20%、1~3mmの礫を10%含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	15~5mmの粒状の黄褐色土(10YR5/8)を5%含む。2~10mmの炭化物をごく僅かに含む。
1875号土坑	1	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)、褐色土(10YR4/6)、黄褐色土(10YR5/8)、1~2mmの礫をそれぞれ10%含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%、1~8mmの礫を10%含む。2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	3	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を25%、黒褐色土(10YR2/3)を5%含む。1~3mmの礫を僅かに含む。
1876号土坑	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%、1~10mmの礫を7%含む。1~2mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%、1~5mmの礫を僅かに含む。1~2mmの炭化物粒をごく僅かに含む。

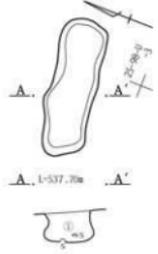
1850・1851号土坑



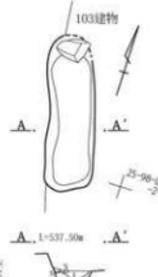
1852号土坑



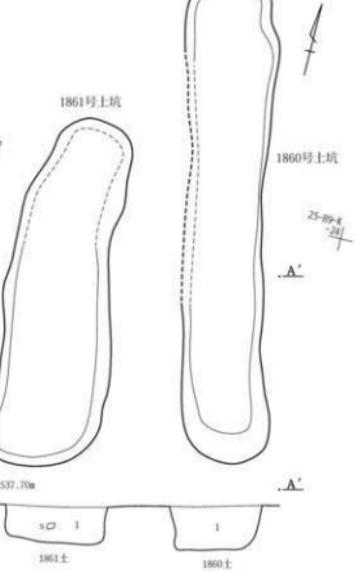
1853号土坑



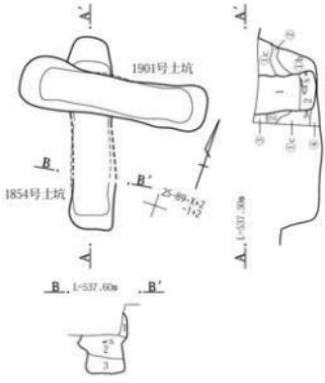
1855号土坑



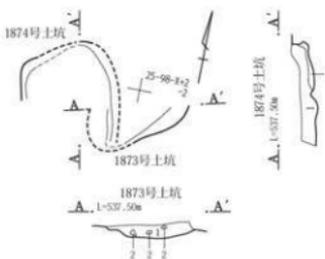
1860・1861号土坑



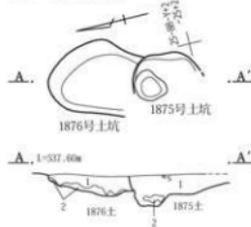
1854・1901号土坑



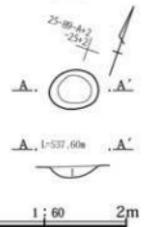
1873・1874号土坑



1875・1876号土坑



1877号土坑



第177図 中世相当面の土坑19

色土を主体とする。

**1817号土坑** 25-99-C-2グリッド 長軸長54cm、短軸長42cm、深さ13cm、長軸方位N-85°-E。平面形は東西に長いゆがんだ楕円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。

**1818号土坑** 25-99-D-24・25グリッド 長軸長300cm、短軸長98cm、深さ22cm、長軸方位N-84°-E。平面形は東西に長い長円形ないし隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。

**1819号土坑** 25-99-A-1グリッド 長軸長140cm、短軸長50cm、深さ57cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長いゆがんだ長円形。中央部が狭く括れる。縦断面では上部が開く。断面形は深い鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。

**1820号土坑** 25-99-B・C-2グリッド 長軸長266cm、短軸長88cm、深さ25cm、長軸方位N-75°-E。平面形は東西に長い長円形ないし隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1837号土

坑に切られる。

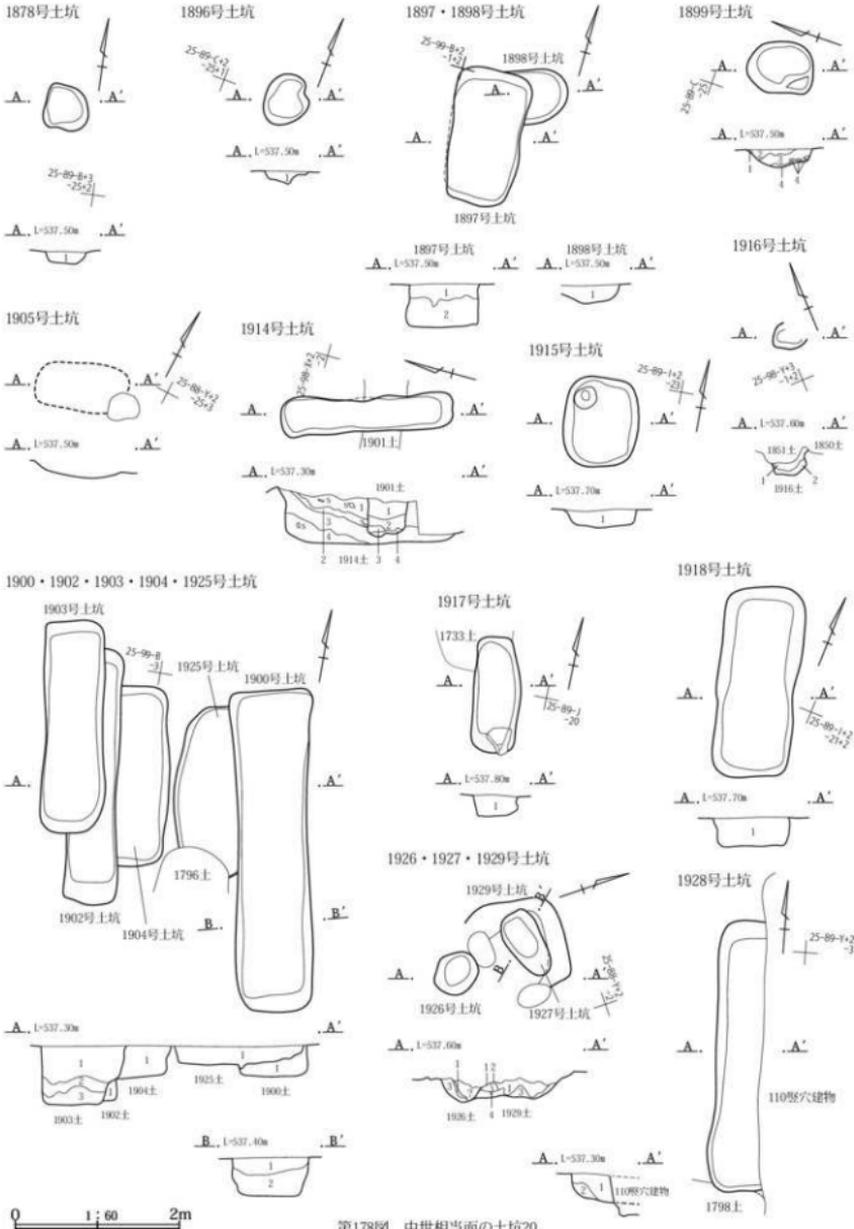
**1821号土坑** 25-99-C-1・2グリッド 長軸長100cm、短軸長67cm、深さ26cm、長軸方位N-5°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。1826号土坑を切る。

**1822号土坑** 25-99-B-1・2グリッド 長軸長74cm、短軸長52cm、深さ16cm、長軸方位N-17°-E。平面形は南北に長い不整な楕円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。

**1826号土坑** 25-99-C-2グリッド 長軸確認長85cm、短軸長52cm、深さ16cm、長軸方位N-5°-W。平面形は南北に長く幅の狭い隅丸長方形、断面形は浅い鍋状。覆土は暗褐色土を主体とし、下位に褐色土が入る。1821号土坑に切られる。

**1827号土坑** 25-99-A-1グリッド 長軸長254cm、短軸長55cm、深さ84cm、長軸方位N-17°-W。平面形は南北に長く幅の狭い隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は砂礫や明黄褐色土を多く含む黒褐色土を主体とする。

1899号土坑	1	2.5YR4/8 赤褐色土	焼土、黒褐色土(10YR2/3)を2%含む。
	2	10YR3/4 暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)、褐色土(10YR4/6)を15%、焼土を7%、2~7mmの炭化物を5%含む。1~5mmの礫を僅かに含む。
	3	10YR3/4 暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を25%含む。3~12mmの炭化物、1~2mmの礫を僅かに含む。焼土をごく僅かに含む。
	4	10YR3/4 暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を5%含む。1~2mmの礫をごく僅かに含む。
1900号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%、褐色土(10YR4/6)を10%含む。2~12mmの礫を僅かに含む。8mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1902号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を10%含む。1~2mmの礫をごく僅かに含む。
1903号土坑	1	10YR3/4 暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)、酸化土を20%含む。褐色土(10YR4/6)を10%、1~15mmの礫を7%含む。酸化し硬化した土が筋状に入る。
	2	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%、褐色土(10YR4/6)を15%、1~20mmの礫を7%含む。2~3mmの炭化物をごく僅かに含む。
	3	10YR2/3 黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を20%含む。暗褐色土(10YR3/4)を15%、5~10mmの褐色土ブロックを含む。3~15mmの礫をごく僅かに含む。
1904号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)、酸化土を20%、褐色土(10YR4/6)を10%含む。酸化し硬化した土が筋状に入る。2~20mmの礫を僅かに含む。
1925号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%。2~10mmの礫を10%、酸化土を10%含む。酸化し硬化した土が筋状に入る。5~10mmの炭化物をごく僅かに含む。
1914号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土	5~10mmのブロックを含む褐色土(10YR4/6)、暗褐色土(10YR3/4)を、それぞれ20%、1~3mmの礫を10%含む。
	2	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%、1~2mmの礫、5~15mmのブロックを含む。褐色土(10YR4/6)を10%含む。
	3	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%、褐色土(10YR4/6)を7%含む。1~3mmの礫をごく僅かに含む。
	4	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%、褐色土(10YR4/6)を3%含む。1~3mmの礫をごく僅かに含む。
1916号土坑	1	10YR3/4 暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%含む。1~3mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR3/4 暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を10%含む。1~3mmの礫をごく僅かに含む。
1926号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%、褐色土(10YR4/6)を7%、2~7mmの礫を7%含む。
	2	10YR3/4 暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を15%、黒褐色土(10YR2/3)を10%、1~7mmの礫を7%含む。
1928号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を25%、2~15mmの礫を10%、5~20mmの炭化物を7%含む。酸化し硬化した土が筋状に入る。
	2	10YR3/4 暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を30%、褐色土(10YR4/6)を10%含む。10~15mmの褐色土ブロックを僅かに含む。2~10mmの礫を5%含む。2~5mmの炭化物粒をごく僅かに含む。
1929号土坑	1	10YR2/3 黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%、褐色土(10YR4/6)、2~7mmの礫を7%含む。
	2	10YR3/4 暗褐色土	1~2mmの礫を15%含む。
	3	10YR3/4 暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を15%、黒褐色土(10YR2/3)を10%、1~7mmの礫を7%含む。
	4	10YR2/3 黒褐色土	目立った混入物のない均質な土塊。



1812号土坑に切られる。1834号、1835号土坑を切る。

**1829号土坑** 25-98-W・X-1グリッド 長軸長280cm、短軸長175cm、深さ32cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は浅い鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。1852号土坑に切られる。831、1839、1842、1843号土坑と重複する。

**1830号土坑** 25-99-B・C-2・3グリッド 長軸長305cm、短軸長125cm、深さ44cm、長軸方位N-12°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は下位が黒褐色土を主体とし、上位は黒褐色土、暗褐色土、褐灰色土が入り交じる。

**1831号土坑** 25-98-Y-1グリッド 長軸長290cm、短軸長64cm、深さ73cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長く幅の狭い隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は暗褐色土を主体とする。土師器小片が出土している。

**1832号土坑** 25-98-X-3グリッド 長軸長275cm、短軸長46cm、深さ66cm、長軸方位N-23°-W。平面形は北西-南東に長く、幅の狭い隅丸長方形、断面形は深い箱形。覆土は黒褐色土を主体とする。110号竪穴建物と切る。

**1834号土坑** 25-99-A-1グリッド 長軸確認長170cm、短軸長140cm、深さ55cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南部を1812号土坑に切られるが、南北に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。断面形は鍋状。覆土は上層が黒褐色土、下層が暗褐色土を主体とする。1812号、1827号土坑に切られる。

**1835号土坑** 25-88・89・98・99-Y・A-25・1グリッド 長軸確認長330cm、短軸長120cm、深さ41cm、長軸方位N-20°-W。平面形は南北に長く幅の狭い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。1812号、1827号、1845号土坑に切られる。

**1836号土坑** 25-89-1-20グリッド 長軸長70cm、短軸長43cm、深さ7cm、長軸方位N-75°-E。平面形は東西に長い楕円形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠くが、最上位に焼土が乗る。東寄りに角錐状の礫が立位で乗る。99号竪穴建物のほぼ中央に当たる。

**1837号土坑** 25-99-B・C-1・2グリッド 長軸長160cm、短軸長90cm、深さ35cm、長軸方位N-12°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は黄褐色土混じりの暗褐色土を主体とし、中に黒褐色土が縞状に入る。1820号土坑を切る。1319号ピットに切られる。

**1838号土坑** 25-88・89-Y・A-25グリッド 長軸長290cm、短軸確認長80cm、深さ26cm、長軸方位N-67°-E。平面形は南部が調査区界に切られるが、東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。1846号土坑を切る。写真記録を欠く。

**1839号土坑** 25-98-X-1グリッド 長軸長165cm、短軸長55cm、深さ82cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長く幅の狭い隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は観察所見を欠く。1841号土坑を切る。1829号土坑と重複する。

**1840号土坑** 25-98-X-1グリッド 長軸確認長220cm、短軸長114cm、深さ91cm、長軸方位N-10°-W。平面形は北部が1843号土坑に切られるが、南北に長い隅丸長方形を呈したものと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。須恵器杯体部小片が出土している。1841号～1843号、1854号土坑と重複する。

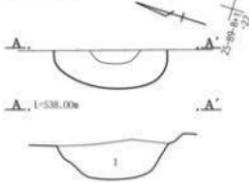
**1841号土坑** 25-88・98-X-25・1グリッド 長軸確認長195cm、短軸確認長60cm、深さ86cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南部が調査区界に切られるが、南北に長く幅の狭い隅丸長方形ないし長円形を呈するものと思われる。断面形は深い鍋状。覆土は観察所見を欠く。1839号土坑に切られる。1840号土坑と重複する。

**1842号土坑** 25-98-X-1グリッド 長軸確認長95cm、短軸長140cm、深さ63cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南部が1843号土坑と重複して全形が把握できないが、隅丸長方形の平面形を呈するものと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。1844号土坑を切る。1829号、1840号、1843号、1854号、1873号、1874号、1901号、1914号土坑と重複する。

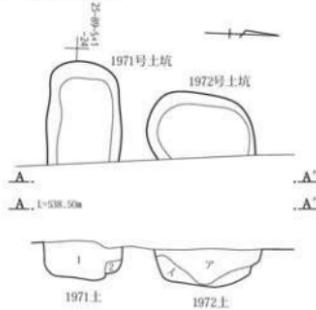
**1843号土坑** 25-98-X-1グリッド 長軸長250cm、短軸

- 1882号土坑 1 10YR3/1 黒褐色土 砂質。2層より粘性あり。2～3mmの黄色粒子、焼骨を含む。炭化物、2～3cmの礫を少量含む。3～5mmの黄色粒子を僅かに含む。  
2 10YR3/2 黒褐色土 砂質。2～3mmの黄色粒子、焼骨を少量含む。礫、赤色粒子を僅かに含む。
- 1883号土坑 1 10YR3/1 黒褐色土 砂質。粘性なし。上面に10cmの礫が乗る。50mm前後の礫、2～3mmの黄色粒子を少量含む。  
2 10YR3/2 黒褐色土 砂質。1層より粘性有り。2～3mmの黄色粒子を少量含む。10mm前後の礫を僅かに含む。  
3 10YR3/2 黒褐色土 砂質。2層より粘性有り。5cmの礫を含む。

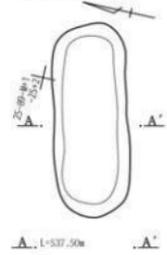
1970号土坑



1971・1972号土坑



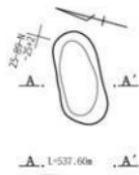
1974号土坑



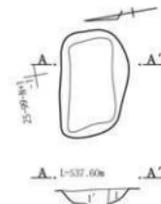
1975号土坑



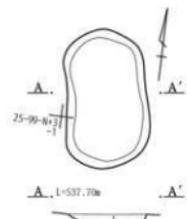
1976号土坑



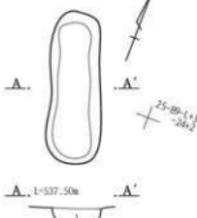
1977号土坑



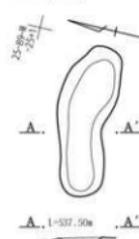
1978号土坑



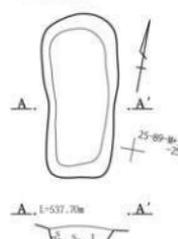
1979号土坑



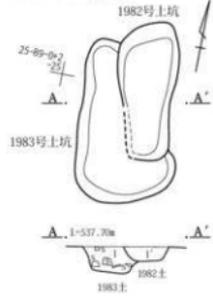
1980号土坑



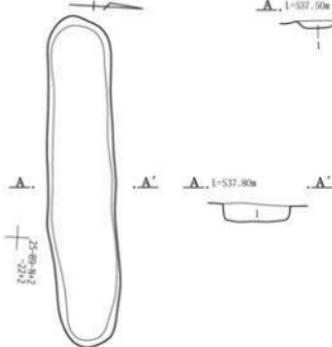
1981号土坑



1982・1983号土坑



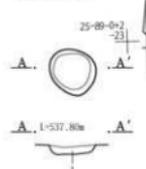
1995号土坑



1996号土坑

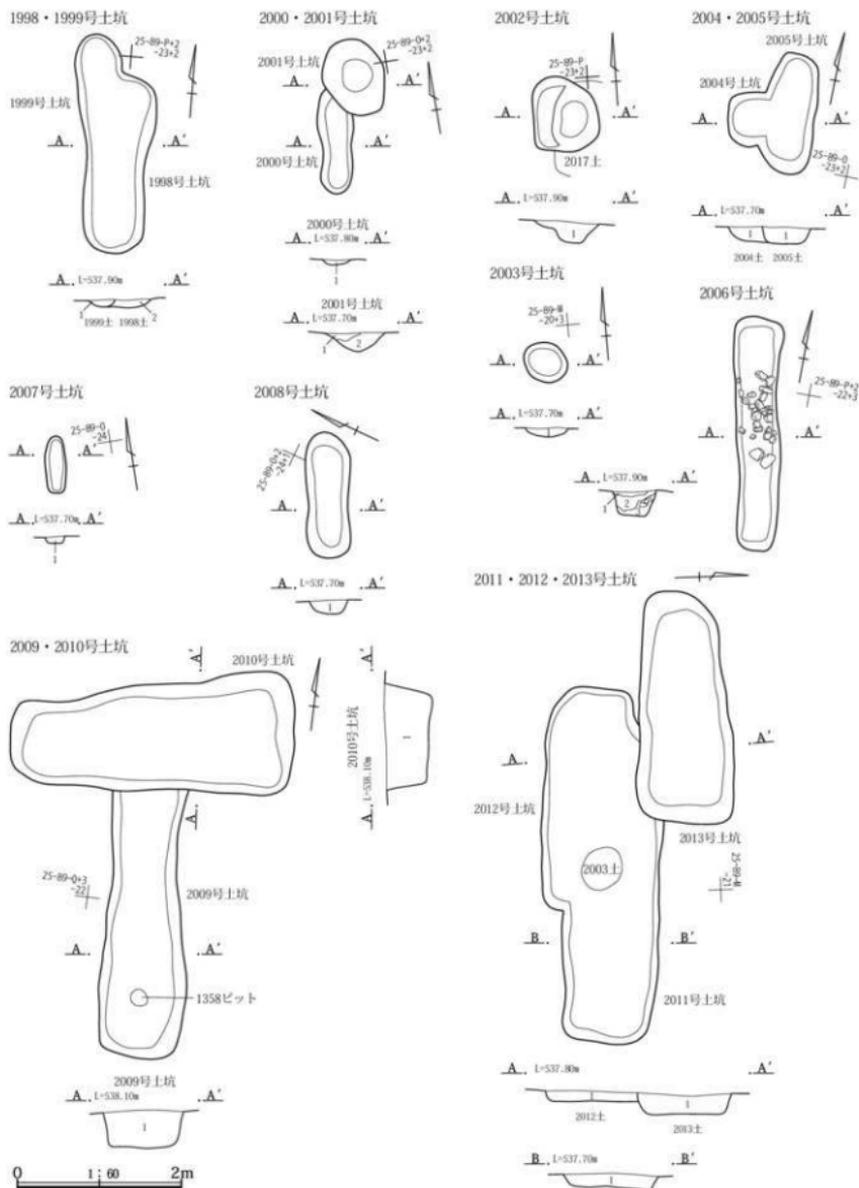


1997号土坑

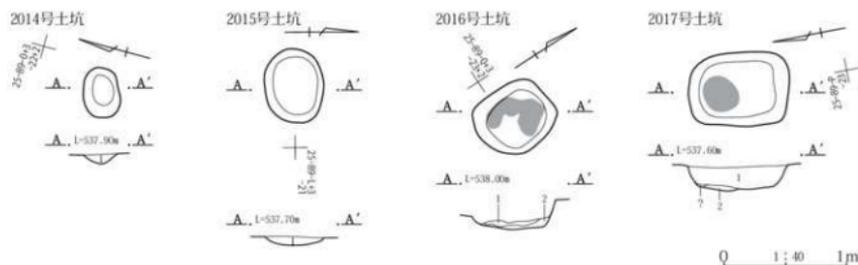


第179図 中世相当面の土坑21

第2章 発掘された遺構と遺物



第180図 中世相当面の土坑22



第181図 中世相当面の土坑23

長74cm、深さ83cm、長軸方位N-82°-W。平面形は東西に長い長円形ないし隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は観察所見を欠く。1829号、1840号、1842号、1854号、1914号土坑と重複する。

**1844号土坑** 25-98-X-1・2グリッド 長軸確認長104cm、短軸長97cm、深さ8cm、長軸方位N-22°-W。平面形は南部が1842号土坑に切られるが、南北に長い隅丸長方形を呈したと思われる。断面形は浅い鍋状。覆土は黄褐色土ブロックを含む、黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1854号、1873号、1874号、1901号、1914号土坑と重複する。

**1845号土坑** 25-88・89・98・99-Y・A-25・1グリッド 長軸長176cm、短軸長160cm、深さ45cm、長軸方位N-16°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形。西壁が大きく崩れ、上面は偏円形に近い。断面形は鍋状を呈するが、西壁は大きく開く。覆土は観察所見を欠く。1835号土坑を切る。

**1846号土坑** 25-88-Y-25グリッド 長軸長186cm、短軸長97cm、深さ33cm、長軸方位N-36°-E。平面形は北東-南西に長い偏円形、断面形は鍋状を呈するが、東部は乱れる。覆土は小礫を含む、黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1838号土坑に切られる。1875号、1876号、1905号土坑と重複する。

**1850号土坑** 25-98-Y-1グリッド 長軸長60cm、短軸長60cm、深さ10cm。平面形は円形、断面形は椀状に近い。覆土は黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1916号土坑を切る。1926号土坑と重複する。

**1851号土坑** 25-98-Y-1グリッド 長軸長280cm、短軸長90cm、深さ19cm、長軸方位N-17°-E。平面形は南北

に長いゆがんだ長円形、断面形は西壁が崩れるが、椀状に近い。覆土は小礫を含む、黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1916号土坑を切る。1926号、1927号、1929号土坑と重複する。

**1852号土坑** 25-88・98-W・X-25・1グリッド 長軸長310cm、短軸長120cm、深さ38cm、長軸方位N-13°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状を呈するものと思われる。覆土は小礫を含む、黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1829号土坑を切る。831号、835号土坑と重複する。

**1853号土坑** 25-98-T・U-3グリッド 長軸長170cm、短軸長60cm、深さ14cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東西に長いゆがんだ長円形、断面形は下部が膨らむ袋状。覆土は観察所見を欠く。103号竪穴建物の北壁に沿うようにある。

**1854号土坑** 25-89-X-1グリッド 長軸長235cm、短軸長55cm、深さ80cm、長軸方位N-20°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形ないし長円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土と褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1901号土坑に切られる。1840号、1842号、1843号、1844号、1874号土坑と重複する。

**1855号土坑** 25-98-U-2グリッド 長軸長190cm、短軸長60cm、深さ39cm、長軸方位N-16°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形ないし長円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土と褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。103号竪穴建物の西壁を切る。

**1860号土坑** 25-89-K-23・24グリッド 長軸長592cm、短軸長88cm、深さ57cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

土師器小片が出土している。

**1861号土坑** 25-89-K-23・24グリッド 長軸長434cm、短軸長130cm、深さ64cm、長軸方位N-3°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1873号土坑** 25-98-X-1グリッド 長軸確認長50cm、短軸長120cm、深さ17cm。土坑の密集部にあつて、全形がとらえられない。断面形は皿状。覆土は観察所見を欠く。土師器小片が出土している。1842号、1844号、1874号、1901号、1914号土坑と重複する。

**1874号土坑** 25-98-X-1・2グリッド 長軸確認長120cm、短軸長118cm、深さ21cm、長軸方位N-20°-E。平面形は土坑の密集部にあつて、全形がとらえられない。南北に長い隅丸長方形に近いものかと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。1842号、1844号、1854号、1873号、1901号、1914号土坑と重複する。

**1875号土坑** 25-88-Y-25グリッド 長軸確認長87cm、短軸確認長50cm、深さ46cm、長軸方位N-10°-E。平面形は土坑の密集部にあつて、全形がとらえられない。隅丸長方形に近いものかと思われる。断面形は鍋状に近いものと思われる。覆土は観察所見を欠く。1876号土坑を切る。1846号、1905号土坑と重複する。

**1876号土坑** 25-88-Y-25グリッド 長軸確認長105cm、短軸長90cm、深さ27cm、長軸方位N-15°-E。平面形は南部が1875号、1905号土坑に切られるが、南北に長いゆがんだ長円形に近いものと思われる。断面形は鍋状に近いものと思われる。覆土は観察所見を欠く。1846号土坑と重複する。

**1877号土坑** 25-89-A-25グリッド 長軸長60cm、短軸長46cm、深さ16cm、長軸方位N-67°-E。平面形はゆがんだ円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。

**1878号土坑** 25-89-B-25グリッド 長軸長63cm、短軸長57cm、深さ16cm、長軸方位N-31°-W。平面形は不整形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1896号土坑** 25-89-C-25グリッド 長軸長60cm、短軸長54cm、深さ17cm、長軸方位N-10°-W。平面形はゆがんだ円形、断面形は不整形。覆土は観察所見を欠く。

**1897号土坑** 25-99-B-1グリッド 長軸長166cm、短軸長93cm、深さ58cm、長軸方位N-5°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は箱形に近いが、下部がゆ

や膨らむ。覆土は観察所見を欠く。1898号土坑を切る。

**1898号土坑** 25-99-B-1グリッド 長軸確認長70cm、短軸長65cm、深さ24cm、長軸方位N-72°-E。平面形は西半を1897号土坑に切られるが、東西に長い長円形を呈するものと思われる。断面形は記載を欠く。覆土は観察所見を欠く。

**1899号土坑** 25-89-B-24グリッド 長軸長80cm、短軸長62cm、深さ23cm、長軸方位N-20°-W。平面形はゆがんだ円形、断面形は椀状に近い。覆土は観察所見を欠く。

**1900号土坑** 25-99-A-2グリッド 長軸長390cm、短軸長100cm、深さ54cm、長軸方位N-12°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は黒褐色土と褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1925号土坑を切る。

**1901号土坑** 25-89-X・Y-1グリッド 長軸長230cm、短軸長62cm、深さ76cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東西に長く、幅の狭い隅丸長方形、断面形は深い鍋状。覆土は黄褐色土ブロックを含む、黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1854号土坑を切る。1842号、1844号、1873号、1874号、1914号土坑と重複する。

**1902号土坑** 25-99-B-2・3グリッド 長軸長314cm、短軸長65cm、深さ74cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1903号に切られる。1904号土坑を切る。

**1903号土坑** 25-99-B-2・3グリッド 長軸長260cm、短軸長75cm、深さ78cm、長軸方位N-7°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は黒褐色土と褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1902号土坑を切る。

**1904号土坑** 25-99-A・B-2グリッド 長軸長220cm、短軸確認長65cm、深さ45cm、長軸方位N-7°-E。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は箱形。覆土は黒褐色土と褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1902号土坑に切られる。

**1905号土坑** 25-88-Y-25グリッド 長軸長110cm、短軸長60cm、深さ22cm、長軸方位N-70°-E。平面形は東西に長い長円形を呈するものと思われる。断面形はごく浅い皿状。覆土は観察所見を欠く。1876号土坑を切る。1846号、1875号土坑と重複する。

**1914号土坑** 25-98-X-1・2グリッド 長軸長210cm、短軸長50cm、深さ94cm、長軸方位N-16°-E。平面形は東西に長く、幅の狭い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土と褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1842号、1843号、1844号、1873号、1874号、1901号土坑と重複する。

**1915号土坑** 25-89-I-22グリッド 長軸長110cm、短軸長90cm、深さ23cm、長軸方位N-6°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1916号土坑** 25-98-Y-1グリッド 長軸確認長40cm、短軸確認長30cm、深さ38cm、長軸方位N-50°-W。平面形はビット、土坑の集中部に当たり、全形がとらえられないが、東西に長い偏円形を呈するものと思われる。壁、底面共に乱れるが、断面形は鍋状に近い。覆土は黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1850号、1851号土坑に切られる。1926号土坑を切る。

**1917号土坑** 25-89-J-19・20グリッド 長軸長142cm、短軸長57cm、深さ26cm、長軸方位N-8°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形。南端に角礫がある。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。1733号土坑と重複。

**1918号土坑** 25-89-I-21グリッド 長軸長234cm、短軸長98cm、深さ39cm、長軸方位N-15°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形。底部中央北西寄りに小ビットがある。断面形は箱状。覆土は観察所見を欠く。土師器杯底部小片が出土している。

**1925号土坑** 25-99-A-2グリッド 長軸確認長208cm、短軸確認長80cm、深さ34cm、長軸方位N-3°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1796号、1900号土坑に切られる。

**1926号土坑** 25-88-Y-1グリッド 長軸長54cm、短軸長50cm、深さ31cm、長軸方位N-50°-E。平面形は東西に長い偏円形、断面形は椀状。覆土は黒褐色土と褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。1916号土坑に切られる。1850号、1851号、1929号土坑と重複する。

**1927号土坑** 25-88-Y-1グリッド 長軸長85cm、短軸長44cm、深さ19cm、長軸方位N-77°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。1851号、1929号土坑と重複する

**1928号土坑** 25-89-Y-2・3グリッド 長軸長330cm、短軸確認長40cm、深さ44cm、長軸方位N-3°-W。平面形は東辺が110号竪穴建物と重複して捉えられていないが、南北に長い隅丸長方形を呈したものである。断面形は鍋状。覆土は黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。110号竪穴建物、1798号土坑と重複する。

**1929号土坑** 25-88-Y-1グリッド 長軸確認長120cm、短軸確認長112cm、深さ29cm、長軸方位N-10°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は椀状。覆土は小礫を含む、黒褐色土、暗褐色土の混土を主体とする。土師器小片が出土している。1851号、1926号、1927号土坑と重複する。

**1970号土坑** 25-89-R-22グリッド 長軸長137cm、短軸確認長46cm、深さ45cm、長軸方位N-19°-W。平面形は東部が調査区界に切られるが、南北に長い長円形を呈するものと思われる。断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。

**1971号土坑** 25-89-R・S-23・24グリッド 長軸確認長125cm、短軸長90cm、深さ23cm、長軸方位N-87°-E。平面形は東部が調査区界に切られるが、東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1972号土坑** 25-89-R・S-24グリッド 長軸長110cm、短軸確認長86cm、深さ24cm、長軸方位N-2°-W。平面形は東部が調査区界に切られるが、南北に長い偏円形ないし隅丸形を呈するものと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1974号土坑** 25-89-M-25グリッド 長軸長234cm、短軸長92cm、深さ15cm、長軸方位N-79°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠く。

**1975号土坑** 25-89-M-25グリッド 長軸長150cm、短軸長68cm、深さ21cm、長軸方位N-80°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1976号土坑** 25-89-M・N-25グリッド 長軸長115cm、短軸長58cm、深さ14cm、長軸方位N-63°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**1977号土坑** 25-89-N-25グリッド 長軸長126cm、短軸

長82cm、深さ14cm、長軸方位N-80°-W。平面形は東西に長い隅丸長方形。南辺の上部が広がる、断面形は底部中央が窪む。覆土は観察所見を欠く。写真記録を欠く。

**1978号土坑** 25-89・99-N-25・1グリッド 長軸長170cm、短軸長97cm、深さ15cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠く。写真記録を欠く。

**1979号土坑** 25-89-L・M-24グリッド 長軸長177cm、短軸長66cm、深さ34cm、長軸方位N-20°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。

**1980号土坑** 25-89-M-24・25グリッド 長軸長136cm、短軸長64cm、深さ23cm、長軸方位N-89°-E。平面形は東西に長いゆがんだ長円形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠く。

**1981号土坑** 25-89-M・N-24・25グリッド 長軸長203cm、短軸長90cm、深さ28cm、長軸方位N-12°-W。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。小礫を含む。

**1982号土坑** 25-89-O-24・25グリッド 長軸長168cm、短軸長75cm、深さ16cm、長軸方位N-14°-W。平面形は南北に長いゆがんだ隅丸長方形。北辺が長く幅広い。断面形は鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。1983号土坑を切る。

**1983号土坑** 25-89-O-24・25グリッド 長軸長203cm、短軸長118cm、深さ31cm、長軸方位N-23°-W。平面形は南北に長いゆがんだ涙滴状。南部が大きく膨らむ。断面形は上部が開く鍋状。覆土は黒褐色土を主体とする。1982号土坑に切られる。

**1995号土坑** 25-89-N・O-22グリッド 長軸長406cm、短軸長84cm、深さ22cm、長軸方位N-85°-E。平面形は東西に長い溝状、断面形は箱形。覆土は観察所見を欠く。

**1996号土坑** 25-89-P-20グリッド 長軸長90cm、短軸長90cm、深さ21cm。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。写真記録を欠く。

**1997号土坑** 25-89-O-22グリッド 長軸長60cm、短軸長52cm、深さ12cm、長軸方位N-36°-W。平面形は円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。写真記録を欠く。

**1998号土坑** 25-89-P-22・23グリッド 長軸長220cm、短軸確認長40cm、深さ10cm、長軸方位N-0°。平面形

は南北に長い長円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。1999号土坑に切られる。写真記録を欠く。

**1999号土坑** 25-89-P-22・23グリッド 長軸長270cm、短軸長56cm、深さ12cm、長軸方位N-10°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。1998号土坑を切る。写真記録を欠く。

**2000号土坑** 25-89-O-23グリッド 長軸確認長130cm、短軸長42cm、深さ7cm、長軸方位N-10°-E。平面形は南北に長い長円形、断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。2001号土坑に切られる。写真記録を欠く。

**2001号土坑** 25-89-O-23グリッド 長軸長96cm、短軸長74cm、深さ23cm、長軸方位N-17°-W。平面形は南北に長い楕円形、断面形は浅い椀状。覆土は観察所見を欠く。2000号土坑を切る。写真記録を欠く。

**2002号土坑** 25-89-O・P-23グリッド 長軸長90cm、短軸長76cm、深さ25cm、長軸方位N-3°-E。平面形は南北にやや長いゆがんだ隅丸長方形、断面形は西部が浅く、東部が一段低くなる。覆土は観察所見を欠く。2017号土坑を切る。写真記録を欠く。

**2003号土坑** 25-89-M-20グリッド 長軸長53cm、短軸長47cm、深さ12cm、長軸方位N-37°-W。平面形は円形、断面形は浅い椀状。覆土は観察所見を欠く。2011号、2012号土坑を切る。写真記録を欠く。

**2004号土坑** 25-89-O-23グリッド 長軸確認長50cm、短軸長64cm、深さ16cm、長軸方位N-74°-E。平面形は東部が2005号土坑と重複して捉えられていないが、東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。断面形は椀状。覆土は観察所見を欠く。2005号土坑に切られる。

**2005号土坑** 25-89-O-23グリッド 長軸長146cm、短軸確認長65cm、深さ21cm、長軸方位N-4°-W。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。2004号土坑を切る。

**2006号土坑** 25-89-P-22グリッド 長軸長287cm、短軸長60cm、深さ45cm、長軸方位N-9°-W。平面形は南北に長い溝状、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠くが、下に礫を多く含む。

**2007号土坑** 25-89-O-23・24グリッド 長軸長72cm、短軸長25cm、深さ9cm、長軸方位N-7°-E。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**2008号土坑** 25-89-O-23・24グリッド 長軸長152cm、短軸長52cm、深さ17cm、長軸方位N-64°-E。平面形は南北に長い長円形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。

**2009号土坑** 25-89-Q-21・22グリッド 長軸確認長330cm、短軸長106cm、深さ53cm、長軸方位N-5°-W。平面形は北部を2010号土坑に切られるが、南北に長い溝状ないし幅の狭い隅丸長方形を呈するものと思われる。断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。2010号土坑、1358号ピットに切られる。須恵器破片が出土している。

**2010号土坑** 25-89-Q・R-22グリッド 長軸長345cm、短軸長150cm、深さ59cm、長軸方位N-81°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形ないし東辺が幅広の台形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。2009号土坑を切る。

**2011号土坑** 25-89-L・M-20グリッド 長軸確認長360cm、短軸長118cm、深さ16cm、長軸方位N-86°-W。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。2003号、2013号土坑に切られる。2012号土坑と重複する。須恵器破片が出土している。

**2012号土坑** 25-89-L・M-20グリッド 長軸確認長282cm、短軸長103cm、深さ20cm、長軸方位N-87°-W。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。2003号、2013号土坑に切られる。2111号土坑と重複する。

**2013号土坑** 25-89-M-20・21グリッド 長軸長285cm、短軸長120cm、深さ36cm、長軸方位N-88°-E。平面形は東西に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。2011号、2012号土坑を切る。

**2014号土坑** 25-89-O-22グリッド 長軸長60cm、短軸長44cm、深さ17cm、長軸方位N-74°-E。平面形は東西に長い楕円形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠く。

**2015号土坑** 25-89-L・M-20・21グリッド 長軸長90cm、短軸長73cm、深さ11cm、長軸方位N-85°-E。平面形は東西に長い長円形、断面形は皿状。覆土は観察所見を欠く。

**2016号土坑** 25-89-Q-23グリッド 長軸長93cm、短軸長82cm、深さ35cm、長軸方位N-3°-W。平面形は胴の張った隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。上位に焼土がある。118号竪穴建物の竈前の位置に当たる。

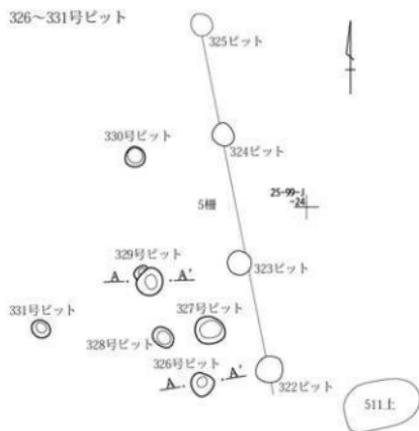
**2017号土坑** 25-89-O・P-23グリッド 長軸長122cm、短軸長90cm、深さ31cm、長軸方位N-12°-E。平面形は南北に長い隅丸長方形、断面形は鍋状。覆土は観察所見を欠く。北部の底面に焼土がある。2002号土坑に切られる。

## (2) ピット

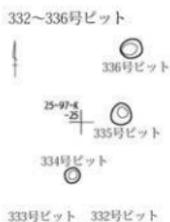
前報告では、中世相当面(4面)のピット330基を記載した。近世相当面でピットが集中した天明泥流下の寺院部分ではピットが認められなくなり、寺城西辺より西に、掘立柱建物や土坑と共に、高密度で集中する地域が見られる。そのほか、単独あるいは小さなまとまりを持つピット群が散在的に認められた。今次報告では、中世相当面で199基を記載する。遺跡内の各所に、まとまりを持ったピット群が見られる。土坑群に近接してピットが群在したり、ピットが群在して、掘立柱建物や焼土、土坑が近接する等の様相が見られる。

第2章 発掘された遺構と遺物

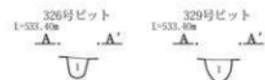
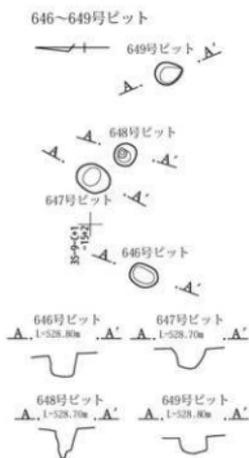
326~331号ビット



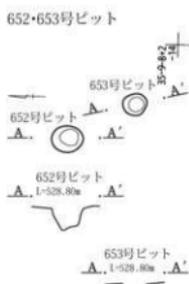
332~336号ビット



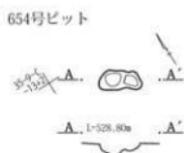
646~649号ビット



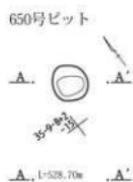
652・653号ビット



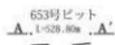
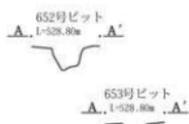
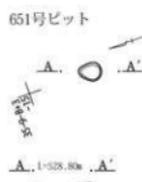
654号ビット



650号ビット



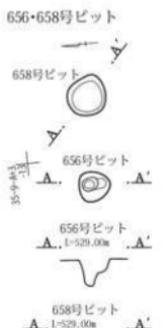
651号ビット



655号ビット



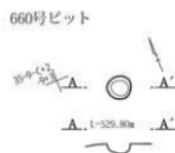
656~658号ビット



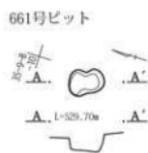
659号ビット



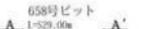
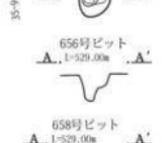
660号ビット



661号ビット



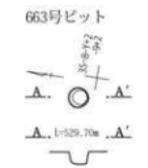
657号ビット



662号ビット

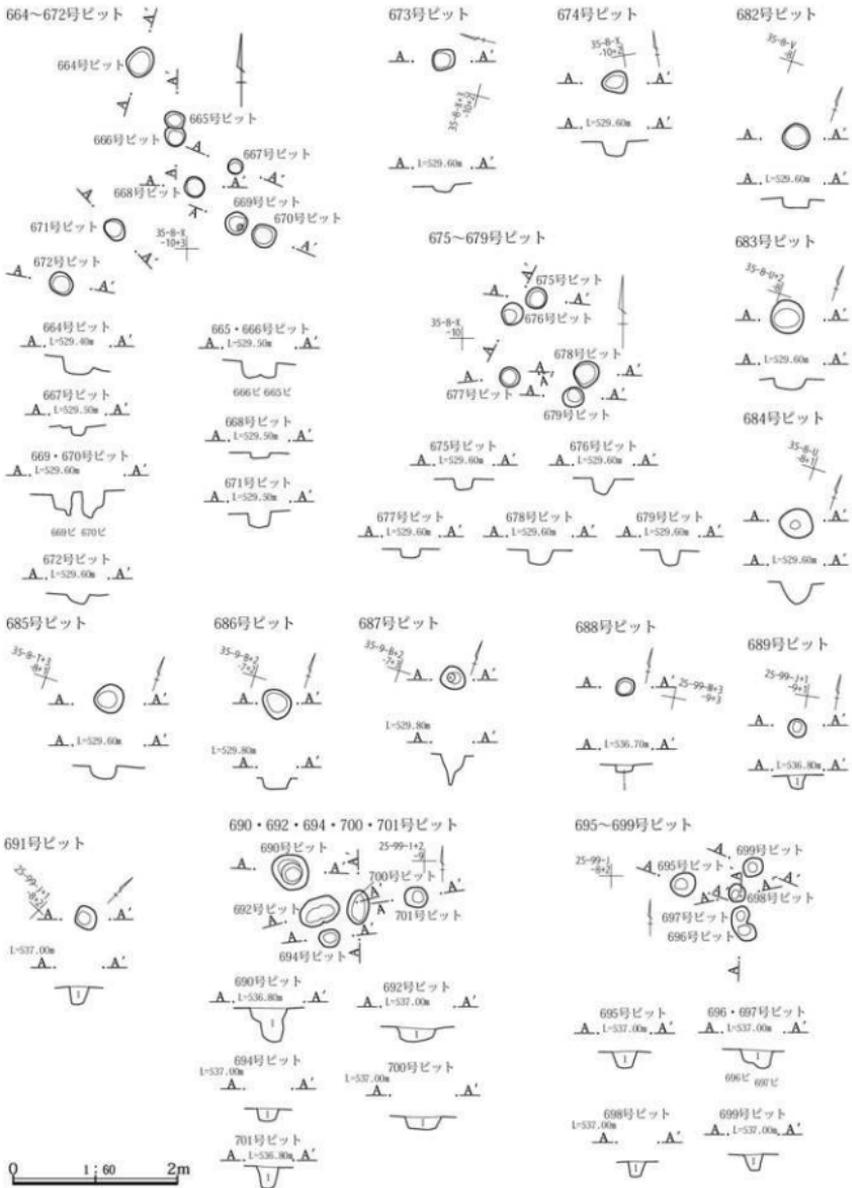


663号ビット



第182図 中世相当面のビット1

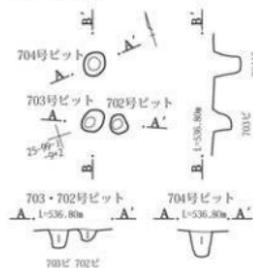
0 1:60 2m



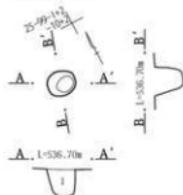
第183図 中世相当面のビット2

第2章 発掘された遺構と遺物

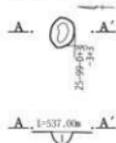
702~704号ピット



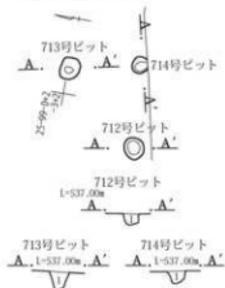
705号ピット



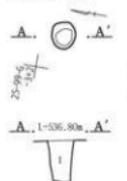
711号ピット



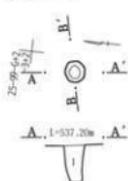
712~714号ピット



715号ピット



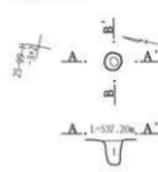
716号ピット



717号ピット



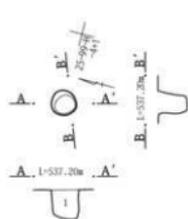
718号ピット



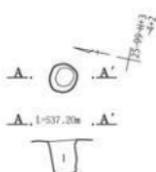
719号ピット



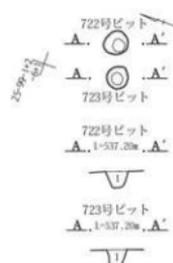
720号ピット



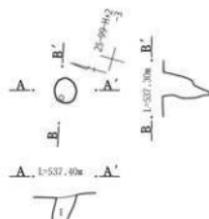
721号ピット



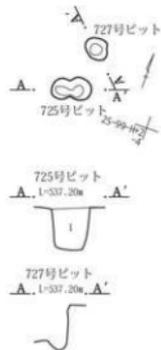
722・723号ピット



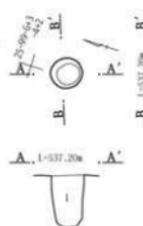
724号ピット



725・727号ピット



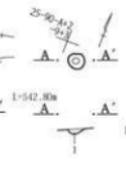
728号ピット



785号ピット



795号ピット



796号ピット

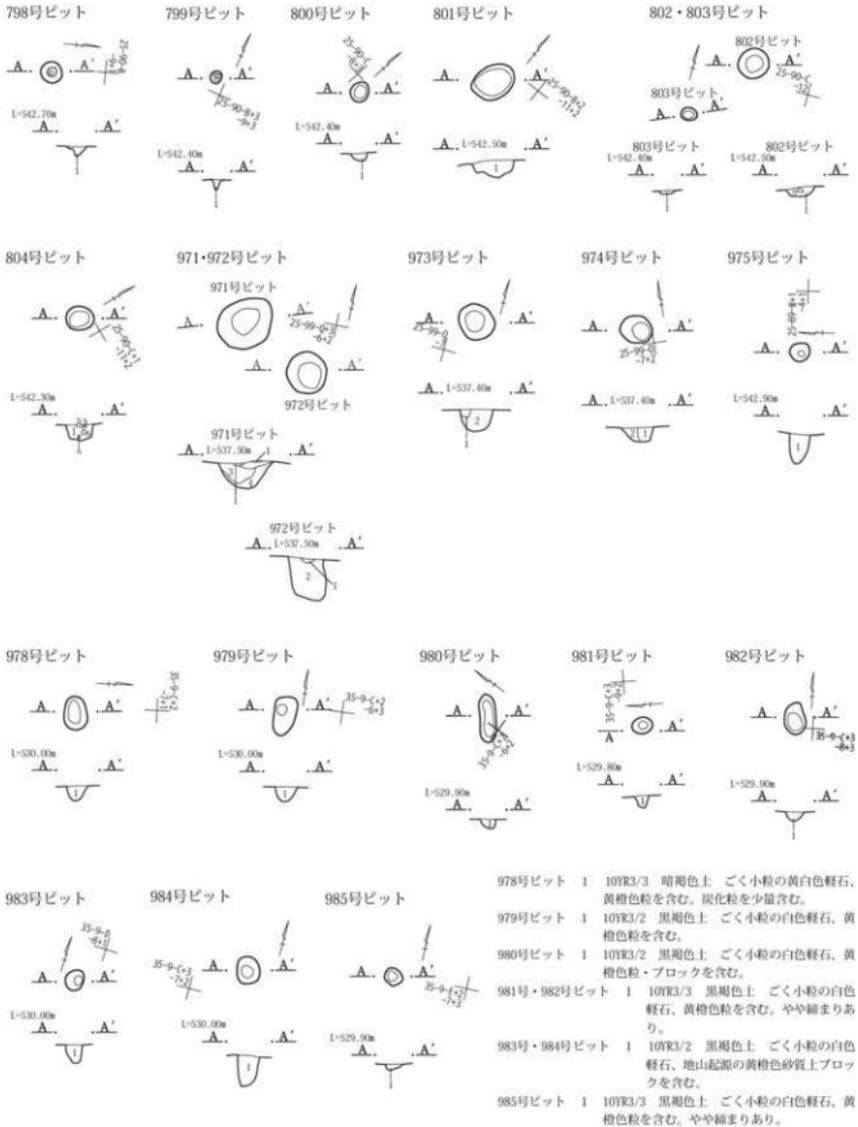


797号ピット



0 1:60 2m

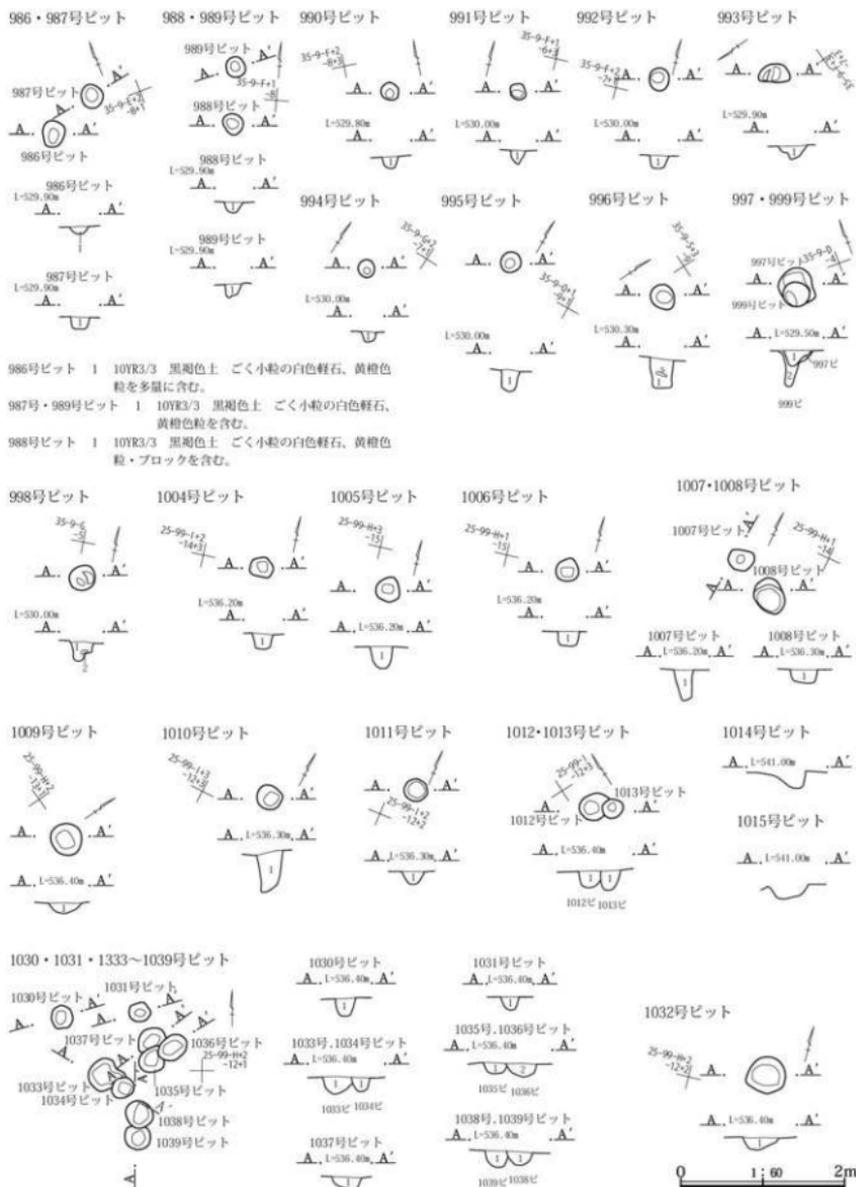
第184図 中世相当面のピット3



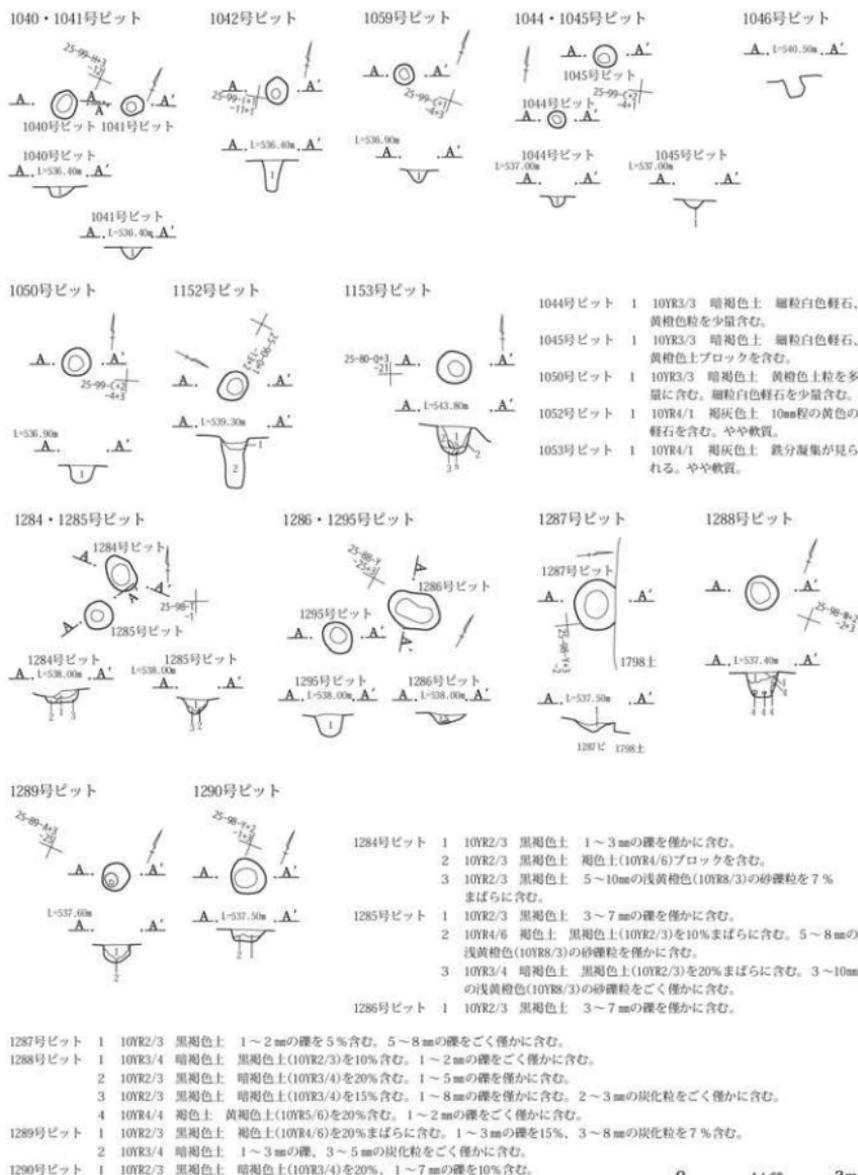
0 1; 60 2m

第185図 中世相当面のビット4

第2章 発掘された遺構と遺物

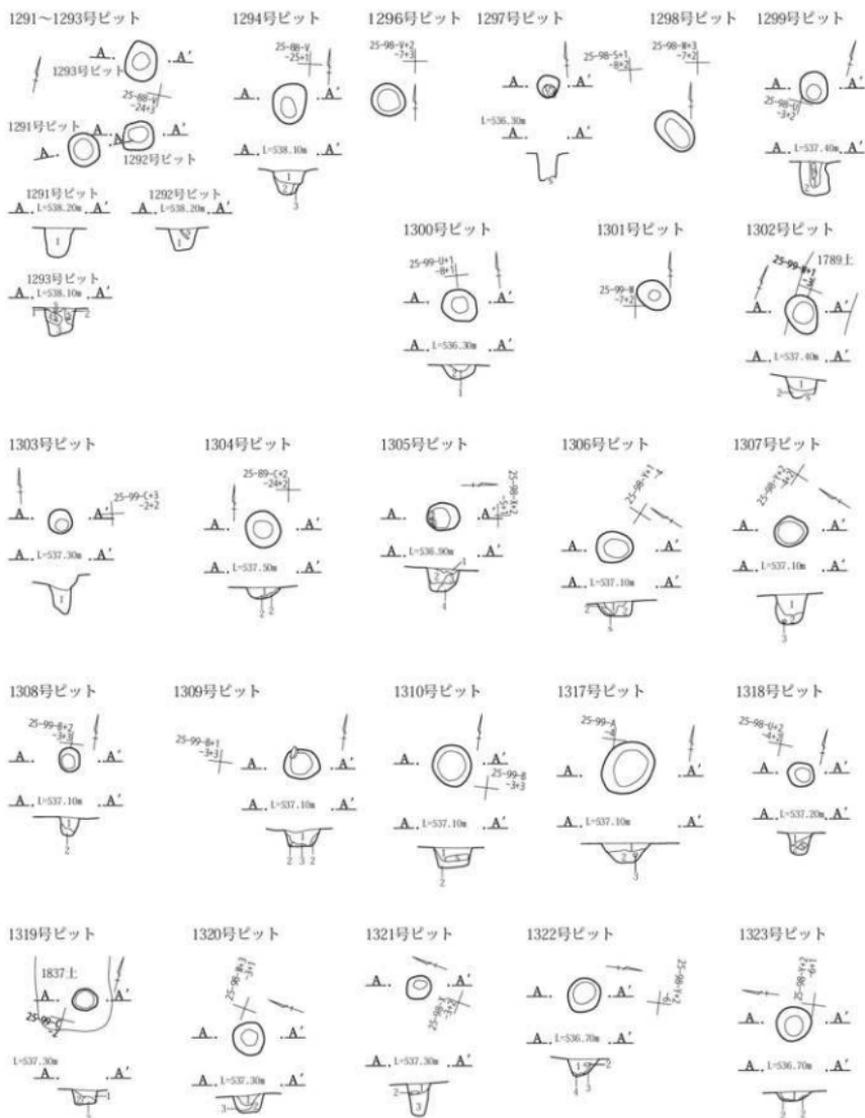


第186図 中世相当面のピット5



第187図 中世相当面のピット6

第2章 発掘された遺構と遺物



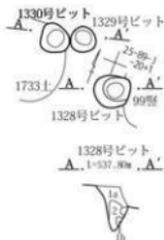
0 1:60 2m

第188図 中世相当面のビット7

1291号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	2～5mmの礫を僅かに含む。20mmの礫をごく僅かに含む。
1292号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	2～5mmの礫を僅かに含む。20mmの礫をごく僅かに含む。
1293号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	30mmの礫を含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	10～30mmの礫を多く含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を含む。
	4	10YR2/3	黒褐色土	20mmの浅黄褐色(10YR8/4)砂礫ブロック、10～30mmの礫を僅かに含む。
1294号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	黄褐色土(10YR5/8)を25%含む。5～15mmの礫をごく僅かに含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	黄褐色土(10YR5/8)を5%まばらに含む。15mmの浅黄褐色(10YR8/4)の砂礫ブロックを含む。
	3	10YR4/4	褐色土	2～3mmの礫をごく僅かに含む。
1296号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	2～5mm、20～40mmの礫を僅かに含む。5～10mmの浅黄褐色(10YR8/4)の砂礫ブロック、5mm前後の炭化粒をごく僅かに含む。
1299号～1301号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	黄褐色土(10YR5/8)、黄褐色土(10YR7/8)を上層を中心に20%まばらに含む。やや締まりなし。
	2	10YR2/3	黒褐色土	5～10mmの礫、5mmの炭化物をごく僅かに含む。
1302号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	3～7mmの礫を10%まばらに含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	10mmの礫をごく僅かに含む。やや締まりなし。
1303号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR2/3)を20%含む。2～5mmの礫を僅かに含む。直径30mm前後の褐色土(10YR4/6)ブロックがまとまっている。
1304号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR2/3)を15%含む。1～2mmの礫を僅かに含む。3～7mmの炭化粒、酸化土をごく僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	粒子の細かい砂礫状況が締まっている。1～3mmの礫を僅かに含む。
1305号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	15mm前後の黄褐色土(10YR5/8)ブロックを含む。底部が箔状に酸化し硬化する。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。一部が箔状に酸化し硬化する。1～5mmの礫を僅かに含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	酸化土を僅かに含む。1～2mmの礫をごく僅かに含む。
	4	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を20%、黄褐色土(10YR5/8)を15%含む。1～2mmの礫をごく僅かに含む。
1306号ビット	1	10YR3/4	暗褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。1～3mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を25%含む。1～7mmの礫を僅かに含む。
1307号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	酸化土を5%まばらに含む。1～5mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR2/3	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/2)を20%、褐色土(10YR4/6)を7%含む。1～5mmの礫を僅かに含む。やや締まりなし。
1308号ビット	3	10YR5/8	黄褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を20%含む。
	1	10YR2/3	黒褐色土	酸化土を15%。1～5mmの礫を7%含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を15%、黒褐色土(10YR2/3)を5%含む。酸化土を僅かに含む。
1309号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を30%、酸化土を10%含む。5～20mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫ブロックを僅かに含む。2～10mmの礫をごく僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を20%含む。酸化土を僅かに含む。1～2mmの礫をごく僅かに含む。
	3	10YR5/6	黄褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を10%含む。
1310号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	酸化土を20%。1～2mmの礫を7%含む。
1317号ビット	2	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%、1～5mmの礫を10%含む。3～7mmの炭化粒をごく僅かに含む。
	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%、酸化土を25%含む。3～8mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒をごく僅かに含む。1～3mmの礫を僅かに含む。
1318号ビット	2	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%含む。2～8mmの礫を僅かに含む。5～10mmの炭化物粒、5～18mmの浅黄褐色(10YR8/3)の砂礫粒をごく僅かに含む。
	3	10YR4/6	褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を15%含む。
	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を25%含む。1～2mmの礫を僅かに含む。3～8mmの礫をごく僅かに含む。
1319号ビット	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を10%含む。8～15mmの礫、酸化土を僅かに含む。1～2mmの礫をごく僅かに含む。
	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR2/3)を20%含む。1～5mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR2/3	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を15%含む。2～3mmの炭化物粒。1～3mmの礫をごく僅かに含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を10%含む。1～8mmの礫をごく僅かに含む。
1320号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	褐色土(10YR4/6)を15%、1～3mmの礫を7%含む。酸化土を僅かに含む。7～10mmの礫をごく僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	暗褐色土(10YR2/2)を15%、褐色土(10YR4/6)を10%含む。1～2mmの礫を僅かに含む。
	3	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を25%、黒褐色土(10YR2/3)を5%、1～2mmの礫を7%含む。4～10mmの礫を僅かに含む。2～7mmの炭化粒をごく僅かに含む。
1321号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%、1～2mmの礫を5%含む。酸化土を多く含む。5mmの礫、2～5mmの炭化粒をごく僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を15%含む。
	3	10YR3/4	暗褐色土	1～2mmの礫を7%、5～10mmの礫を20%含む。
1322号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%含む。酸化し硬化した部分があり、酸化土を多く含む。1～8mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を40%、酸化土を含む。1～5mmの礫を僅かに含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を40%、褐色土(10YR4/6)を10%含む。長さ20mmの炭化物を一部に含む。
	4	10YR3/4	暗褐色土	黒褐色土(10YR2/3)を10%含む。1～2mmの礫をごく僅かに含む。
1323号ビット	1	10YR2/3	黒褐色土	暗褐色土(10YR3/4)を20%含む。酸化し硬化した部分があり、酸化土を多く含む。1～3mmの礫を僅かに含む。
	2	10YR3/4	暗褐色土	褐色土(10YR4/6)を15%含む。1～2mmの礫をごく僅かに含む。

第2章 発掘された遺構と遺物

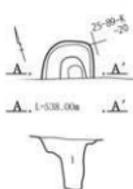
1328・1329・1330号ビット



1329・1330号ビット



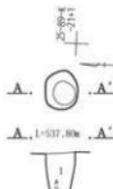
1331号ビット



1332号ビット



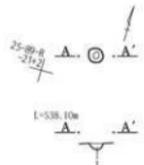
1333号ビット



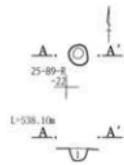
1355号ビット



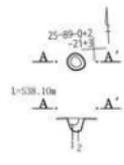
1356号ビット



1357号ビット



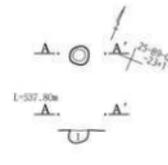
1358号ビット



1359号ビット

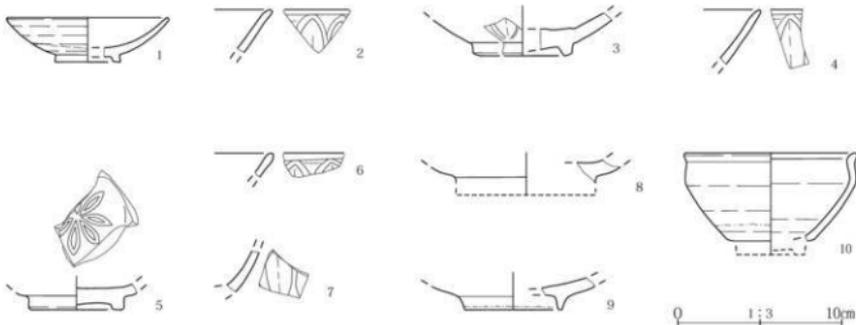


1360号ビット

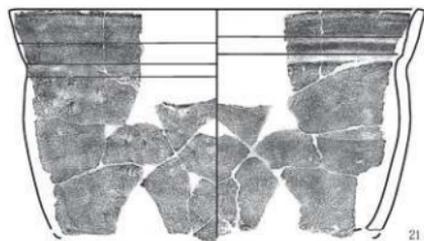
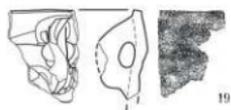
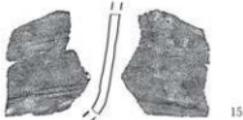
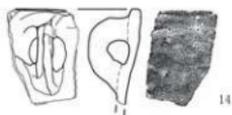
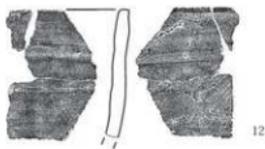


第189図 中世相当面のビット 8

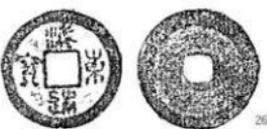
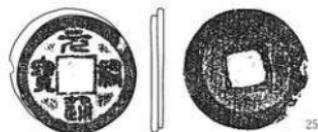
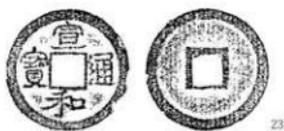
第9項 遺構外出土遺物



第190図 中・近世相当面遺構外出土遺物 1

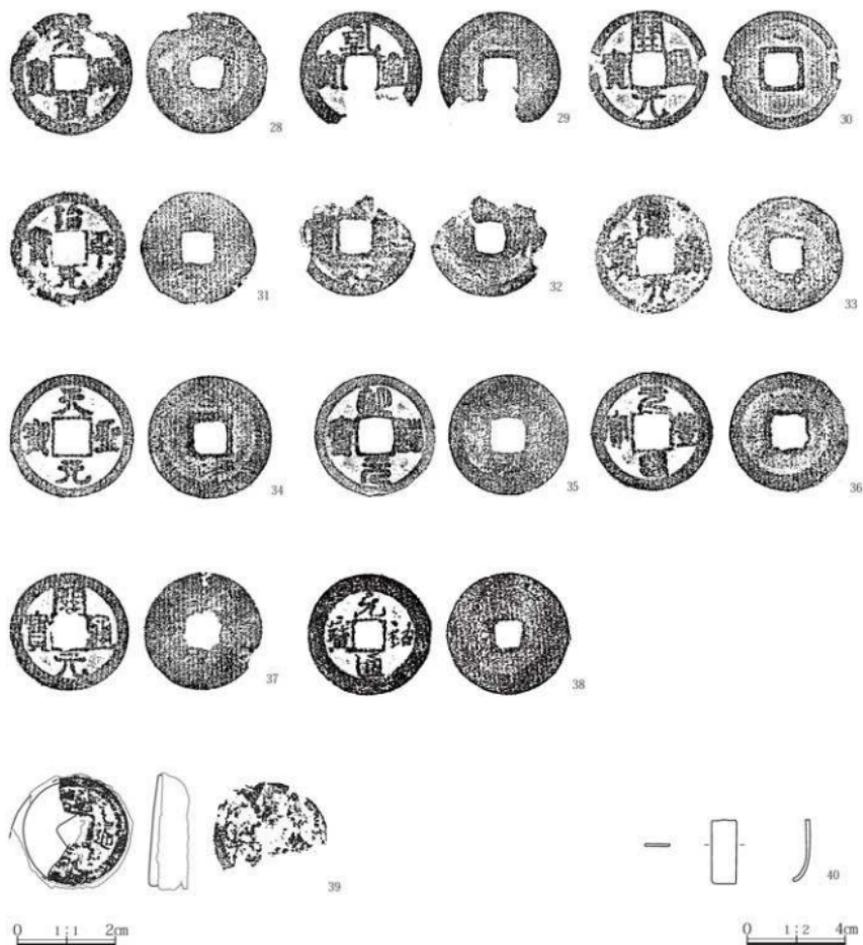


0 1:4 10cm



0 1:1 2cm

第191図 中・近世相当面遺構外出土遺物2



第192図 中・近世相当面遺構外出土遺物3